

**第14回 国立市政世論調査
及び
第2回 国立市市民意識調査
報告書**

2010年3月

目次

．調査概要	2
．第14回国立市政世論調査結果	5
1．住みよさと定住意識	5
2．コミュニティ	9
3．社会貢献的な市民活動	18
4．子どもや若者のために	23
5．健康と福祉	29
6．消費者と農業・商業振興	38
7．環境（水・緑）	46
8．環境（ごみとリサイクル）	52
9．平和・男女平等・プライバシー	58
10．市政への関心	67
11．市政への要望	78
．第2回国立市市民意識調査結果	83
1．国立市全体や市民の皆様が住んでいる地域について	83
2．日常生活における活動や意識について	88
3．市政について	106
．結果の詳細	110
1．調査票	110
2．集計データ（単純集計結果）	139

．調査概要

1 調査の目的

(1) 世論調査

この調査は、国立市民の市政に対する意見・要望などを把握し、今後の基本計画策定及びまちづくりの参考とするものである。

(2) 市民意識調査

この調査は、国立市民の意識や日ごろの行動などを把握し、市の基本計画で定められた施策（市・行政の各分野）の達成度を把握するものである。

2 調査の内容

(1) 世論調査

住みよさと定住意識

コミュニティ

社会貢献的な市民活動

子どもや若者のために

健康と福祉

消費者と農業・商業振興

環境（水・緑）

環境（ごみとリサイクル）

平和・男女平等・プライバシー

市政への関心

市政への要望

(2) 第2回市民意識調査

国立市全体や市民の皆様が住んでいる地域について

日常生活における活動や意識について

市政について

3 調査の設計

(1) 調査地域 国立市全域

(2) 調査対象 国立市在住の満18歳以上の男女

(3) 標本数 3,000人

(4) 調査方法 郵送による配票、回収

(5) 調査期間 2010年（平成22年）1月20日～2月10日

4 回収結果

(1) 発送数 3,000人（100.0%）

(2) 有効回収数 1,271（有効回収率42.4%）

(3) 回答者の属性 次ページグラフ参照

図 1 性別(N=1271)

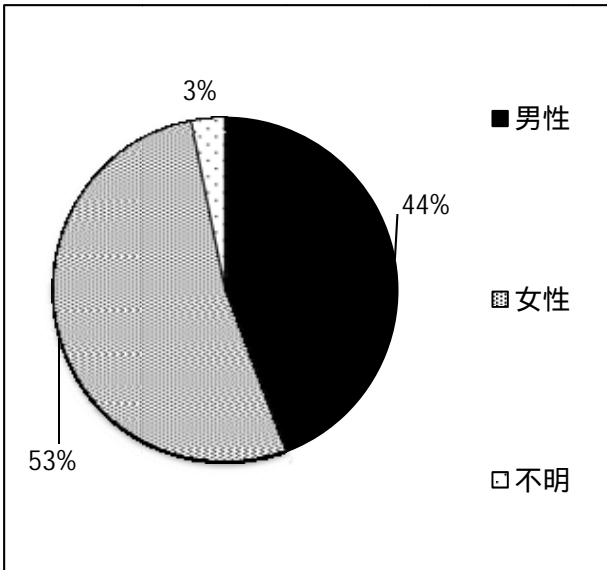


図 2 年齢(N=1271)

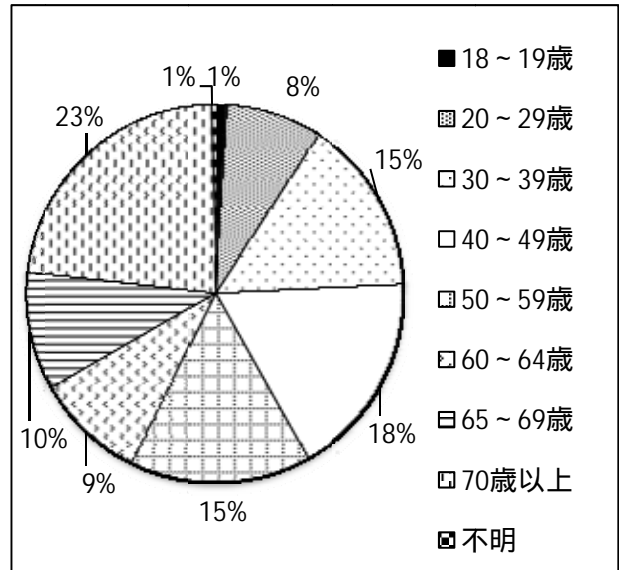


図 3 職業(N=1271)

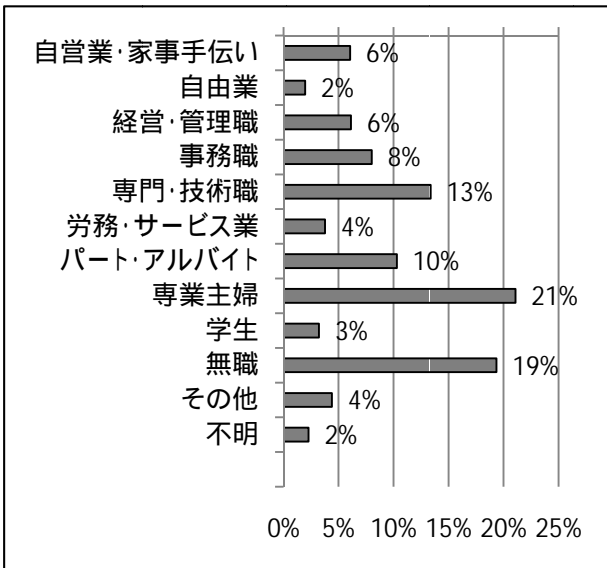


図 4 勤務者の職場地域(N=631)

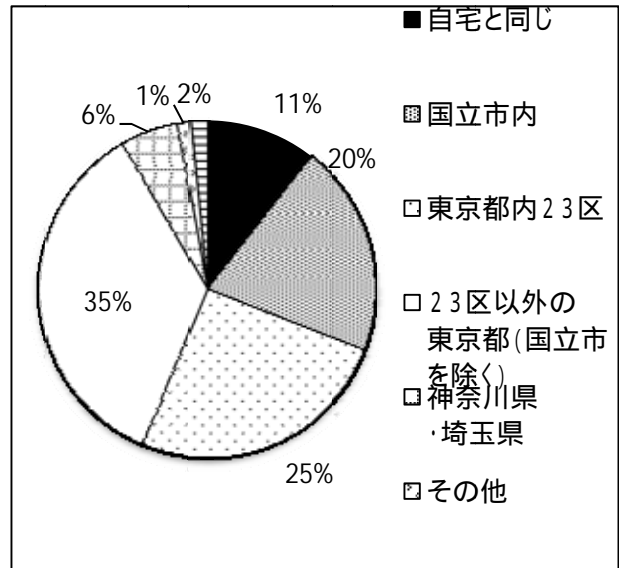


図 5 住居形態(N=1271)

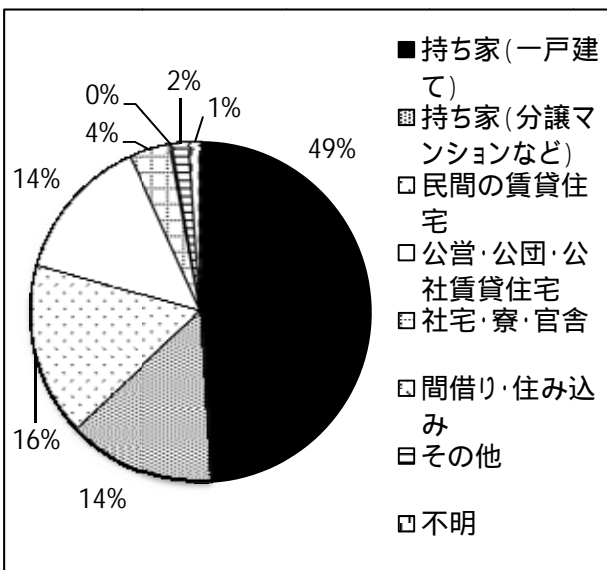


図 6 家族構成(N=1271)

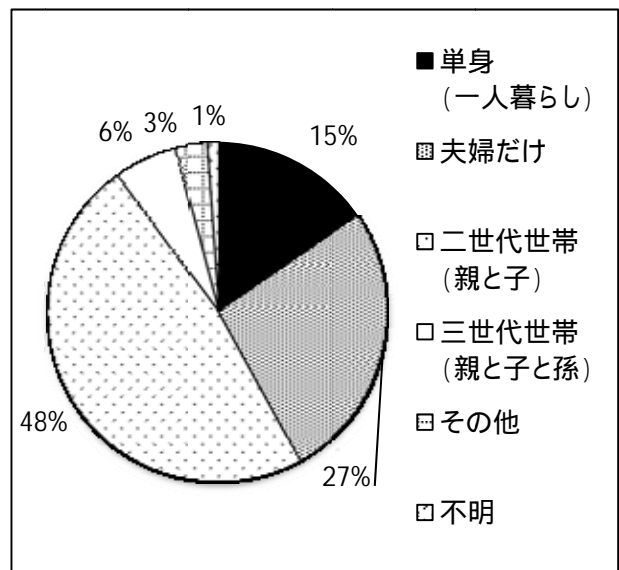


図 7 家族形態(N=1271)

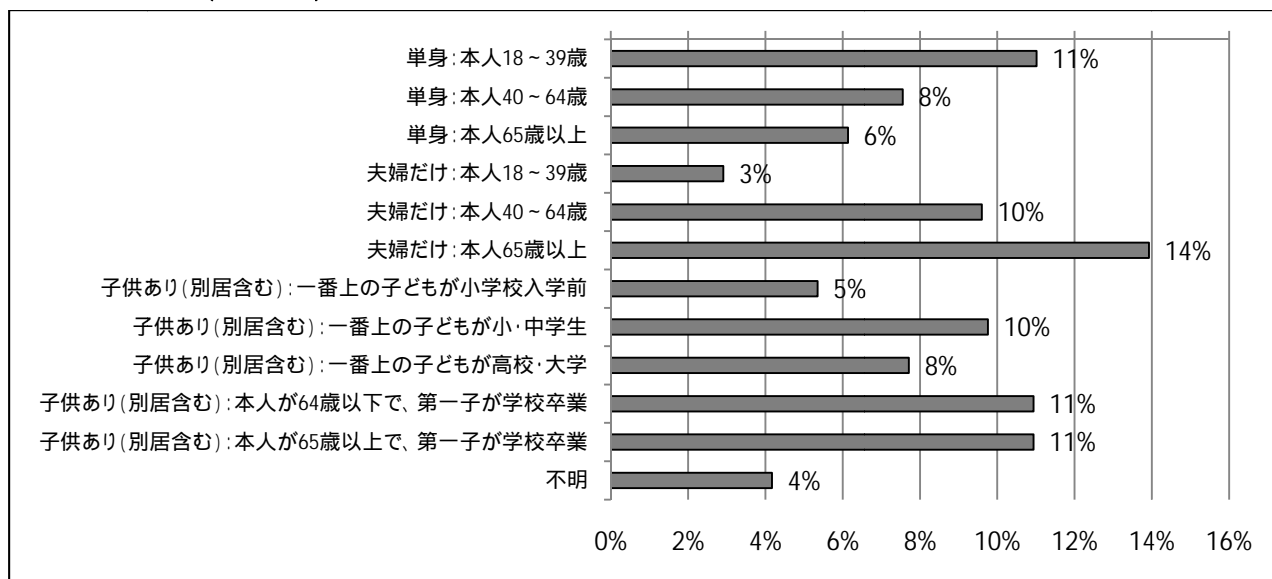


図 8 居住地域(N=1271)

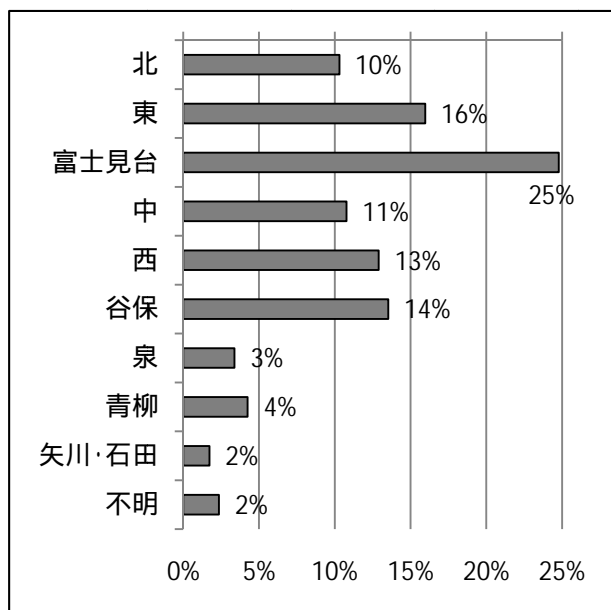
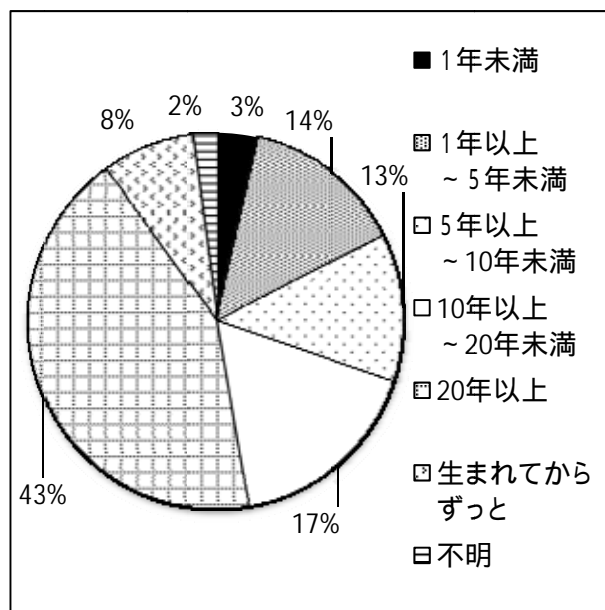


図 9 居住年数(N=1271)



第14回国立市政世論調査結果

1. 住みよさと定住意識

(1) 今後の居住意向[問1]

国立市の暮らしやすさについて、平成15年並びに平成11年・平成5年の世論調査と比較すると、住み続けたい市民の割合（ずっと住み続けたい、当分住み続けたいと回答した割合の合計）は、平成5年では85.2%、平成11年では85.0%、平成15年では85.0%、平成22年では80.1%と推移している。（平成5年、11年、15年の調査は標本数1000、調査員の訪問による個別面接聴取法のため、本調査と異なる。また、平成11年、5年は調査対象が20歳以上である。）

住み続けたい市民の割合（ずっと住み続けたい、当分住み続けたいと回答した割合の合計）は、性別による違いは見られないが、年齢別では年齢が高くなるほど高い割合にある。また、地域別では中地区が86.1%に対して、泉地区では69.8%と低くなっている。

図10 今後の居住意向(N=1271)

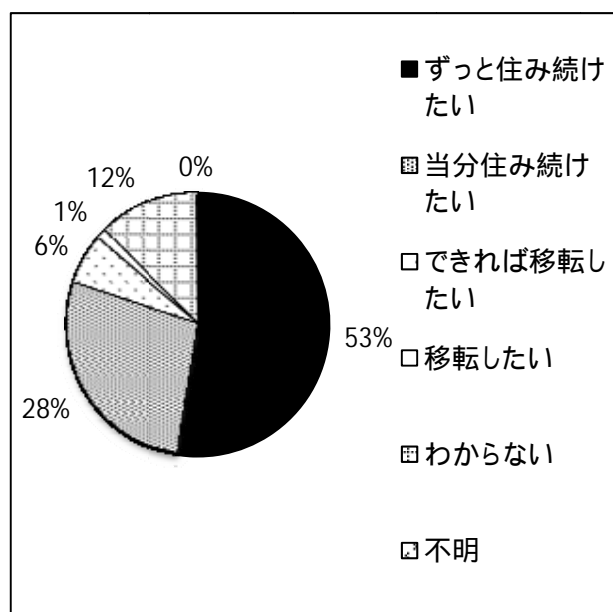
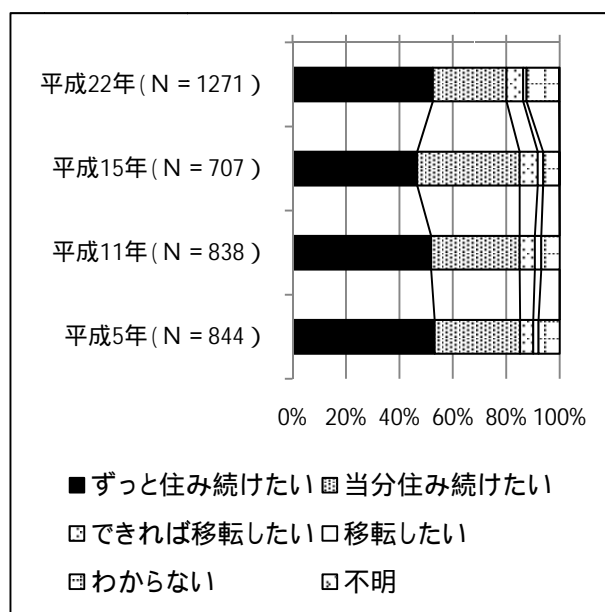
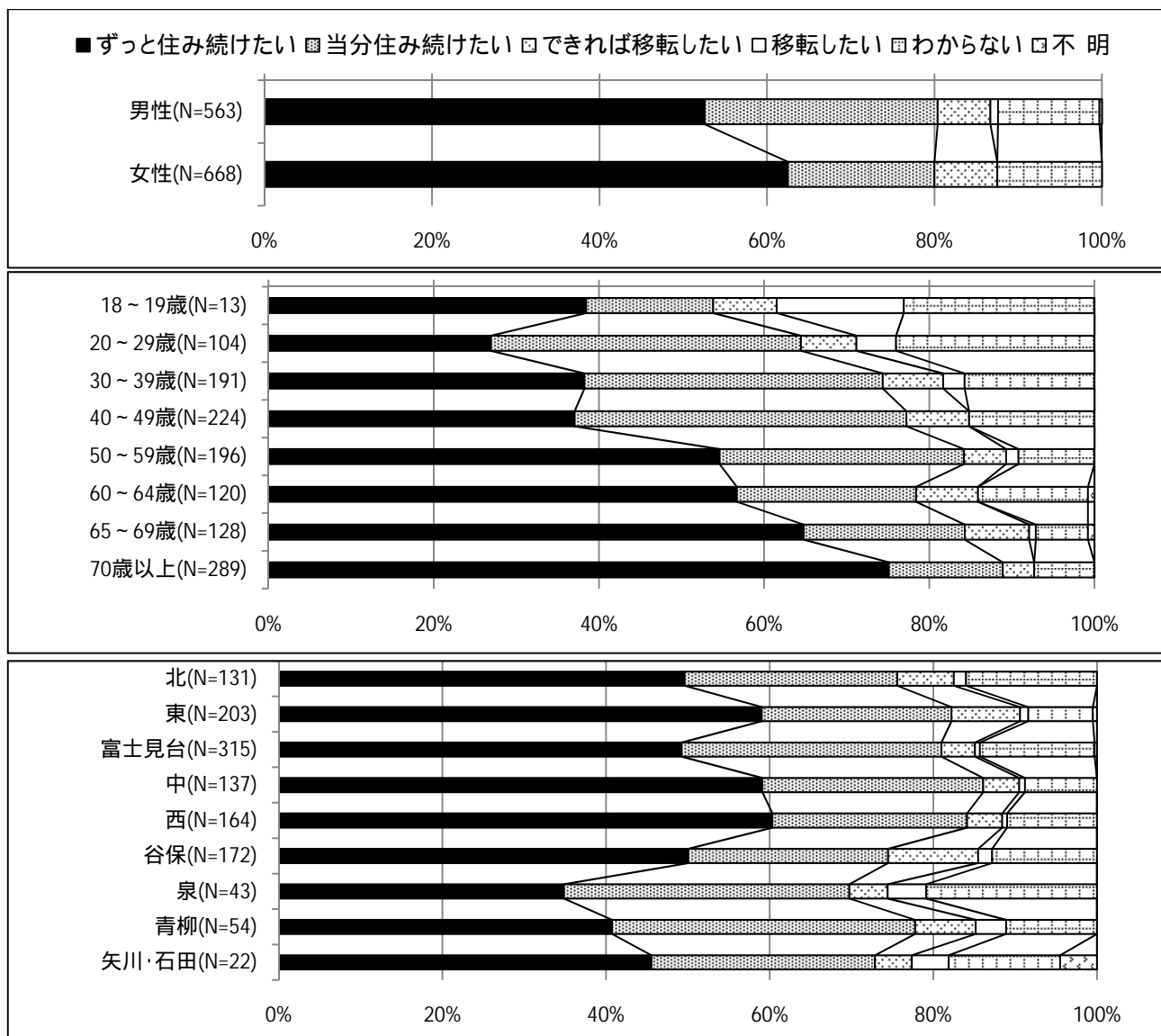


図11 今後の居住意向の経年比較



	ずっと 住み続けたい	当分 住み続けたい	できれば 移転したい	移転したい	わからない	不明
平成22年 (N = 1271)	52.6%	27.5%	6.2%	1.3%	12.2%	0.2%
平成15年 (N = 707)	46.7%	38.3%	6.8%	2.0%	6.1%	0.1%
平成11年 (N = 838)	51.9%	33.1%	5.7%	2.4%	6.9%	0.0%
平成5年 (N = 844)	53.2%	32.0%	4.9%	2.0%	7.9%	0.0%

【性別、年齢別、地域別】



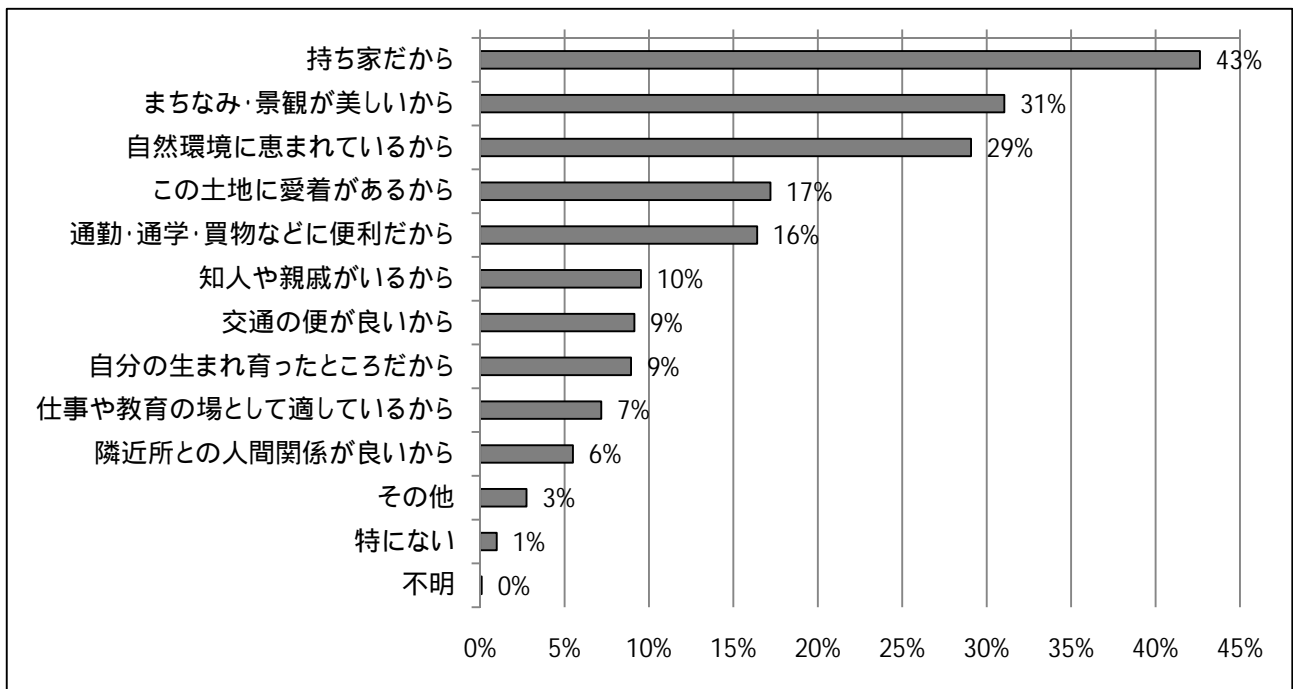
< 値は% >		問1 今後の居住意向					
		ずっと住みたい	当分住みたい	できれば移転したい	移転したい	わからない	不明
性別	男性(N=563)	52.5	27.8	6.3	0.9	12.1	0.3
	女性(N=668)	62.5	17.5	7.5	-	12.5	-
年齢	18~19歳(N=13)	38.5	15.4	7.7	15.4	23.1	-
	20~29歳(N=104)	26.9	37.5	6.7	4.8	24.0	-
	30~39歳(N=191)	38.2	36.1	7.3	2.6	15.7	-
	40~49歳(N=224)	37.1	40.2	7.6	-	15.2	-
	50~59歳(N=196)	54.6	29.6	5.1	1.5	9.2	-
	60~64歳(N=120)	56.7	21.7	7.5	-	13.3	0.8
	65~69歳(N=128)	64.8	19.5	7.8	0.8	6.3	0.8
70歳以上(N=289)	75.1	13.8	3.8	-	7.3	-	
居住地	北(N=131)	49.6	26.0	6.9	1.5	16.0	-
	東(N=203)	59.1	23.2	8.4	1.0	7.9	0.5
	富士見台(N=315)	49.2	31.7	4.1	0.6	14.0	0.3
	中(N=137)	59.1	27.0	4.4	0.7	8.8	-
	西(N=164)	60.4	23.8	4.3	0.6	11.0	-
	谷保(N=172)	50.0	24.4	11.0	1.7	12.8	-
	泉(N=43)	34.9	34.9	4.7	4.7	20.9	-
	青柳(N=54)	40.7	37.0	7.4	3.7	11.1	-
矢川・石田(N=22)	45.5	27.3	4.5	4.5	13.6	4.5	

(2) 住みたい理由[問2]

住みたい市民(ずっと住みたい、当分住みたいと回答した市民)の住みたい理由<2つまで選択可>としては、「持ち家だから」(42.6%)、「まちなみ・景観が美しいから」(31.0%)、「自然環境に恵まれているから」(29.1%)が挙げられる。

前調査と選択肢が多少異なるため一概に比較は出来ないが、「通勤・通学・買物などに便利だから」と答えた市民の割合が前回(H15)は26.1%であるのに対して、今回(H22)は16.4%と低くなっている。

図 12 住みたい理由(N=1018)



	持ち家だから	まちなみ・景観が美しいから	自然環境に恵まれているから	この土地に愛着があるから	通勤・通学・買物などに便利だから	知人や親戚がいるから	交通の便が良いから	自分の生まれ育ったところだから	仕事や教育の場として適しているから	隣近所との人間関係が良いから	その他	特にない	不明
今回(H22)	42.6%	31.0%	29.1%	17.2%	16.4%	9.5%	9.1%	8.9%	7.2%	5.5%	2.8%	1.0%	0.1%
前回(H15)	39.9%		41.6%	18.1%	26.1%	10.0%		14.6%	8.8%	9.8%	5.8%	1.3%	0.2%

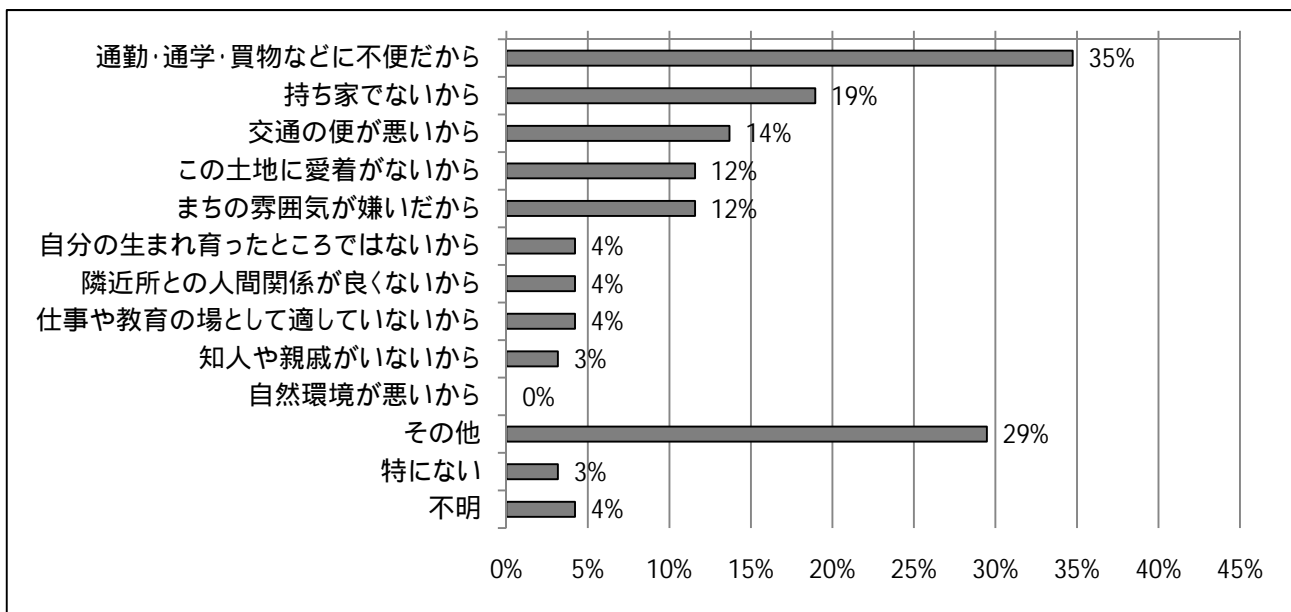
前調査では、「まちなみ・景観が美しいから」「交通の便が良いから」の選択肢は存在せず。

(3) 移転したい理由[問3]

移転したい市民(できれば移転したい、移転したいと回答した市民)の移転したい理由<2つまで選択可>としては、主に「通勤・通学・買物などに不便だから」(34.7%)、「持ち家でないから」(19.0%)、「交通の便が悪いから」(13.7%)、「この土地に愛着がないから」(11.6%)、「まちの雰囲気が嫌いだから」(11.6%)となっている。

前調査と選択肢が多少異なるため一概に比較は出来ないが、「自分の生まれ育ったところではないから」と答えた移転したい市民の割合が(H15)は16.1%であるのに対して、今回(H22)は4.2%と低くなっている。

図13 移転したい理由(N=95)



	通勤・通学・買物などに不便だから	持ち家でないから	交通の便が悪いから	この土地に愛着がないから	まちの雰囲気が嫌いだから	自分の生まれ育ったところではないから	隣近所との人間関係が良くないから	仕事や教育の場として適していないから	知人や親戚がないから	自然環境が悪いから	その他	特になし	不明
今回(H22)	34.7%	18.9%	13.7%	11.6%	11.6%	4.2%	4.2%	4.2%	3.2%	0.0%	29.5%	3.2%	4.2%
前回(H15)	38.7%	21.0%		11.3%		16.1%	3.2%	12.9%	4.8%	9.7%	38.7%	0.0%	0.0%

前調査では、「まちなみ・景観が美しいから」「交通の便が良いから」の選択肢は存在せず。

2. コミュニティ

(1) 国立市の魅力[問4]

国立市の魅力について伺ったところ<3つまで選択可>、主に「大学通りをはじめまちなみがきれい」(49.0%)、「落ち着いた住宅地区である」(48.0%)、「一橋大学などがあり文教地区である」(36.4%)、「緑や公園が多い」(31.3%)が挙げられた。

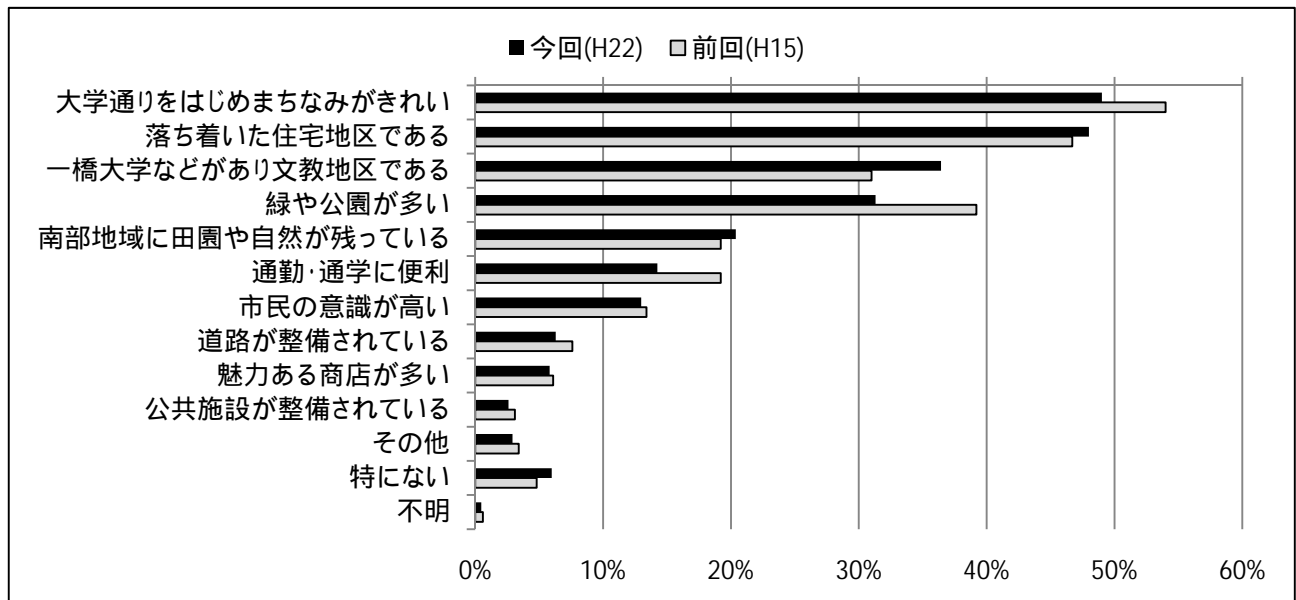
前調査と比較すると、割合が増えているものとしては「一橋大学などがあり文教地区である」(+5.4%)、割合が減っているものとしては「緑や公園が多い」(-7.9%)、「大学通りをはじめまちなみがきれい」(-5.0%)、「通勤・通学に便利」(-5.0%)となっている。

性別では、男性が高い主な項目としては、「大学通りをはじめまちなみがきれい」(男性53.9%、女性35.0%)、「通勤・通学に便利」(男性13.6%、女性5.0%)が挙げられ、逆に女性が高い主な項目としては「南部地域に田園や自然が残っている」(男性18.7%、女性25.0%)が挙げられる。

年齢別では、「緑や公園が多い」に関して20代では高い(全世代31.3%、20代43.3%)。また、「通勤・通学に便利」に関しては70代以上が低い(全世代14.2%、70歳以上5.5%)

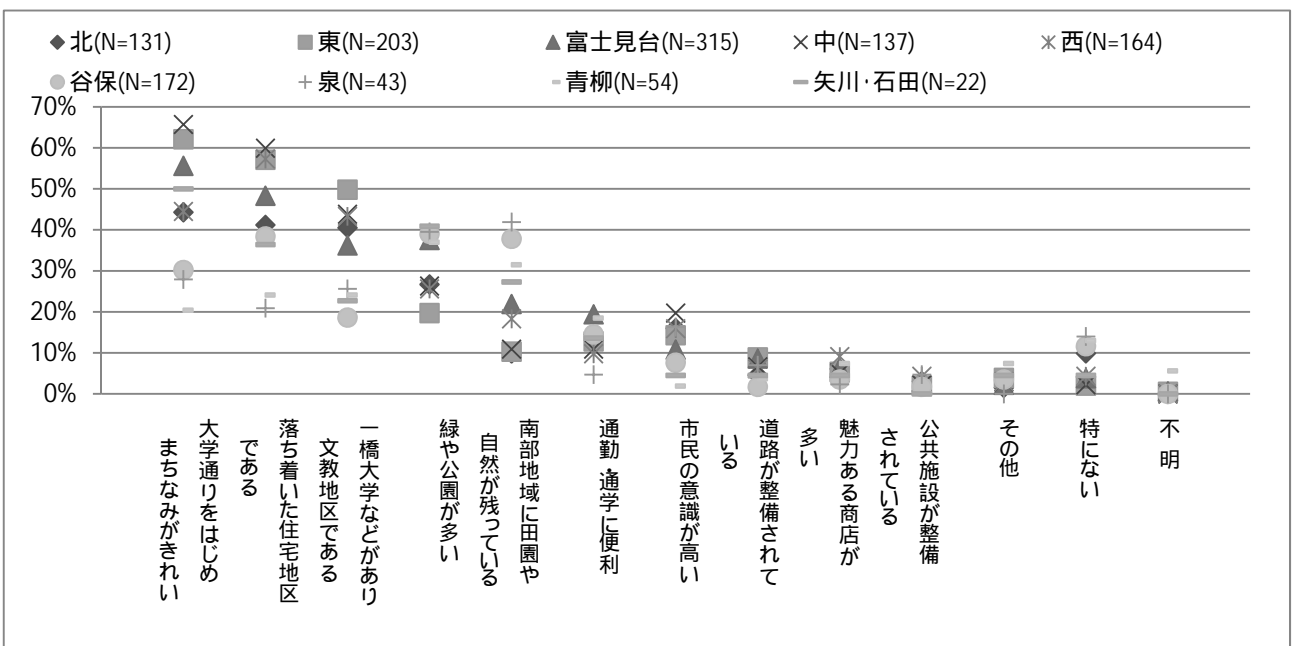
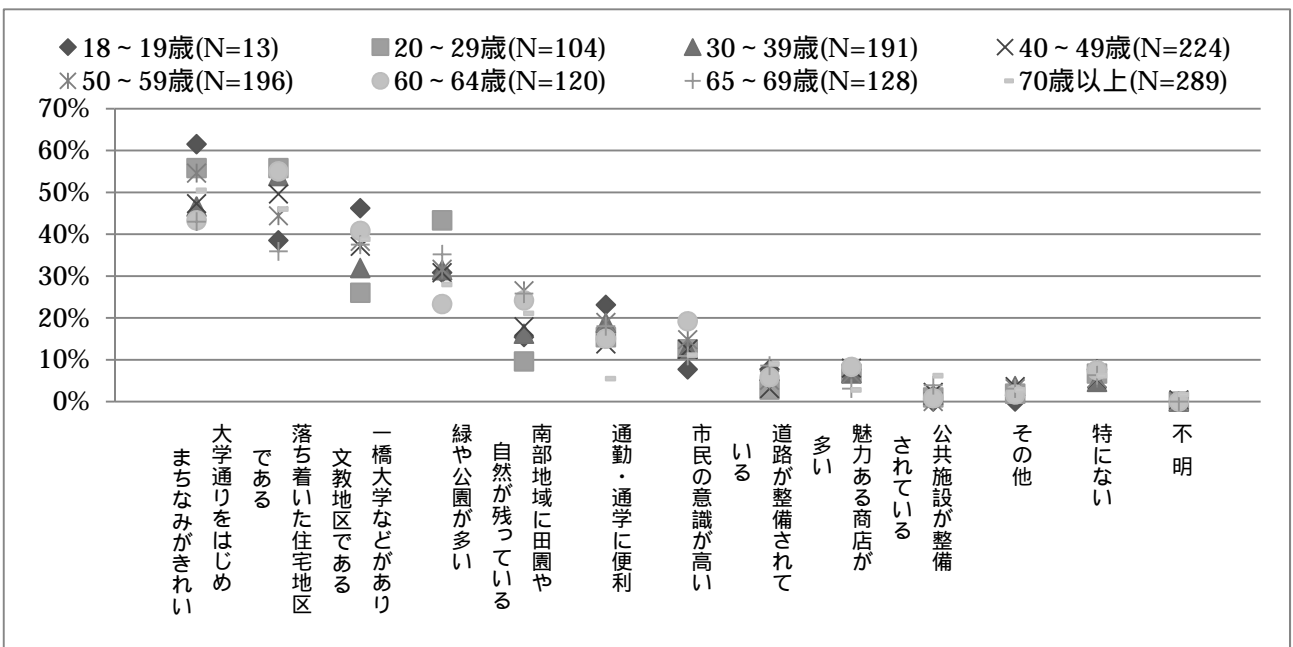
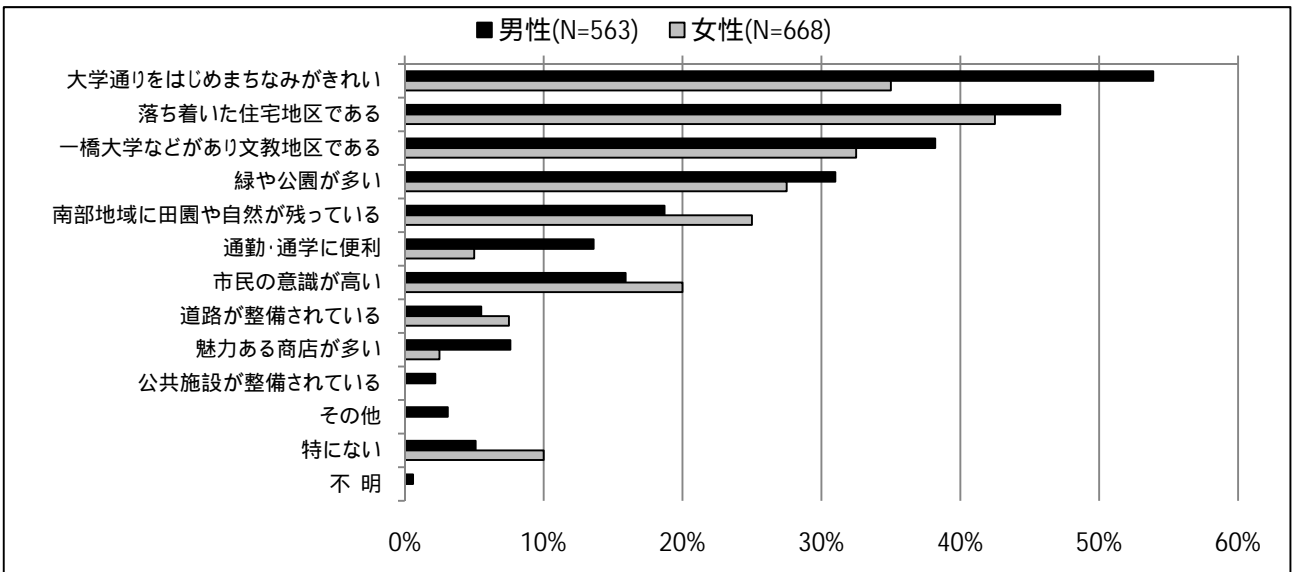
地域別では、谷保、泉、青柳、矢川・石田といった地域で「大学通りをはじめまちなみがきれい」「落ち着いた住宅地区である」「一橋大学などがあり文教地区である」に関する比率が低い。

図 14 国立市の魅力(H22 N=1271, H15 N=707)



	がきれまじ 大学通り いちなみ をは	宅落 地区着 区であ はる	が一橋 あり大 学など 文教地	い緑 や公園 が多	つ園や 南部地 域に田 園や自 然が残 っている	便通勤 ・通学 に	高市民 の意識 が	れ道路 が整備 さ	が魅力 ある商 店	備公共 施設が 整備さ れている	その他	特にな い	不明
今回(H22)	49.0%	48.0%	36.4%	31.3%	20.4%	14.2%	13.0%	6.3%	5.8%	2.6%	2.9%	6.0%	0.5%
前回(H15)	54.0%	46.7%	31.0%	39.2%	19.2%	19.2%	13.4%	7.6%	6.1%	3.1%	3.4%	4.8%	0.6%

【性別、年齢別、地域別】



<値は%>		問4 国立市の魅力(3つまで選択可)															
		がきれ い	大学 通りを はじめ まちな み	宅地 区であ る	落ち 着いた 住	一橋 大学 など があ り文 教地 区	緑 や公 園が 多	園 や自 然が 残 つて いる	南 部地 域に 田	便 利	通 勤・ 通学 に	高 い	市 民の 意識 が	道 路が 整備 さ れて いる	魅 力あ る商 店 が 多 い	公 共施 設が 整 備さ れて いる	そ の他
性別	男性(N=563)	53.9	47.2	38.2	31.0	18.7	13.6	15.9	5.5	7.6	2.2	3.1	5.1	0.6			
	女性(N=668)	35.0	42.5	32.5	27.5	25.0	5.0	20.0	7.5	2.5	0.0	0.0	10.0	0.0			
年齢	18～19歳(N=13)	61.5	38.5	46.2	30.8	15.4	23.1	7.7	7.7	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0			
	20～29歳(N=104)	55.8	55.8	26.0	43.3	9.6	15.4	12.5	2.9	6.7	1.0	1.9	6.7	0.0			
	30～39歳(N=191)	46.6	53.9	31.9	31.4	16.2	18.8	12.6	7.3	6.8	1.6	3.7	4.7	0.0			
	40～49歳(N=224)	47.3	49.6	37.1	30.8	17.9	13.8	12.5	3.1	8.0	2.2	3.6	5.4	0.4			
	50～59歳(N=196)	54.6	44.4	38.3	31.6	26.5	18.9	14.8	5.1	6.6	0.0	3.1	5.6	0.0			
	60～64歳(N=120)	43.3	55.0	40.8	23.3	24.2	15.0	19.2	5.8	8.3	0.8	1.7	7.5	0.0			
	65～69歳(N=128)	43.0	35.9	37.5	35.2	25.8	18.0	10.9	8.6	3.1	3.9	3.1	6.3	0.0			
	70歳以上(N=289)	50.5	46.0	38.8	28.0	21.1	5.5	11.1	9.0	2.8	6.2	2.8	6.2	1.7			
居住地	北(N=131)	44.3	41.2	40.5	26.7	9.9	14.5	16.0	4.6	6.1	3.1	1.5	9.9	0.0			
	東(N=203)	62.1	57.1	49.8	19.7	10.3	12.8	14.3	8.9	5.4	2.0	3.9	2.0	0.5			
	富士見台(N=315)	55.6	48.3	36.2	37.5	21.9	19.4	10.8	8.6	6.3	2.9	2.2	3.8	0.6			
	中(N=137)	65.7	59.9	43.8	26.3	10.9	10.9	19.7	6.6	5.1	2.2	2.9	2.2	0.0			
	西(N=164)	44.5	57.3	43.3	25.6	18.3	9.8	15.9	6.1	9.1	4.3	3.0	4.3	0.0			
	谷保(N=172)	30.2	38.4	18.6	39.0	37.8	14.5	7.6	1.7	3.5	1.7	3.5	11.6	0.0			
	泉(N=43)	27.9	20.9	25.6	39.5	41.9	4.7	16.3	7.0	2.3	4.7	0.0	14.0	0.0			
	青柳(N=54)	20.4	24.1	24.1	37.0	31.5	18.5	1.9	3.7	7.4	0.0	7.4	13.0	5.6			
	矢川・石田(N=22)	50.0	36.4	22.7	40.9	27.3	13.6	4.5	4.5	4.5	0.0	4.5	4.5	0.0			

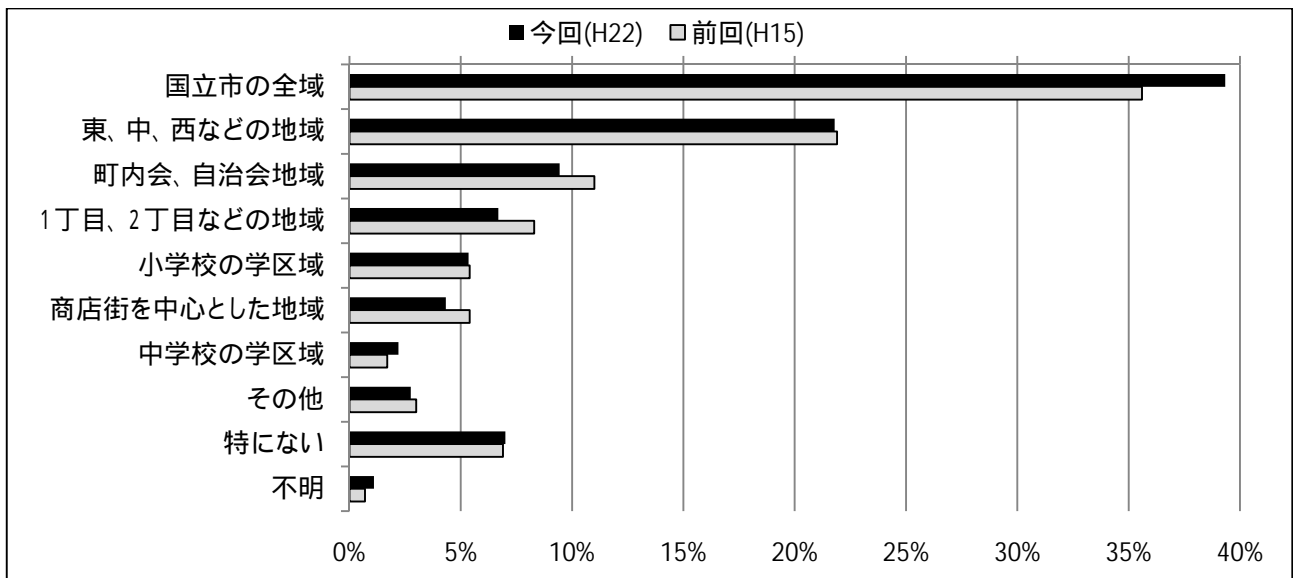
(2)「私たちの地域」の範囲[問5]

国立市民が「私たちの地域」という言葉で思い浮かぶ範囲については、「国立市の全域」と答えた市民が39.3%、「東、中、西などの地域」が21.8%となっており、前調査とほぼ同様の結果となっている。

年齢別には、「国立市の全域」と答えた割合が、20代では32.7%に対し、50代では45.4%となっている。また、「小学校の学区」と答えた割合が、30代では10.5%に対し、70歳以上では1.7%と年代が上がるにつれて低くなる傾向がある。

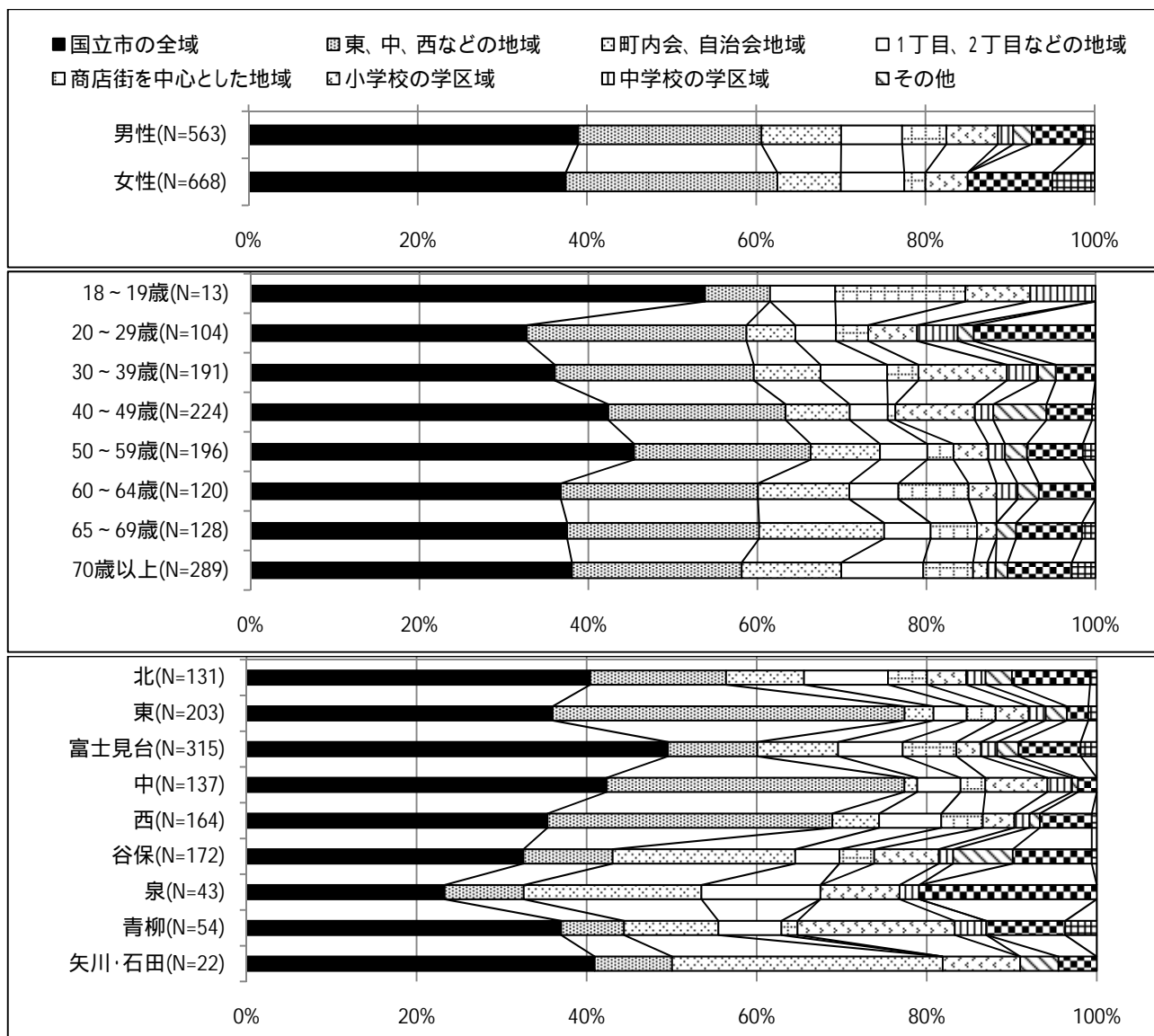
地域別には、「国立市の全域」と答えた割合が、富士見台では49.5%に対し、泉では23.3%となっている。また、「東、中、西などの地域」と答えた割合が、東、中、西地区が3割以上に対して、富士見台、谷保、泉、青柳、矢川・石田地区では約1割以下となっている。

図 15 「私たちの地域」の範囲(H22 N=1271, H15 N=707)



	域 国立市の全	な 東、中、西 の 地域	治 町内会、自 会 地域	地 1丁目、2 域 丁目などの	区 小学校の学 域 校の学区	域 心と商店街を中 とした地	区 中学校の学 域 校の学区	そ の 他	特 に な い	不 明
今回(H22)	39.3%	21.8%	9.4%	6.7%	5.4%	4.3%	2.2%	2.8%	7.0%	1.1%
前回(H15)	35.6%	21.9%	11.0%	8.3%	5.4%	5.4%	1.7%	3.0%	6.9%	0.7%

【性別、年齢別、地域別】



< 値は% >		問5 「私たちの地域」の範囲									
		全国立市の	東、中、西などの	町内会、自治会	1丁目、2丁目などの	商店街を中心とした	小学校の	中学校の	その他	特にな	不明
性別	男性(N=563)	38.9	21.6	9.4	7.2	5.2	6.1	1.8	2.2	6.1	1.3
	女性(N=668)	37.5	25.0	7.5	7.5	2.5	5.0	0.0	0.0	10.0	5.0
年齢	18～19歳(N=13)	53.8	7.7	0.0	7.7	15.4	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0
	20～29歳(N=104)	32.7	26.0	5.8	4.8	3.8	5.8	4.8	1.9	14.4	0.0
	30～39歳(N=191)	36.1	23.6	7.9	7.9	3.7	10.5	3.7	2.1	4.7	0.0
	40～49歳(N=224)	42.4	21.0	7.6	4.5	0.9	9.4	2.2	6.3	5.4	0.4
	50～59歳(N=196)	45.4	20.9	8.2	5.6	3.1	4.1	2.0	2.6	6.6	1.5
	60～64歳(N=120)	36.7	23.3	10.8	5.8	8.3	3.3	2.5	2.5	6.7	0.0
	65～69歳(N=128)	37.5	22.7	14.8	5.5	5.5	2.3	0.0	2.3	7.8	1.6
	70歳以上(N=289)	38.1	20.1	11.8	9.7	5.9	1.7	1.0	1.4	7.6	2.8
居住地	北(N=131)	40.5	16.0	9.2	9.9	4.6	4.6	2.3	3.1	9.2	0.8
	東(N=203)	36.0	41.4	3.4	3.9	3.4	3.9	2.0	2.5	2.5	1.0
	富士見台(N=315)	49.5	10.5	9.5	7.6	6.3	2.9	1.9	2.5	7.3	1.9
	中(N=137)	42.3	35.0	1.5	5.1	2.9	7.3	2.9	0.7	2.2	0.0
	西(N=164)	35.4	33.5	5.5	7.3	4.9	3.7	1.8	1.2	6.1	0.6
	谷保(N=172)	32.6	10.5	21.5	5.2	4.1	7.6	1.7	7.0	9.3	0.6
	泉(N=43)	23.3	9.3	20.9	14.0	0.0	9.3	2.3	0.0	20.9	0.0
	青柳(N=54)	37.0	7.4	11.1	7.4	1.9	18.5	3.7	0.0	9.3	3.7
矢川・石田(N=22)	40.9	9.1	31.8	0.0	0.0	9.1	0.0	4.5	4.5	0.0	

(3) 近所付き合いの範囲[問 6]

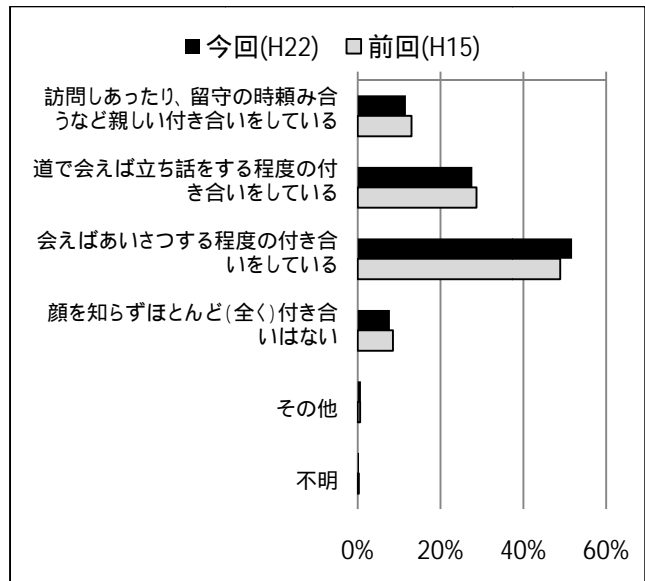
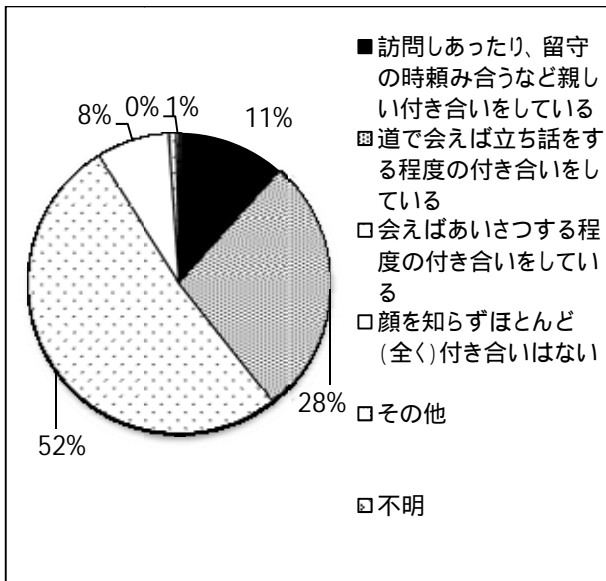
市民が日頃隣近所との程度お付き合いをしているか伺ったところ、約 5 割の市民が「会えばあいさつする程度の付き合いをしている」と回答し、前調査とほぼ同様の結果となった。

性別では特に差異は見られないが、年齢別では年齢が高くなればなるほど「訪問しあったり、留守の時頼み合うなど親しい付き合いをしている」と答える率が高い。

地域別では、「訪問しあったり、留守の時頼み合うなど親しい付き合いをしている」と答えた割合が、北、富士見台、中、泉では 1 割以下であるが、青柳では約 2 割と地域による差がみられる。

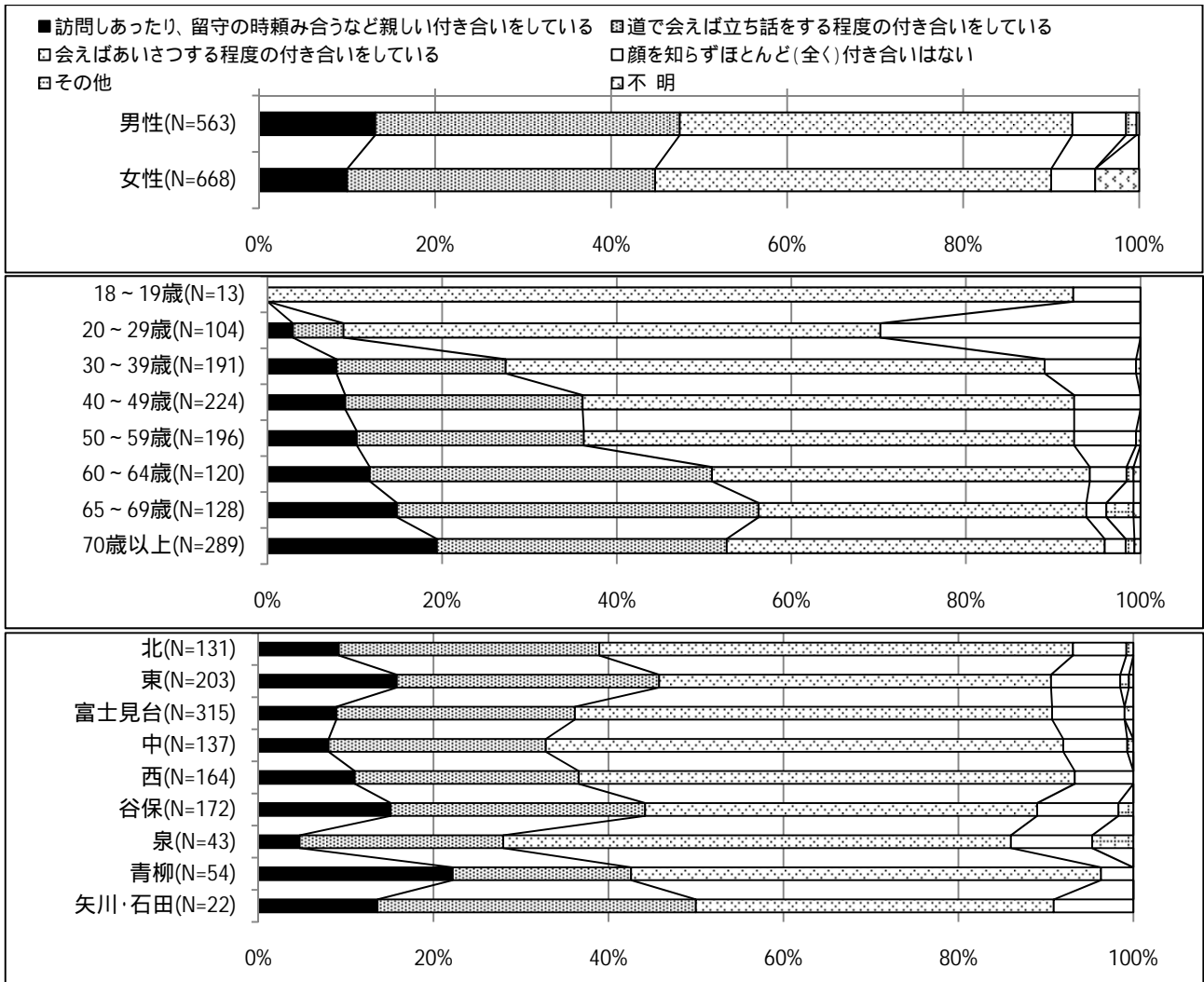
図 16 近所付き合いの範囲(N=1271)

(H22 N=1271, H15 N=707)



	訪問しあったり、留守の時頼み合う等親しい付き合いをしている	道で会えば立ち話をする程度の付き合いをしている	会えばあいさつする程度の付き合いをしている	顔を知らずほとんど(全く)付き合いはない	その他	不明
今回(H22)	11.6%	27.7%	51.8%	7.8%	0.8%	0.3%
前回(H15)	13.0%	28.7%	48.9%	8.5%	0.6%	0.3%

【性別、年齢別、地域別】



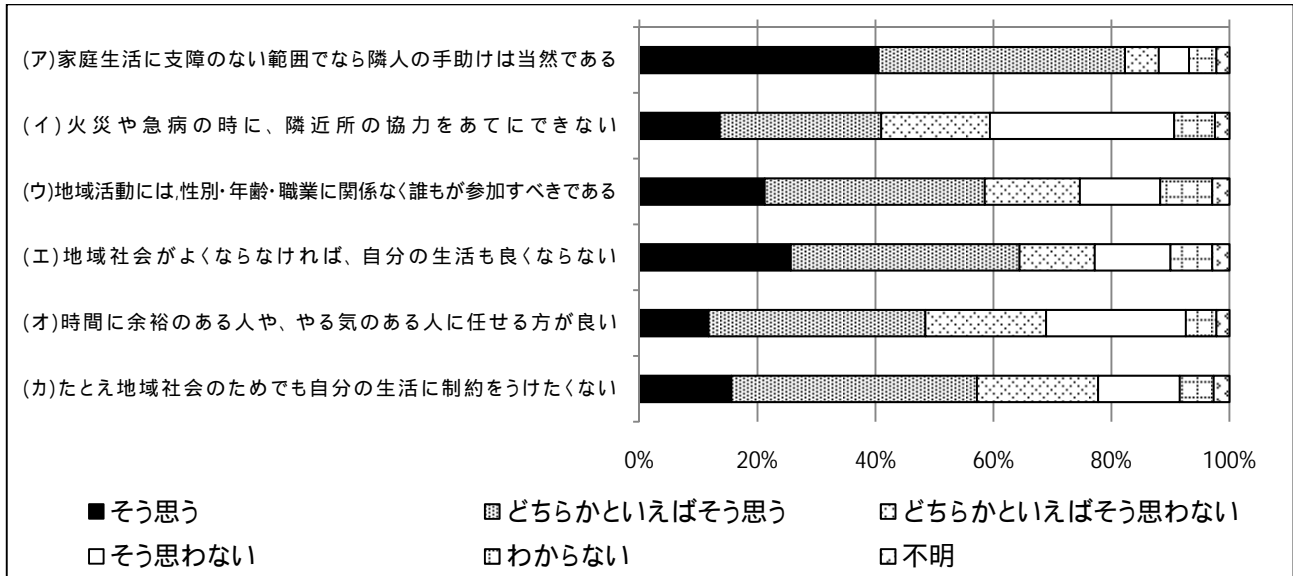
【値は%】		問6 隣近所との日ごろのお付き合いの程度					
		訪問しあったり、留守の時頼み合うなど親しい付き合いをしている	道で会えば立ち話をする程度の付き合いをしている	会えばあいさつする程度の付き合いをしている	顔を知らずほとんど(全)付き合いはない	その他	不明
性別	男性(N=563)	13.2	34.6	44.6	6.1	1.2	0.3
	女性(N=668)	10.0	35.0	45.0	5.0	0.0	5.0
年齢	18～19歳(N=13)	0.0	0.0	92.3	7.7	0.0	0.0
	20～29歳(N=104)	2.9	5.8	61.5	29.8	0.0	0.0
	30～39歳(N=191)	7.9	19.4	61.8	10.5	0.5	0.0
	40～49歳(N=224)	8.9	27.2	56.3	7.6	0.0	0.0
	50～59歳(N=196)	10.2	26.0	56.1	7.1	0.5	0.0
	60～64歳(N=120)	11.7	39.2	43.3	4.2	0.8	0.8
	65～69歳(N=128)	14.8	41.4	37.5	2.3	3.1	0.8
	70歳以上(N=289)	19.4	33.2	43.3	2.4	1.0	0.7
居住地	北(N=131)	9.2	29.8	54.2	6.1	0.8	0.0
	東(N=203)	15.8	30.0	44.8	7.9	1.0	0.5
	富士見台(N=315)	8.9	27.3	54.6	8.3	0.0	1.0
	中(N=137)	8.0	24.8	59.1	7.3	0.7	0.0
	西(N=164)	11.0	25.6	56.7	6.7	0.0	0.0
	谷保(N=172)	15.1	29.1	44.8	9.3	1.7	0.0
	泉(N=43)	4.7	23.3	58.1	9.3	4.7	0.0
	青柳(N=54)	22.2	20.4	53.7	3.7	0.0	0.0
	矢川・石田(N=22)	13.6	36.4	40.9	9.1	0.0	0.0

(4) 地域における人との付き合い、地域との関わりの考え方[問7]

地域における人との付き合い、地域との関わりの考え方について伺ったところ、「家庭生活に支障のない範囲でなら隣人の手助けは当然である」と思う人の割合(そう思う、どちらかといえばそう思うの合計)が82.3%と大半を占める。

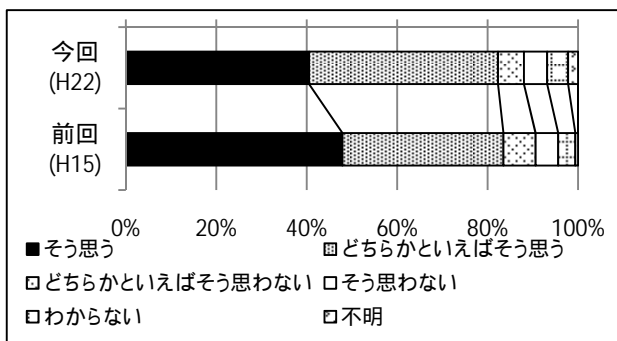
前調査と比較すると、ほぼ同様の結果となっている。

図 17 地域における人との付き合い、地域との関わりの考え方(H22 N=1271, H15 N=707)



(ア) 家庭生活に支障のない範囲でなら隣人の手助けは当然である

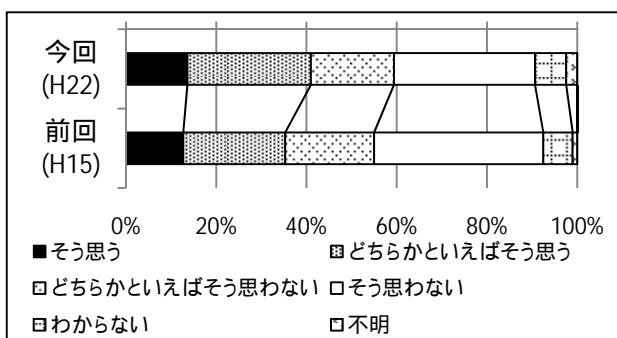
【前調査との比較】



	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	不明
今回(H22)	40.5%	41.8%	5.7%	5.1%	4.6%	2.2%
前回(H15)	47.9%	35.6%	7.1%	5.0%	3.8%	0.6%

(イ) 火災や急病の時に、隣近所の協力をあてにできない

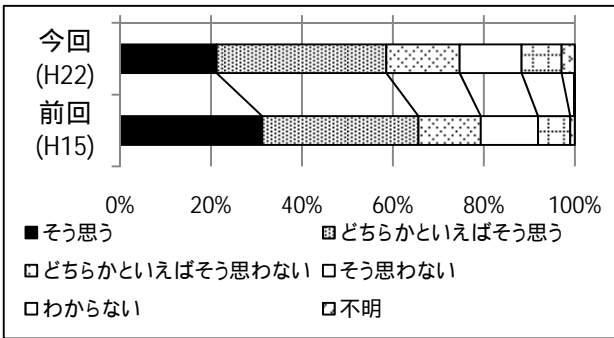
【前調査との比較】



	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	不明
今回(H22)	13.6%	27.4%	18.4%	31.2%	6.9%	2.4%
前回(H15)	12.7%	22.6%	19.7%	37.5%	6.5%	1.0%

(ウ) 地域活動には性別・年齢・職業の関係なく誰もが参加すべきである

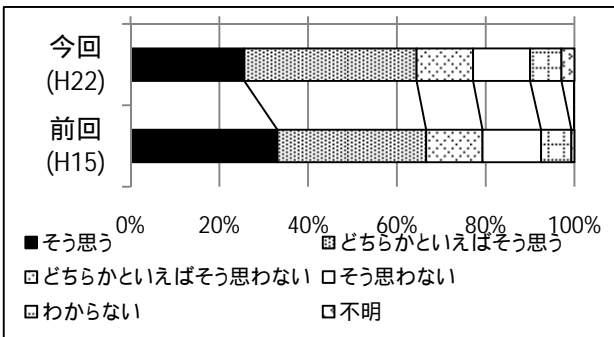
【前調査との比較】



	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	不明
今回 (H22)	21.2%	37.3%	16.1%	13.6%	8.8%	2.9%
前回 (H15)	31.3%	34.4%	13.7%	12.6%	7.1%	1.0%

(エ) 地域社会がよくならなければ、自分の生活も良くなる

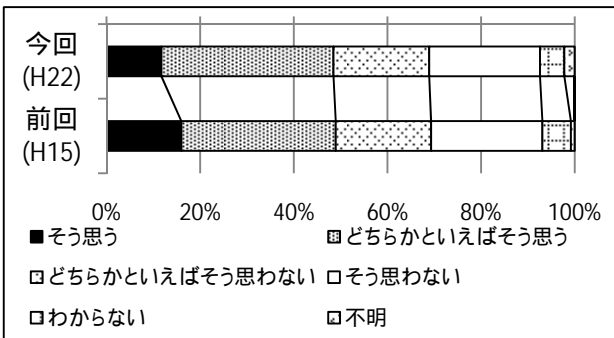
【前調査との比較】



	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	不明
今回 (H22)	25.6%	38.8%	12.7%	12.8%	7.1%	2.9%
前回 (H15)	33.1%	33.5%	12.7%	13.2%	6.8%	0.7%

(オ) 時間に余裕のある人や、やる気のある人に任せる方が良い

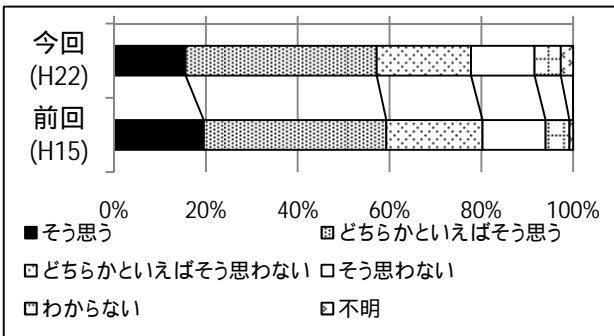
【前調査との比較】



	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	不明
今回 (H22)	11.7%	36.7%	20.5%	23.7%	5.2%	2.2%
前回 (H15)	16.0%	33.0%	20.4%	23.8%	6.1%	0.8%

(カ) たとえ地域社会のためでも自分の生活に制約をうけたくない

【前調査との比較】



	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	不明
今回 (H22)	15.6%	41.6%	20.5%	13.8%	5.7%	2.7%
前回 (H15)	19.5%	39.7%	20.9%	13.7%	5.2%	0.8%

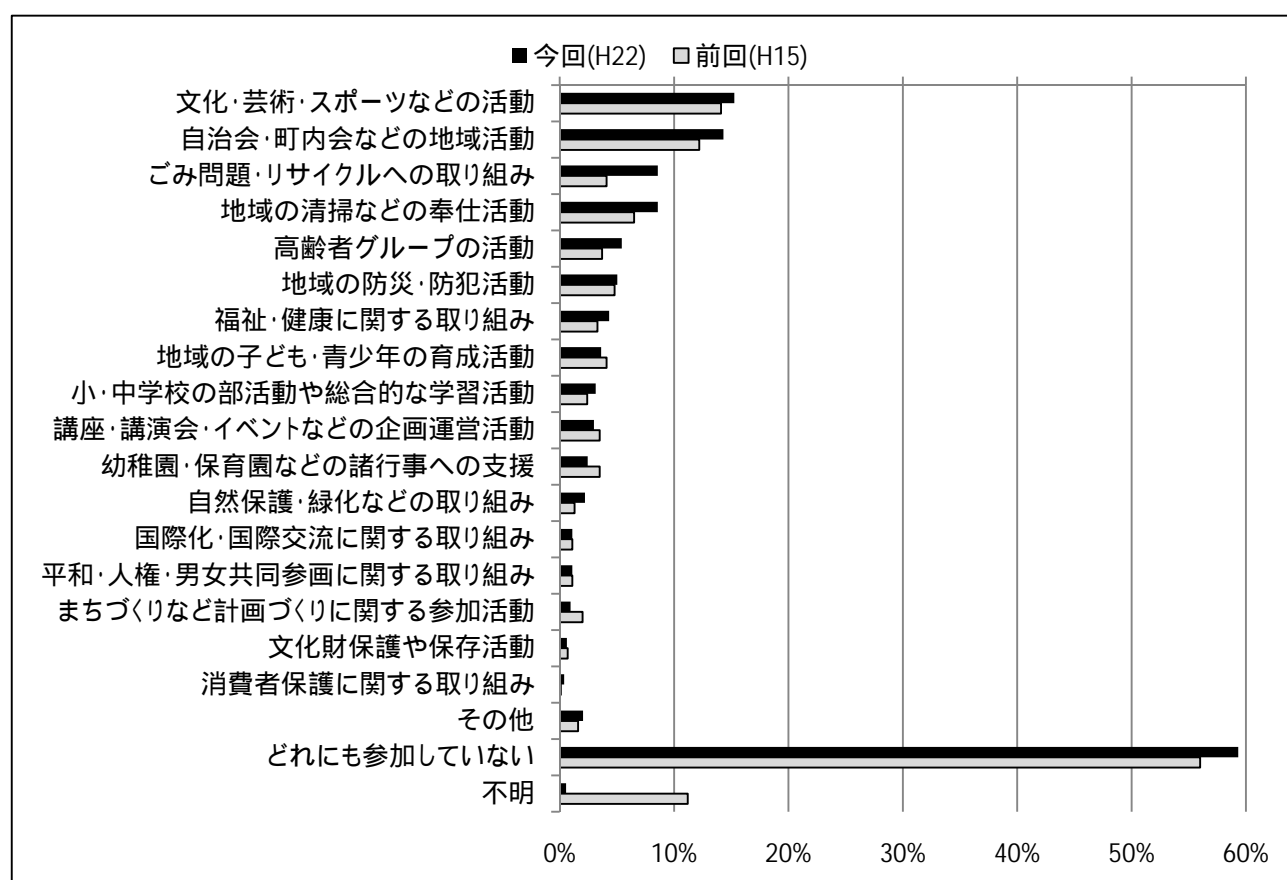
3. 社会貢献的な市民活動

(1) グループ活動や地域活動の参加状況[問8]

グループ活動や地域活動の参加状況について伺ったところ<あてはまるもの全てを選択>、約6割の市民が参加していないと回答した。参加している活動で高い項目としては、「文化・芸術・スポーツなどの活動」(15.3%)、「自治会・町内会などの地域活動」(14.3%)が挙げられる。

前調査と比較するとほぼ同様の結果となっており、最も差異のある活動としては「ごみ問題・リサイクルへの取り組み」(前回4.1%、今回8.6%)となっている。

図 18 グループ活動や地域活動の参加状況(H22 N=1271, H15 N=707)

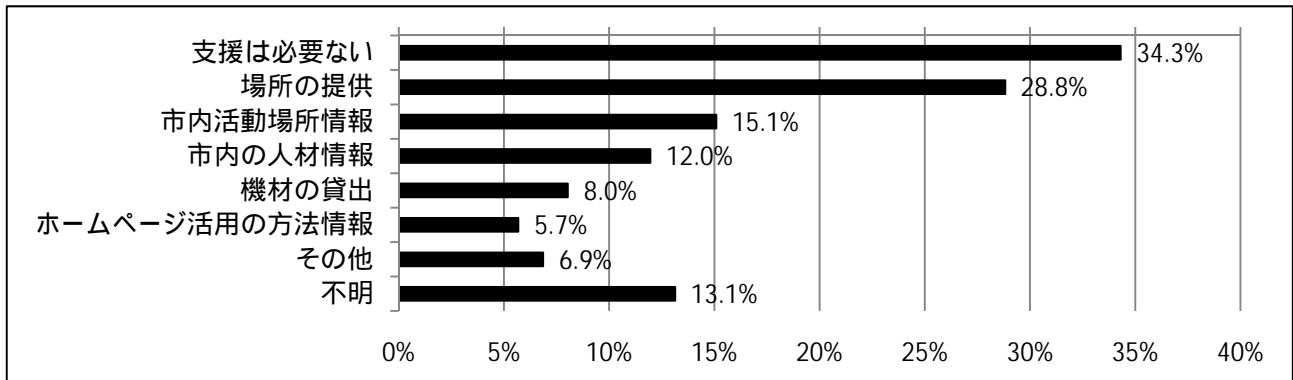


	文化・芸術・スポーツなどの活動	地域活動	自治会・町内会などの取り組み	ごみ問題・リサイクルへの取り組み	奉仕活動	地域の清掃などの活動	高齢者グループの活動	地域の防災・防犯活動	福祉・健康に関する取り組み	地域の子ども・青少年の育成活動	総合的な学習活動	小・中学校の部活動や企画運営活動	幼稚園・保育園などの諸行事への支援	自然保護・緑化などの取り組み	国際化・国際交流に関する取り組み	平和・人権・男女共同参画に関する取り組み	まちづくりなど計画づくりに関する参加活動	文化財保護や保存活動	消費者保護に関する取り組み	その他	どれにも参加していない	不明
今回(H22)	15.3%	14.3%	8.6%	8.6%	5.4%	5.0%	4.3%	3.6%	3.1%	3.0%	2.4%	2.2%	1.1%	1.1%	0.9%	0.6%	0.4%	2.0%	59.0%	0.6%		
前回(H15)	14.3%	12.2%	4.1%	6.5%	3.7%	4.8%	3.3%	4.1%	2.4%	3.5%	3.5%	1.3%	1.1%	1.1%	2.0%	0.7%	0.1%	1.6%	56.0%	11.2%		

(2) 現在参加しているグループ活動や地域活動に必要な支援[問9]

グループ活動や地域活動に参加している市民に対して、現在の活動に必要な支援について伺ったところ<あてはまるもの全てを選択>、「支援は必要ない」と答えた市民が34.3%と最も高く、必要な支援としては「場所の提供」が28.8%と最も高い。

図 19 現在参加しているグループ活動や地域活動に必要な支援(N=510)

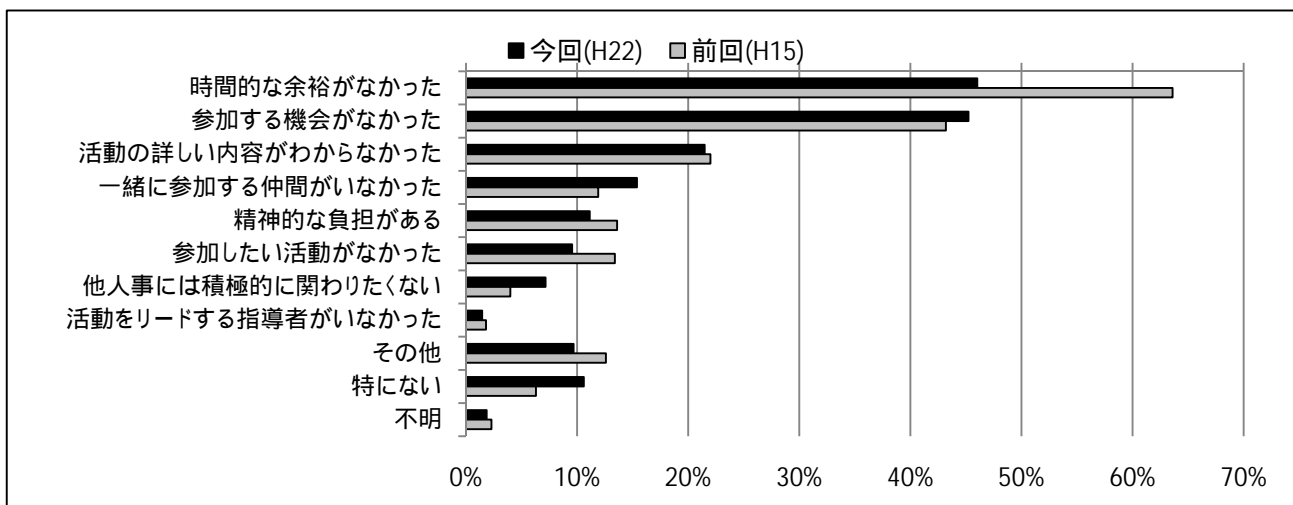


(3) グループ活動や地域活動に参加していない理由[問10]

グループ活動や地域活動に参加していない市民に対してその理由を伺ったところ<3つまで選択可>、約半数の方が「時間的な余裕がなかった」(46.0%)、「参加する機会がなかった」(45.2%)と回答した。

前調査と比較すると、「時間的な余裕がなかった」と答えた割合が前回では63.6%に対して今回は46.0%と下がっている。

図 20 グループ活動や地域活動に参加していない理由(H22 N=754, H15 N=396)



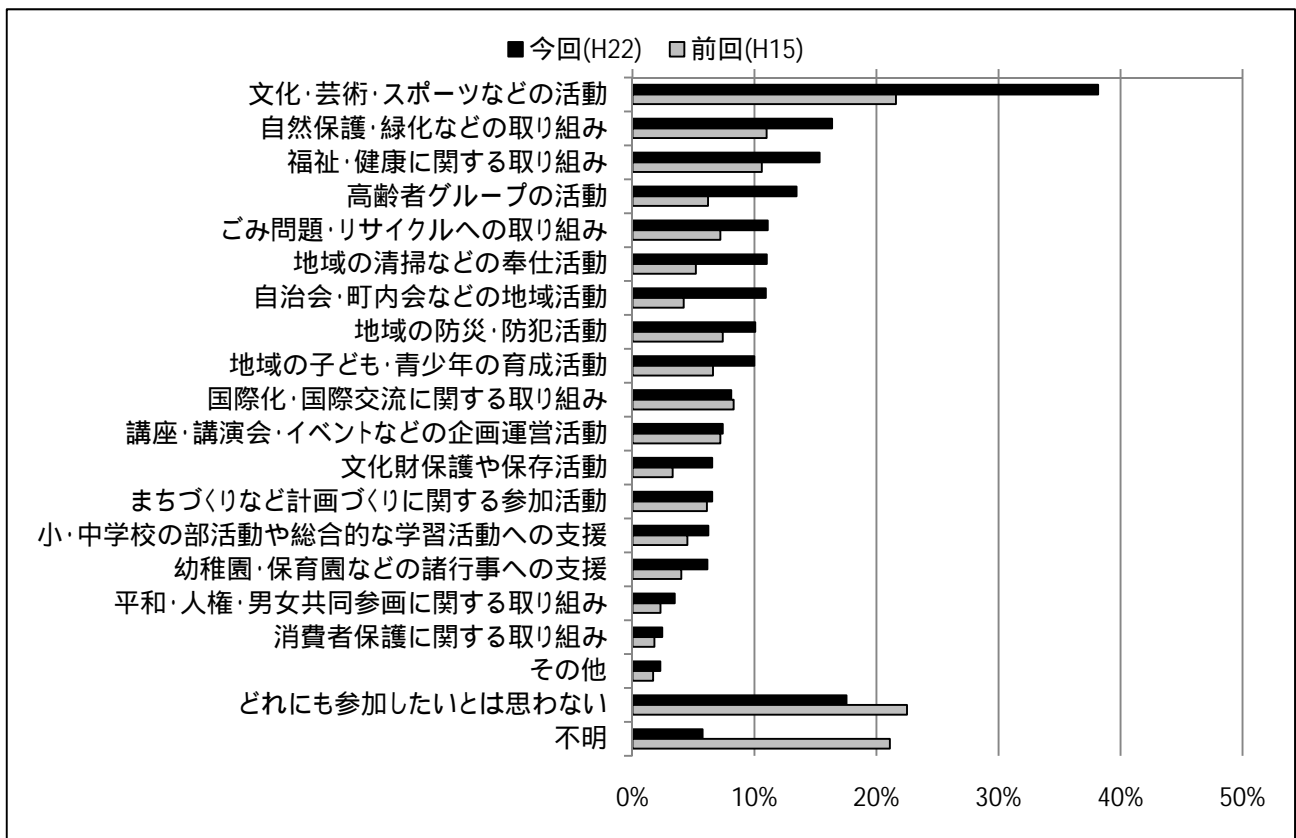
	時間的な余裕がなかった	参加する機会がなかった	活動の詳しい内容がわからなかった	一緒に参加する仲間がいなかった	精神的な負担がある	参加したい活動がなかった	他人事には積極的に関わりたいくない	活動をリードする指導者がいなかった	その他	特にない	不明
今回(H22)	46.0%	45.2%	21.5%	15.4%	11.1%	9.5%	7.2%	1.5%	9.7%	10.6%	1.9%
前回(H15)	63.6%	43.2%	22.0%	11.9%	13.6%	13.4%	4.0%	1.8%	12.6%	6.3%	2.3%

(4) 今後参加したいグループ活動・地域活動[問11]

今後参加したいグループ活動・地域活動について伺ったところ<あてはまるもの全てを選択>、「文化・芸術・スポーツなどの活動」と答えた割合が38.2%と最も高く、次いで「自然保護・緑化などの取り組み」(16.4%)、「福祉・健康に関する取り組み」(15.3%)、「高齢者グループの活動」(13.5%)となっている。一方、どれにも参加したいとは思わない市民の割合は17.5%である。

前調査と比較すると、どれにも参加したいと思わない市民の割合が5.0%減少している以外はほぼ増加しており、特に「文化・芸術・スポーツなどの活動」では16.6%増加している。

図 21 今後参加したいグループ活動・地域活動(H22 N=1271, H15 N=707)



	文化・芸術・スポーツなどの活動	自然保護・緑化などの取り組み	福祉・健康に関する取り組み	高齢者グループの活動	ごみ問題・リサイクルへの取り組み	地域の清掃などの奉仕活動	自治会・町内会などの地域活動	地域の防災・防犯活動	地域の子ども・青少年の育成活動	国際化・国際交流に関する取り組み	講座・講演会・イベントなどの企画運営活動	文化財保護や保存活動	まちづくりなど計画づくりに関する参加活動	小・中学校の部活動や総合的な学習活動への支援	幼稚園・保育園などの諸行事への支援	平和・人権・男女共同参画に関する取り組み	消費者保護に関する取り組み	その他	どれにも参加したいとは思わない	不明
今回(H22)	38.2%	16.4%	15.3%	13.5%	11.1%	11.1%	10.0%	10.0%	10.0%	8.1%	7.4%	6.5%	6.5%	6.2%	6.1%	3.5%	2.4%	2.3%	17.5%	5.7%
前回(H15)	21.6%	11.0%	10.0%	6.2%	7.2%	5.2%	4.2%	7.4%	6.6%	8.3%	7.2%	3.3%	6.1%	4.5%	4.0%	2.3%	1.8%	1.7%	22.5%	21.1%

(5) 多くの市民がグループ活動・市民活動に参加するために市が行うべき策[問 1 2]

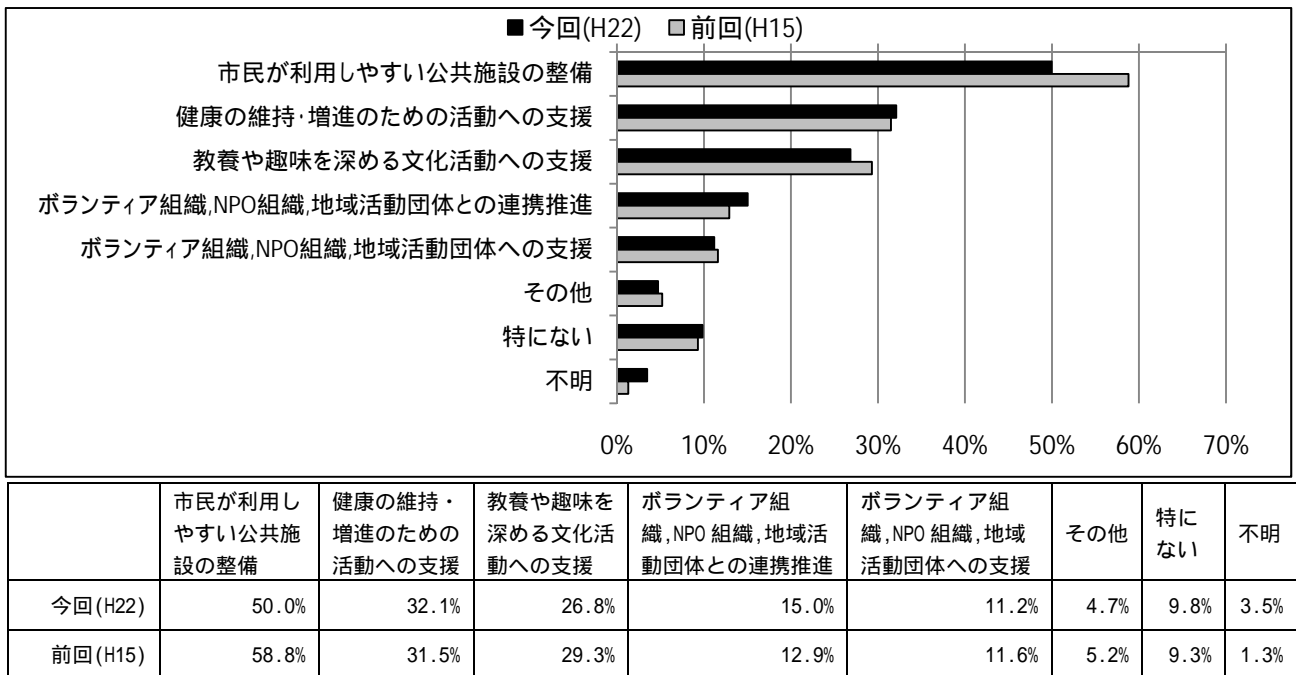
多くの市民がグループ活動・市民活動に参加するために市が行うべき策を伺ったところ < 2 つまで選択可 >、「市民が利用しやすい公共施設の整備」が 50.0%と最も高い。

前調査と比較するとほぼ同様の結果となっているが、「市民が利用しやすい公共施設の整備」については 8.8%低い結果となっている。

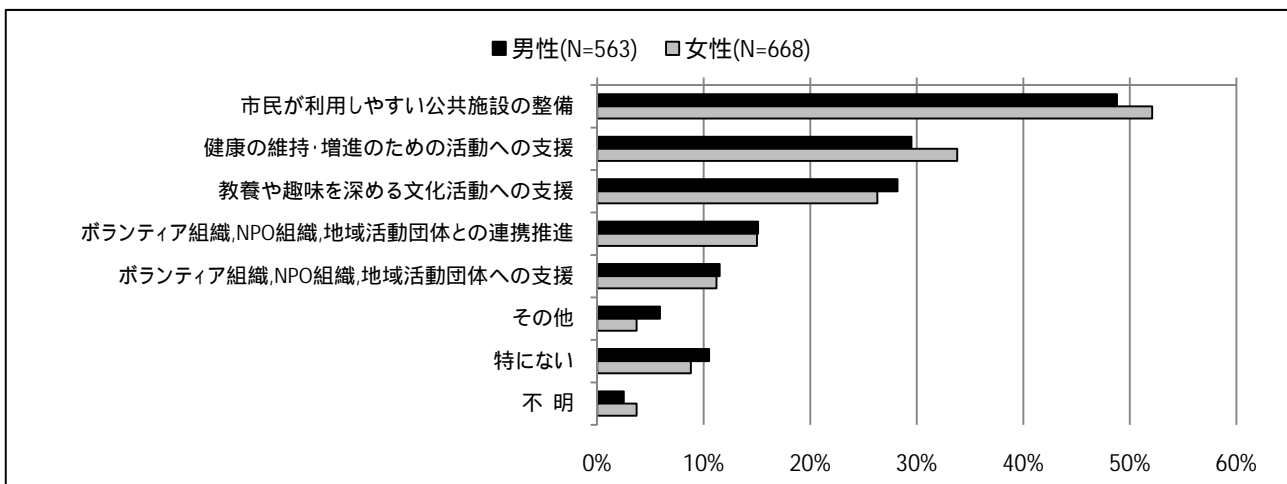
性別及び地域別では特に差異は見られない。

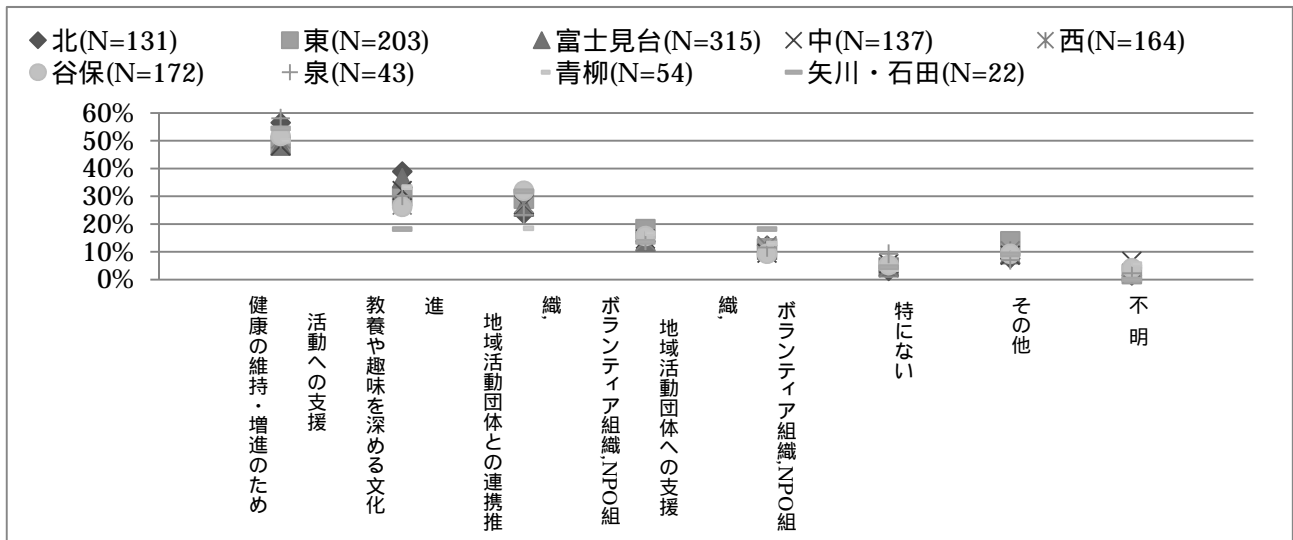
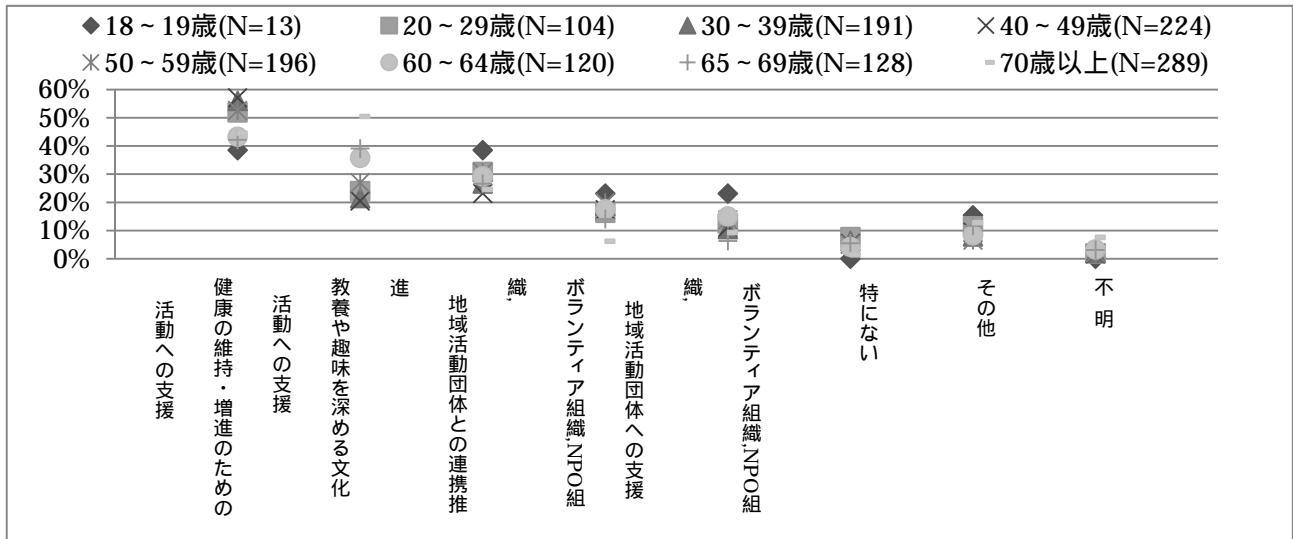
年齢別では、「市民が利用しやすい公共施設の整備」について 30代、40代では 55%以上であるのに対し、60代では 40%前半と差が見られる。また、「健康の維持・増進のための活動への支援」については、70代以上が 50.5%と他の世代に比べて高い。また、「ボランティア組織、NPO組織、地域活動団体との連携推進」については 70代以上で 6.2%と他の世代と比較して低い。

図 22 多くの市民がグループ活動・市民活動に参加するために市が行うべき策
(H22 N=1271, H15 N=707)



【性別、年齢別、地域別】





<値は%>		問12 多くの市民が活動に参加するために市が取り組むべき策<2つまで選択可>							
		健康の維持・増進のための活動への支援	健康の維持・増進のための活動への支援	教養や趣味を深める文化活動への支援	ボランティア組織・NPO組	地域活動団体への支援	ボランティア組織・NPO組	地域活動団体への支援	その他
性別	男性(N=563)	48.8	29.5	28.2	15.1	11.5	5.9	10.5	2.5
	女性(N=668)	52.1	33.8	26.3	15.0	11.2	3.7	8.8	3.7
年齢	18～19歳(N=13)	38.5	23.1	38.5	23.1	23.1	0.0	15.4	0.0
	20～29歳(N=104)	51.9	24.0	30.8	16.3	12.5	7.7	11.5	1.9
	30～39歳(N=191)	56.0	21.5	26.7	18.8	10.5	6.3	7.9	2.1
	40～49歳(N=224)	57.1	20.5	23.2	17.4	11.2	5.4	9.4	1.8
	50～59歳(N=196)	52.6	27.0	30.6	19.9	13.8	5.1	6.6	2.0
	60～64歳(N=120)	43.3	35.8	29.2	17.5	15.0	4.2	8.3	3.3
	65～69歳(N=128)	42.2	39.1	26.6	14.1	6.3	5.5	11.7	3.1
	70歳以上(N=289)	44.6	50.5	24.6	6.2	9.3	1.4	12.8	7.6
居住地	北(N=131)	56.5	38.9	23.7	13.7	12.2	3.1	7.6	1.5
	東(N=203)	48.3	30.0	29.1	18.2	11.3	4.4	13.8	2.0
	富士見台(N=315)	48.3	36.5	26.3	13.7	10.8	4.8	9.2	3.2
	中(N=137)	48.2	32.1	27.0	14.6	9.5	5.8	8.8	6.6
	西(N=164)	50.6	26.8	27.4	14.0	12.2	4.3	10.4	2.4
	谷保(N=172)	51.7	26.2	32.0	15.7	9.3	5.2	9.3	4.1
	泉(N=43)	58.1	30.2	23.3	14.0	11.6	9.3	7.0	2.3
	青柳(N=54)	50.0	33.3	18.5	16.7	13.0	3.7	9.3	5.6
矢川・石田(N=22)	54.5	18.2	31.8	13.6	18.2	4.5	9.1	0.0	

4. 子どもや若者のために

(1) 子供たちのために市が取り組むべき施策[問13]

子供たちのために市が取り組むべき施策を伺ったところ<3つまで選択可>、高い項目としては「安心して遊べる公園や広場を充実する」(33.4%)、「生活の安全(交通事故,犯罪等から子どもを守る)のための施策を充実する」(31.5%)が挙げられる。

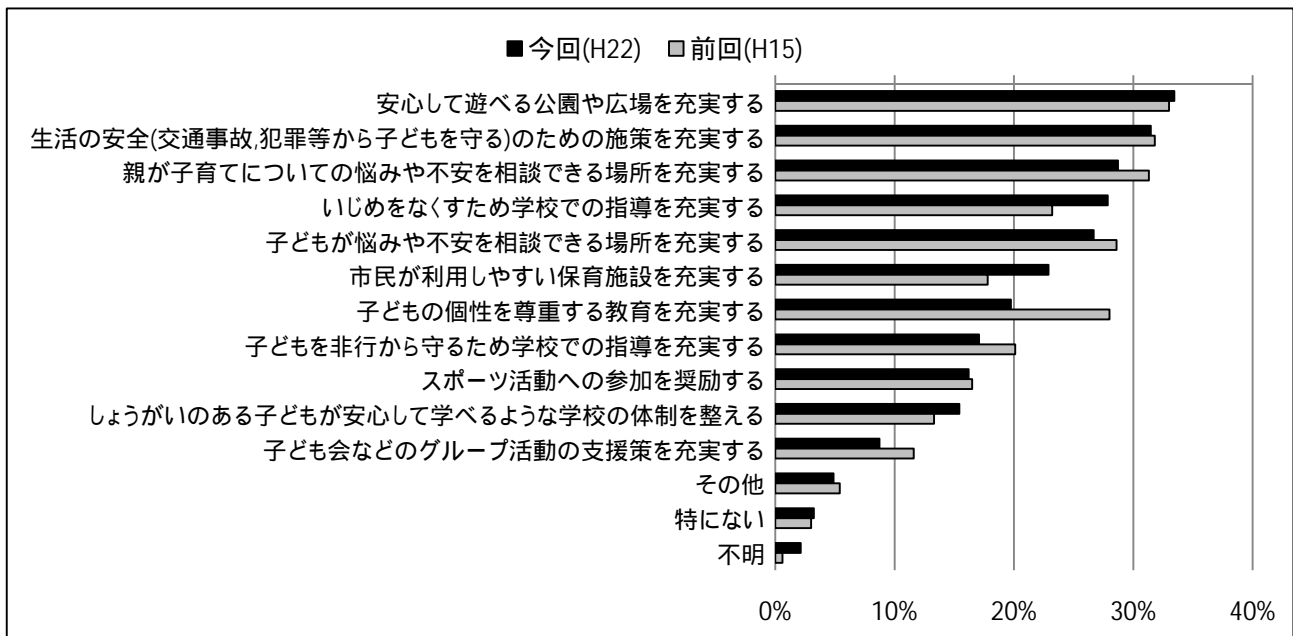
前調査と比較すると特に大きな変化はないが、「子どもの個性を尊重する教育を充実する」に関しては前調査28.0%に対して本調査19.7%と8.3%低くなっている。

性別では、「子どもが悩みや不安を相談できる場所を充実する」ことに関して女性が8.5%高く(男性22.2%、女性30.7%)、「スポーツ活動への参加を奨励する」ことに関して男性が9.6%高い(男性21.3%、女性11.7%)。

年齢別では、20代では「親が子育てについての悩みや不安を相談できる場所を充実する」(20代41.3%)ことに関して他の世代より高く、30代では「安心して遊べる公園や広場を充実する」(30代44.0%)こと及び「市民が利用しやすい保育施設を充実する」(30代36.1%)ことに関して他の世代に比べて高く、70代以上では「子どもを非行から守るため学校での指導を充実する」(70代29.8%)ことに関して他の世代より高い。

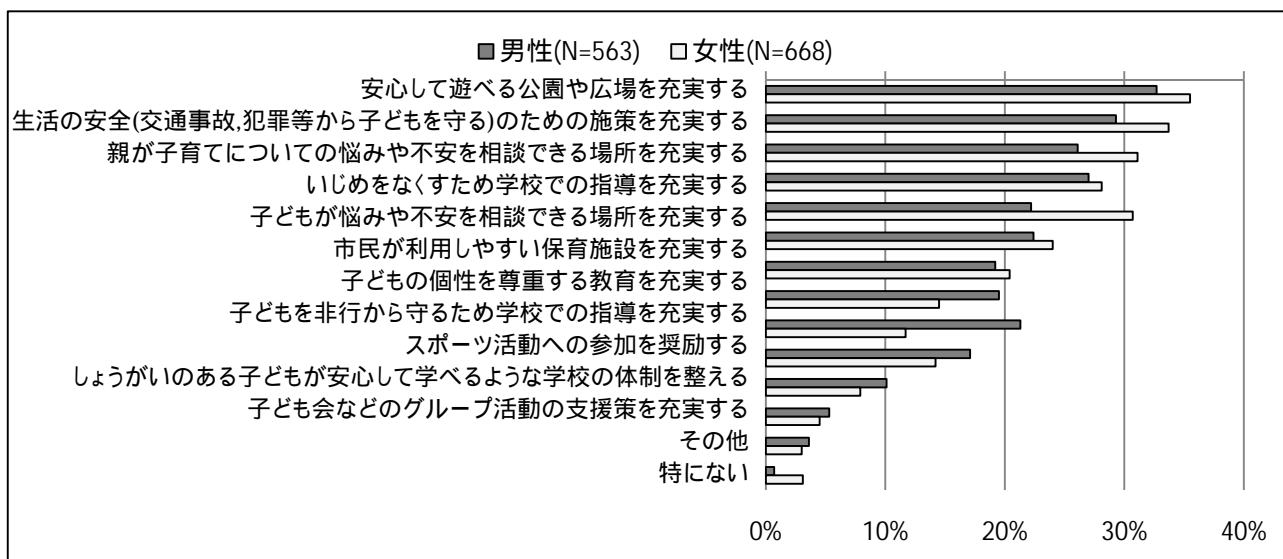
地域別では、矢川・石田地区がサンプル数が少ないため一概に言えないが、他の地域とは異なった値となっている。

図 23 子供たちのために市が取り組むべき施策(H22 N=1271, H15 N=707)

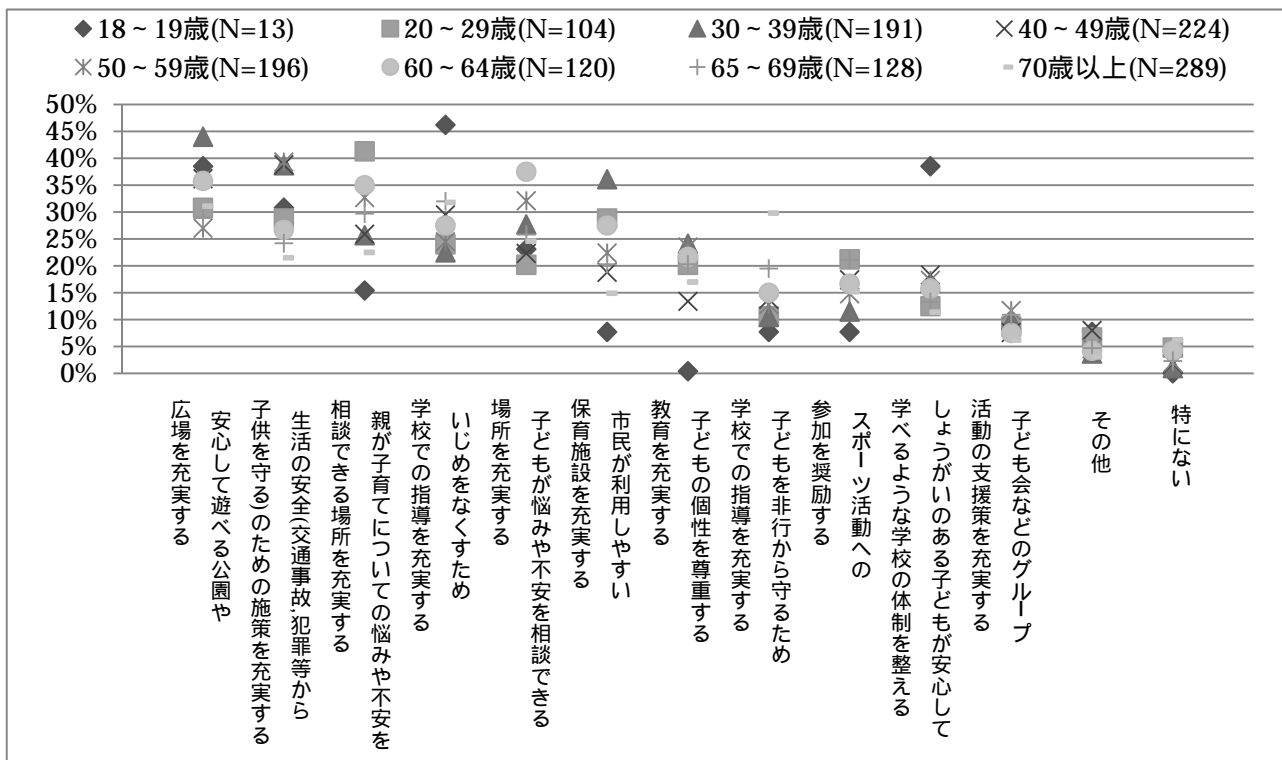


	安心して遊べる公園や広場を充実する	生活の安全(交通事故、犯罪等から子どもを守る)のための施策を充実する	親が子育てについての悩みや不安を相談できる場所を充実する	いじめをなくすため学校での指導を充実する	子どもが悩みや不安を相談できる場所を充実する	市民が利用しやすい保育施設を充実する	子どもの個性を尊重する教育を充実する	子どもを非行から守るため学校での指導を充実する	スポーツ活動への参加を奨励する	しょうがいのある子どもが安心して学べるような学校の体制を整える	子ども会などのグループ活動の支援策を充実する	その他	特にない	不明
今回(H22)	33.4%	31.5%	28.7%	27.9%	26.7%	22.9%	19.7%	17.1%	16.2%	15.4%	8.7%	4.9%	3.2%	2.1%
前回(H15)	33.0%	31.8%	31.3%	23.2%	28.6%	17.8%	28.0%	20.1%	16.5%	13.3%	11.6%	5.4%	3.0%	0.6%

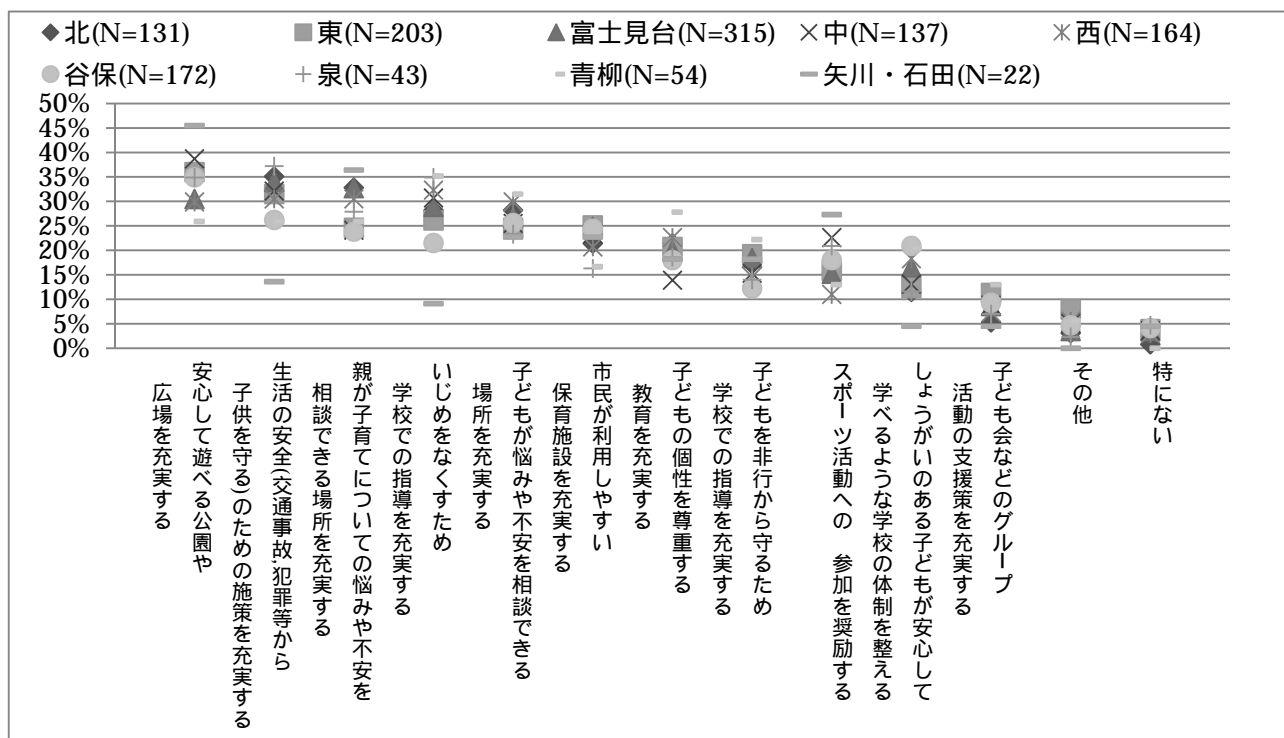
【性別】



【年齢別】



【居住地域別】



<値は%>		問 13 子どもたちのために市が取り組みべき施策<3つまで選択可>													
		安心して遊べる公園や広場を充実する	生活の安全(交通事故、犯罪等)から子どもを守る)のための施策	親が子育てについての悩みや不安を相談できる場所を充実する	学校での指導を充実する	いじめをなくすため学校での指導を充実する	子どもが悩みや不安を相談できる場所を充実する	市民が利用しやすい保育施設を充実する	子どもが個性を尊重する教育を充実する	子どもを非行から守るため学校での指導を充実する	スポーツ活動への参加を奨励する	しょうがいのある子どもが安心して学べるような学校の体制を整える	子ども会などのグループ活動の支援策を充実する	その他	特になし
性別	男性(N=563)	35.5	33.7	31.1	28.1	30.7	24.0	20.4	14.5	11.7	14.2	7.9	4.5	3.0	3.1
	女性(N=668)	10.0	25.0	25.0	35.0	22.5	12.5	17.5	25.0	20.0	12.5	2.5	5.0	2.5	5.0
年齢	18~19歳(N=13)	38.5	30.8	15.4	46.2	23.1	7.7	0.4	7.7	7.7	38.5	7.7	7.7	0.0	0.0
	20~29歳(N=104)	30.8	28.8	41.3	24.0	20.2	28.8	20.2	10.6	21.2	12.5	8.7	6.7	4.8	0.0
	30~39歳(N=191)	44.0	38.7	25.7	22.5	27.7	36.1	24.1	10.5	11.5	16.8	9.9	3.7	1.0	1.6
	40~49歳(N=224)	36.2	38.8	25.9	29.5	22.3	18.8	13.4	13.8	17.4	18.3	7.6	8.0	1.8	0.0
	50~59歳(N=196)	27.0	39.3	32.7	24.5	32.1	22.4	23.5	12.8	14.8	17.3	11.7	4.6	2.0	1.0
	60~64歳(N=120)	35.8	26.7	35.0	27.5	37.5	27.5	21.7	15.0	16.7	15.8	7.5	4.2	4.2	1.7
	65~69歳(N=128)	28.9	24.2	29.7	32.0	25.8	20.3	20.3	19.5	21.1	13.3	10.9	4.7	2.3	3.1
	70歳以上(N=289)	31.1	21.5	22.5	31.8	24.6	14.9	17.0	29.8	15.2	11.4	6.2	3.1	6.2	5.5
居住地域	北(N=131)	35.1	35.1	32.8	28.2	28.2	21.4	21.4	17.6	15.3	11.5	5.3	3.1	0.8	1.5
	東(N=203)	36.0	31.5	24.6	26.1	24.6	25.1	20.7	19.2	15.8	12.3	11.3	7.9	3.9	1.5
	富士見台(N=315)	30.5	34.0	32.7	28.9	26.7	24.8	20.0	18.4	15.2	16.5	8.6	3.5	3.5	1.6
	中(N=137)	38.7	32.1	24.1	30.7	25.5	23.4	13.9	15.3	22.6	13.1	8.8	5.1	3.6	2.9
	西(N=164)	29.9	30.5	30.5	32.3	29.9	20.7	22.6	14.6	11.0	18.3	7.3	5.5	3.0	1.8
	谷保(N=172)	34.9	26.2	23.8	21.5	25.6	24.4	18.0	12.2	18.0	20.9	9.3	4.7	4.1	3.5
	泉(N=43)	34.9	37.2	27.9	34.9	23.3	16.3	18.6	14.0	20.9	11.6	7.0	2.3	4.7	0.0
	青柳(N=54)	25.9	25.9	25.9	35.2	31.5	16.7	27.8	22.2	13.0	20.4	13.0	5.6	0.0	1.9
	矢川・石田(N=22)	45.5	13.6	36.4	9.1	22.7	22.7	18.2	18.2	27.3	4.5	4.5	0.0	4.5	9.1

(2) 若者のために市が取り組むべき施策[問14]

若者のために市が取り組むべき施策について伺ったところ<3つまで選択可>、主に「就業支援を充実する」(40.7%)、「若者が悩みや不安を相談できる場所を充実する」(33.1%)といった項目が挙げられた。

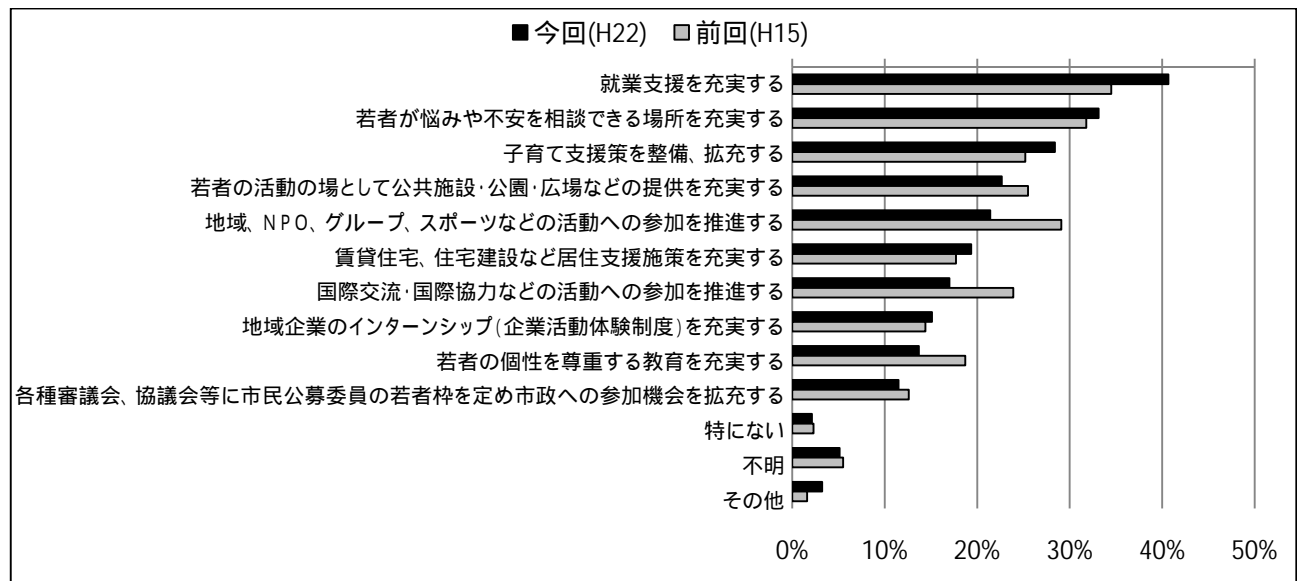
前調査との比較でみると、「就業支援を充実する」ことが6.2%増(前回34.5%、今回40.7%)、「地域、NPO、グループ、スポーツなどの活動への参加を推進する」ことが7.7%減(前回29.1%、今回21.4%)、「国際交流・国際協力などの活動への参加を推進する」ことが6.9%減(前回23.9%、今回17.0%)という結果となった。

性別には特に大きな差異が見られないが、「就業支援を充実する」ことに関して女性の方が7.6%高く(男性36.9%、女性44.5%)なっている。

年齢別には、20代では「賃貸住宅、住宅建設など居住支援施策を充実する」(全世代19.4%、20代32.7%)、「地域企業のインターンシップ(企業活動体験制度)を充実する」(全世代15.1%、20代32.7%)の項目が他の世代に比べて高い。30代では、「子育て支援策を整備、拡充する」(全世代28.4%、30代41.9%)の項目が他の世代に比べて高い。

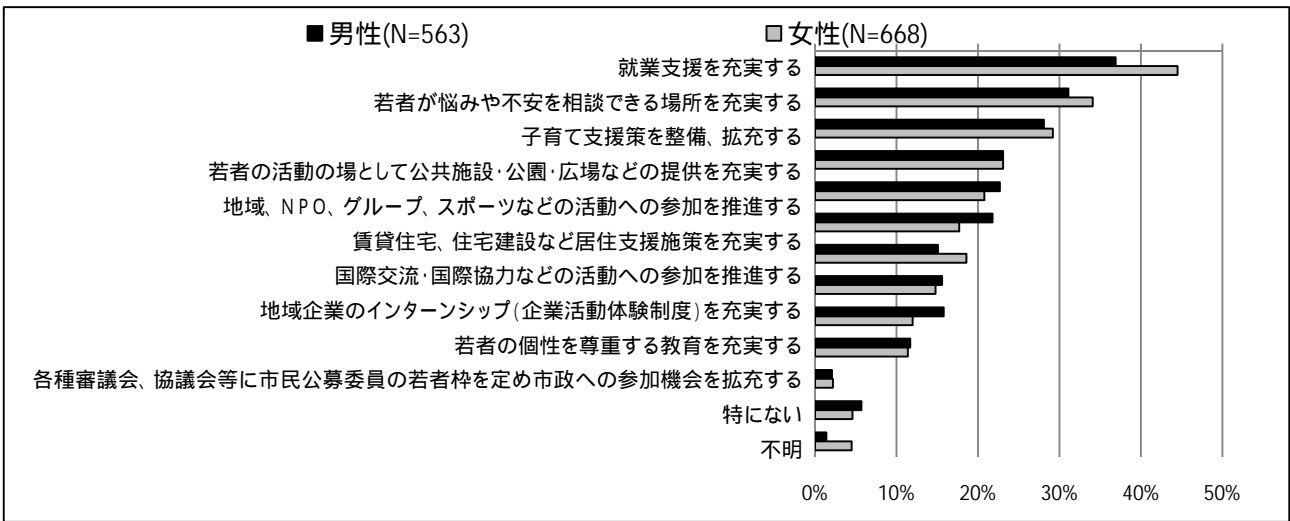
地域別では特に大きな差異は見られない。

図24 若者のために市が取り組むべき施策(H22 N=1271, H15 N=707)

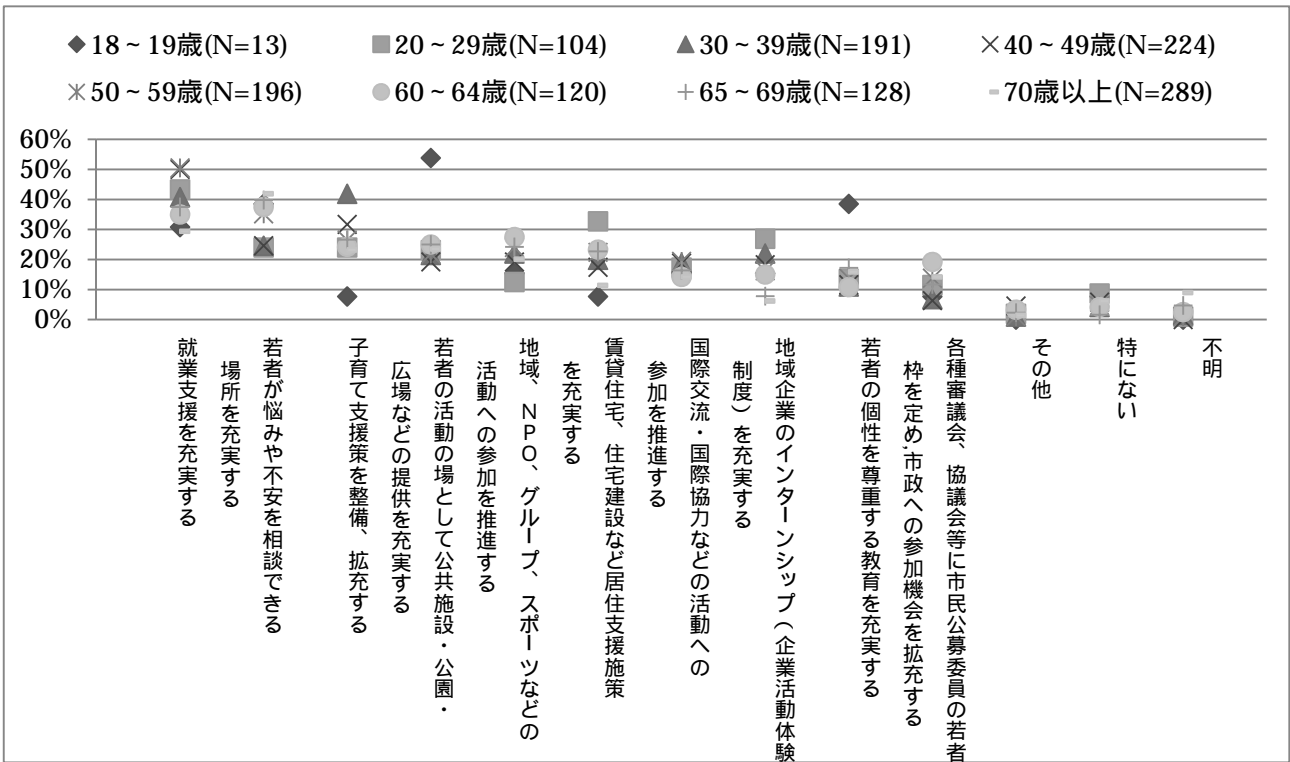


	就業支援を充実する	若者が悩みや不安を相談できる場所を充実する	子育て支援策を整備、拡充する	若者の活動の場として公共施設・公園・広場などの提供を充実する	地域、NPO、グループ、スポーツなどの活動への参加を推進する	賃貸住宅、住宅建設など居住支援施策を充実する	国際交流・国際協力などの活動への参加を推進する	地域企業のインターンシップ(企業活動体験制度)を充実する	若者の個性を尊重する教育を充実する	各種審議会、協議会等に市民公募委員の若者枠を定め市政への参加機会を拡充する	その他	特にない	不明
今回(H22)	40.7%	33.1%	28.4%	22.7%	21.4%	19.4%	17.0%	15.1%	13.7%	11.5%	2.1%	5.1%	3.2%
前回(H15)	34.5%	31.8%	25.2%	25.5%	29.1%	17.7%	23.9%	14.4%	18.7%	12.6%	2.3%	5.5%	1.6%

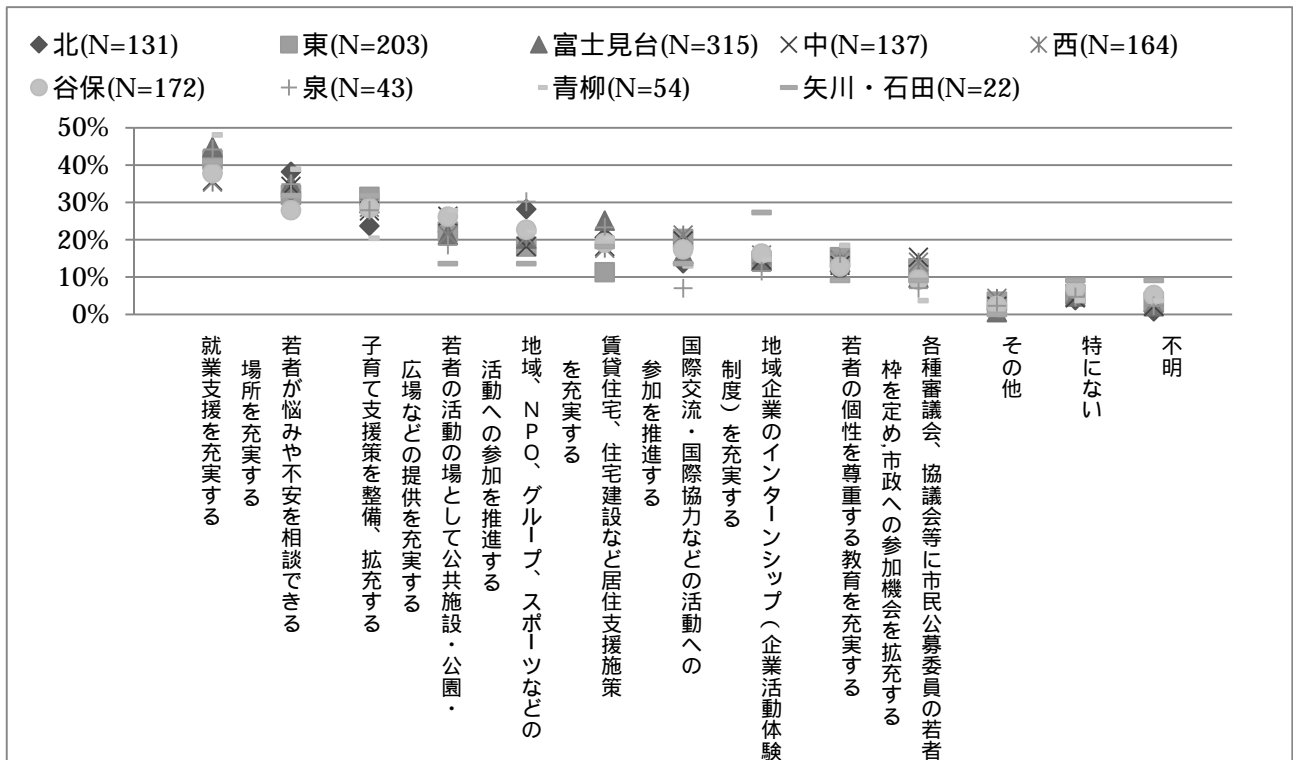
【性別】



【年齢別】



【地域別】



<値は%>		問14 若者のために取り組むべき施策<3つまで選択可>												
		就業支援を充実する	若者が悩みや不安を相談できる場所を充実する	子育て支援策を整備、拡充する	公共施設・公園・広場などの提供を充実する	若者の活動の場として活動への参加を推進する	地域・NPO、グループ、スポーツなどの活動への参加を推進する	賃貸住宅、住宅建設など居住支援施策を充実する	国際交流・国際協力などの活動への参加を推進する	地域企業のインターンシップ（企業活動体験制度）を充実する	若者の個性を尊重する教育を充実する	各種審議会、協議会等に市民公募委員の若者枠を定め市政への参加機会を拡充する	その他	特にな
性別	男性(N=563)	36.9	31.1	28.1	23.1	22.7	21.8	15.1	15.6	15.8	11.7	2.1	5.7	1.4
	女性(N=668)	44.5	34.1	29.2	23.1	20.8	17.7	18.6	14.8	12.0	11.4	2.2	4.6	4.5
年齢	18～19歳(N=13)	30.8	38.5	7.7	53.8	15.4	7.7	15.4	15.4	38.5	7.7	0.0	7.7	0.0
	20～29歳(N=104)	43.3	24.0	24.0	23.1	12.5	32.7	17.3	26.9	13.5	11.5	1.9	8.7	1.0
	30～39歳(N=191)	40.8	24.6	41.9	21.5	22.0	19.9	18.8	22.0	11.0	6.8	1.0	4.2	1.6
	40～49歳(N=224)	50.0	24.6	31.7	19.2	19.2	17.4	18.8	18.3	11.6	6.3	4.5	5.8	0.0
	50～59歳(N=196)	50.5	35.2	26.5	21.9	24.0	22.4	19.4	16.3	13.8	13.8	1.0	4.6	1.0
	60～64歳(N=120)	35.0	37.5	24.2	25.0	27.5	23.3	14.2	15.0	10.8	19.2	3.3	4.2	2.5
	65～69歳(N=128)	37.5	39.8	26.6	25.0	24.2	22.7	16.4	7.8	17.2	11.7	2.3	1.6	4.7
	70歳以上(N=289)	29.4	41.9	23.2	23.5	20.1	11.4	14.2	6.2	15.9	14.2	1.4	6.2	9.0
居住地域	北(N=131)	42.0	38.2	23.7	22.1	28.2	20.6	13.7	16.0	11.5	13.0	1.5	3.8	0.8
	東(N=203)	41.4	32.0	31.5	22.2	18.2	11.3	20.2	14.3	15.3	12.3	3.4	5.4	3.4
	富士見台(N=315)	44.8	34.9	29.8	21.3	20.3	25.1	16.2	14.3	14.0	9.8	0.6	4.8	2.2
	中(N=137)	35.8	34.3	27.7	26.3	18.2	18.2	19.7	14.6	13.1	15.3	2.2	4.4	2.2
	西(N=164)	35.4	30.5	28.7	21.3	20.7	17.7	21.3	15.9	14.6	14.0	4.3	5.5	3.0
	谷保(N=172)	37.8	27.9	28.5	26.2	22.7	19.2	17.4	16.3	12.8	9.3	2.3	7.0	5.2
	泉(N=43)	44.2	34.9	27.9	18.6	30.2	23.3	7.0	11.6	16.3	7.0	2.3	4.7	2.3
	青柳(N=54)	48.1	38.9	20.4	27.8	22.2	20.4	13.0	14.8	18.5	3.7	0.0	3.7	3.7
	矢川・石田(N=22)	40.9	31.8	31.8	13.6	13.6	18.2	13.6	27.3	9.1	9.1	0.0	9.1	9.1

5. 健康と福祉

(1) 高齢者のために効果的な施策[問15]

高齢者が豊かな生活を送るために効果的だと思われる施策を伺ったところ<2つまで選択可>、主に「特別養護老人ホーム、老人保健施設などを充実する」(41.8%)、「認知症高齢者対策、在宅福祉サービスなどを充実する」(30.5%)、「高齢者のための就業や企業の支援を行う」(28.2%)が挙げられた。

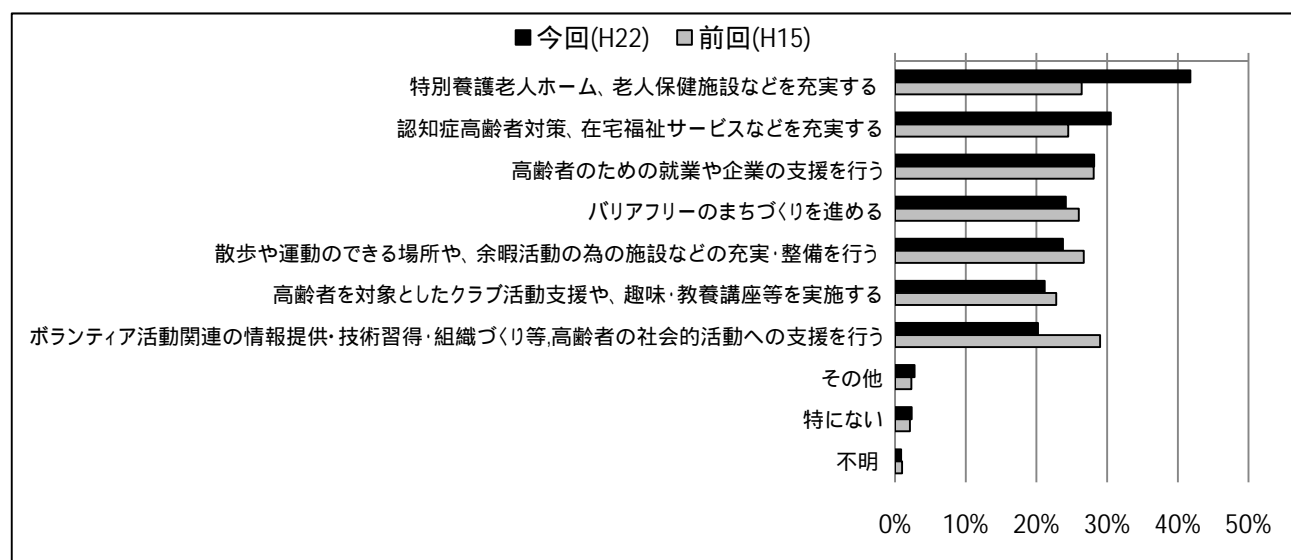
前調査との比較では、「特別養護老人ホーム、老人保健施設などを充実する」ことに関して15.4%増(前回26.4%、今回41.8%)、「ボランティア活動関連の情報提供・技術習得・組織づくり等、高齢者の社会的活動への支援を行う」ことに関して8.8%減(前回29.0%、今回20.2%)と差がみられる。

性別では、男性が「散歩や運動のできる場所や、余暇活動の為の施設などの充実・整備」ことに関して5.9%高いのに対して、女性は「特別養護老人ホーム、老人保健施設などを充実する」が6.0%、「認知症高齢者対策、在宅福祉サービスなどを充実する」が6.7%、「ボランティア活動関連の情報提供・技術習得・組織づくり等、高齢者の社会的活動への支援を行う」が7.0%高い。

年齢別では、「特別養護老人ホーム、老人保健施設などを充実する」ことに関しては年齢が高くなるほど比率も高まる傾向にあるが、「バリアフリーのまちづくりを進める」ことに関しては年齢が高くなるほど比率は低まる傾向にある。また、70代以上では「高齢者のための就業や企業の支援を行う」ことに対して効果的と考える市民が少ない(全世代28.2%、70歳以上15.2%)

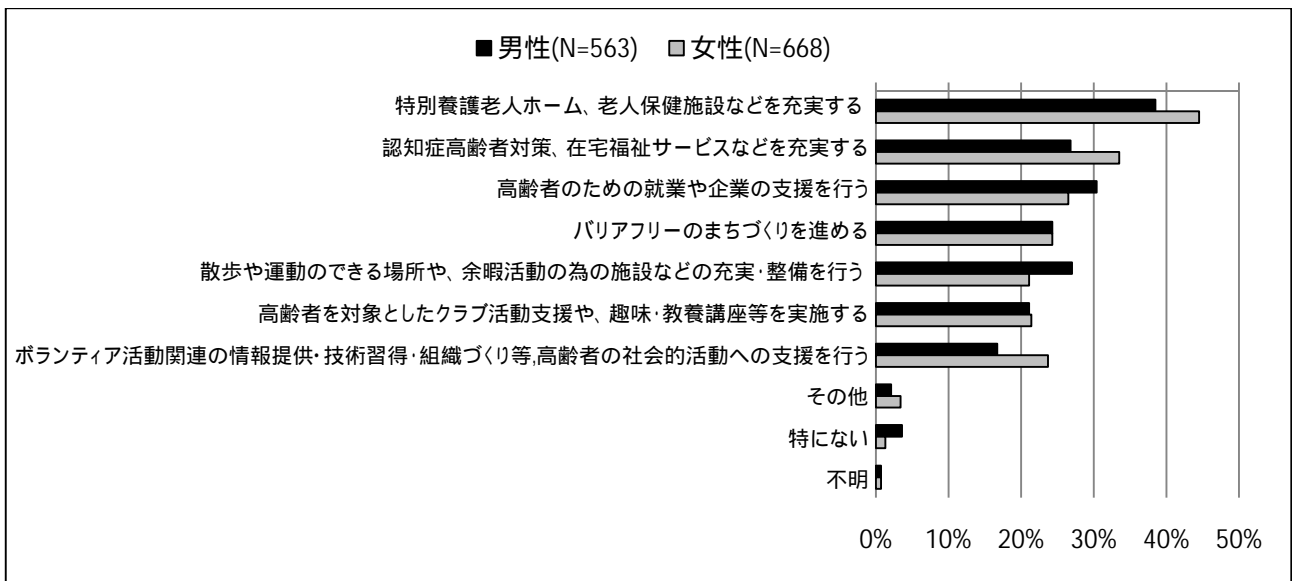
地域別には特に大きな差異は見られない。

図 25 高齢者のために効果的な施策(H22 N=1271, H15 N=707)

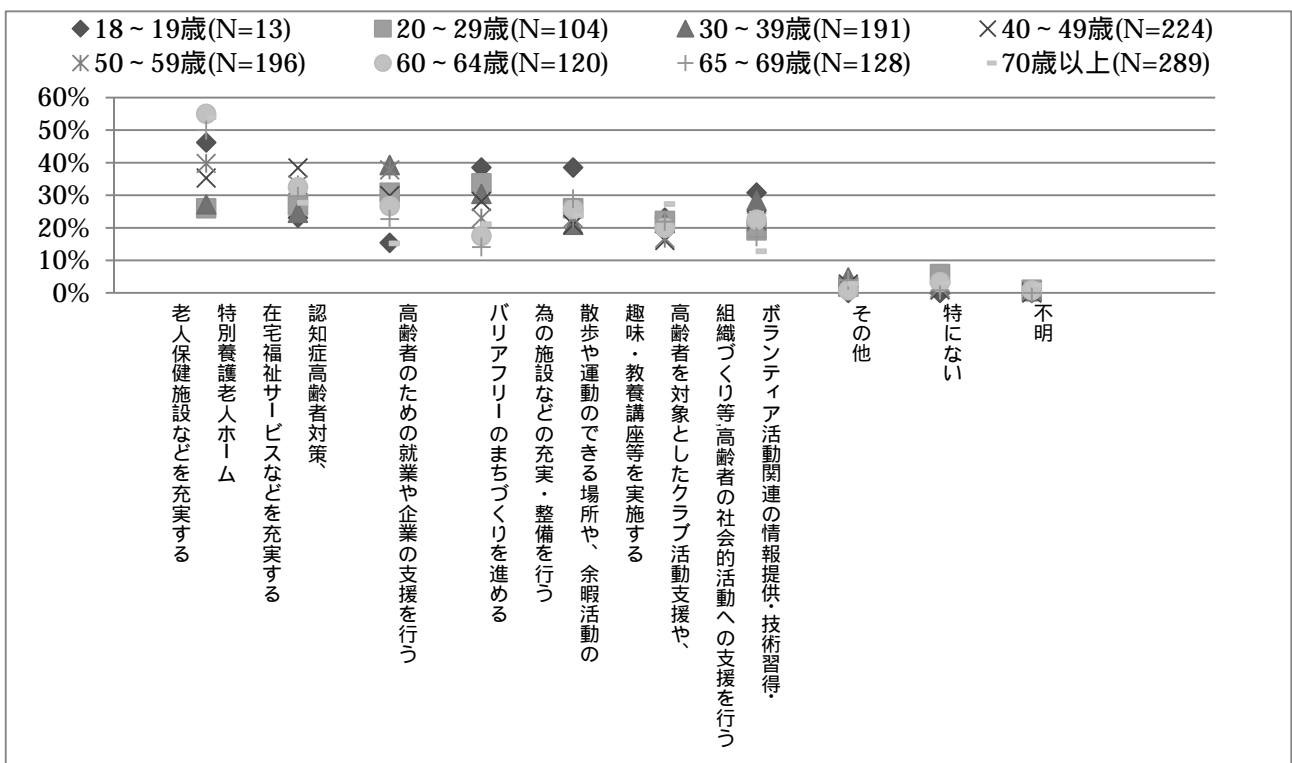


	特別養護老人ホーム、老人保健施設などを充実する	認知症高齢者対策、在宅福祉サービスなどを充実する	高齢者のための就業や企業の支援を行う	バリアフリーのまちづくりを進める	散歩や運動のできる場所や、余暇活動の為の施設などの充実・整備	高齢者を対象としたクラブ活動支援や、趣味・教養講座等を実施	高齢者の社会的活動への支援を行う	その他	特にない	不明
今回(H22)	41.8%	30.5%	28.2%	24.2%	23.8%	21.2%	20.2%	2.8%	2.4%	0.9%
前回(H15)	26.4%	24.5%	28.1%	26.0%	26.7%	22.8%	29.0%	2.3%	2.1%	1.0%

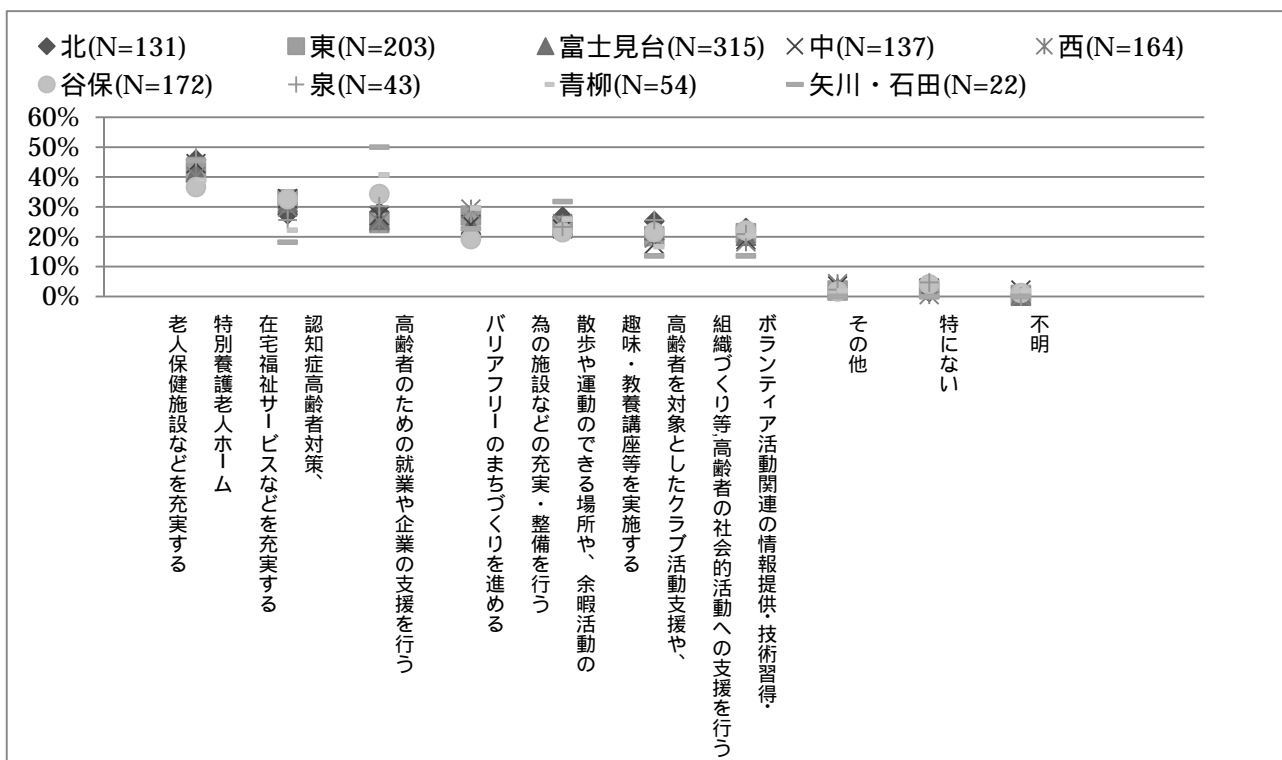
【性別】



【年齢別】



【地域別】



< 値は% >		問 1 5 高齢者が豊かな生活を送るために効果的な施策 < 2 つまで選択可 >									
		特別養護老人ホーム、老人保健施設などを充実する	認知症高齢者対策、在宅福祉サービスなどを充実する	高齢者のための就業や企業の支援を行う	バリアフリーのまちづくりを進める	実・整備 場所や、余暇活動の充	散歩や運動のできる場所や、余暇活動の充	趣味・教養講座等を実施	高齢者を対象としたクラブ活動支援や、	高齢者の社会的活動への支援を行う	その他
性別	男性(N=563)	38.5	26.8	30.4	24.3	27.0	21.1	16.7	2.1	3.6	0.7
	女性(N=668)	44.5	33.5	26.5	24.3	21.1	21.4	23.7	3.4	1.3	0.7
年齢	18～19歳(N=13)	46.2	23.1	15.4	38.5	38.5	23.1	30.8	0.0	0.0	0.0
	20～29歳(N=104)	26.0	26.9	30.8	33.7	26.0	22.1	19.2	1.9	5.8	1.0
	30～39歳(N=191)	27.2	24.6	39.3	30.4	20.9	21.5	28.3	4.7	2.6	0.5
	40～49歳(N=224)	35.3	38.4	29.9	28.1	21.0	16.1	22.3	2.7	0.9	0.0
	50～59歳(N=196)	39.8	33.2	37.8	23.0	23.0	16.8	21.9	2.0	1.5	0.5
	60～64歳(N=120)	55.0	32.5	26.7	17.5	25.8	20.0	22.5	0.8	3.3	0.8
	65～69歳(N=128)	50.0	29.7	22.7	14.1	28.9	21.9	17.2	3.9	0.8	0.0
	70歳以上(N=289)	54.0	27.7	15.2	21.1	23.9	27.3	12.8	2.8	3.1	2.4
居住地	北(N=131)	45.8	27.5	28.2	19.8	26.7	25.2	22.9	2.3	1.5	0.8
	東(N=203)	41.4	32.5	24.6	27.1	23.6	20.2	21.2	2.0	2.5	0.5
	富士見台(N=315)	41.6	31.4	25.7	23.8	23.8	22.2	20.3	2.9	2.9	0.3
	中(N=137)	44.5	32.8	27.0	24.1	22.6	17.5	19.0	3.6	2.9	2.2
	西(N=164)	40.2	29.9	25.0	29.3	24.4	19.5	18.3	4.3	0.6	0.0
	谷保(N=172)	36.6	32.6	34.3	19.2	21.5	21.5	22.1	1.7	4.1	1.2
	泉(N=43)	46.5	25.6	30.2	27.9	23.3	25.6	20.9	2.3	4.7	0.0
	青柳(N=54)	38.9	22.2	40.7	29.6	25.9	16.7	20.4	1.9	0.0	1.9
	矢川・石田(N=22)	45.5	18.2	50.0	22.7	31.8	13.6	13.6	0.0	0.0	0.0

(2) しょうがいしゃのために重要な施策[問16]

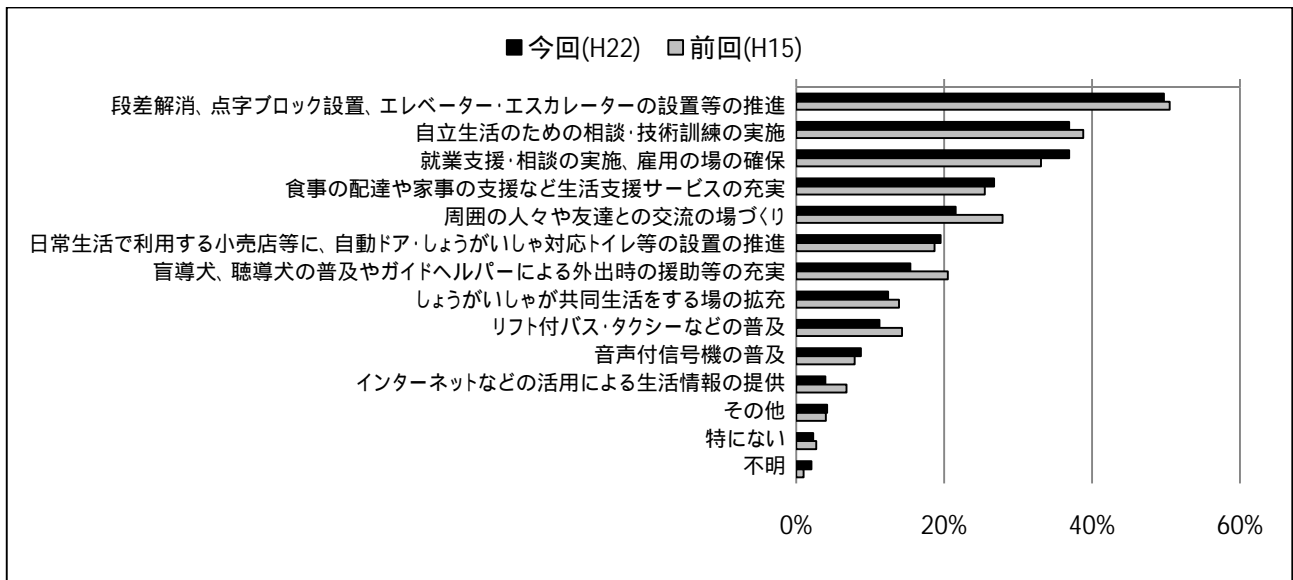
しょうがいしゃが安心していきいきと暮らせるために重要な施策について何ったところ<3つまで選択可>、主に「段差解消、点字ブロック、エレベーター・エスカレーターの設置」(49.7%)、「自立生活のための相談・技術訓練の実施」(36.9%)、「就業支援・相談の実施、雇用の場の確保」(36.9%)が挙げられた。

前調査との比較では、「周囲の人々や友達との交流の場づくり」(6.3%減)、「盲導犬、聴導犬の普及やガイドヘルパーによる外出時の援助等の充実」(5.1%減)となっている。

性別では、「段差解消、点字ブロック、エレベーター・エスカレーターの設置」について女性が6.9%高い(男性46.5%、女性53.4%)。

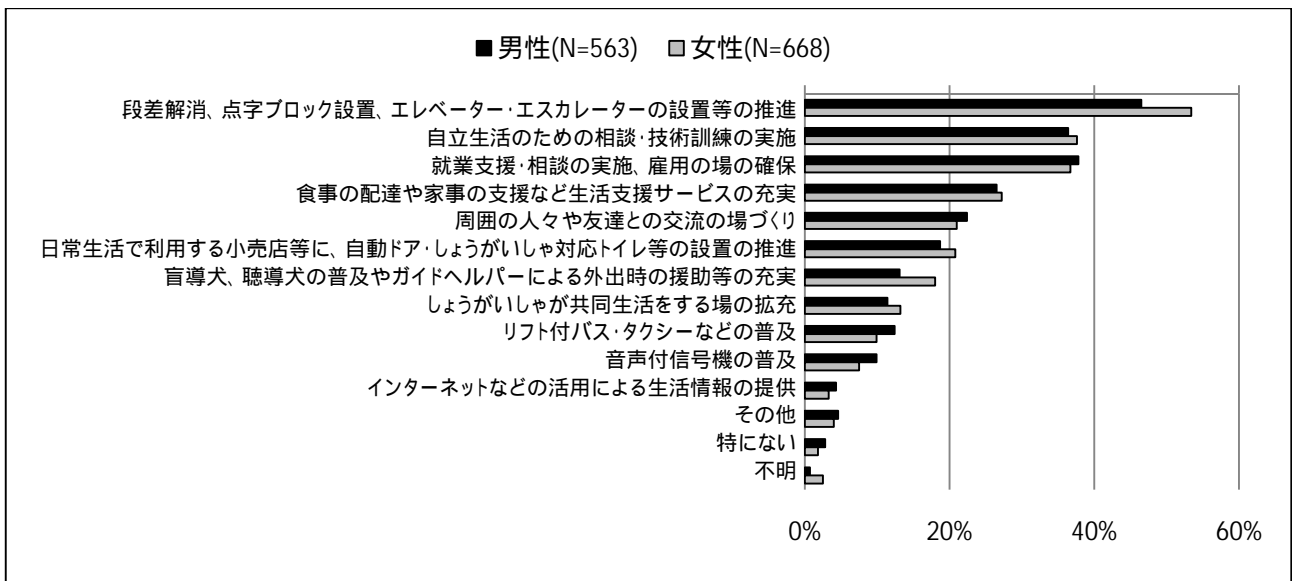
年齢別では、50代で「食事の配達や家事の支援など生活支援サービスの充実」の項目が他の世代と比べて高い(全世代26.8%、50代36.7%)。また、60代では「段差解消、点字ブロック、エレベーター・エスカレーターの設置」の項目が他の世代と比べて低い(全世代49.7%、60代前半38.3%、60代後半37.5%)。70代では「就業支援・相談の実施、雇用の場の確保」の項目が他の世代と比べて低い(全世代36.9%、70代22.1%)。

図 26 しょうがいしゃのために重要な施策(H22 N=1271, H15 N=707)

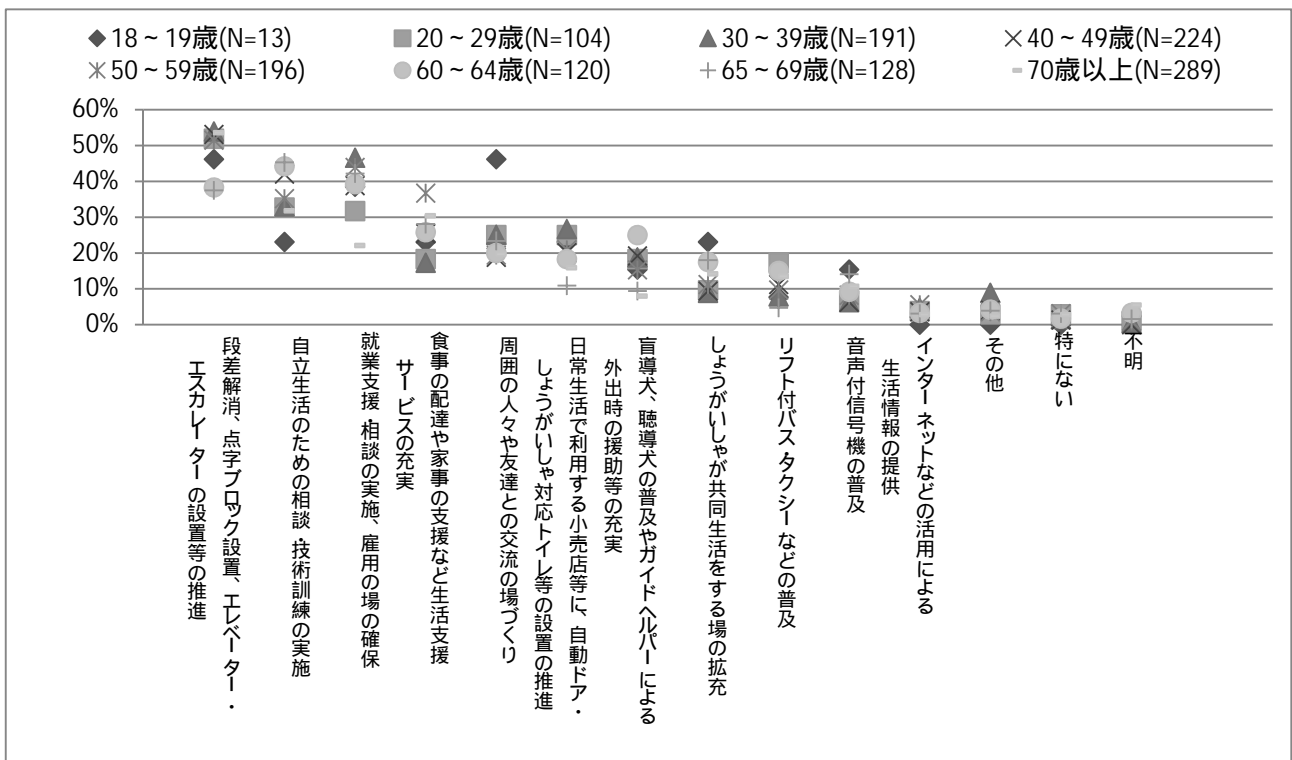


	「段差解消、点字ブロック、エレベーター・エスカレーターの設置」	「自立生活のための相談・技術訓練の実施」	「就業支援・相談の実施、雇用の場の確保」	「食事の配達や家事の支援など生活支援サービスの充実」	「周囲の人々や友達との交流の場づくり」	「日常生活で利用する小売店等に、自動ドア・しょうがいしゃ対応トイレ等の設置の推進」	「盲導犬、聴導犬の普及やガイドヘルパーによる外出時の援助等の充実」	「しょうがいしゃが共同生活をする場の拡充」	「リフト付バス・タクシーなどの普及」	「音声付信号機の普及」	「インターネットなどの活用による生活情報の提供」	その他	特にない	不明
今回(H22)	49.7%	36.9%	36.9%	26.8%	21.6%	19.5%	15.4%	12.4%	11.3%	8.7%	3.9%	4.2%	2.3%	2.0%
前回(H15)	50.5%	38.8%	33.1%	25.5%	27.9%	18.7%	20.5%	13.9%	14.3%	7.9%	6.8%	4.0%	2.7%	1.0%

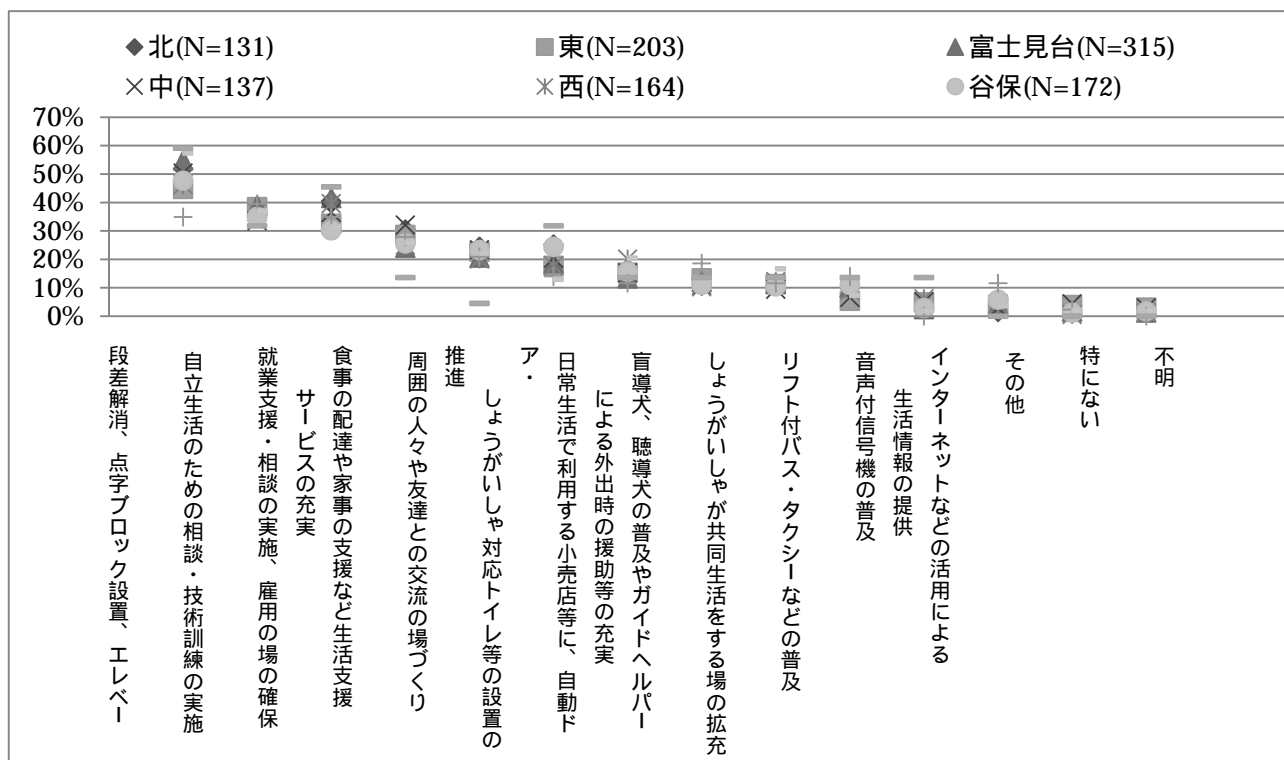
【性別】



【年齢別】



【地域別】



< 値は% >		問16 しょうがいしゃが安心していきいきと暮らせるために重要な施策<3つまで選択可>													
		設置	段差解消・点字ブロック、エレベーター・エスカレーター	自立生活のための相談・技術訓練の実施	就業支援・相談の実施、雇用の場の確保	食事の配達や家事の支援など生活支援サービスの充実	周囲の人々や友達との交流の場づくり	日常生活で利用する小売店などに、自動ドア・しょうがいしゃ対応トイレ等の設置の推進	盲導犬、聴導犬の普及やガイドヘルパーによる外出時の援助等の充実	しょうがいしゃが共同生活をする場の拡充	普及	音声付信号機の普及	インターネットなどの活用による生活情報の提供	その他	特にな
性別	男性(N=563)	46.5	36.4	37.8	26.5	22.4	18.7	13.1	11.4	12.4	9.9	4.3	4.6	2.8	0.7
	女性(N=668)	53.4	37.6	36.7	27.2	21.0	20.8	18.0	13.2	9.9	7.5	3.3	4.0	1.8	2.5
年齢	18～19歳(N=13)	46.2	23.1	38.5	23.1	46.2	23.1	15.4	23.1	7.7	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳(N=104)	51.9	32.7	31.7	18.3	25.0	25.0	18.3	9.6	17.3	6.7	3.8	2.9	2.9	1.0
	30～39歳(N=191)	53.9	33.0	46.6	17.3	25.1	26.7	18.8	8.9	7.9	6.3	4.7	8.9	1.6	0.5
	40～49歳(N=224)	53.1	42.0	38.8	25.4	18.8	20.1	19.2	9.4	11.2	6.3	3.6	4.0	1.3	0.0
	50～59歳(N=196)	51.5	35.2	43.9	36.7	19.4	20.9	15.3	11.2	9.7	8.2	5.6	3.6	3.1	1.0
	60～64歳(N=120)	38.3	44.2	39.2	25.8	20.0	18.3	25.0	17.5	15.0	9.2	3.3	4.2	1.7	3.3
	65～69歳(N=128)	37.5	45.3	42.2	28.1	23.4	10.9	9.4	18.0	4.7	14.1	3.1	3.9	3.1	1.6
	70歳以上(N=289)	53.6	31.8	22.1	30.4	19.7	15.9	8.0	14.2	13.5	10.7	2.8	2.4	2.8	5.5
居住地	北(N=131)	51.9	36.6	40.5	30.5	24.4	25.2	14.5	13.0	10.7	6.9	3.1	1.5	3.8	1.5
	東(N=203)	44.8	38.4	32.5	28.6	22.7	17.7	15.3	13.3	11.3	5.4	4.9	3.4	3.9	3.0
	富士見台(N=315)	54.9	39.0	41.6	24.1	20.6	18.7	13.3	12.1	11.4	10.2	2.5	4.1	1.6	1.3
	中(N=137)	50.4	33.6	36.5	32.1	23.4	20.4	15.3	10.9	9.5	6.6	5.1	2.9	4.4	2.9
	西(N=164)	46.3	36.6	39.6	25.0	20.1	17.7	20.1	10.4	12.2	9.1	6.1	4.3	0.6	1.2
	谷保(N=172)	47.7	34.9	30.2	25.6	23.3	24.4	15.7	11.0	10.5	11.0	2.9	5.8	1.2	1.7
	泉(N=43)	34.9	39.5	34.9	27.9	20.9	14.0	11.6	18.6	11.6	14.0	0.0	11.6	2.3	0.0
	青柳(N=54)	57.4	37.0	31.5	25.9	22.2	13.0	20.4	13.0	16.7	7.4	1.9	3.7	1.9	1.9
矢川・石田(N=22)	59.1	31.8	45.5	13.6	4.5	31.8	13.6	13.6	13.6	13.6	13.6	0.0	0.0	0.0	

(3) 健康と福祉に関して力を入れるべき施策[問17]

健康と福祉に関して力を入れてほしい施策について何うと<3つまで選択可>、主に「医療情報の提供」(47.9%)、「寝たきりや認知症の予防」(40.0%)が挙げられた。

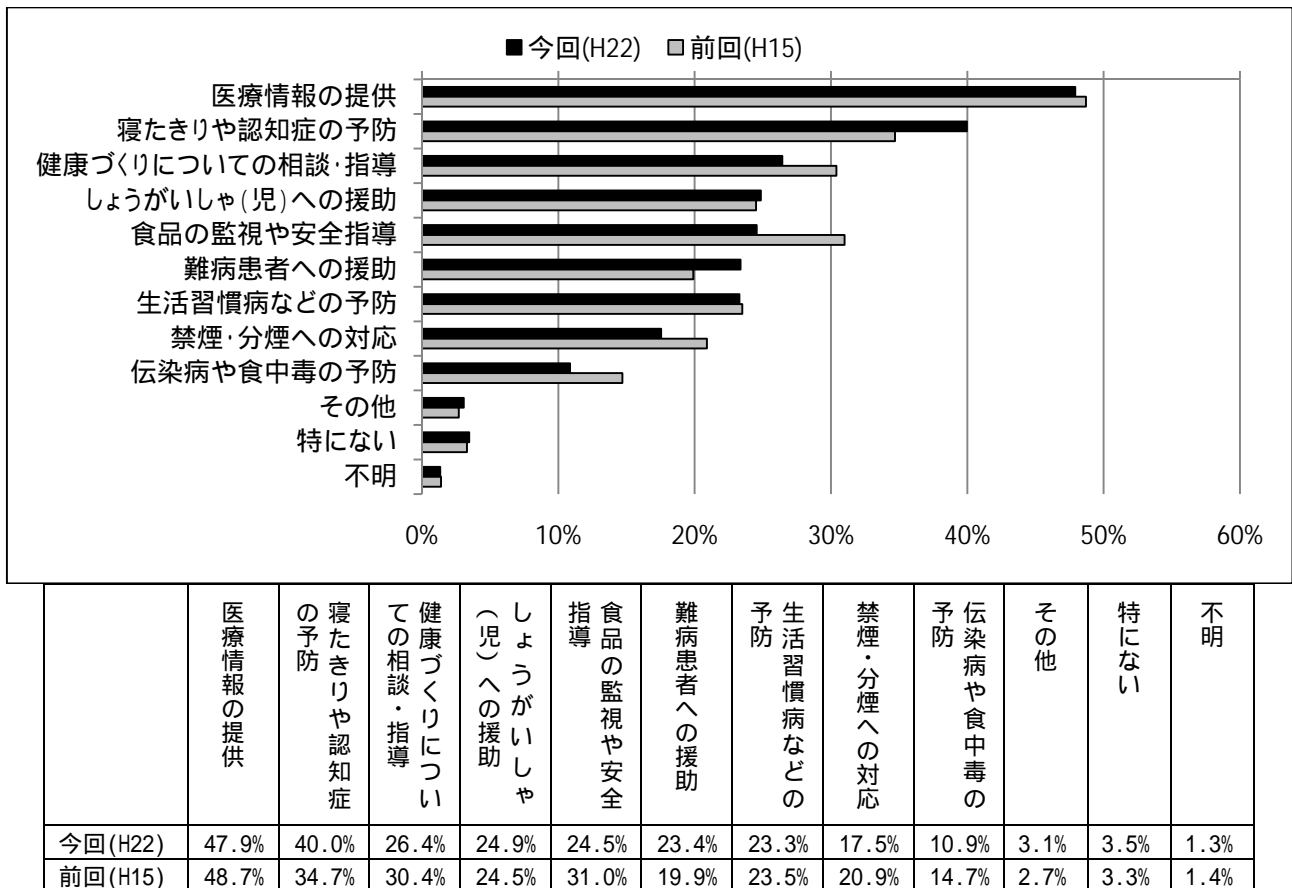
前調査との比較では、「寝たきりや認知症の予防」について5.3%増加し、「食品の監視や安全指導」について6.5%減少した。

性別では、女性の方が「医療情報の提供」について5.7%(男性44.6%、女性50.3%)、「寝たきりや認知症の予防」について10.0%(男性34.5%、女性44.5%)高い。

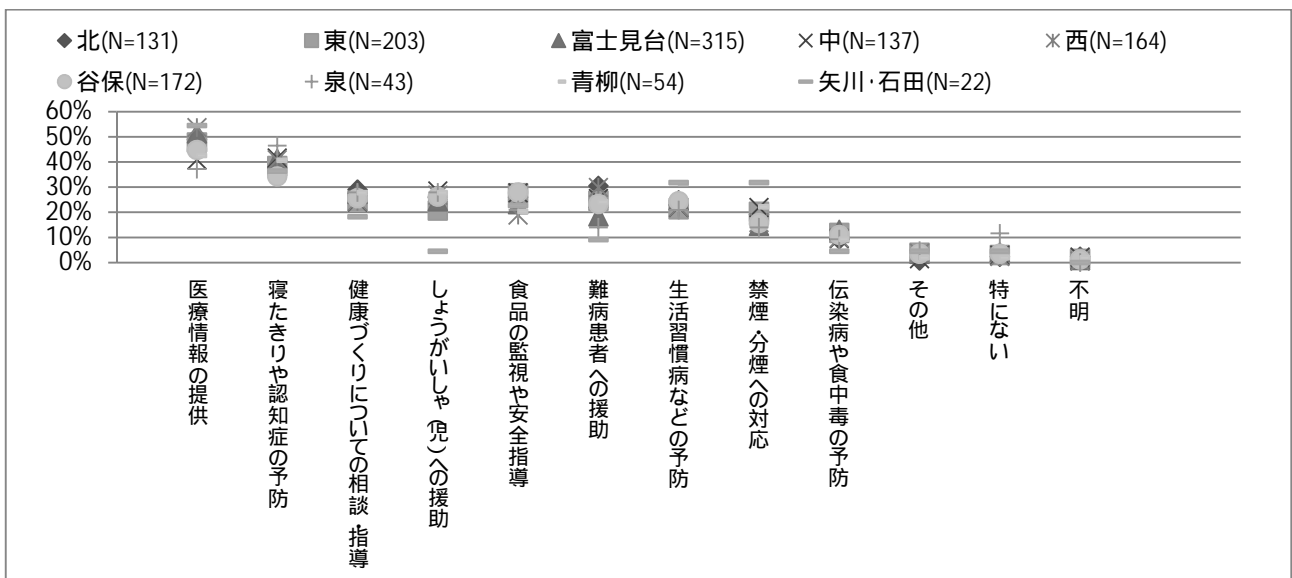
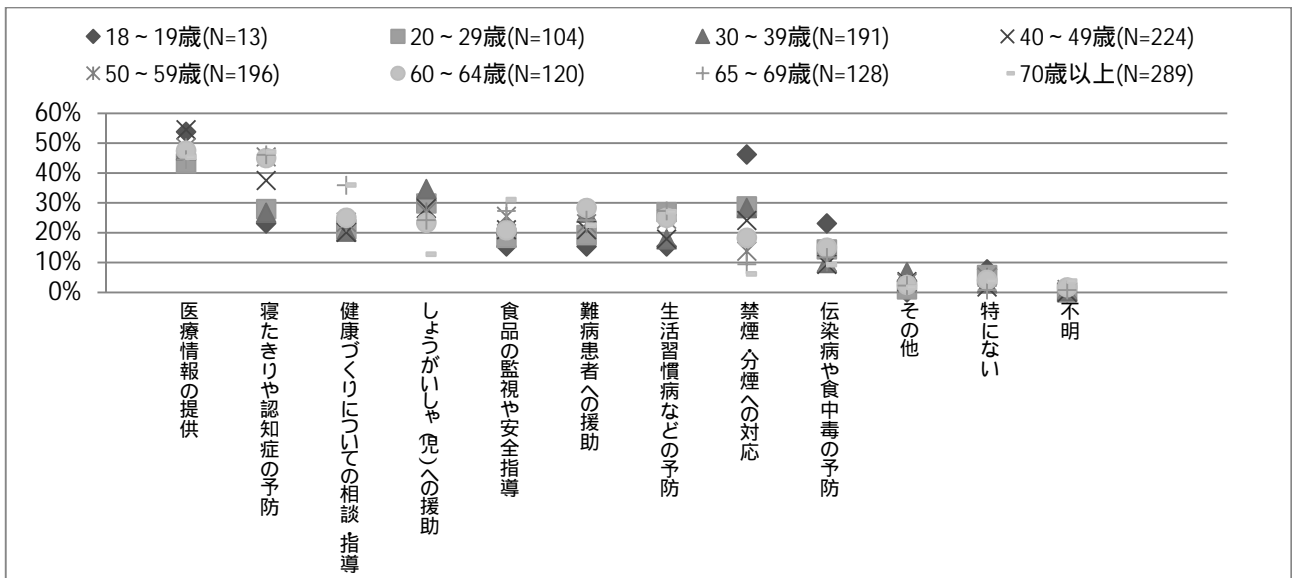
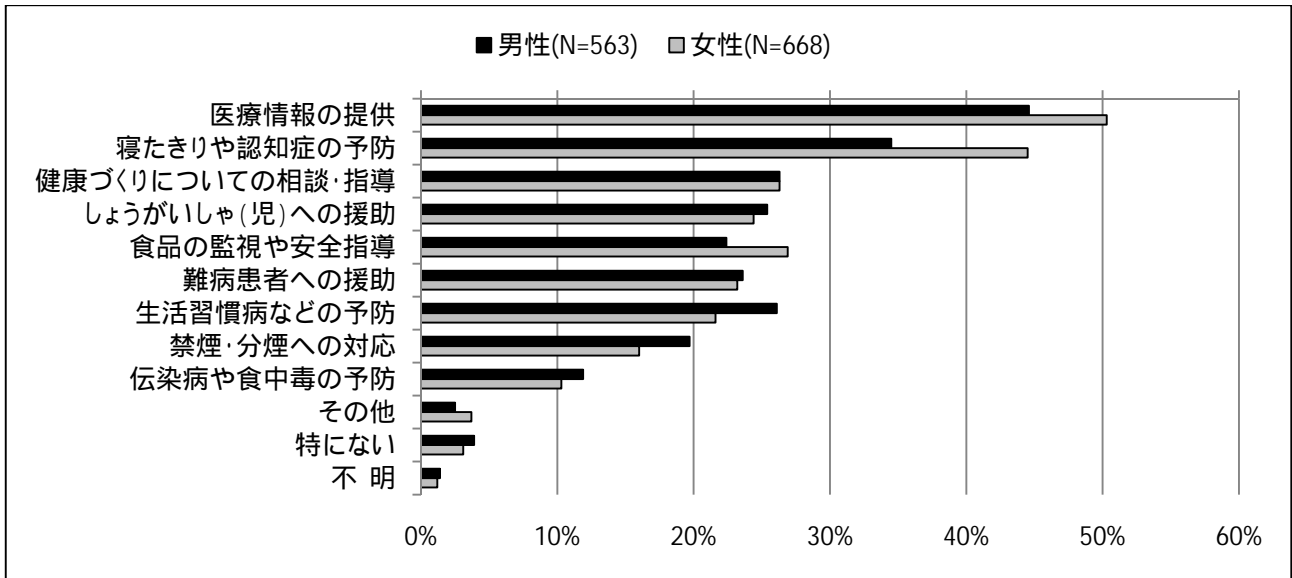
年齢別では、「寝たきりや認知症の予防」について年齢が高くなるほど比率が高まる傾向にある。

地域別では特に大きな差異は見られない。

図 27 健康と福祉に関して力を入れるべき施策(H22 N=1271, H15 N=707)



【性別、年齢別、地域別】



< 値は% >		問 1 7 今後力を入れてほしい健康と福祉に関する施策< 3 つまで選択可 >											
		医療情報の提供	寝たきりや認知症の予防	健康づくりについての相談・指導	(児)への援助(しょうがいしゃ)	全指導	食品の監視や安全指導	難病患者への援助	生活習慣病などの予防	禁煙・分煙への対応	伝染病や食中毒の予防	その他	特にない
性別	男性(N=563)	44.6	34.5	26.3	25.4	22.4	23.6	26.1	19.7	11.9	2.5	3.9	1.4
	女性(N=668)	50.3	44.5	26.3	24.4	26.9	23.2	21.6	16.0	10.3	3.7	3.1	1.2
年齢	18～19歳(N=13)	53.8	23.1	23.1	30.8	15.4	15.4	15.4	46.2	23.1	0.0	7.7	0.0
	20～29歳(N=104)	43.3	27.9	21.2	29.8	18.3	19.2	26.9	28.8	14.4	1.0	5.8	0.0
	30～39歳(N=191)	47.6	26.7	20.4	34.6	22.5	26.7	17.8	28.3	9.9	6.8	3.1	0.5
	40～49歳(N=224)	54.5	37.5	20.1	28.1	21.0	21.0	17.9	24.1	9.4	3.6	1.8	0.0
	50～59歳(N=196)	48.5	45.4	23.5	27.0	25.5	23.0	24.5	13.8	10.2	3.1	5.1	1.0
	60～64歳(N=120)	47.5	45.0	25.0	23.3	20.8	28.3	25.0	18.3	15.0	2.5	4.2	1.7
	65～69歳(N=128)	44.5	46.1	35.9	24.2	27.3	24.2	27.3	9.4	11.7	2.3	0.8	0.8
	70歳以上(N=289)	45.3	47.1	36.0	12.8	31.1	22.5	27.0	6.2	9.3	1.7	3.8	3.8
居住地	北(N=131)	48.9	40.5	29.0	26.0	26.0	30.5	22.9	19.1	9.2	0.8	2.3	2.3
	東(N=203)	47.8	38.4	24.6	20.7	27.6	24.6	21.2	20.2	11.8	3.9	3.0	1.5
	富士見台(N=315)	51.4	41.3	27.3	24.4	23.2	18.4	24.8	14.6	13.0	3.5	4.1	1.0
	中(N=137)	40.9	41.6	24.1	28.5	27.7	25.5	21.9	21.9	9.5	1.5	2.9	2.2
	西(N=164)	53.7	40.9	24.4	26.8	18.9	29.9	22.0	15.9	9.8	3.7	2.4	0.6
	谷保(N=172)	44.8	34.3	25.6	26.2	27.9	23.3	24.4	15.7	11.0	3.5	3.5	1.2
	泉(N=43)	37.2	46.5	27.9	27.9	20.9	14.0	20.9	14.0	9.3	4.7	11.6	0.0
	青柳(N=54)	42.6	40.7	27.8	27.8	20.4	24.1	31.5	22.2	9.3	1.9	1.9	1.9
	矢川・石田(N=22)	54.5	36.4	18.2	4.5	22.7	9.1	31.8	31.8	4.5	4.5	4.5	0.0

6 . 消費者と農業・商業振興

(1) 国立にふさわしい・望ましい商店街の姿[問 1 8]

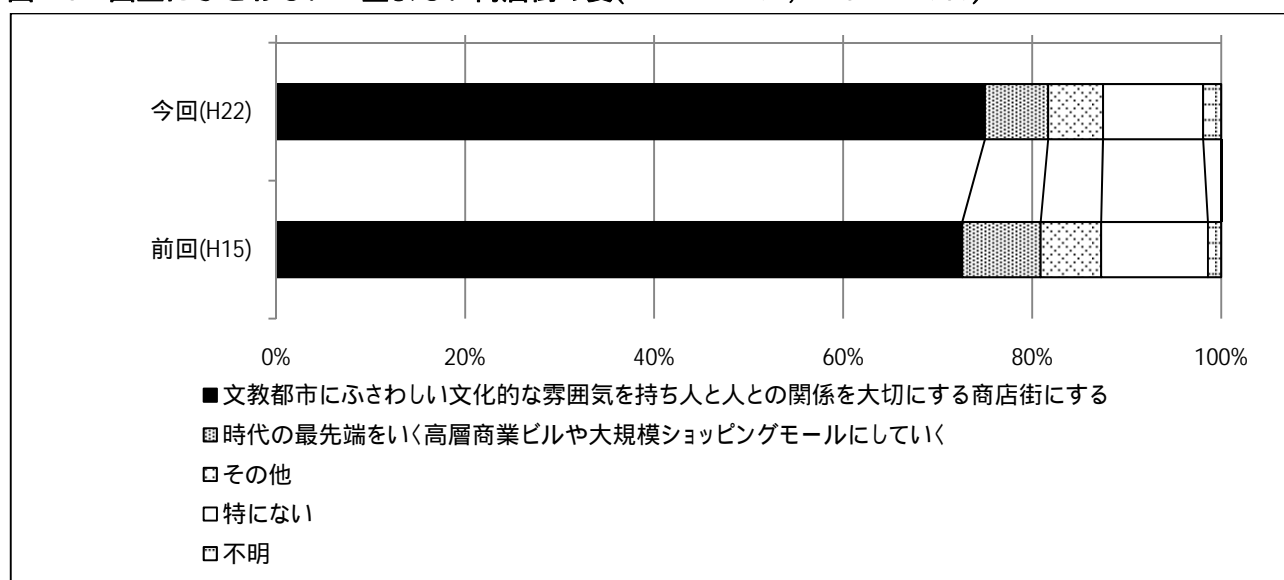
国立にふさわしい・望ましい商店街の姿を伺ったところ、「文教都市にふさわしい文化的な雰囲気を持ち人間関係を大切にする」と答えた市民が75.0%であった。

前調査と比較すると、ほぼ同様の結果である。

性別、年齢別には大きな差異は見られない。

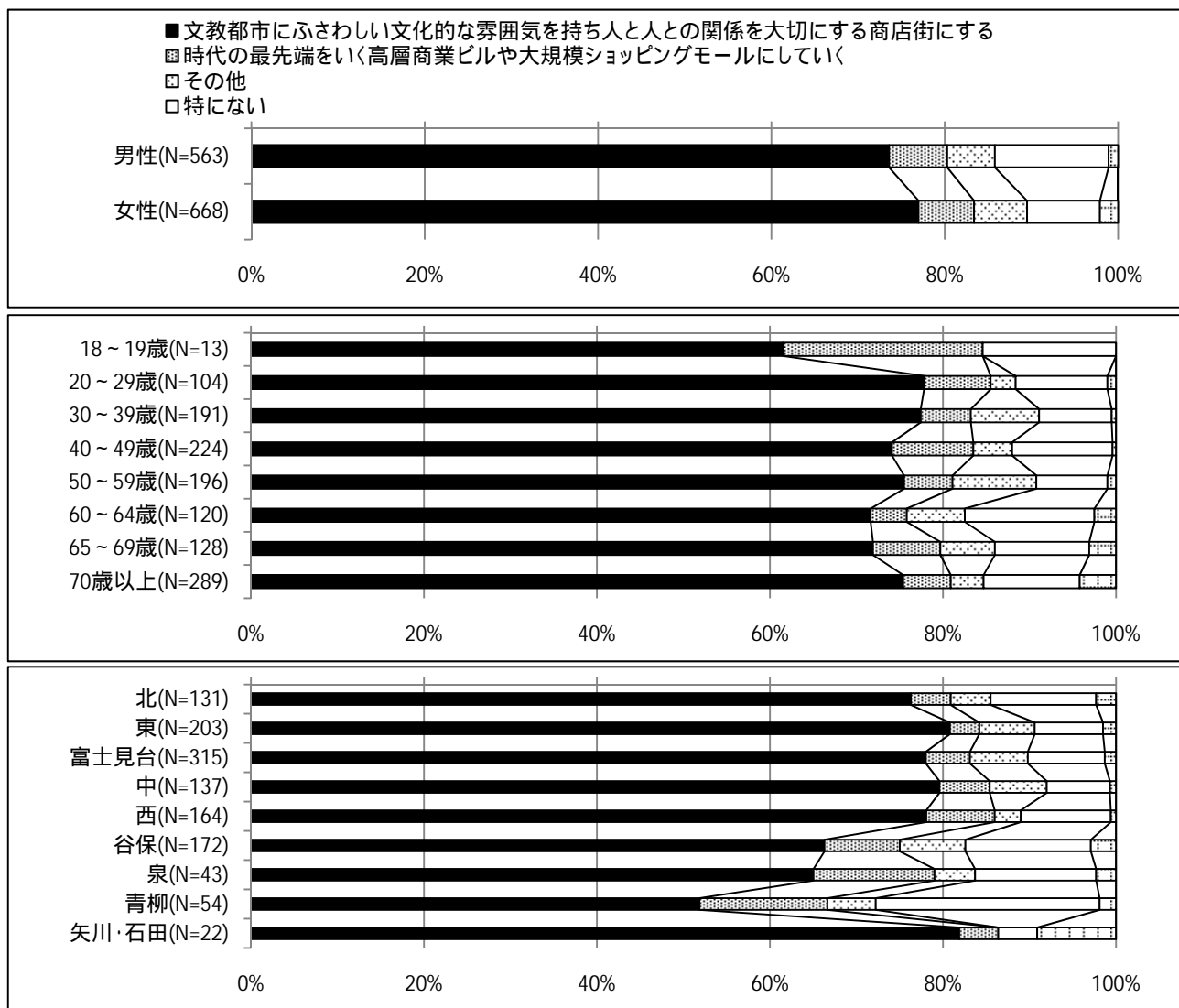
地域別では、谷保、泉、青柳では「文教都市にふさわしい文化的な雰囲気を持ち人間関係を大切にする」との比率が約65%以下と低く、「時代の最先端をいく高層商業ビルや大規模ショッピングモールにしていく」との比率が全地域で6.7%であるのに対して約15%程度と高い。

図 28 国立にふさわしい・望ましい商店街の姿(H22 N=1271, H15 N=707)



	文教都市にふさわしい文化的な雰囲気を持ち人間関係を大切にする商店街にする	時代の最先端をいく高層商業ビルや大規模ショッピングモールにしていく	その他	特にない	不明
今回(H22)	75.0%	6.7%	5.8%	10.6%	1.9%
前回(H15)	72.6%	8.3%	6.4%	11.3%	1.4%

【性別、年齢別、地域別】



< 値は% >		問18 国立にふさわしい、望ましい商店街				
		文教都市にふさわしい文化的な雰囲気を持ち人間関係を大切にする商店街にする	時代の最先端をいく高層商業ビルや大規模ショッピングモールにしていく	その他	特にない	不明
性別	男性(N=563)	73.5	6.7	5.5	13.1	1.1
	女性(N=668)	76.9	6.4	6.1	8.4	2.1
年齢	18～19歳(N=13)	61.5	23.1	0.0	15.4	0.0
	20～29歳(N=104)	77.9	7.7	2.9	10.6	1.0
	30～39歳(N=191)	77.5	5.8	7.9	8.4	0.5
	40～49歳(N=224)	74.1	9.4	4.5	11.6	0.4
	50～59歳(N=196)	75.5	5.6	9.7	8.2	1.0
	60～64歳(N=120)	71.7	4.2	6.7	15.0	2.5
	65～69歳(N=128)	71.9	7.8	6.3	10.9	3.1
	70歳以上(N=289)	75.4	5.5	3.8	11.1	4.2
居住地	北(N=131)	76.3	4.6	4.6	12.2	2.3
	東(N=203)	80.8	3.4	6.4	7.9	1.5
	富士見台(N=315)	78.1	5.1	6.7	8.9	1.3
	中(N=137)	79.6	5.8	6.6	7.3	0.7
	西(N=164)	78.0	7.9	3.0	10.4	0.6
	谷保(N=172)	66.3	8.7	7.6	14.5	2.9
	泉(N=43)	65.1	14.0	4.7	14.0	2.3
	青柳(N=54)	51.9	14.8	5.6	25.9	1.9
	矢川・石田(N=22)	81.8	4.5	0.0	4.5	9.1

(2) 国立に望ましい農業[問 1 9]

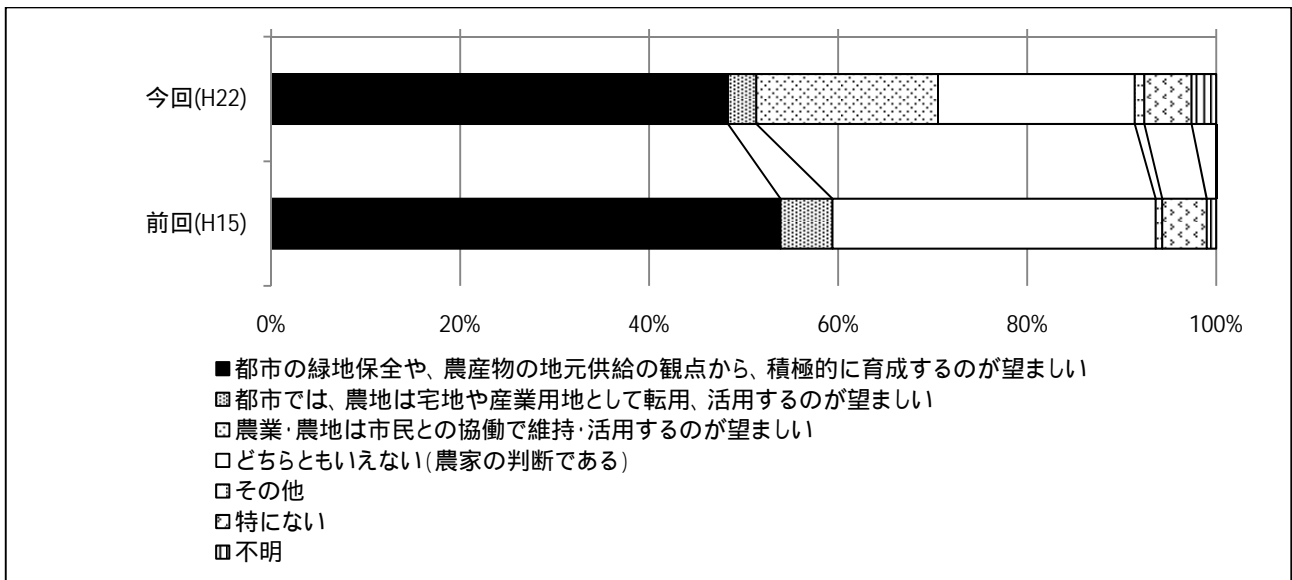
国立に望ましい農業について伺ったところ、約半数の市民が「都市の緑地保全や、農産物の地元供給の観点から、積極的に育成するのが望ましい」と回答した。

前調査との比較では、選択肢が異なっているため一概に言えないが、「どちらともいえない(農家の判断である)」と回答した比率が低くなっている(前回34.2%、今回20.8%)。

性別、年齢別では、特に大きな差異は見られない。

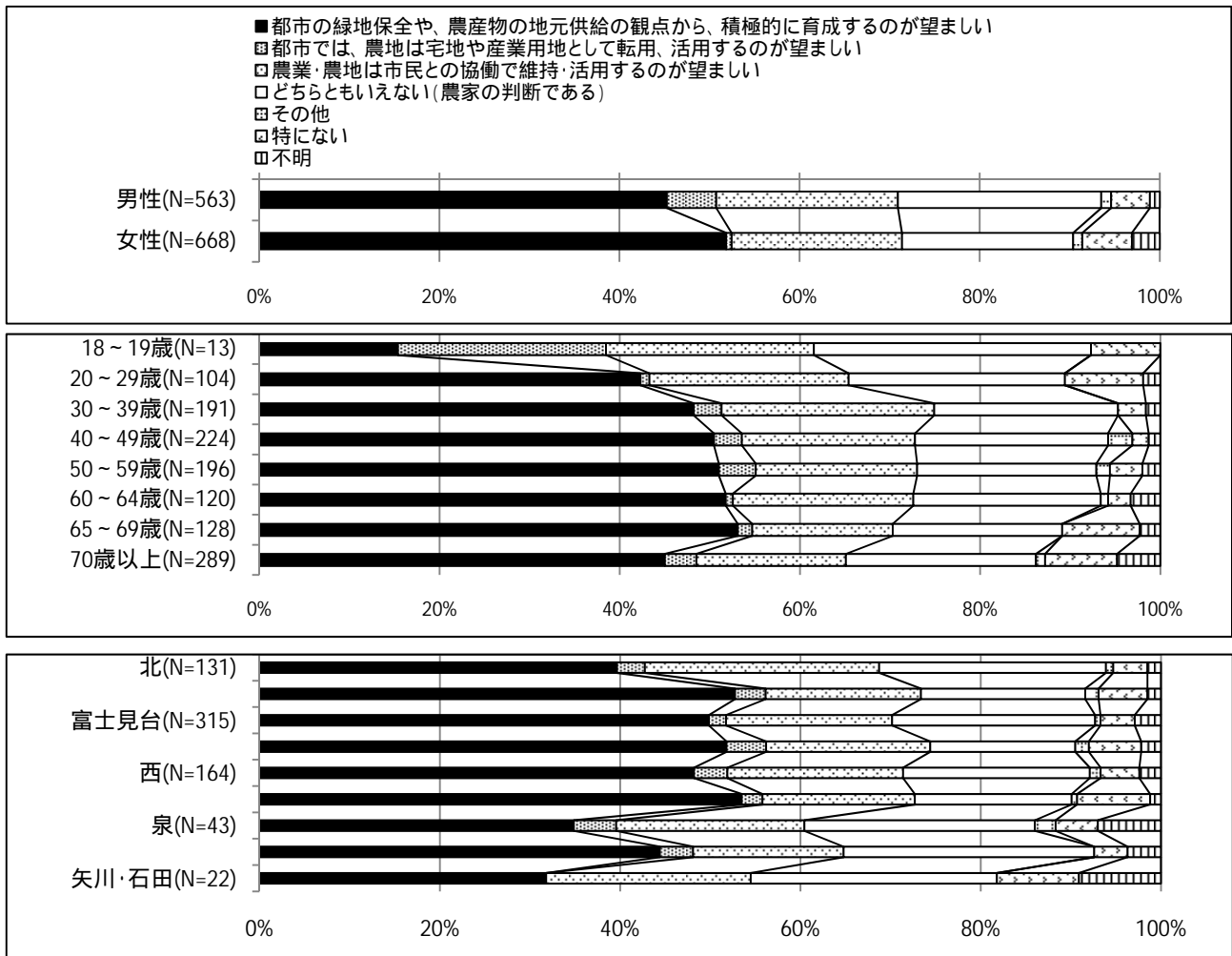
地域別では、「都市の緑地保全や、農産物の地元供給の観点から、積極的に育成するのが望ましい」とする割合が、泉では34.2%と低くなっている。また、サンプル数が少ないため一概には言えないが、矢川・石田も31.8%と低くなっている。

図 29 国立に望ましい農業(H22 N=1271, H15 N=707)



	都市の緑地保全や、農産物の地元供給の観点から、積極的に育成するのが望ましい	都市では、農地は宅地や産業用地として転用、活用するのが望ましい	農業・農地は市民との協働で維持・活用するのが望ましい	どちらともいえない(農家の判断である)	その他	特にな	不明
今回(H22)	48.3%	3.0%	19.2%	20.8%	1.0%	5.0%	2.6%
前回(H15)	53.9%	5.5%		34.2%	0.7%	4.7%	1.0%

【性別、年齢別、地域別】



< 値は% >		問19 国立に望ましい農業						
		都市の緑地保全や、農産物の地元供給の観点から、積極的に育成するのが望ましい	都市では、農地は宅地や産業用地として転用、活用するのが望ましい	農業・農地は市民との協働で維持・活用するのが望ましい	どちらともいえない(農家の判断である)	その他	特になし	不明
性別	男性(N=563)	45.3	5.5	20.2	22.6	1.1	4.3	1.1
	女性(N=668)	51.8	0.6	18.9	19.0	1.0	5.5	3.1
年齢	18～19歳(N=13)	15.4	23.1	23.1	30.8	0.0	7.7	0.0
	20～29歳(N=104)	42.3	1.0	22.1	24.0	0.0	8.7	1.9
	30～39歳(N=191)	48.2	3.1	23.6	20.4	0.0	3.1	1.6
	40～49歳(N=224)	50.4	3.1	19.2	21.4	2.7	1.8	1.3
	50～59歳(N=196)	51.0	4.1	17.9	19.9	1.5	3.6	2.0
	60～64歳(N=120)	51.7	0.8	20.0	20.8	0.8	2.5	3.3
	65～69歳(N=128)	53.1	1.6	15.6	18.8	0.0	8.6	2.3
	70歳以上(N=289)	45.0	3.5	16.6	21.1	1.0	8.0	4.8
居住地域	北(N=131)	39.7	3.1	26.0	25.2	0.8	3.8	1.5
	東(N=203)	52.7	3.4	17.2	18.2	1.5	5.4	1.5
	富士見台(N=315)	49.8	1.9	18.4	22.5	0.6	3.8	2.9
	中(N=137)	51.8	4.4	18.2	16.1	1.5	5.8	2.2
	西(N=164)	48.2	3.7	19.5	20.7	1.2	4.3	2.4
	谷保(N=172)	53.5	2.3	16.9	17.4	0.6	8.1	1.2
	泉(N=43)	34.9	4.7	20.9	25.6	2.3	4.7	7.0
	青柳(N=54)	44.4	3.7	16.7	27.8	0.0	3.7	3.7
	矢川・石田(N=22)	31.8	0.0	22.7	27.3	0.0	9.1	9.1

(3) 食の安全に関する意見[問20]

食の安全についての意見を伺ったところ、「安全性に不安があるので、店頭の商品の表示には細かく気をつかう」との意見が48.2%で最も多く、次いで「気にはなるが店頭での食品購入には価格その他の項目を優先しがち」との意見が38.6%であった。

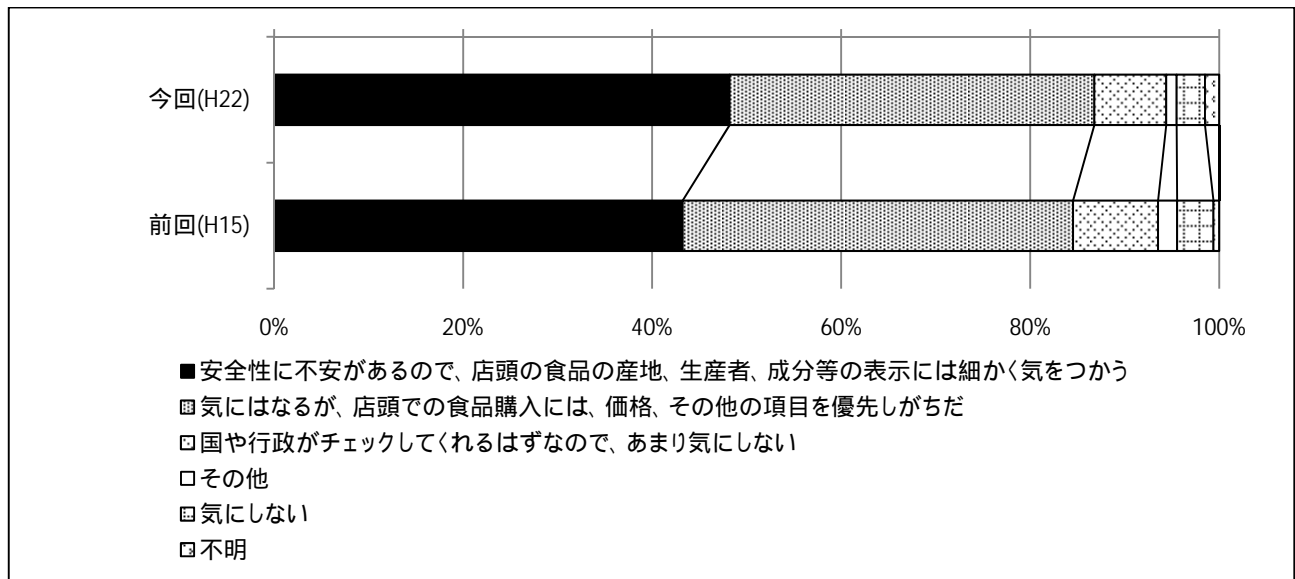
前調査との比較では、「安全性に不安があるので、店頭の商品の表示には細かく気をつかう」との意見が5.4%増加している。

性別では、「安全性に不安があるので、店頭の商品の産地、生産者、成分等の表示には細かく気をつかう」という意見は女性が16.4%高く(男性39.3%、女性55.7%)、一方で「気にはなるが店頭での食品購入には価格その他の項目を優先しがち」との意見は男性が11.3%高い(男性45.1%、女性33.8%)。

年齢別では、年齢が高くなるほど「安全性に不安があるので、店頭の商品の産地、生産者、成分等の表示には細かく気をつかう」との意見が高くなっている。

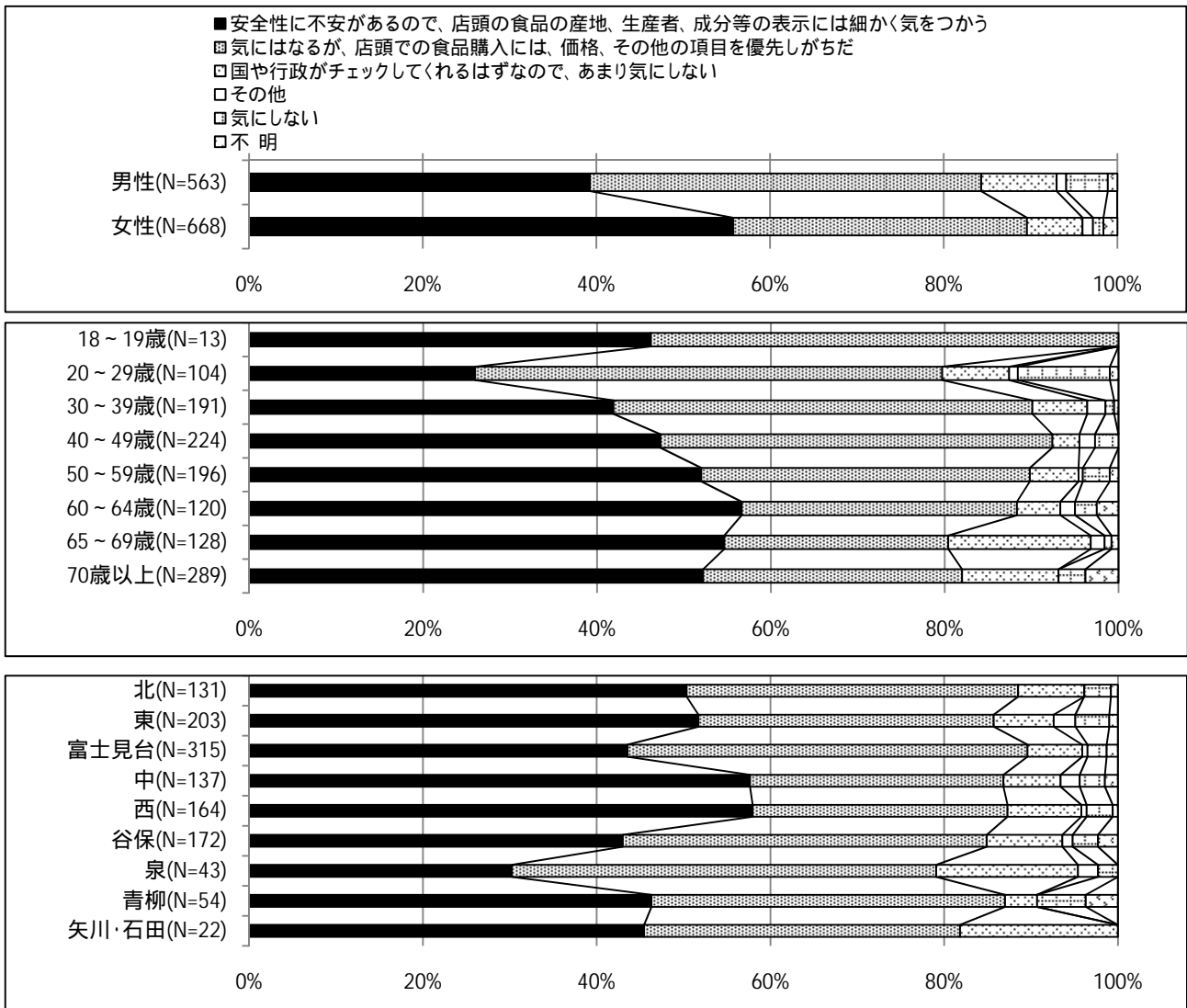
地域別では、泉地域が他地域と異なり、「安全性に不安があるので、店頭の商品の産地、生産者、成分等の表示には細かく気をつかう」30.2%(全地域48.2%)、「気にはなるが店頭での食品購入には価格その他の項目を優先しがち」48.8%(全地域38.6%)、「国や行政がチェックしてくれるはずなので、あまり気にしない」16.3%(全地域7.6%)となっている。

図 30 食の安全に関する意見(H22 N=1271, H15 N=707)



	安全性に不安があるので、店頭の商品の表示には細かく気をつかう	気にはなるが店頭での食品購入には価格その他の項目を優先しがち	国や行政がチェックしてくれるはずなので、あまり気にしない	その他	気にしない	不明
今回(H22)	48.2%	38.6%	7.6%	1.1%	3.0%	1.5%
前回(H15)	42.8%	40.9%	8.9%	2.0%	3.8%	0.6%

【性別、年齢別、地域別】



<値は%>		問20 食の安全についての意見					
		安全性に不安があるので、店頭の商品の表示には細かく気をつかう	気にはなるが店頭での食品購入には価格その他の項目を優先しがち	国や行政がチェックしてくれるはずなので、あまり気にしない	その他	気にしない	不明
性別	男性(N=563)	39.3	45.1	8.7	1.1	4.8	1.1
	女性(N=668)	55.7	33.8	6.4	1.2	1.2	1.6
年齢	18~19歳(N=13)	46.2	53.8	0.0	0.0	0.0	0.0
	20~29歳(N=104)	26.0	53.8	7.7	1.0	10.6	1.0
	30~39歳(N=191)	41.9	48.2	6.3	2.1	1.0	0.5
	40~49歳(N=224)	47.3	45.1	3.1	1.8	2.7	0.0
	50~59歳(N=196)	52.0	37.8	5.6	0.5	3.1	1.0
	60~64歳(N=120)	56.7	31.7	5.0	1.7	2.5	2.5
	65~69歳(N=128)	54.7	25.8	16.4	1.6	0.8	0.8
	70歳以上(N=289)	52.2	29.8	11.1	0.0	3.1	3.8
居住地	北(N=131)	50.4	38.2	7.6	0.0	3.1	0.8
	東(N=203)	51.7	34.0	6.9	2.5	3.9	1.0
	富士見台(N=315)	43.5	46.0	6.3	0.6	2.2	1.3
	中(N=137)	57.7	29.2	6.6	2.2	2.9	1.5
	西(N=164)	57.9	29.3	8.5	0.6	3.0	0.6
	谷保(N=172)	43.0	41.9	8.7	1.2	2.9	2.3
	泉(N=43)	30.2	48.8	16.3	2.3	2.3	0.0
	青柳(N=54)	46.3	40.7	3.7	0.0	5.6	3.7
	矢川・石田(N=22)	45.5	36.4	18.2	0.0	0.0	0.0

(4) 安全農作物の価格に対する意見[問21]

安全農作物の価格について意見を伺ったところ、「安全が保障されれば、ある程度の価格アップは我慢できる」という意見が60.3%と最も高く、「安全農産物といえども、価格は実勢平均価格以下にすべきである」との意見は28.2%であった。

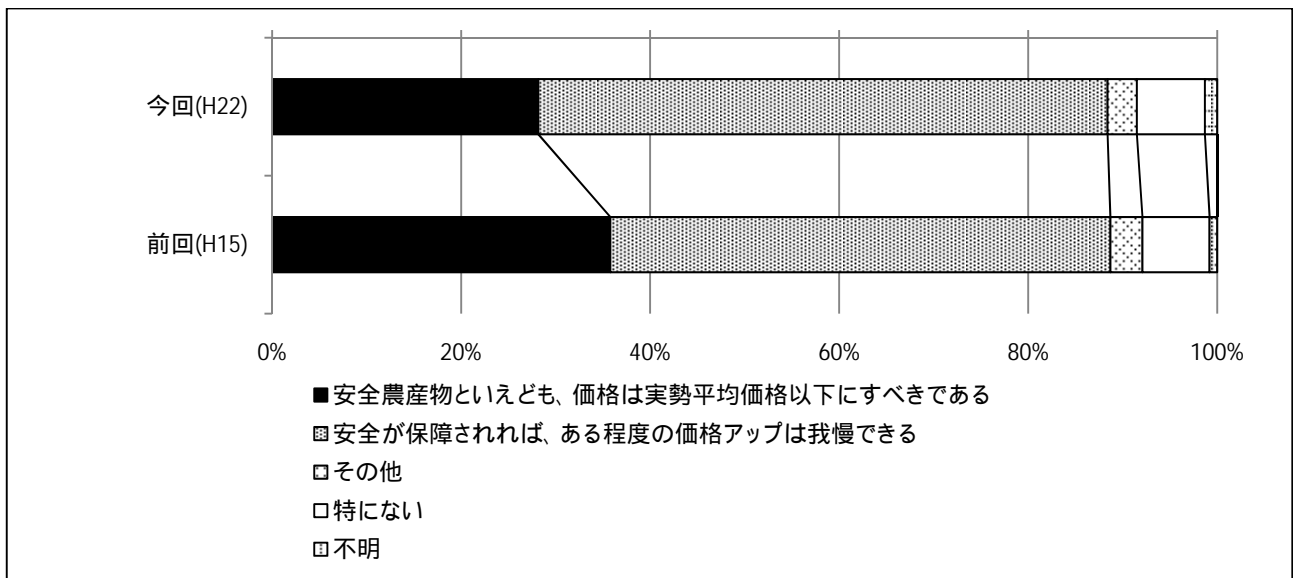
前調査との比較では、「安全が保障されれば、ある程度の価格アップは我慢できる」との意見が7.4%増加している。

性別では大きな差異は見られない。

年齢別では、20代で「安全が保障されれば、ある程度の価格アップは我慢できる」という意見が40.4%と他の世代に比べて低く、「特にない」という意見が23.1%と高い。

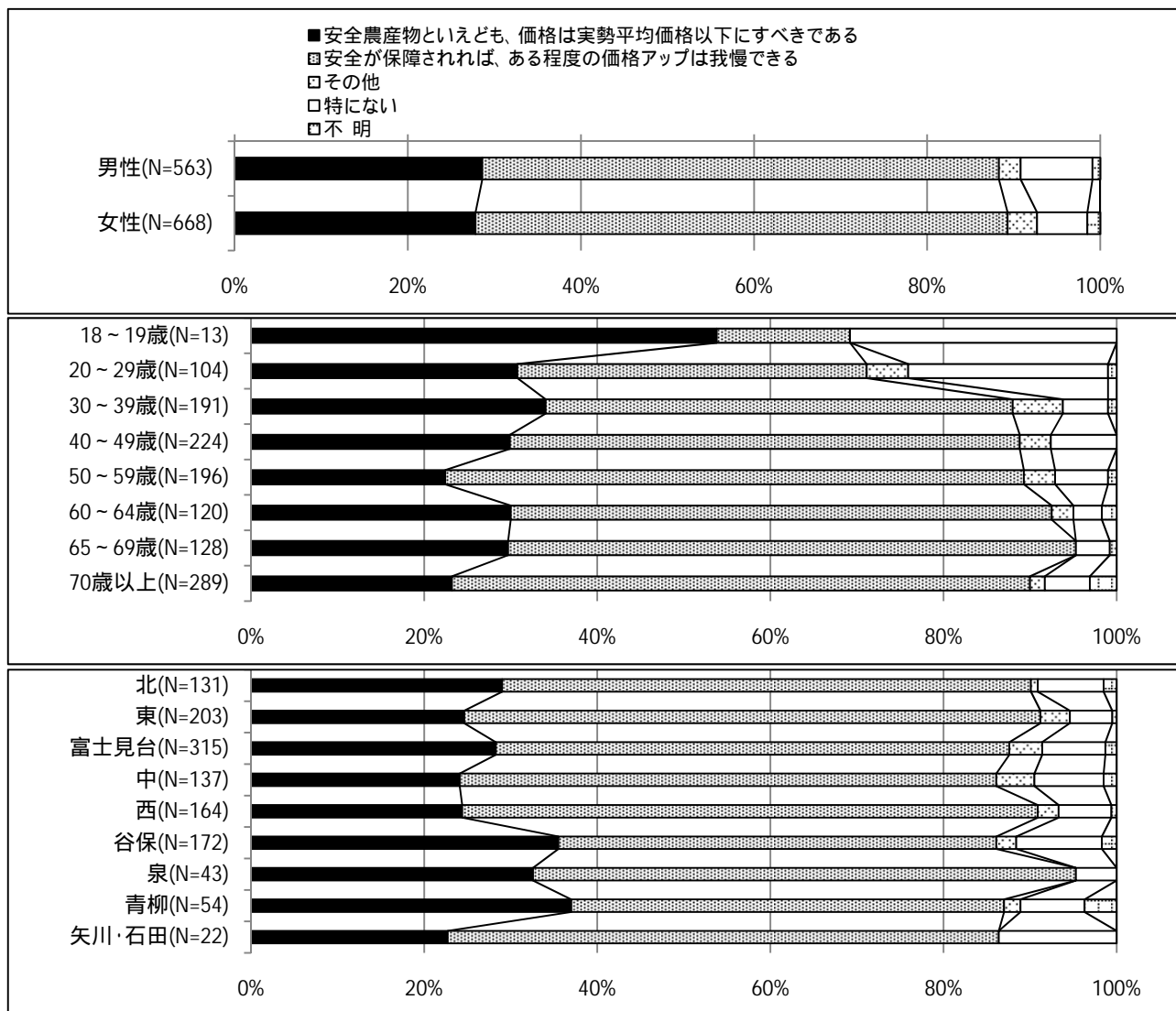
地域別では、「安全が保障されれば、ある程度の価格アップは我慢できる」という意見が谷保では50.6%、青柳では50.0%と他の地域と比べて低い。

図 31 安全農作物の価格に対する意見(H22 N=1271, H15 N=707)



	安全農産物といえども、価格は実勢平均価格以下にすべきである	安全が保障されれば、ある程度の価格アップは我慢できる	その他	特にない	不明
今回(H22)	28.2%	60.3%	3.1%	7.2%	1.3%
前回(H15)	35.8%	52.9%	3.4%	7.1%	0.8%

【性別、年齢別、地域別】



<値は%>		問 2 1 安全農作物の価格に対する意見				
		安全農産物といえども、 価格は実勢平均価格以下 にすべきである	安全が保障されれば、ある程度 の価格アップは我慢できる	その他	特にない	不明
性別	男性(N=563)	28.6	59.7	2.5	8.3	0.9
	女性(N=668)	27.8	61.4	3.4	5.8	1.5
年齢	18～19歳(N=13)	53.8	15.4	0.0	30.8	0.0
	20～29歳(N=104)	30.8	40.4	4.8	23.1	1.0
	30～39歳(N=191)	34.0	53.9	5.8	5.2	1.0
	40～49歳(N=224)	29.9	58.9	3.6	7.6	0.0
	50～59歳(N=196)	22.4	66.8	3.6	6.1	1.0
	60～64歳(N=120)	30.0	62.5	2.5	3.3	1.7
	65～69歳(N=128)	29.7	65.6	0.0	3.9	0.8
	70歳以上(N=289)	23.2	66.8	1.7	5.2	3.1
居住地	北(N=131)	29.0	61.1	0.8	7.6	1.5
	東(N=203)	24.6	66.5	3.4	4.9	0.5
	富士見台(N=315)	28.3	59.4	3.8	7.3	1.3
	中(N=137)	24.1	62.0	4.4	8.0	1.5
	西(N=164)	24.4	66.5	2.4	6.1	0.6
	谷保(N=172)	35.5	50.6	2.3	9.9	1.7
	泉(N=43)	32.6	62.8	0.0	4.7	0.0
	青柳(N=54)	37.0	50.0	1.9	7.4	3.7
	矢川・石田(N=22)	22.7	63.6	0.0	13.6	0.0

7. 環境（水・緑）

（1）緑の保全について日常生活で行っていること[問22]

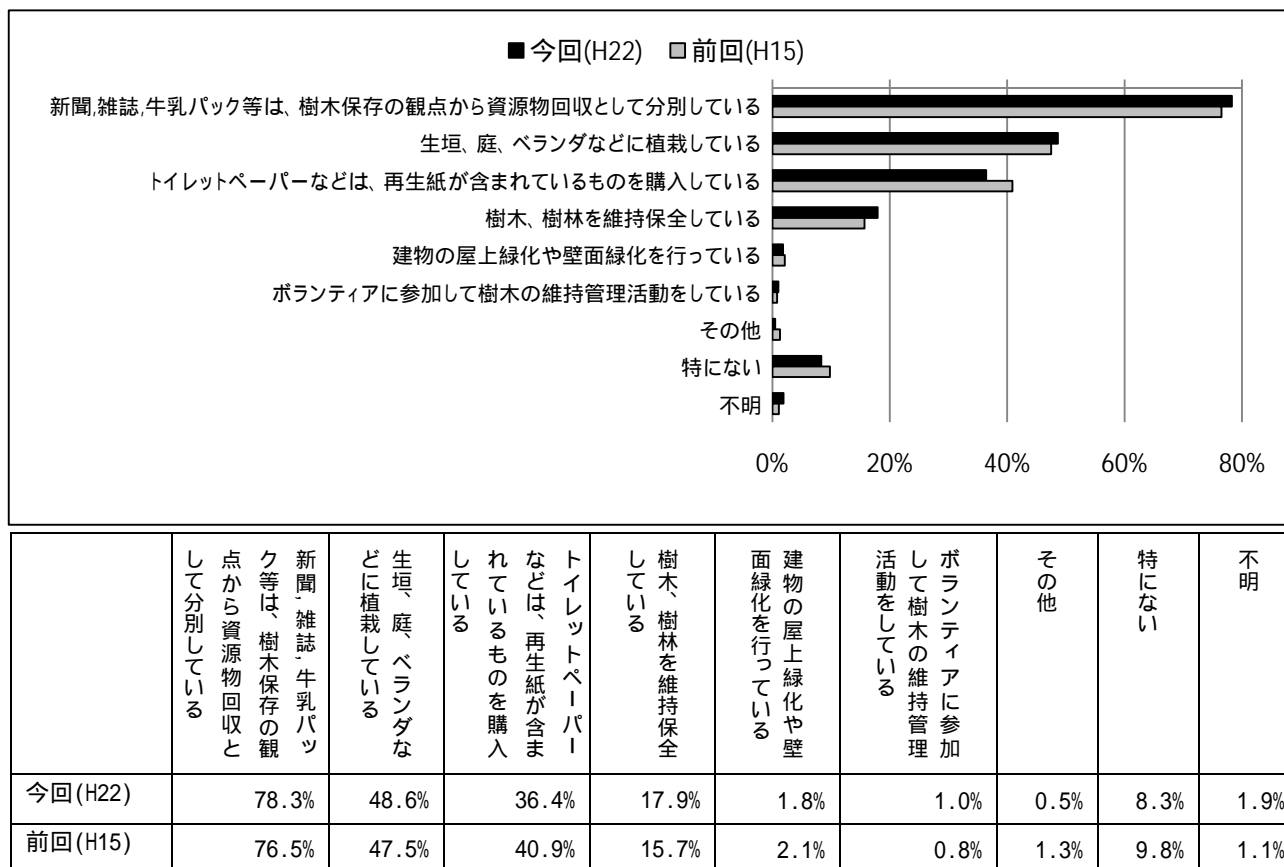
緑の保全について日常生活の中で行っていることを伺ったところ<あてはまるもの全てを選択>、「新聞、雑誌、牛乳パック等は、樹木保存の観点から資源物回収として分別している」の項目が78.3%と最も多く、次いで「生垣、庭、ベランダなどに植栽している」の項目が48.6%、「トイレトーパーなどは、再生紙が含まれているものを購入している」の項目が36.4%であった。

前調査との比較では、特に大きな差異は見られない。

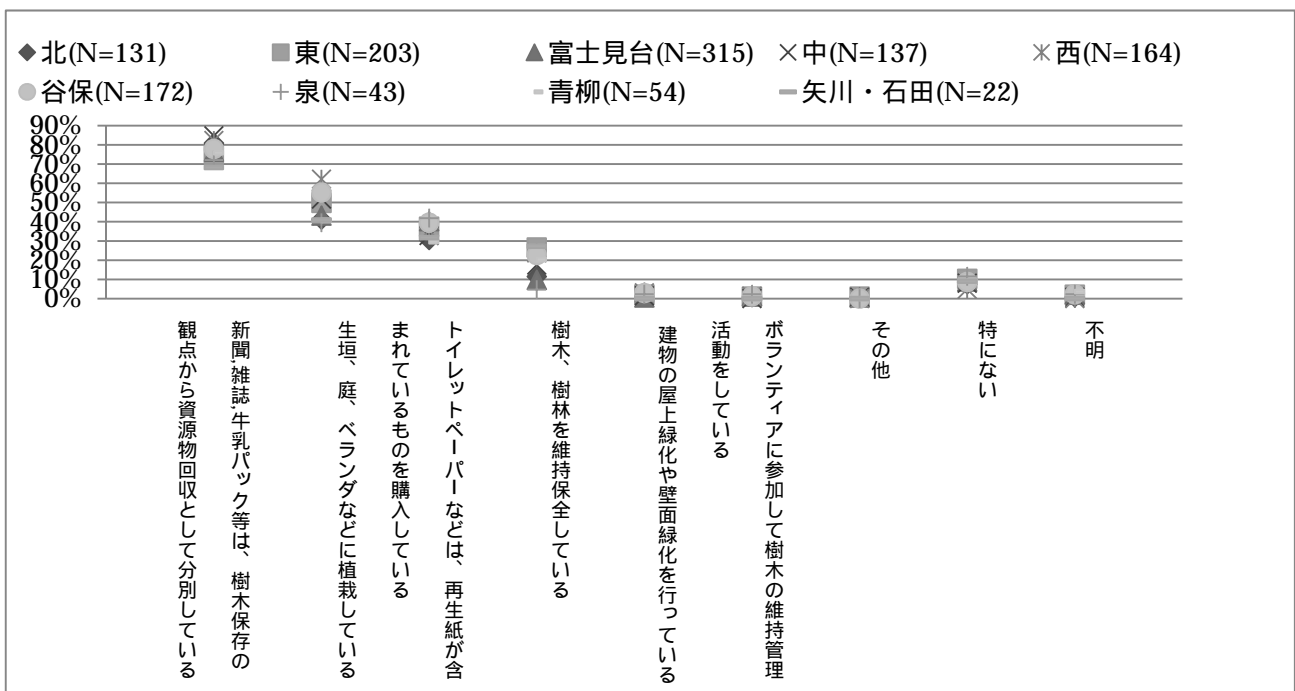
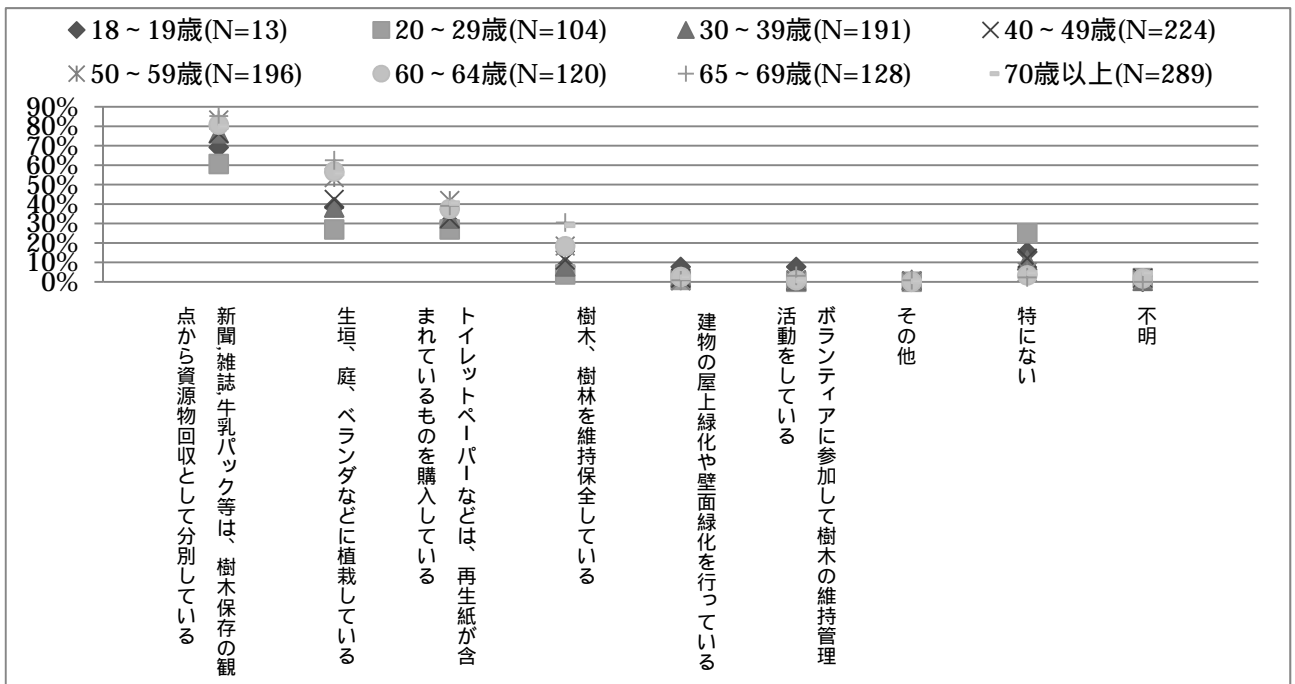
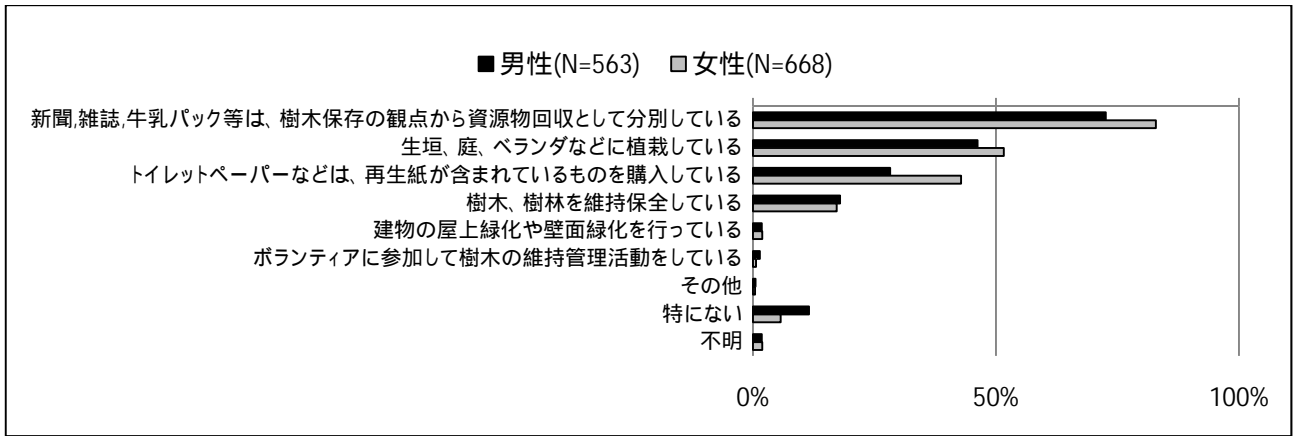
年齢別では、20代で「特に無い」の回答が25.0%と他の世代に比べて高い（全世代8.3%）。また、60代後半及び70代以上では、「生垣、庭、ベランダなどに植栽している」、「樹木、樹林を維持保全している」との回答割合が高い。

地域別では、特に大きな差異は見られない。

図 32 緑の保全について日常生活で行っていること(H22 N=1271, H15 N=707)



【性別、年齢別、地域別】



< 値は% >		問22 緑の保存について日常生活で行っていること<あてはまるもの全てを選択>								
		新聞雑誌牛乳パック等は、樹木保存の観点から資源物回収として分別している	生垣、庭、ベランダなどに植栽している	トイレトーパーなどは、再生紙が含まれているものを購入している	樹木、樹林を維持保全している	壁面の緑化を行っている	建物の屋上緑化や壁面緑化を行っている	管理活動をしていない	ボランテアに参加して樹木の維持管理活動をしていない	その他
性別	男性(N=563)	72.6	46.2	28.2	17.9	1.8	1.4	0.5	11.5	1.8
	女性(N=668)	82.9	51.6	42.8	17.2	1.9	0.6	0.4	5.7	1.9
年齢	18～19歳(N=13)	69.2	38.5	30.8	7.7	7.7	7.7	0.0	15.4	0.0
	20～29歳(N=104)	60.6	26.9	26.9	3.8	1.0	0.0	0.0	25.0	1.9
	30～39歳(N=191)	76.4	38.2	32.5	7.9	2.6	0.5	1.0	11.0	0.5
	40～49歳(N=224)	76.3	42.4	32.6	11.2	1.8	0.9	0.4	12.1	1.8
	50～59歳(N=196)	83.2	53.6	41.8	18.4	0.5	1.0	0.5	5.1	1.0
	60～64歳(N=120)	80.8	56.7	37.5	18.3	2.5	0.8	0.0	3.3	1.7
	65～69歳(N=128)	85.2	62.5	39.1	30.5	0.8	3.1	0.8	2.3	0.0
	70歳以上(N=289)	79.9	55.7	40.5	29.1	2.4	0.7	0.3	4.5	4.5
居住地域	北(N=131)	80.9	41.2	30.5	11.5	3.1	0.8	0.8	7.6	0.8
	東(N=203)	74.9	49.8	37.4	26.6	2.0	1.0	1.0	10.3	2.0
	富士見台(N=315)	76.5	43.2	40.3	9.8	0.6	1.3	0.6	8.9	2.2
	中(N=137)	84.7	51.8	32.8	17.5	1.5	0.0	0.7	8.0	0.7
	西(N=164)	82.3	62.2	35.4	23.8	3.0	1.2	0.0	4.9	0.0
	谷保(N=172)	77.9	55.2	39.5	22.7	2.9	1.2	0.0	8.7	2.3
	泉(N=43)	72.1	39.5	41.9	4.7	2.3	2.3	0.0	11.6	2.3
	青柳(N=54)	75.9	40.7	29.6	20.4	0.0	0.0	0.0	9.3	3.7
矢川・石田(N=22)	68.2	40.9	31.8	27.3	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	

(2) 水について日常生活で行っていること[問23]

水について日常生活で何か行っていることがあるか何うと〈あてはまるもの全てを選択〉、約半数の市民が「浴槽の湯を洗濯やその他に利用している」との回答であった。また、「特にない」と答えた市民は33.2%であった。

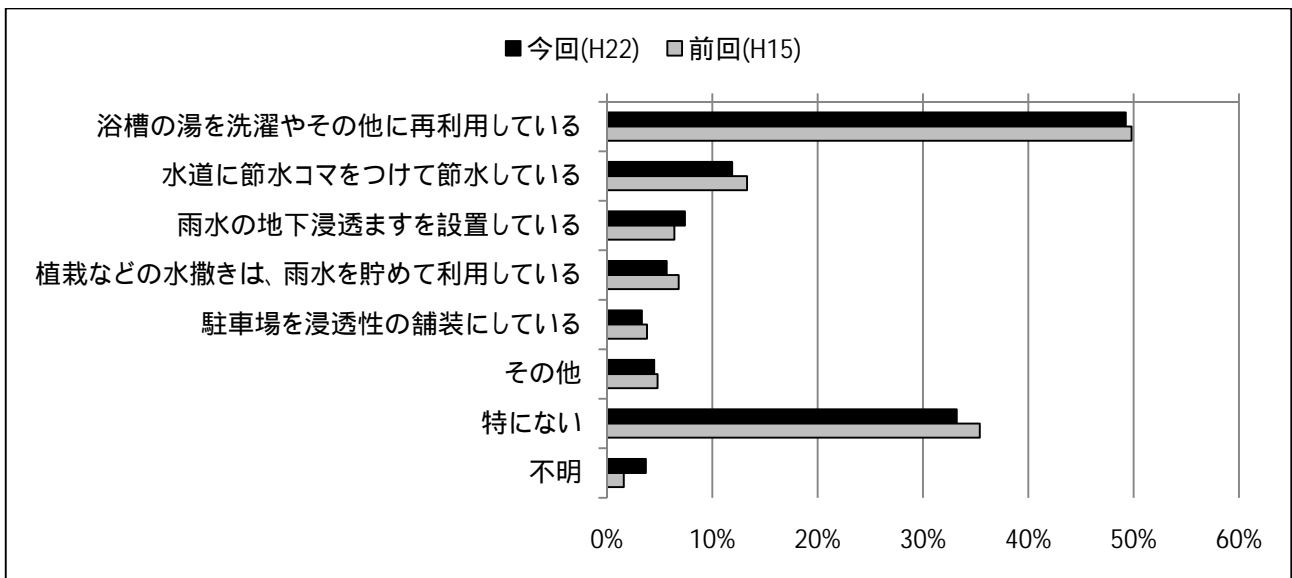
前調査と比較すると、特に大きな差異は見られない。

性別では、女性の方が「浴槽の湯を洗濯やその他に利用している」割合が高く（男性44.9%、女性53.6%）、男性の方が「特にない」割合が高い（男性37.3%、女性29.5%）。

年齢別では、20代で「特にない」割合が50.0%と高く、60代前半で「浴槽の湯を洗濯やその他に利用している」割合が60.8%と高い。

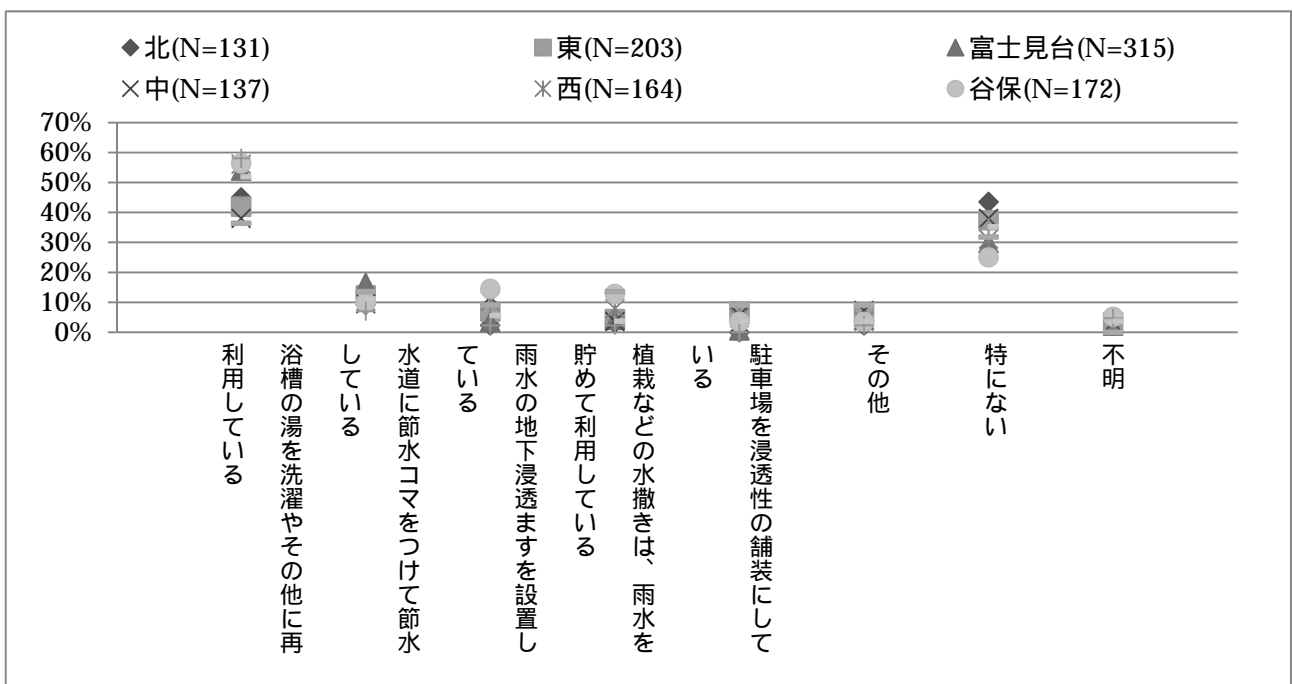
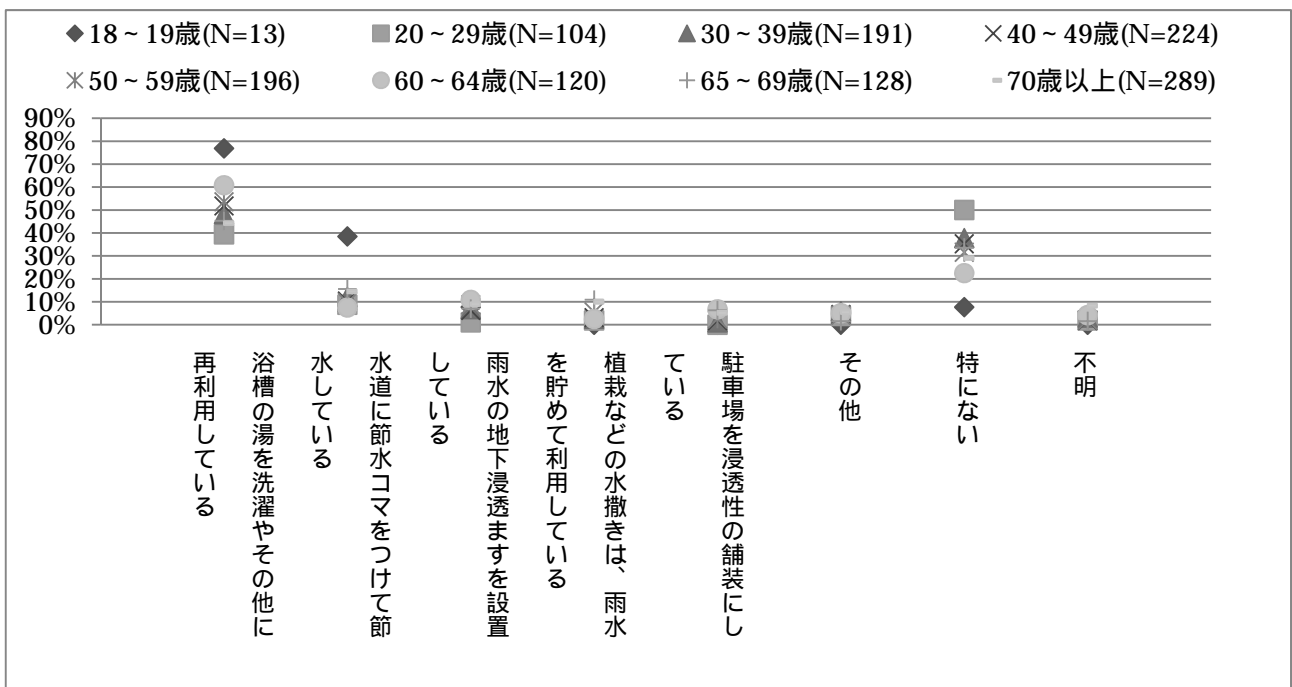
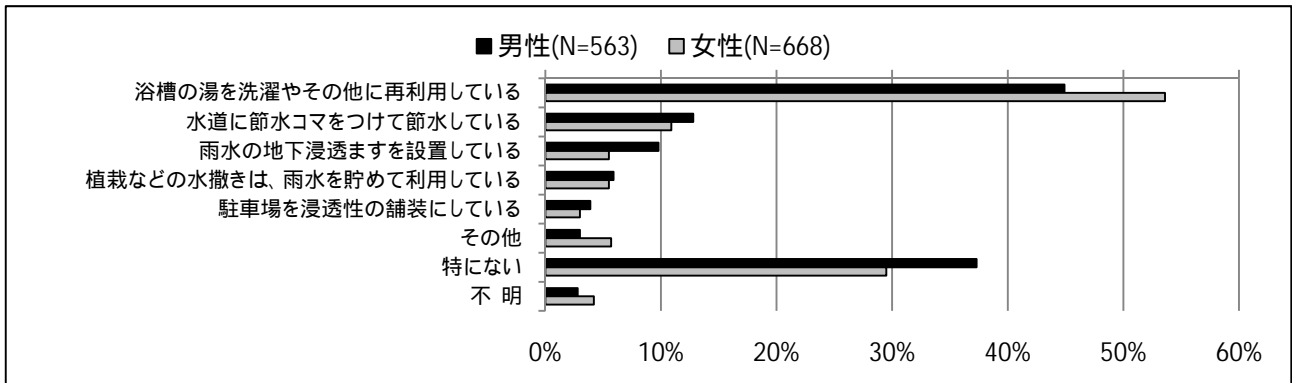
地域別では、特に大きな差異は見られない。

図 33 水について日常生活で行っていること(H22 N=1271, H15 N=707)



	浴槽の湯を洗濯やその他に再利用している	水道に節水コマをつけて節水している	雨水の地下浸透ますを設置している	植栽などの水撒きは、雨水を貯めて利用している	駐車場を浸透性の舗装にしている	その他	特にない	不明
今回(H22)	49.3%	11.9%	7.4%	5.7%	3.3%	4.5%	33.2%	3.7%
前回(H15)	49.8%	13.3%	6.4%	6.8%	3.8%	4.8%	35.4%	1.6%

【性別、年齢別、地域別】



< 値は% >		問23 水について日常生活の中でやっていること<あてはまるもの全てを選択>							
		浴槽の湯を洗濯やその他に再利用している	水道に節水コマをつけて節水している	雨水の地下浸透ますを設置している	植栽などの水撒きは、雨水を貯めて利用している	駐車を浸透性の舗装にしている	その他	特にない	不明
性別	男性(N=563)	44.9	12.8	9.8	5.9	3.9	3.0	37.3	2.8
	女性(N=668)	53.6	10.9	5.5	5.5	3.0	5.7	29.5	4.2
年齢	18～19歳(N=13)	76.9	38.5	7.7	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0
	20～29歳(N=104)	39.4	8.7	1.0	1.9	0.0	3.8	50.0	1.9
	30～39歳(N=191)	48.2	12.0	6.8	2.6	1.0	5.8	37.7	3.1
	40～49歳(N=224)	51.8	10.3	6.3	3.1	1.8	4.5	35.3	1.8
	50～59歳(N=196)	53.6	9.7	8.7	5.6	2.6	4.1	31.6	2.0
	60～64歳(N=120)	60.8	7.5	10.8	2.5	6.7	5.0	22.5	4.2
	65～69歳(N=128)	45.3	15.6	7.0	10.9	6.3	1.6	33.6	1.6
	70歳以上(N=289)	44.3	14.5	9.0	10.0	5.2	5.5	29.1	8.3
居住地域	北(N=131)	45.0	9.2	2.3	3.1	0.0	2.3	43.5	4.6
	東(N=203)	41.9	12.3	6.9	4.4	6.9	5.9	37.4	3.4
	富士見台(N=315)	54.0	16.5	3.5	4.1	0.6	4.1	29.8	2.2
	中(N=137)	38.0	9.5	11.7	3.6	5.8	7.3	38.0	2.9
	西(N=164)	56.1	10.4	10.4	7.9	4.9	3.7	31.1	2.4
	谷保(N=172)	56.4	9.9	14.5	12.8	3.5	3.5	25.0	5.2
	泉(N=43)	58.1	7.0	2.3	2.3	0.0	2.3	34.9	4.7
	青柳(N=54)	51.9	11.1	5.6	3.7	3.7	3.7	35.2	3.7
	矢川・石田(N=22)	36.4	13.6	9.1	13.6	9.1	9.1	31.8	0.0

8 . 環境（ごみとリサイクル）

（ 1 ）循環型社会を形成するために取り組んでいること[問 2 4]

循環型社会を形成するために取り組んでいることについて伺ったところ<あてはまるものを全て選択>、「食品、洗剤など詰め替え商品を利用している」という回答が74.7%で最も高く、次いで「ものを大切に長く使うようにしている」66.3%、「分別の徹底をし、出来る限り資源化している」61.8%、「資源回収に協力している」61.0%、「レジ袋をもらわないよう、買い物袋を持参している」59.4%となっている。

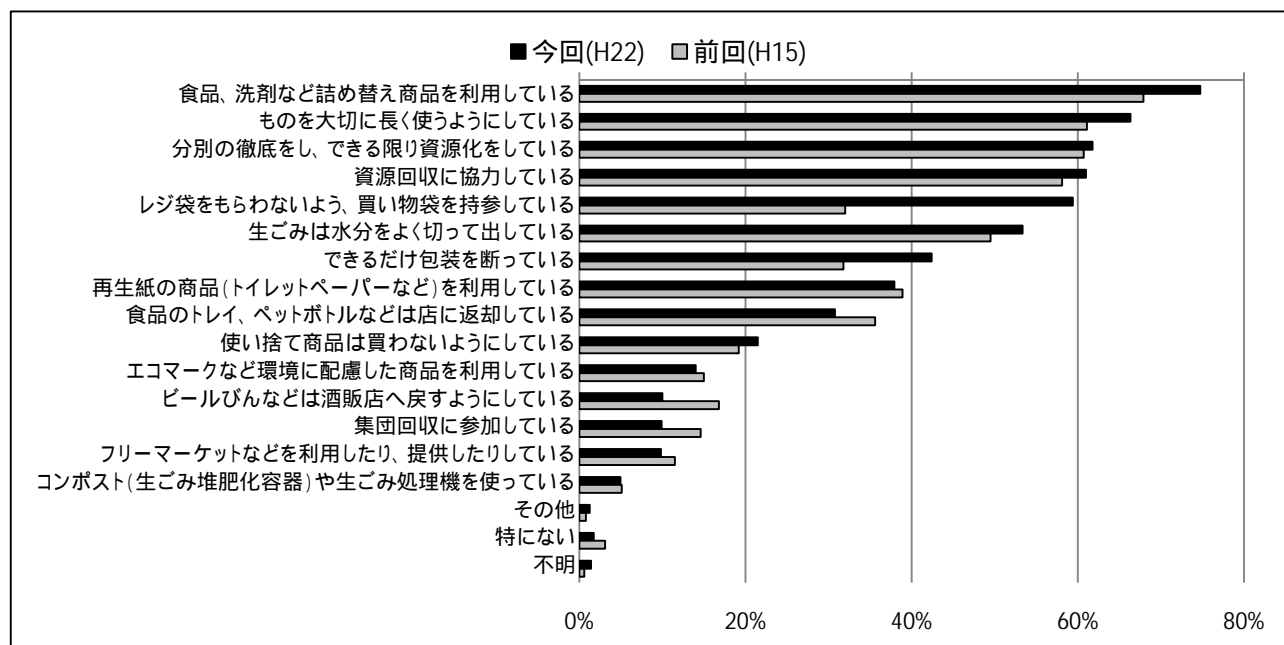
前調査と比較すると、「レジ袋をもらわないよう、買い物袋を持参している」との回答が27.4%増加しており、「できるだけ包装を断っている」との回答も10.6%増加、「食品、洗剤など詰め替え商品を利用している」との回答も6.8%増加している。一方で、「ビールびんなどは酒販店へ戻すようにしている」との回答は6.8%減少している。

性別では、ほぼ全ての取り組み項目に関して女性の回答が男性よりも上回っている。

年齢別では、年齢が高くなればなるほど取り組んでいる比率が高まっている。

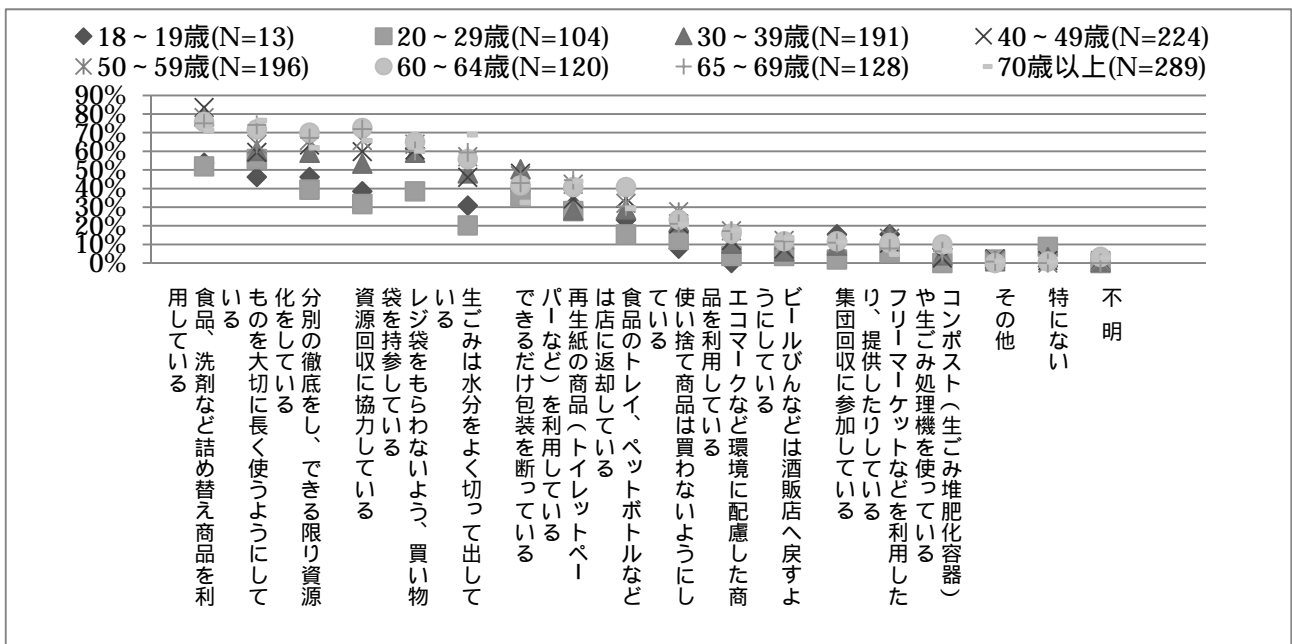
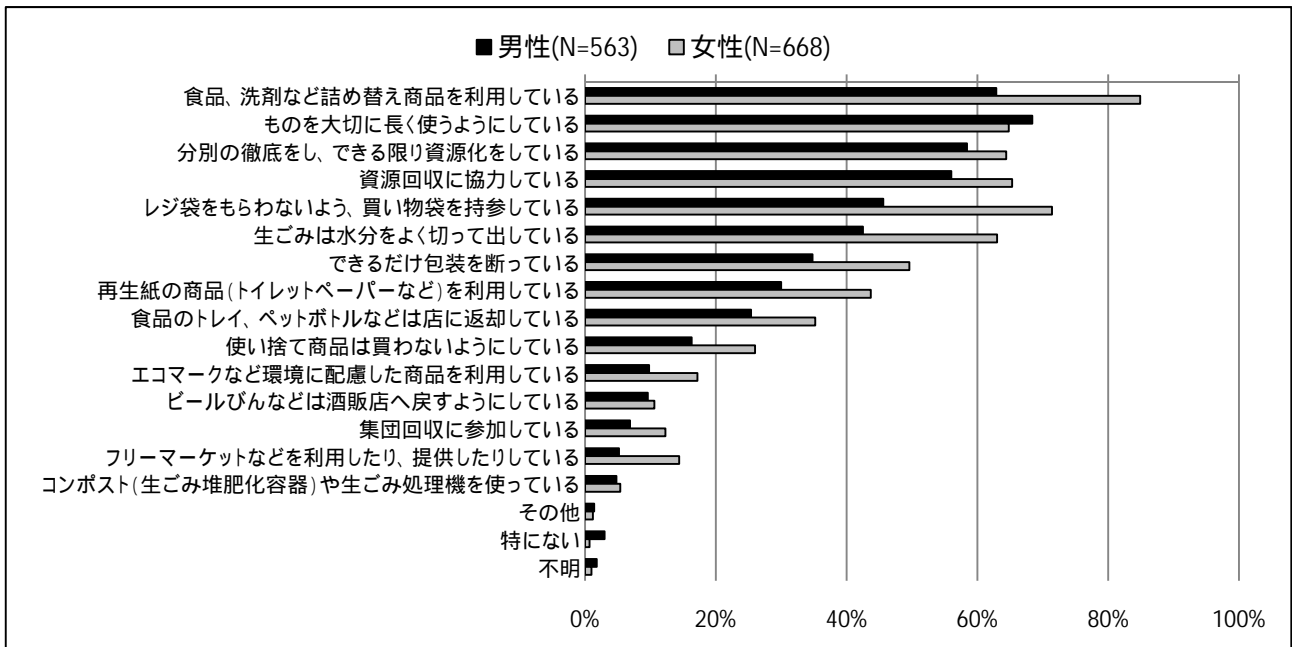
地域別では、中地区で「使い捨て商品は買わないようにしている」との回答が高く（全地域21.5%、中32.8%）、泉地区では「ものを大切に長く使うようにしている」「分別の徹底をし、出来る限り資源化をしている」との回答が低い（前者 全地域66.3%、泉53.5%、後者 全地域61.8%、泉 51.2%）。

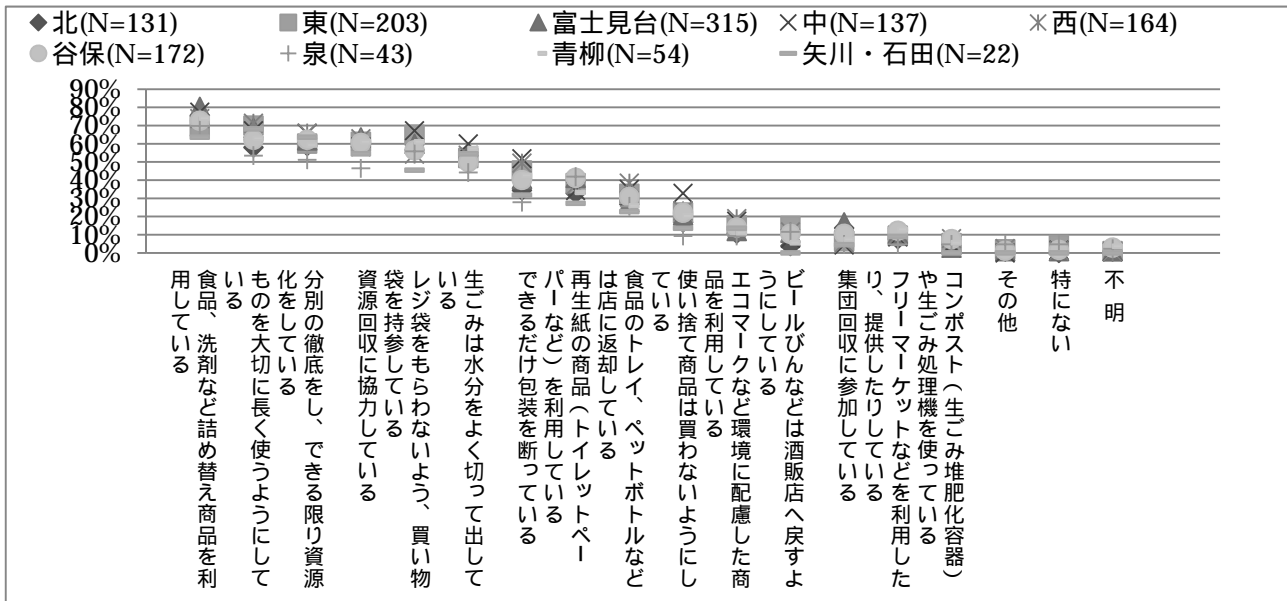
図 34 循環型社会を形成するために取り組んでいること(H22 N=1271, H15 N=707)



	食品、洗剤など詰め替え商品を利用している	ものを大切に長く使うようにしている	分別の徹底をし、できる限り資源化をしている	資源回収に協力している	レジ袋をもらわないよう、買い物袋を持参している	生ごみは水分をよく切って出している	できるだけ包装を断っている	再生紙の商品(トイレトペーパーなど)を利用している	食品のトレイ、ペットボトルなどは店に返却している	使い捨て商品は買わないようにしている	エコマークなど環境に配慮した商品を利用している	ビールびんなどは酒販店へ戻すようにしている	集団回収に参加している	フリーマーケットなどを利用したり、提供したりしている	コンポスト(生ごみ堆肥化容器)や生ごみ処理機を使っている	その他	特にない	不明
今回 (F2)	74.7%	66.3%	61.8%	61.0%	59.4%	53.3%	42.4%	37.9%	30.8%	21.5%	14.0%	10.0%	9.9%	9.8%	5.0%	1.3%	1.7%	1.4%
前回 (H5)	67.9%	61.1%	60.7%	58.1%	32.0%	49.5%	31.8%	38.9%	35.6%	19.2%	15.0%	16.8%	14.6%	11.5%	5.1%	0.8%	3.1%	0.6%

【性別、年齢別、地域別】





< 値は% >		問2-4 循環型社会を形成するために取り組んでいること<あてはまるものを全てを選択>																	
		食品、洗剤など詰め替え商品を利用している	ものを大切に長く使うようにしている	分別の徹底をし、できる限り資源化をしている	資源回収に協力している	レジ袋をもらわないよう、買い物袋を持参している	生ごみは水分をよく切って出している	できるだけ包装を断っている	再生紙の商品(トイレットペーパーなど)を利用している	食品のトレイ、ペットボトルなどは店に返却している	使い捨て商品は買わないようにしている	エコマークなど環境に配慮した商品を利用している	ビールびんなどは酒販店へ戻すようにしている	集団回収に参加している	フリーマーケットなどを利用したり、提供したりしている	コンポスト(生ごみ堆肥化容器)や生ごみ処理機を使っている	その他	特にない	不明
性別	男性(N=563)	62.9	68.4	58.4	56.0	45.6	42.5	34.8	30.0	25.4	16.3	9.8	9.6	6.9	5.2	4.8	1.4	3.0	1.8
	女性(N=668)	84.9	64.8	64.4	65.3	71.4	63.0	49.6	43.7	35.2	26.0	17.2	10.6	12.3	14.4	5.4	1.2	0.7	1.0
年齢	18～19歳(N=13)	53.8	46.2	46.2	38.5	61.5	30.8	38.5	30.8	23.1	7.7	0.0	7.7	15.4	15.4	7.7	0.0	7.7	0.0
	20～29歳(N=104)	51.9	55.8	39.4	31.7	38.5	20.2	35.6	27.9	15.4	12.5	3.8	3.8	1.9	5.8	0.0	1.9	8.7	0.0
	30～39歳(N=191)	79.1	60.2	59.2	53.4	59.2	48.2	50.3	28.3	28.8	22.0	10.5	6.3	9.4	15.2	4.2	1.0	3.1	0.5
	40～49歳(N=224)	83.5	59.4	63.4	59.8	60.7	46.0	48.2	34.4	34.8	21.0	12.1	7.6	10.3	10.7	2.7	2.2	1.3	1.3
	50～59歳(N=196)	78.1	63.8	65.8	65.8	63.8	57.1	46.9	42.3	32.1	27.6	17.3	12.2	10.2	13.3	4.6	1.5	0.0	1.0
	60～64歳(N=120)	75.8	71.7	70.0	72.5	65.0	55.8	41.7	40.8	40.8	23.3	15.8	11.7	11.7	10.8	10.0	0.0	0.8	3.3
	65～69歳(N=128)	75.0	74.2	67.2	71.9	60.2	59.4	43.0	44.5	30.5	21.1	17.2	11.7	10.9	7.8	6.3	0.8	0.0	0.0
	70歳以上(N=289)	71.3	76.5	61.9	65.7	60.2	68.9	32.5	43.9	29.4	20.8	17.6	13.5	11.4	4.8	6.6	1.0	0.7	2.8
居住地域	北(N=131)	75.6	58.0	58.8	60.3	56.5	53.4	34.4	32.8	26.7	16.8	10.7	3.8	13.7	7.6	4.6	0.8	0.0	0.8
	東(N=203)	69.5	70.0	60.1	61.1	65.0	52.2	45.3	38.4	32.5	22.2	15.3	14.8	6.4	9.4	5.4	2.0	4.4	1.0
	富士見台(N=315)	80.3	68.6	61.9	63.5	60.0	54.9	40.6	41.3	27.9	20.6	12.1	11.1	16.8	10.5	2.9	1.0	1.0	1.0
	中(N=137)	77.4	67.2	65.7	58.4	67.2	59.9	51.8	34.3	35.0	32.8	17.5	8.0	4.4	8.8	4.4	0.0	1.5	0.7
	西(N=164)	73.8	71.3	65.9	62.8	54.3	53.7	49.4	37.2	38.4	23.2	18.9	11.6	5.5	9.8	7.9	2.4	1.2	0.6
	谷保(N=172)	72.7	62.2	62.2	60.5	56.4	50.0	40.1	41.3	30.8	22.1	14.0	10.5	10.5	12.2	7.6	1.2	1.7	2.9
	泉(N=43)	69.8	53.5	51.2	46.5	55.8	44.2	27.9	41.9	25.6	9.3	9.3	11.6	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	2.3
	青柳(N=54)	74.1	63.0	59.3	61.1	61.1	57.4	42.6	33.3	25.9	20.4	11.1	5.6	7.4	13.0	5.6	0.0	0.0	3.7
	矢川・石田(N=22)	63.6	68.2	63.6	54.5	45.5	54.5	31.8	27.3	22.7	13.6	13.6	0.0	4.5	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0

(2) 循環型社会の形成のために行政がすべきこと[問25]

今後、循環型社会の形成のために行政がすべきことを伺ったところ<3つまで選択可>、「事業者に対し、商品の包装を簡単にする等、ごみの量を減らす販売方法等を指導する」との回答が44.8%と最も高く、次いで「市報においてごみ(廃棄物等)に関する情報をより詳しく提供する」37.3%、「ごみの分別などに対する指導を徹底する」36.5%という回答であった。

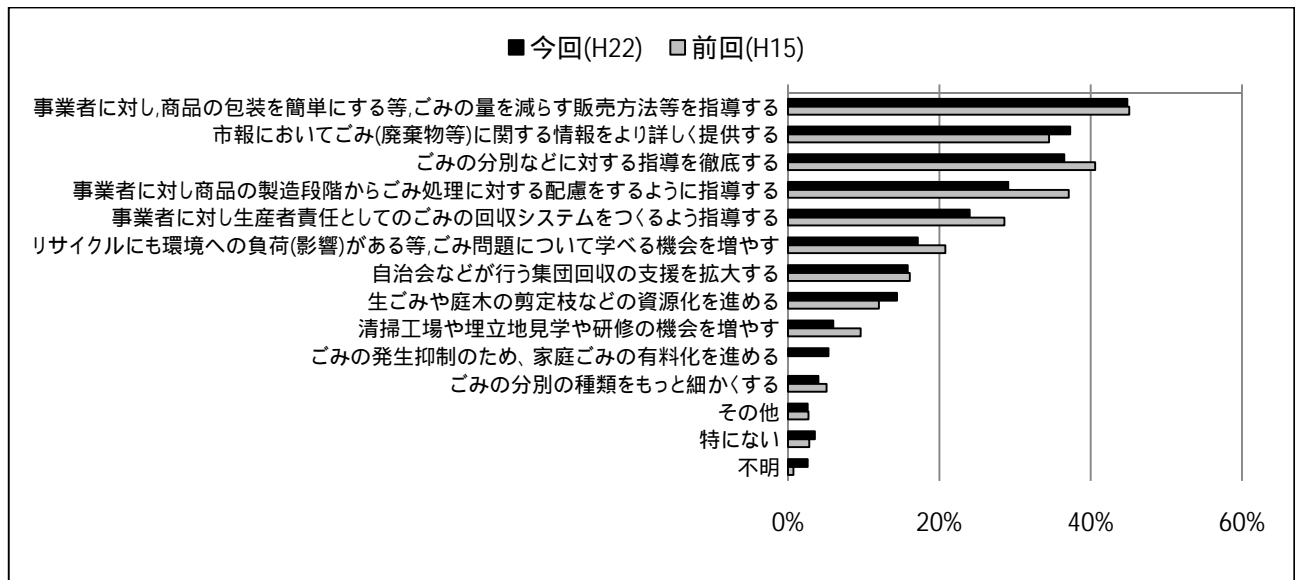
前調査と比較すると、「事業者に対し商品の製造段階からごみ処理に対する配慮をするように指導する」との回答が8.0%減(前回37.1%、今回29.1%)であった。

性別では、「事業者に対し商品の包装を簡単にする等ごみの量を減らす販売方法を指導する」との回答が女性の方が11.0%高い(男性39.3%、女性50.3%)。

年齢別では、「市報においてごみに関する情報をより詳しく提供する」との回答が70代以上では他の世代に比べて高い(全世代37.3%、70歳以上49.8%)。

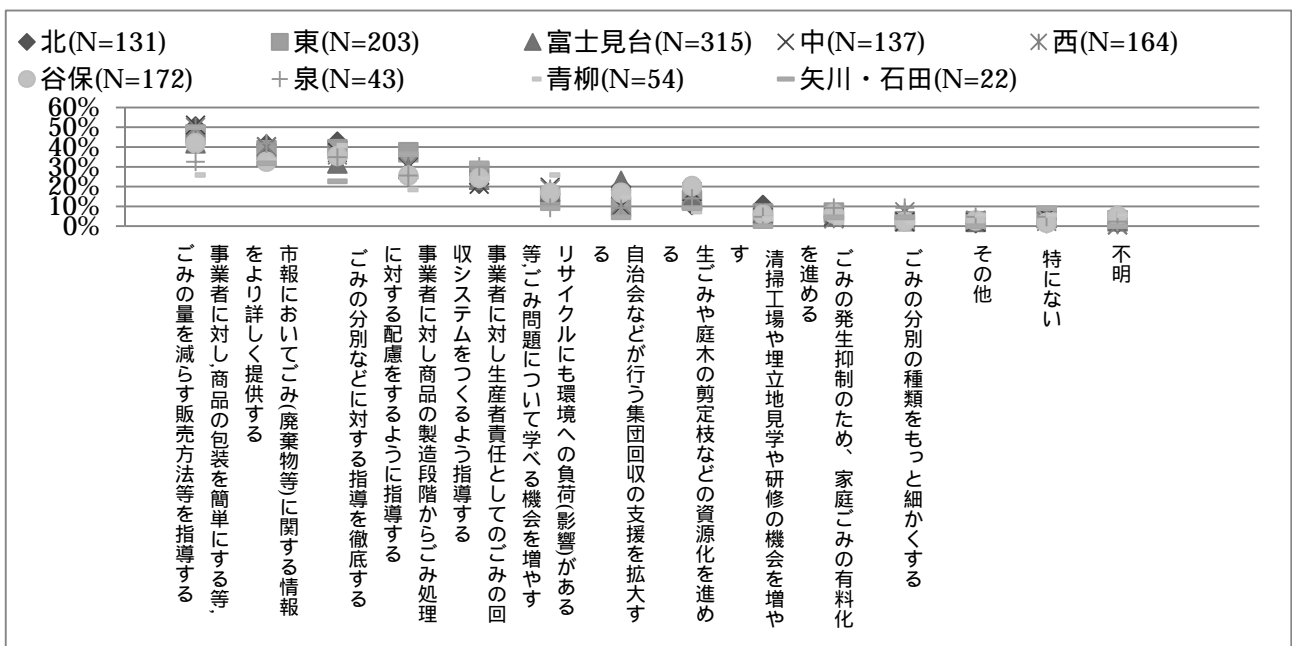
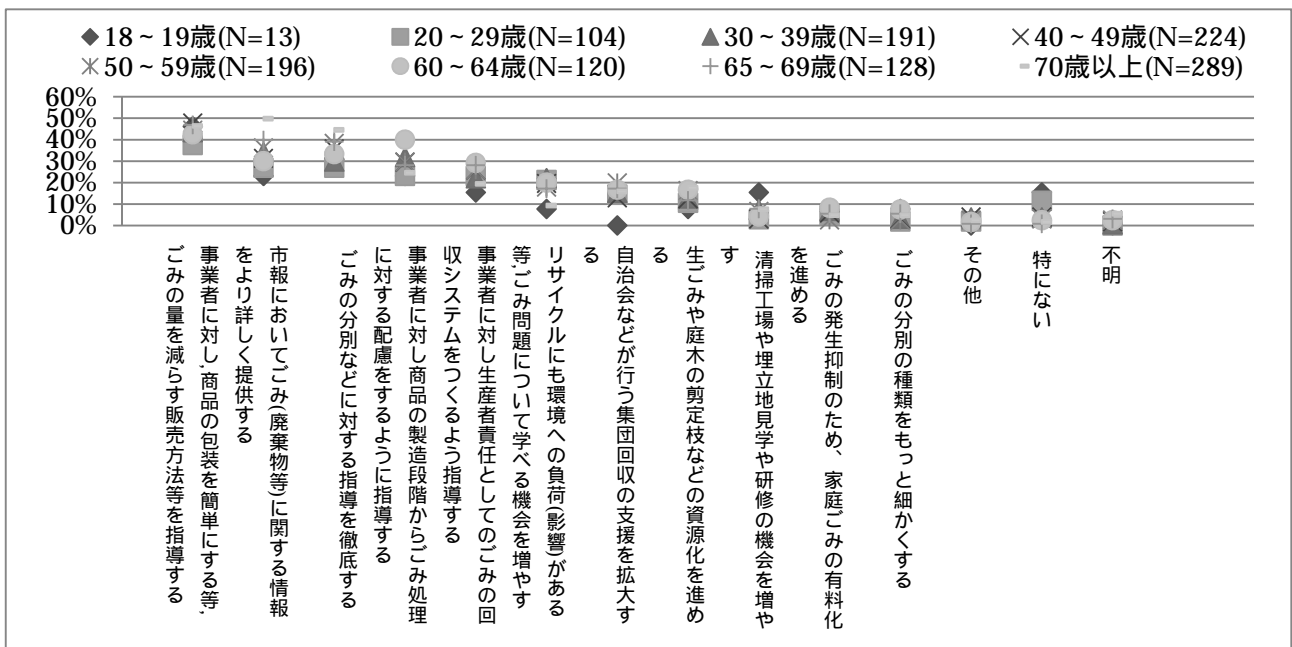
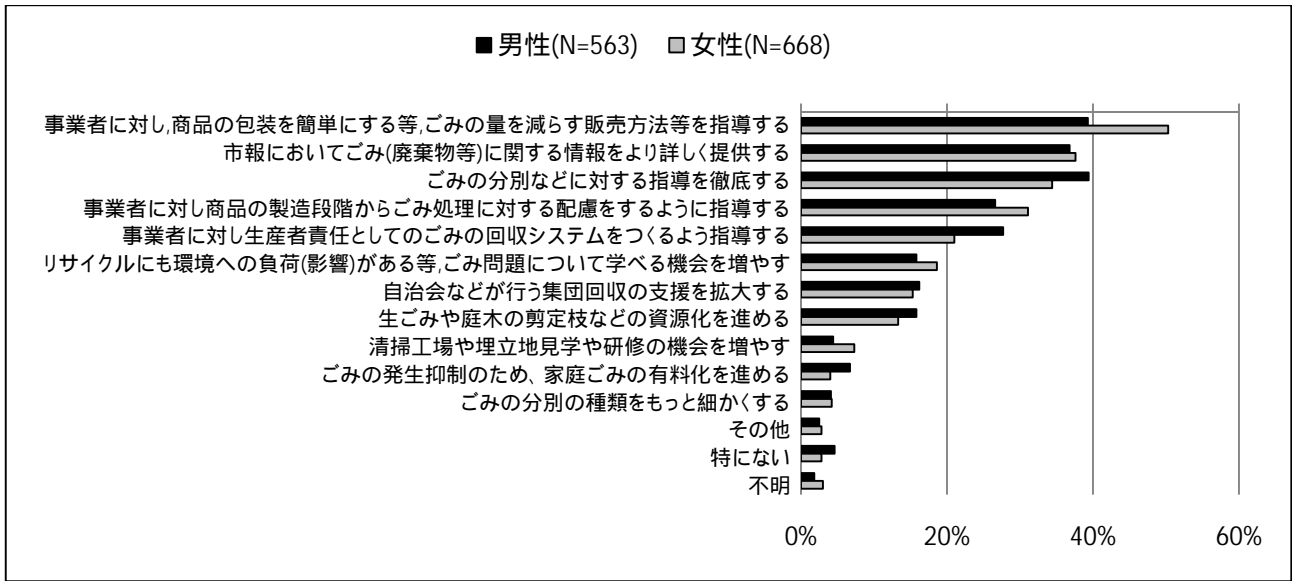
地域別では、泉、青柳地域で「事業者に対し、商品の包装を簡単にする等、ごみの量を減らす販売方法等を指導する」との回答が他の地域に比べて低い(全地域 44.8%、泉32.6%、青柳25.9%)。

図 35 循環型社会の形成のために行政がすべきこと(H22 N=1271, H15 N=707)



	事業者に対し商品の包装を簡単にする等、ごみの量を減らす販売方法等を指導する	市報においてごみ(廃棄物等)に関する情報をより詳しく提供する	ごみの分別などに対する指導を徹底する	事業者に対し商品の製造段階からごみ処理に対する配慮をするように指導する	事業者に対し生産者責任としてのごみの回収システムをつくるよう指導する	リサイクルにも環境への負荷(影響)がある等、ごみ問題について学べる機会を増やす	自治会などが行う集団回収の支援を拡大する	生ごみや庭木の剪定枝などの資源化を進める	清掃工場や埋立地見学や研修の機会を増やす	ごみの発生抑制のため、家庭ごみの有料化を進める	ごみの分別の種類をもっと細かくする	その他	特にない	不明
今回(H22)	44.8%	37.3%	36.5%	29.1%	24.0%	17.2%	15.8%	14.4%	6.0%	5.4%	4.0%	2.6%	3.5%	2.6%
前回(H15)	45.1%	34.5%	40.6%	37.1%	28.6%	20.8%	16.1%	12.0%	9.6%		5.1%	2.7%	2.8%	0.7%

【性別、年齢別、地域別】



<値は%>		問2 5 循環型社会の形成のために行政がすべきこと<3つまで選択可>													
		販売方法等を指導する	事業等に対し商品の包装を簡単にする等ごみの量を減らす	市報においてごみ(廃棄物等)に関する情報をより詳しく提供	ごみの分別などに対する指導を徹底する	事業者に対し商品の製造段階からごみ処理に対する配慮をするように指導する	事業者に対し生産者責任としてのごみの回収システムをつくるよう指導する	事業者に対し生産者責任として学べる機会を増やす	リサイクルにも環境への負荷(影響)がある等ごみ問題について学べる機会を増やす	自治会などが行う集団回収の支援を拡大する	生ごみや庭木の剪定枝などの資源化を進める	清掃工場や埋立地見学や研修の機会を増やす	ごみの発生抑制のため、家庭ごみの有料化を進める	ごみの分別の種類をもっと細かくする	その他
性別	男性(N=563)	39.3	36.8	39.4	26.6	27.7	15.8	16.2	15.8	4.4	6.7	4.1	2.5	4.6	1.8
	女性(N=668)	50.3	37.6	34.4	31.1	21.0	18.6	15.3	13.3	7.3	4.0	4.2	2.8	2.8	3.0
年齢	18~19歳(N=13)	46.2	23.1	30.8	23.1	15.4	7.7	0.0	7.7	15.4	7.7	7.7	0.0	15.4	0.0
	20~29歳(N=104)	37.5	26.9	26.9	23.1	23.1	21.2	14.4	10.6	2.9	4.8	1.9	1.9	11.5	0.0
	30~39歳(N=191)	43.5	34.0	29.8	31.9	22.0	22.0	15.2	12.6	7.3	6.8	3.1	3.7	3.7	0.5
	40~49歳(N=224)	47.8	31.3	35.7	29.5	25.9	19.6	12.9	12.5	3.1	5.8	3.1	4.0	4.0	1.8
	50~59歳(N=196)	44.4	36.2	38.3	29.6	26.0	17.9	19.9	16.3	6.6	2.6	2.6	2.6	3.1	2.6
	60~64歳(N=120)	42.5	30.0	33.3	40.0	29.2	20.0	16.7	16.7	4.2	8.3	7.5	1.7	2.5	2.5
	65~69歳(N=128)	46.9	39.8	39.1	28.1	28.1	17.2	17.2	11.7	7.8	5.5	5.5	0.8	0.8	3.1
	70歳以上(N=289)	46.4	49.8	44.6	24.6	19.4	9.3	15.9	17.6	7.6	4.8	4.8	2.4	1.7	5.5
居住地域	北(N=131)	50.4	41.2	42.7	25.2	21.4	16.0	19.8	10.7	10.7	4.6	3.8	1.5	1.5	1.5
	東(N=203)	46.3	38.4	38.9	37.4	27.6	15.3	9.9	13.3	6.4	6.9	2.5	2.5	4.4	3.0
	富士見台(N=315)	41.9	35.2	31.7	28.9	23.5	17.5	22.9	13.7	6.3	5.1	4.8	2.2	4.1	2.5
	中(N=137)	51.1	40.1	37.2	29.9	21.2	19.7	10.2	17.5	4.4	4.4	2.2	2.2	5.1	0.7
	西(N=164)	50.0	40.2	36.0	30.5	23.2	18.9	11.0	15.9	5.5	3.7	7.3	3.0	2.4	0.6
	谷保(N=172)	41.9	32.6	35.5	25.6	24.4	16.9	16.9	20.3	5.8	6.4	2.3	2.9	1.7	5.2
	泉(N=43)	32.6	41.9	34.9	25.6	30.2	9.3	9.3	14.0	4.7	9.3	9.3	4.7	4.7	2.3
	青柳(N=54)	25.9	33.3	40.7	18.5	24.1	25.9	14.8	7.4	3.7	1.9	1.9	5.6	5.6	5.6
	矢川・石田(N=22)	50.0	31.8	22.7	36.4	31.8	9.1	4.5	9.1	0.0	4.5	4.5	0.0	9.1	0.0

9. 平和・男女平等・プライバシー

(1) 市が進めるべき平和施策[問26]

これから市が進めるべき平和施策について伺ったところ<3つまで選択可>、「平和の大切さを伝えるためのイベントを開催する」との回答が37.5%で最も多く、次いで「悲惨な戦争体験や被爆体験などを伝える記録を充実する」との回答が32.7%、「平和や平和活動に関する国内外や市内の情報を提供する」との回答が27.9%であった。

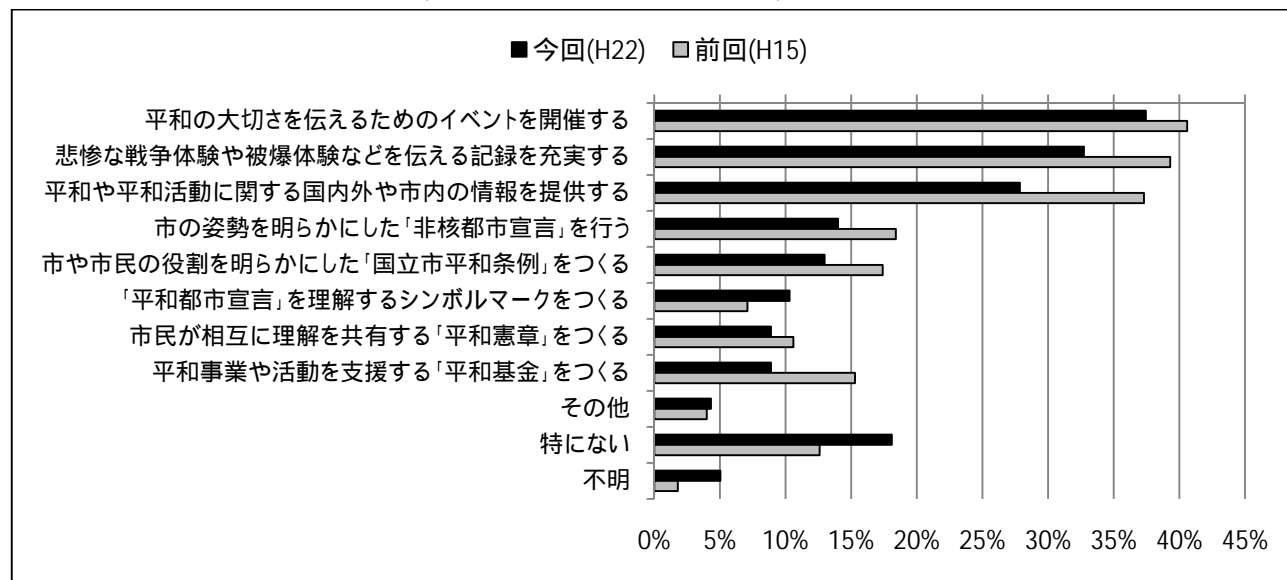
前調査と比較すると、「平和や平和活動に関する国内外や市内の情報を提供する」の回答が9.4%減少している。

性別では、女性の方が「平和の大切さを伝えるためのイベントを開催する」「悲惨な戦争体験や被爆体験などを伝える記録を充実する」「平和や平和活動に関する国内外や市内の情報を提供する」の回答で5%以上高く、男性の方が「特になし」という回答が7.7%高い。

年齢別では、「平和事業や活動を支援する「平和基金」をつくる」の回答が20代では18.3%と他の世代(8.9%)よりも高い。

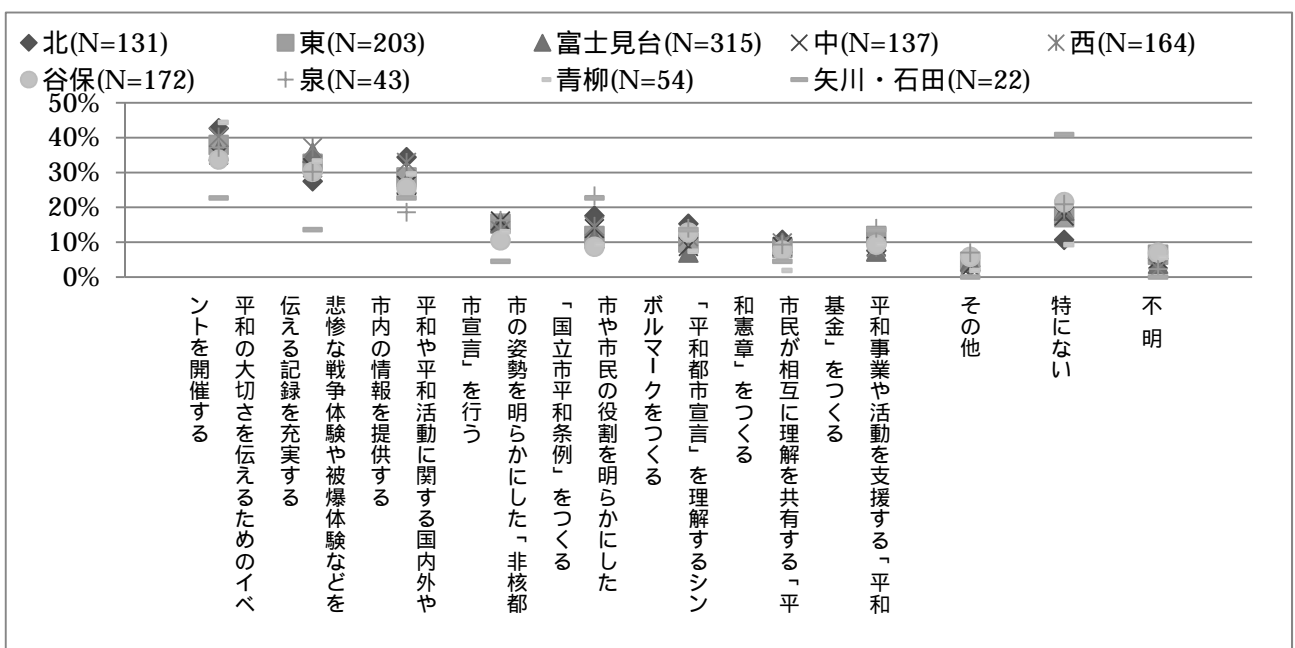
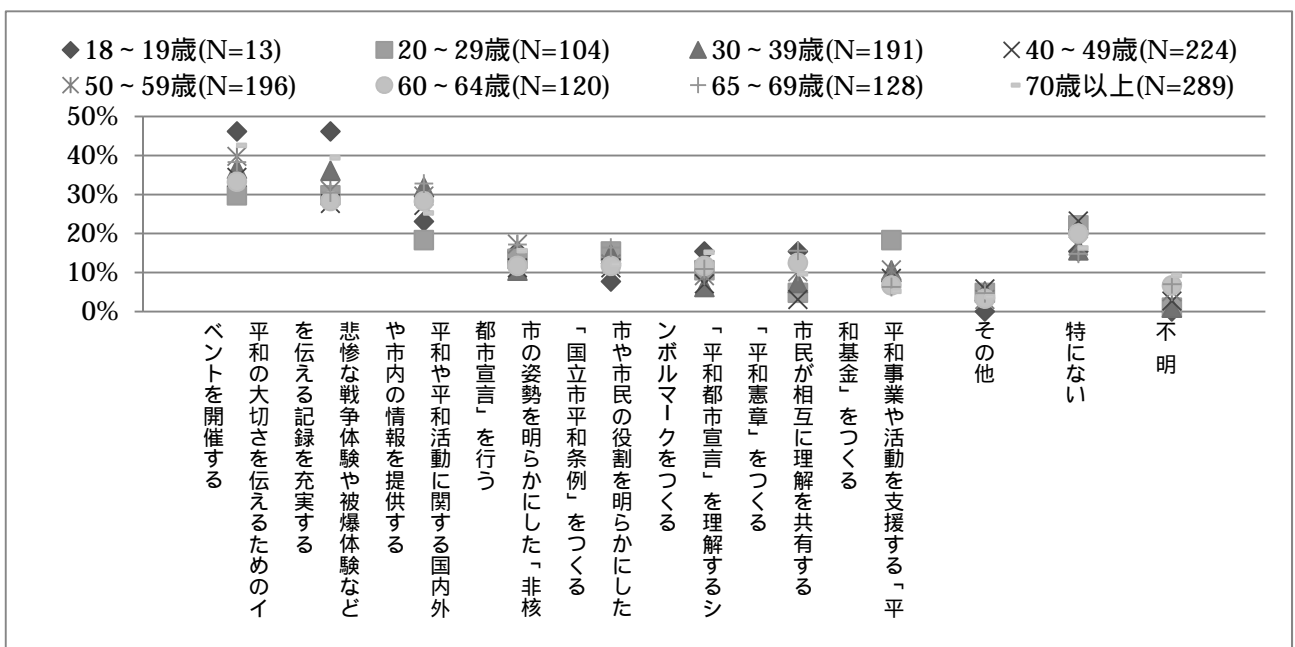
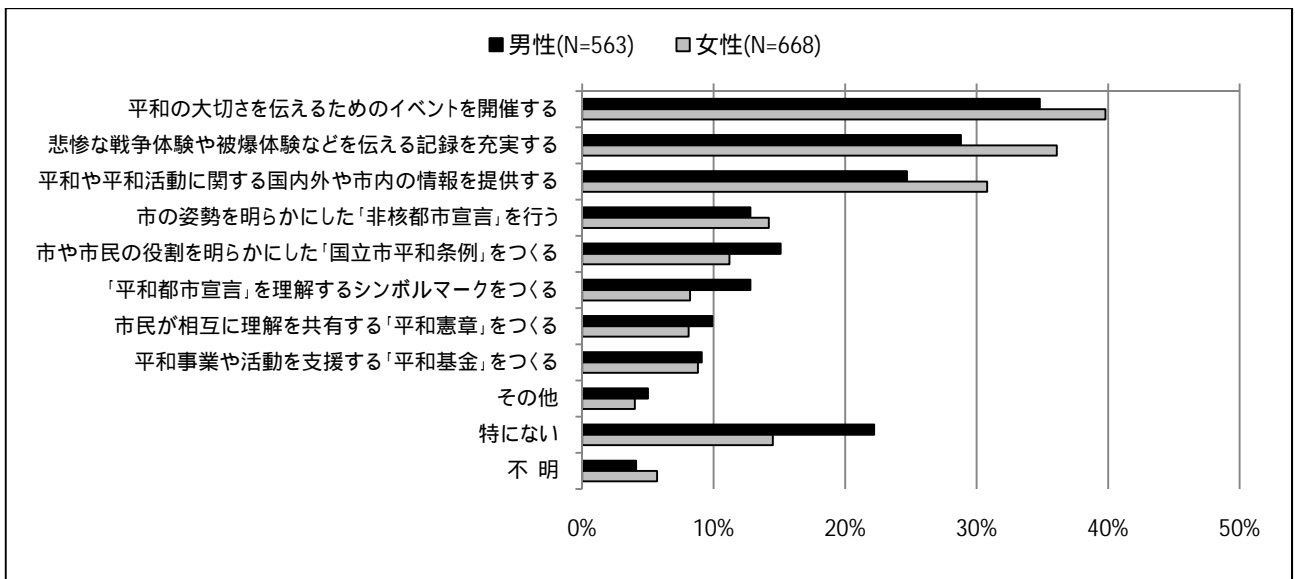
地域別では、サンプル数が少ないため一概に言えないが、矢川・石田地域では「平和の大切さを伝えるためのイベントを開催する」、「悲惨な戦争体験や被爆体験などを伝える記録を充実する」、「市の姿勢を明らかにした「非核都市宣言」を行う」の回答が他の地域と比較して低い。

図 36 市が進めるべき平和施策(H22 N=1271, H15 N=707)



	開催する	平和の大切さを伝えるためのイベントを	平和の大切さを伝えるためのイベントを	悲惨な戦争体験や被爆体験などを伝える記録を充実する	平和や平和活動に関する国内外や市内の情報を提供する	市の姿勢を明らかにした「非核都市宣言」を行う	市や市民の役割を明らかにした「国立市平和条例」をつくる	「平和都市宣言」を理解するシンボルマークをつくる	市民が相互に理解を共有する「平和憲章」をつくる	平和事業や活動を支援する「平和基金」をつくる	その他	特になし	不明
今回(H22)	37.5%	32.7%	27.9%	14.0%	13.0%	10.3%	8.9%	8.9%	4.3%	18.1%	5.0%		
前回(H15)	40.6%	39.3%	37.3%	18.4%	17.4%	7.1%	10.6%	15.3%	4.0%	12.6%	1.8%		

【性別、年齢別、地域別】



< 値は% >		問 2 6 市が進めるべき平和施策< 3 つまで選択可 >										
		平和の大切さを伝えるためのイベントを開催する	悲惨な戦争体験や被爆体験などを伝える記録を充実する	平和や平和活動に関する国内外や市内の情報を提供する	「平和都市宣言」を理解するシンボルマークをつくる	「平和都市宣言」を明らかにした「国立市平和条例」をつくる	市の姿勢を明らかにした「非核都市宣言」を行う	市民が相互に理解を共有する「平和憲章」をつくる	市民が相互に理解を共有する「平和基金」をつくる	平和事業や活動を支援する「平和基金」をつくる	その他	特にない
性別	男性(N=563)	34.8	28.8	24.7	12.8	15.1	12.8	9.9	9.1	5.0	22.2	4.1
	女性(N=668)	39.8	36.1	30.8	8.2	11.2	14.2	8.1	8.8	4.0	14.5	5.7
年齢	18～19歳(N=13)	46.2	46.2	23.1	15.4	7.7	15.4	15.4	7.7	0.0	15.4	0.0
	20～29歳(N=104)	29.8	29.8	18.3	10.6	15.4	13.5	4.8	18.3	4.8	22.1	1.0
	30～39歳(N=191)	36.6	36.1	31.9	6.3	14.7	10.5	7.3	10.5	5.2	15.7	1.0
	40～49歳(N=224)	34.4	27.7	27.2	7.1	11.2	11.2	3.1	8.5	5.8	23.2	2.7
	50～59歳(N=196)	39.8	31.1	29.6	9.2	12.2	17.3	10.2	10.7	3.1	16.8	5.1
	60～64歳(N=120)	33.3	28.3	28.3	11.7	11.7	11.7	12.5	6.7	3.3	20.0	6.7
	65～69歳(N=128)	38.3	30.5	32.8	10.9	16.4	17.2	15.6	6.3	4.7	14.8	7.0
	70歳以上(N=289)	42.6	39.4	25.3	15.2	12.1	15.6	9.7	5.2	3.8	16.3	9.3
居住地域	北(N=131)	42.7	27.5	34.4	15.3	17.6	13.7	10.7	7.6	3.1	10.7	5.3
	東(N=203)	37.9	32.5	28.6	9.9	11.8	15.3	8.4	11.8	4.4	17.2	6.4
	富士見台(N=315)	36.2	35.6	26.7	7.0	11.1	15.6	9.8	7.3	4.4	19.0	3.8
	中(N=137)	35.0	31.4	26.3	8.8	13.9	16.1	8.8	8.8	2.9	17.5	5.1
	西(N=164)	40.2	37.2	32.9	11.6	14.6	13.4	9.8	8.5	3.7	19.5	2.4
	谷保(N=172)	33.7	30.2	25.6	12.8	8.7	10.5	7.6	9.3	5.8	21.5	7.0
	泉(N=43)	37.2	30.2	18.6	14.0	23.3	16.3	9.3	14.0	7.0	20.9	2.3
	青柳(N=54)	44.4	33.3	29.6	7.4	9.3	13.0	1.9	9.3	1.9	9.3	5.6
	矢川・石田(N=22)	22.7	13.6	22.7	13.6	22.7	4.5	4.5	13.6	0.0	40.9	0.0

(2) 男女共同参画を進めるために充実させるべき施策[問27]

男女共同参画を推進するために充実すべき施策について伺ったところ<3つまで選択可>、「高齢社会に対応した介護・看護環境の整備充実」との回答が33.6%で最も高く、次いで「多様な保育・育児サービスの充実や家庭・地域における子育て支援事業の充実」との回答が24.2%、「女性の就業機会の拡充・支援」との回答が21.4%となっている。

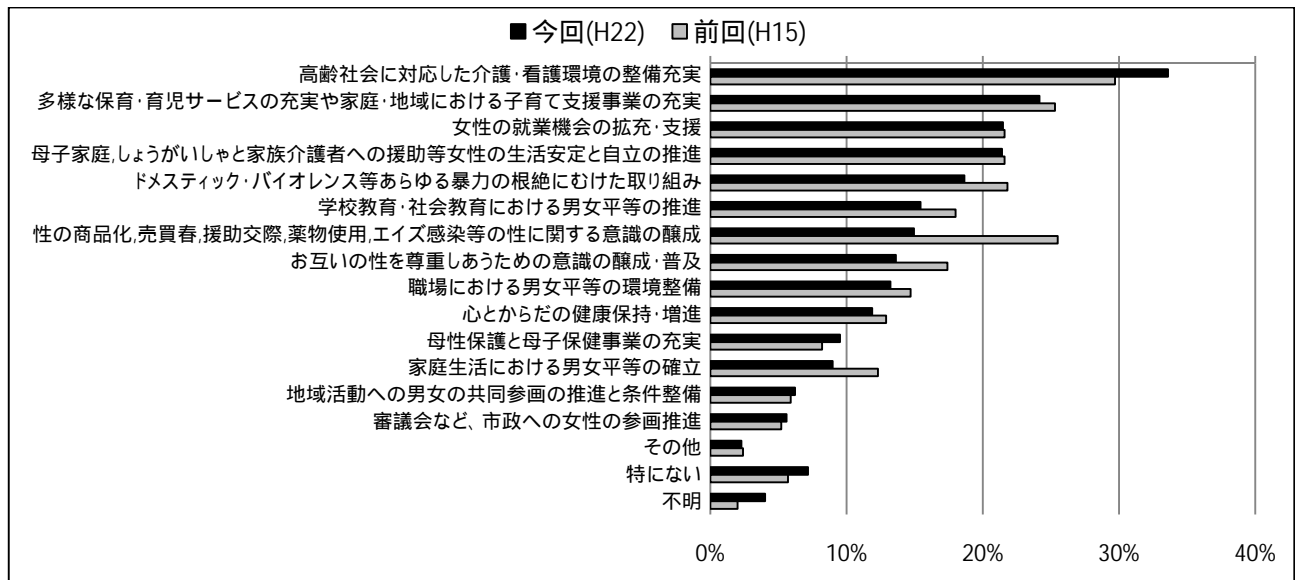
前調査と比較すると、「性の商品化,売買春,援助交際,薬物使用,エイズ感染等の性に関する意識の醸成」の回答が10.6%減少している。

性別では、「女性の就業機会の拡充・支援」の回答が女性の方が9.8%高く、「お互いの性を尊重しあうための意識の醸成・普及」の回答が男性の方が6.9%高い。

年齢別では、「高齢社会に対応した介護・看護環境の整備充実」の回答が年齢が上がるほど、高い比率となっている。また、30代で「多様な保育・育児サービスの充実や家庭・地域における子育て支援事業の充実」の回答が他の世代と比べて高い(全世代24.2%、30代42.9%)

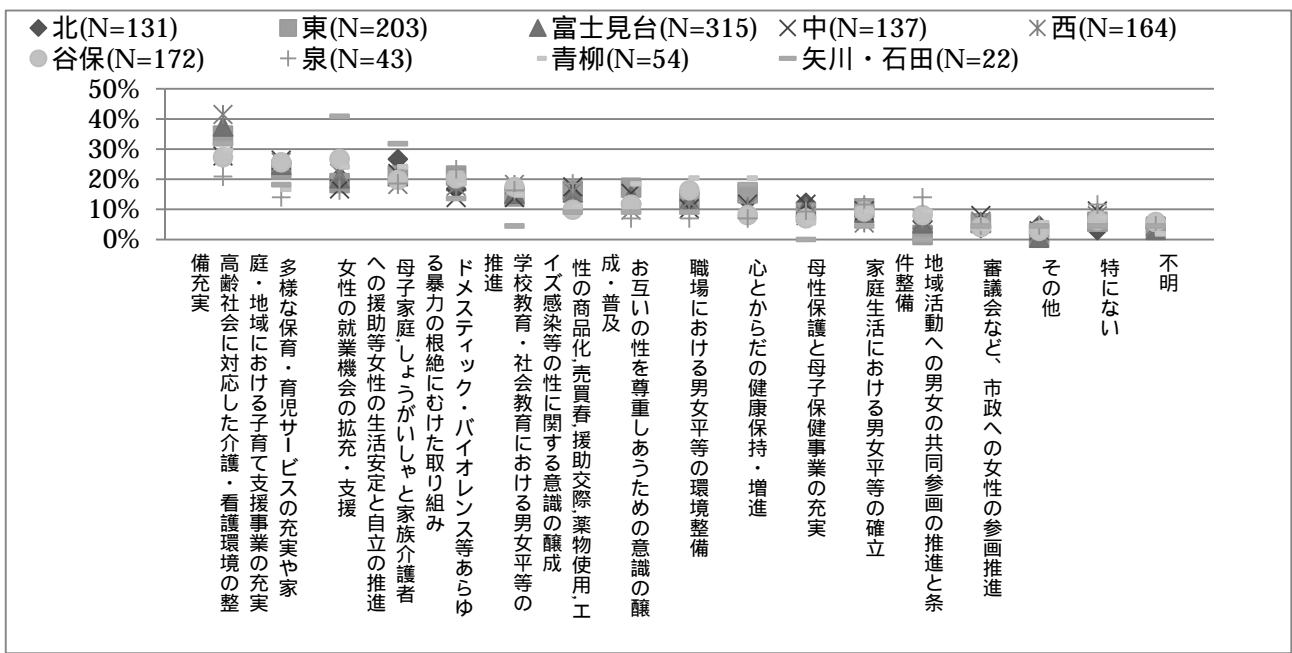
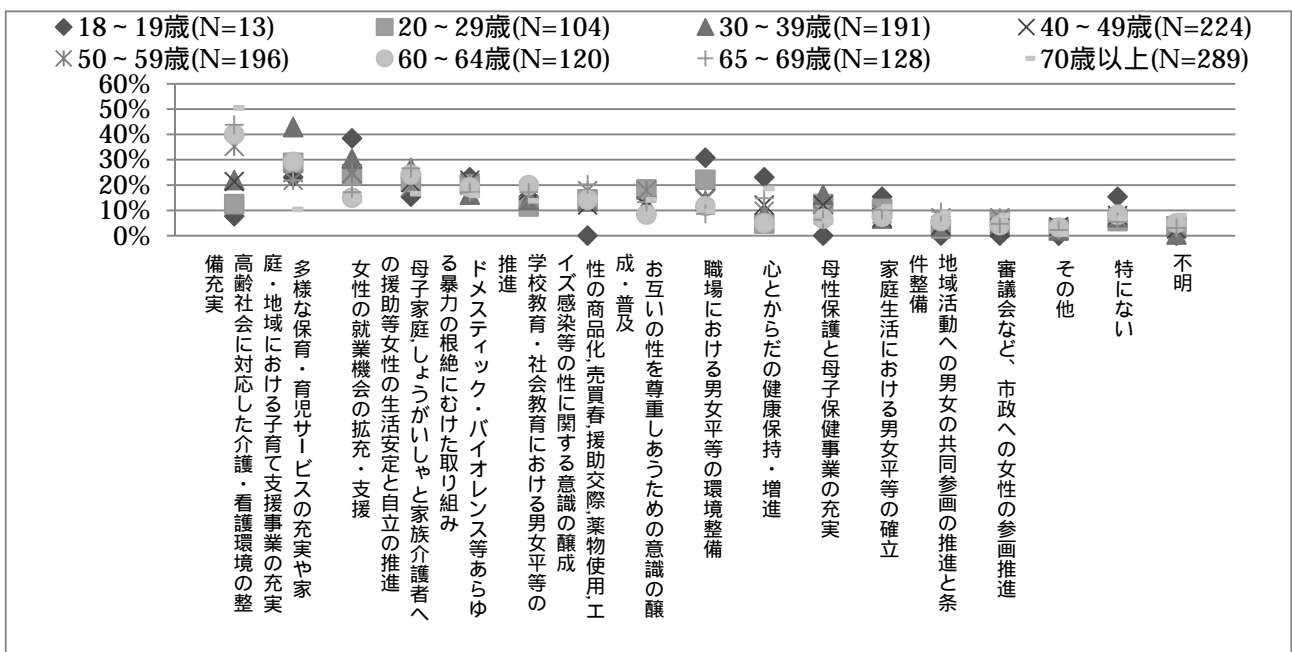
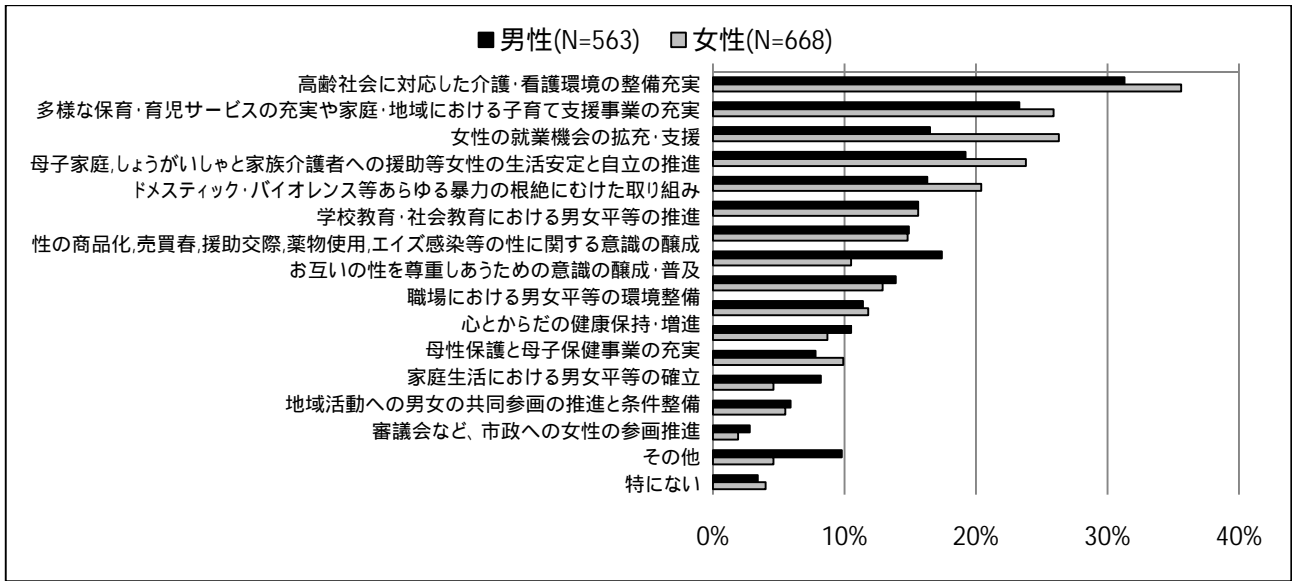
地域別では、「高齢社会に対応した介護・看護環境の整備充実」の回答が泉地区では低い(全地域33.6%、泉20.9%)

図 37 男女共同参画を進めるために充実させるべき施策(H22 N=1271, H15 N=707)



	高齢社会に対応した介護・看護環境の整備充実	多様な保育・育児サービスの充実や家庭・地域における子育て支援事業の充実	女性の就業機会の拡充・支援	母子家庭,しょうがいしゃと家族介護者への援助等女性の生活安定と自立の推進	ドメスティック・バイオレンス等あらゆる暴力の根絶にむけた取り組み	学校教育・社会教育における男女平等の推進	性的商品化,売買春,援助交際,薬物使用,エイズ感染等の性に関する意識の醸成	お互いの性を尊重しあうための意識の醸成・普及	職場における男女平等の環境整備	心とからだの健康保持・増進	母性保護と母子保健事業の充実	家庭生活における男女平等の確立	地域活動への男女の共同参画の推進と条件整備	審議会など、市政への女性の参画推進	その他	特になし	不明
今回(H22)	33.6%	24.2%	21.5%	21.4%	18.6%	15.4%	14.9%	13.6%	13.2%	11.9%	9.5%	9.0%	6.2%	5.6%	2.3%	7.2%	4.0%
前回(H15)	29.7%	25.3%	21.6%	21.6%	21.8%	18.0%	25.5%	17.4%	14.7%	12.9%	8.2%	12.3%	5.9%	5.2%	2.4%	5.7%	2.0%

【性別、年齢別、地域別】



< 値は% >		問 2 7 男女共同参画を推進するために充実すべき施策< 3 つまで選択可 >														特 に な い	不 明	
		高齢社会に 対 心 した 介 護 ・ 看 護 環 境 の 整 備 充 実	多様な保育・育 児 サ ー ビ ス の 充 実 や 家 庭 ・ 地 域 に お け る 子 育 て 支 援 事 業 の 充 実	女性 の 就 業 機 会 の 拡 充 ・ 支 援	性 と 家 族 介 護 者 へ の 援 助 等 女 性 の 生 活 安 定 と 自 立 の 推 進	母 子 家 庭 し よ う が い し や に む け た 取 り 組 み	ド メ ス テ ィ ッ ク ・ バ イ オ レ ン ス 等 あ ら ゆ る 暴 力 の 根 絶	学 校 教 育 ・ 社 会 教 育 に お け る 男 女 平 等 の 推 進	性 の 商 品 化 ・ 売 買 春 援 助 交 際 薬 物 使 用 エ ィ ズ 感 染 等 の 性 に 関 する 意 識 の 醸 成	お 互 い の 性 を 尊 重 し あ う た め の 意 識 の 醸 成 ・ 普 及	環 境 整 備	職 場 に お け る 男 女 平 等 の 環 境 整 備	心 と か ら だ の 健 康 保 持 ・ 増 進	母 性 保 護 と 母 子 保 健 事 業 の 充 実	家 庭 生 活 に お け る 男 女 平 等 の 確 立			地 域 活 動 へ の 男 女 の 共 同 参 画 の 推 進 と 条 件 整 備
性 別	男性(N=563)	31.3	23.3	16.5	19.2	16.3	15.6	14.9	17.4	13.9	11.4	10.5	7.8	8.2	5.9	2.8	9.8	3.4
	女性(N=668)	35.6	25.9	26.3	23.8	20.4	15.6	14.8	10.5	12.9	11.8	8.7	9.9	4.6	5.5	1.9	4.6	4.0
年 齢	18～19歳(N=13)	7.7	23.1	38.5	15.4	23.1	15.4	0.0	15.4	30.8	23.1	0.0	15.4	0.0	0.0	0.0	15.4	0.0
	20～29歳(N=104)	12.5	28.8	24.0	21.2	20.2	11.5	14.4	18.3	22.1	4.8	12.5	10.6	2.9	5.8	2.9	5.8	3.8
	30～39歳(N=191)	22.0	42.9	30.4	26.7	16.2	14.1	13.6	12.0	13.6	8.4	16.2	6.8	3.7	4.7	2.1	7.3	0.5
	40～49歳(N=224)	21.4	25.0	24.6	21.0	21.9	17.9	12.1	11.6	14.7	12.1	12.1	7.1	4.0	3.1	3.6	8.0	2.7
	50～59歳(N=196)	35.2	21.9	24.5	19.4	20.9	14.8	17.9	17.9	14.3	9.7	8.2	8.7	7.1	7.1	2.6	7.1	3.6
	60～64歳(N=120)	40.0	29.2	15.0	24.2	19.2	20.0	14.2	8.3	11.7	5.0	6.7	7.5	5.8	4.2	3.3	8.3	5.0
	65～69歳(N=128)	43.8	21.9	17.2	26.6	17.2	17.2	20.3	13.3	8.6	14.8	6.3	10.2	9.4	4.7	2.3	5.5	3.1
70歳以上(N=289)	50.5	10.4	13.8	16.6	15.9	13.8	14.9	14.2	9.7	18.7	5.9	11.4	9.0	8.0	0.7	6.9	8.0	
居 住 地 域	北(N=131)	34.4	25.2	20.6	26.7	16.8	16.8	13.7	12.2	15.3	13.0	12.2	10.7	6.1	3.8	4.6	3.1	3.8
	東(N=203)	34.5	23.2	18.7	21.2	21.2	14.3	16.3	17.2	12.8	15.3	8.9	10.3	1.5	5.4	1.0	5.9	3.9
	富士見台(N=315)	37.5	24.8	20.3	21.0	19.4	15.2	15.6	14.6	13.0	10.2	10.8	8.9	5.4	5.7	0.6	8.3	3.2
	中(N=137)	27.7	26.3	16.8	21.9	13.9	13.9	17.5	15.3	10.2	11.7	11.7	9.5	6.6	8.0	2.9	9.5	4.4
	西(N=164)	41.5	25.6	22.0	18.3	17.7	18.3	15.9	9.8	12.8	11.0	7.9	5.5	6.7	6.1	2.4	7.9	4.3
	谷保(N=172)	27.3	25.6	26.7	19.8	20.3	17.4	9.9	11.6	16.3	8.1	7.0	9.3	8.1	4.1	2.9	6.4	5.8
	泉(N=43)	20.9	14.0	16.3	18.6	23.3	16.3	18.6	7.0	7.0	7.0	9.3	11.6	14.0	4.7	4.7	11.6	4.7
	青柳(N=54)	29.6	16.7	24.1	24.1	18.5	14.8	11.1	18.5	20.4	20.4	5.6	9.3	9.3	3.7	5.6	7.4	1.9
矢川・石田(N=22)	31.8	18.2	40.9	31.8	13.6	4.5	9.1	9.1	9.1	18.2	0.0	4.5	0.0	4.5	4.5	4.5	4.5	

(3) 不安になったり侵害されていると感じるプライバシー情報[問28]

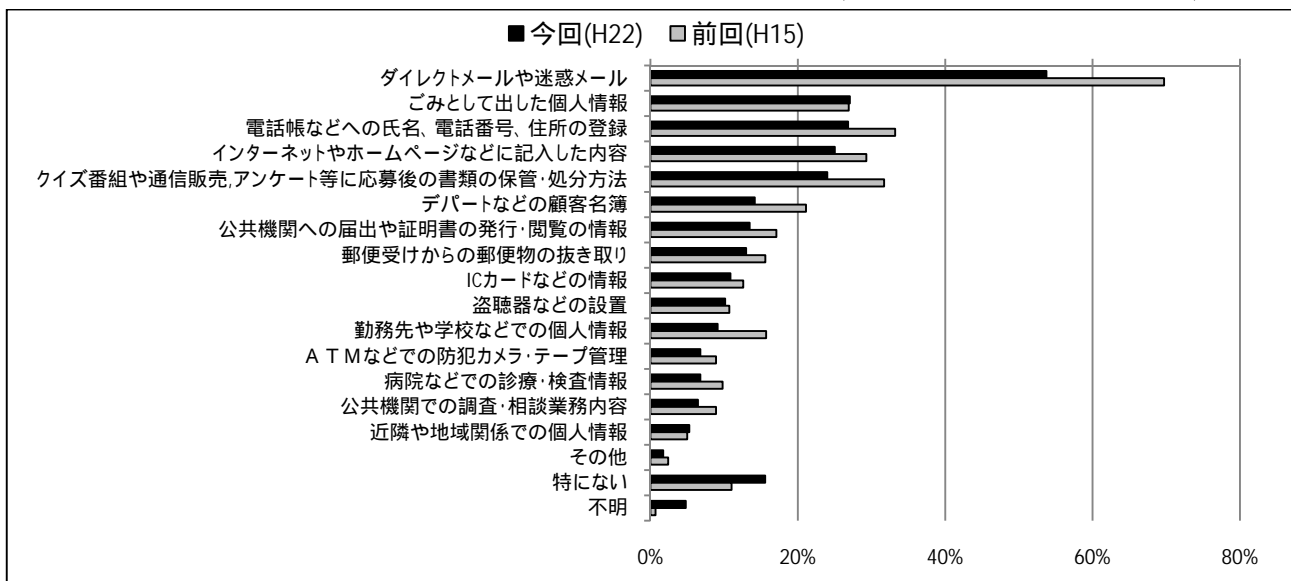
不安になったり侵害されていると感じるプライバシー情報について伺ったところ<あてはまるもの全てを選択>、「ダイレクトメールや迷惑メール」との回答が53.7%と最も多く、次いで「ごみとして出した個人情報」27.1%、「電話帳などへの氏名、電話番号、住所の登録」26.8%、「インターネットやホームページなどに記入した内容」25.0%、「クイズ番組や通信販売、アンケート等に応募後の書類の保管・処分方法」24.0%であった。

前調査と比較すると、「ダイレクトメールや迷惑メール」との回答が16.0%減少し、「電話帳などへの氏名、電話番号、住所の登録」「クイズ番組や通信販売、アンケート等に応募後の書類の保管・処分方法」「デパートなどの顧客名簿」「勤務先や学校などでの個人情報」といった項目でも5%以上減少している。

性別では、「ごみとして出した個人情報」の項目は女性の方が10.0%高く、「クイズ番組や通信販売、アンケート等に応募後の書類の保管・処分方法」については女性の方が8.9%高い。

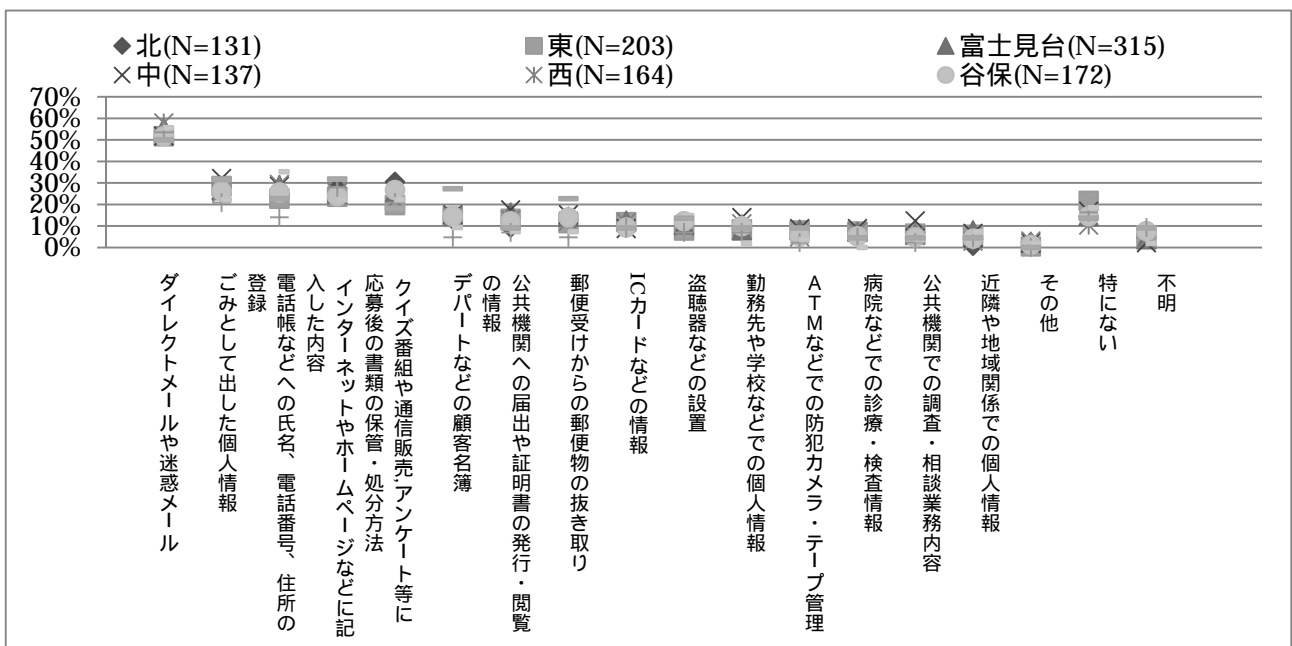
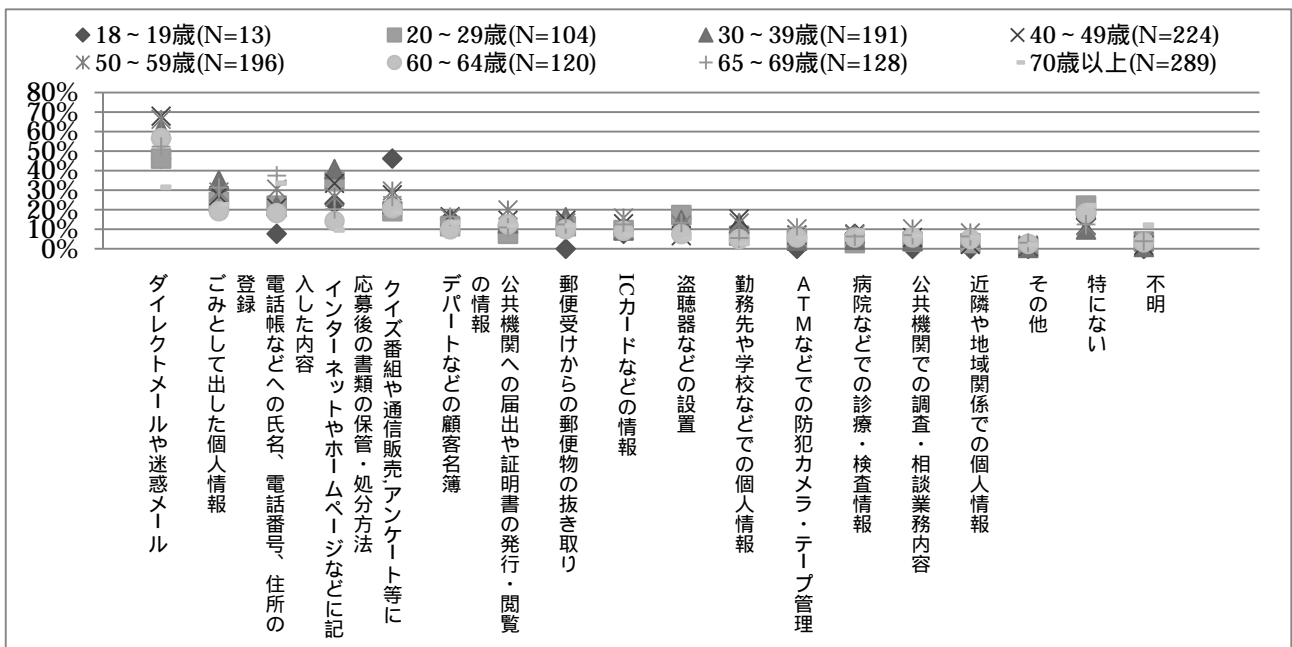
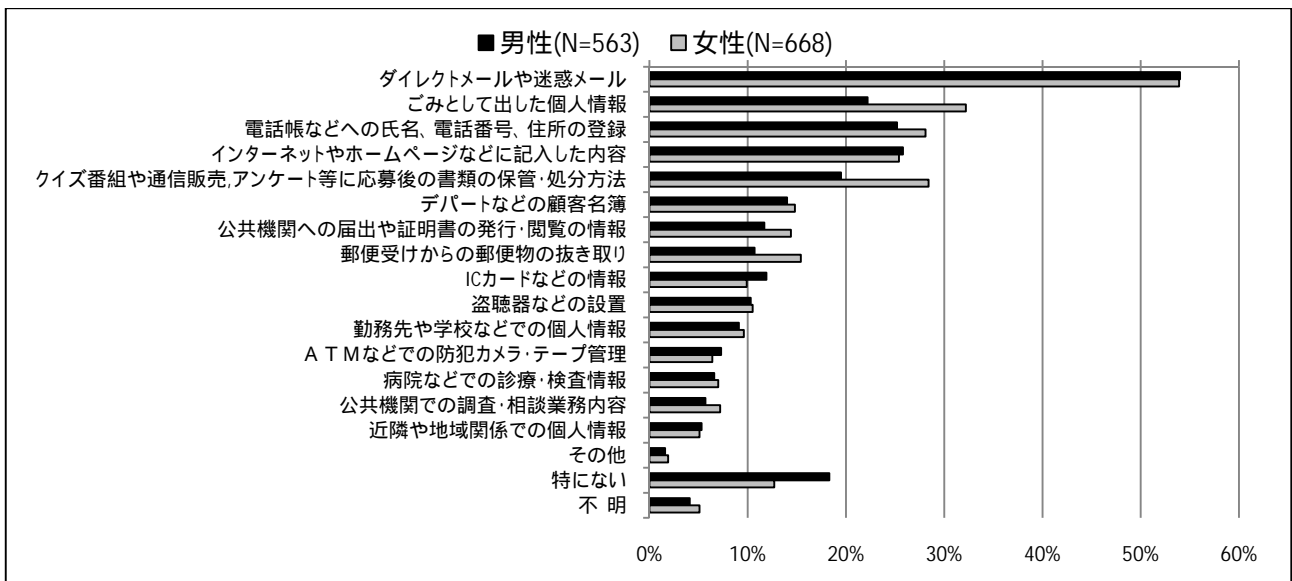
年齢別では、70代以上で「ダイレクトメールや迷惑メール」「インターネットやホームページなどに記入した内容」の回答が他の世代に比べて低い(前者 全世代53.7%、70歳以上31.5%、後者 全世代25.0%、70歳以上9.7%)。また、30代では「インターネットやホームページなどに記入した内容」の回答が40.8%と他の世代に比べて高い。

図 38 不安になったり侵害されていると感じるプライバシー情報(H22 N=1271, H15 N=707)



	ダイレクトメールや迷惑メール	ごみとして出した個人情報	電話帳などへの氏名、電話番号、住所の登録	インターネットやホームページなどに記入した内容	クイズ番組や通信販売、アンケート等に応募後の書類の保管・処分方法	デパートなどの顧客名簿	公共機関への届出や証明書の発行・閲覧の情報	郵便受けからの郵便物の抜き取り	ICカードなどの情報	盗聴器などの設置	勤務先や学校などでの個人情報	ATMなどでの防犯カメラ・テープ管理	病院などでの診療・検査情報	公共機関での調査・相談業務内容	近隣や地域関係での個人情報	その他	特になし	不明
今回(H22)	53.7%	27.1%	26.8%	25.0%	24.0%	14.2%	13.5%	13.0%	10.9%	10.1%	9.1%	6.8%	6.8%	6.5%	5.3%	1.7%	15.6%	4.8%
前回(H15)	69.7%	26.9%	33.2%	29.3%	31.7%	21.1%	17.1%	15.6%	12.6%	10.7%	15.7%	8.9%	9.8%	8.9%	5.0%	2.4%	11.0%	0.7%

【性別、年齢別、地域別】



<値は%>		問28 不安になったり、侵害されていると感じたプライバシー<あてはまるもの全てを選択>																										
		ダイレクトメールや迷惑メール	報	ごみとして出した個人情報	電話番号、住所の登録	電話帳などへの氏名、電	容	ページなどに記入した内容	インターネットやホームページ	書類の保管・処分方法	アンケート等に応募後の	クイズ番組や通信販売	デパートなどの顧客名簿	公共機関への届出や証明書の発行・閲覧の情報	抜き取り	郵便受けからの郵便物の	カードなどの情報	盗聴器などの設置	勤務先や学校などでの個人情報	ラ・テーブ管理	A T Mなどの防犯カメラ	情報	病院などでの診療・検査	業務内容	公共機関での調査・相談	情報	近隣や地域関係での個人	その他
性別	男性(N=563)	54.0	22.2	25.2	25.8	19.5	14.0	11.7	10.7	11.9	10.3	9.1	7.3	6.6	5.7	5.3	1.6	18.3	4.1									
	女性(N=668)	53.9	32.2	28.1	25.4	28.4	14.8	14.4	15.4	9.9	10.5	9.6	6.4	7.0	7.2	5.1	1.9	12.7	5.1									
年齢	18～19歳(N=13)	46.2	30.8	7.7	23.1	46.2	15.4	7.7	0.0	7.7	15.4	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	15.4	0.0									
	20～29歳(N=104)	46.2	24.0	22.1	34.6	19.2	11.5	7.7	11.5	9.6	17.3	6.7	4.8	2.9	3.8	2.9	1.0	22.1	3.8									
	30～39歳(N=191)	61.3	35.1	22.0	40.8	23.0	13.6	13.1	16.2	9.4	14.7	13.1	4.2	4.7	4.2	5.8	0.5	9.9	1.0									
	40～49歳(N=224)	67.9	27.2	21.0	33.5	27.7	16.5	14.7	14.7	12.9	6.7	15.2	7.1	7.6	5.8	2.2	1.3	12.1	1.8									
	50～59歳(N=196)	66.3	29.1	30.6	26.5	29.6	15.8	19.9	13.3	15.8	12.2	13.3	10.2	7.1	10.2	8.2	2.0	11.7	3.6									
	60～64歳(N=120)	56.7	19.2	18.3	14.2	20.8	10.0	12.5	10.0	9.2	7.5	5.0	5.8	5.8	5.8	5.0	2.5	18.3	3.3									
	65～69歳(N=128)	52.3	31.3	37.5	20.3	26.6	16.4	10.9	12.5	12.5	13.3	5.5	10.9	6.3	7.0	6.3	3.1	12.5	3.9									
	70歳以上(N=289)	31.5	22.5	33.6	9.7	18.7	13.5	11.8	11.8	7.3	5.5	2.8	5.5	9.0	6.9	5.9	2.1	22.1	12.1									
居住地	北(N=131)	52.7	26.0	23.7	27.5	30.5	13.0	9.2	13.0	9.2	9.9	9.2	6.1	6.1	6.9	0.8	2.3	14.5	4.6									
	東(N=203)	51.7	28.6	22.7	23.6	19.7	14.3	13.3	11.3	11.8	7.9	8.4	7.9	7.4	6.4	5.9	0.5	21.7	4.4									
	富士見台(N=315)	55.6	26.7	28.9	24.8	25.7	14.6	16.2	14.3	12.4	10.8	7.9	8.3	7.3	6.0	7.9	2.2	14.6	3.8									
	中(N=137)	51.8	32.1	28.5	25.5	21.9	15.3	17.5	15.3	8.8	10.2	13.9	8.8	8.8	12.4	6.6	2.2	16.8	2.2									
	西(N=164)	57.9	25.6	29.3	25.6	22.0	14.6	12.8	12.2	11.6	9.8	11.0	4.9	7.3	5.5	3.0	3.0	10.4	3.7									
	谷保(N=172)	51.7	26.2	25.6	23.8	26.7	14.5	12.2	14.0	9.3	12.2	9.9	5.2	5.2	4.7	4.1	1.2	14.5	7.6									
	泉(N=43)	53.5	20.9	14.0	27.9	20.9	4.7	7.0	4.7	9.3	7.0	7.0	2.3	4.7	2.3	4.7	0.0	16.3	9.3									
	青柳(N=54)	55.6	22.2	35.2	22.2	22.2	9.3	7.4	7.4	9.3	14.8	1.9	3.7	0.0	3.7	7.4	1.9	18.5	1.9									
矢川・石田(N=22)	50.0	31.8	22.7	31.8	18.2	27.3	9.1	22.7	9.1	13.6	9.1	9.1	4.5	4.5	4.5	0.0	13.6	9.1										

10. 市政への関心

(1) 国立市政への関心[問29]

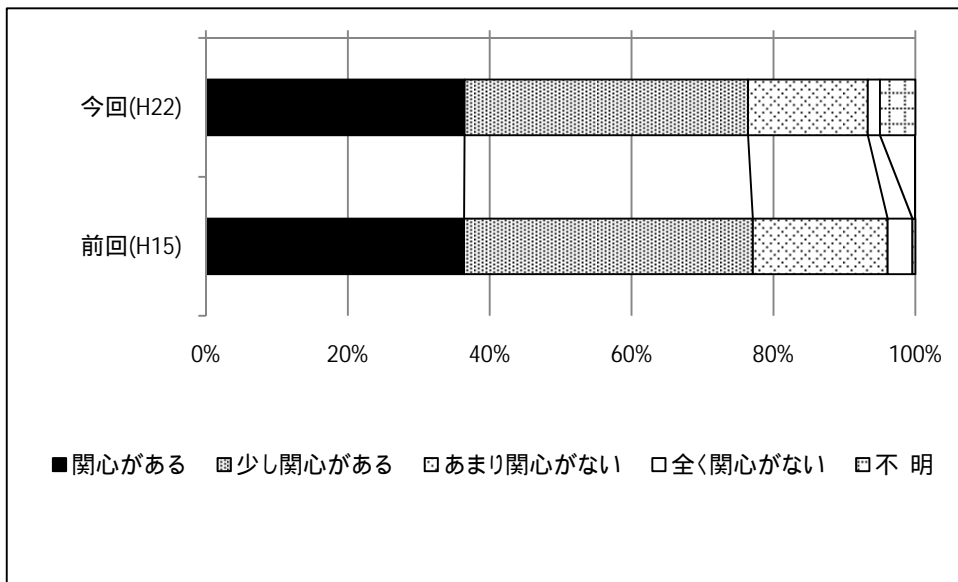
国立市政への関心を伺ったところ、関心があると答えた市民の割合（関心がある、少し関心があると回答した人の合計）は、76.5%と、前調査とほぼ同じであった。

性別では、男性の方が「関心がある」と回答した比率が高く（男性41.6%、女性31.7%）、女性の方が「少し関心がある」と回答した比率が高く（男性36.2%、女性43.6%）、合計するとほぼ同じであった。

年齢別では、年齢が上がるほど、関心がある比率は高まっている。

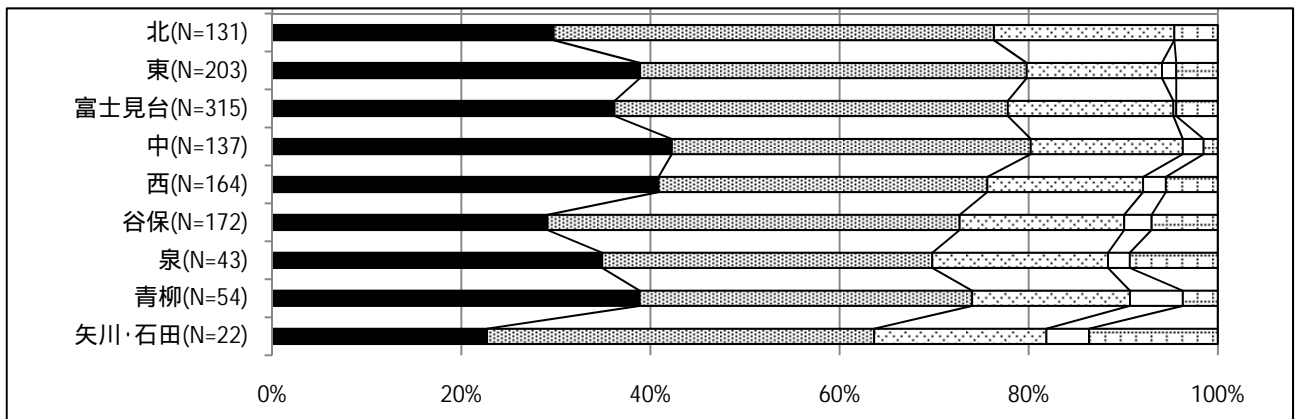
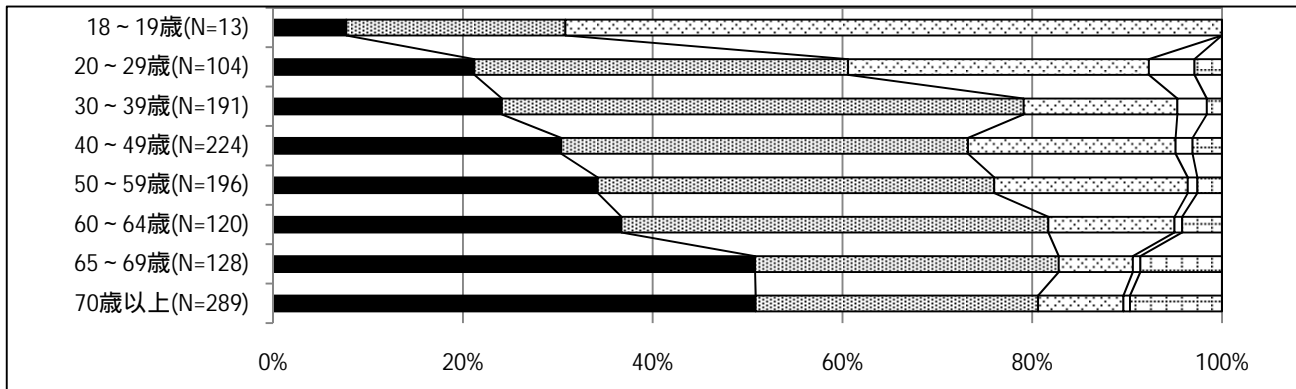
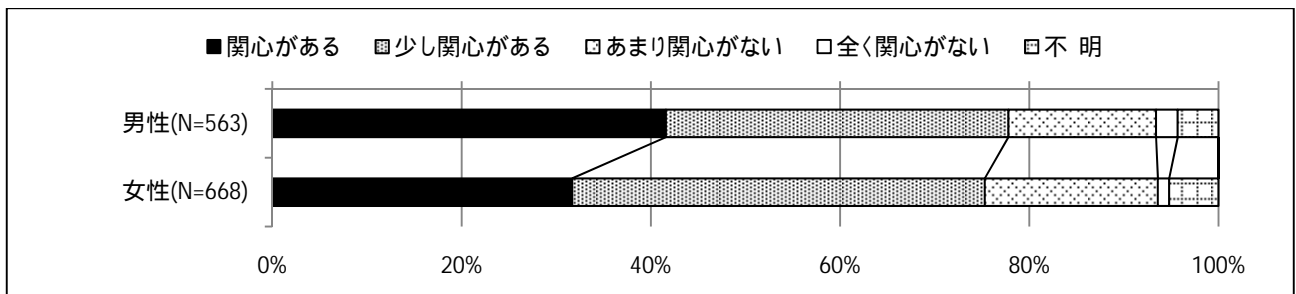
地域別では、大きな差異は見られない。

図 39 国立市政への関心(H22 N=1271, H15 N=707)



	関心がある	少し関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	不明
今回(H22)	36.5%	40.0%	16.9%	1.7%	5.0%
前回(H15)	36.4%	40.7%	19.0%	3.5%	0.4%

【性別、年齢別、地域別】



<値は%>		問29 市政への関心				
		関心がある	少し関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	不明
性別	男性(N=563)	41.6	36.2	15.6	2.3	4.3
	女性(N=668)	31.7	43.6	18.3	1.2	5.2
年齢	18～19歳(N=13)	7.7	23.1	69.2	0	0
	20～29歳(N=104)	21.2	39.4	31.7	4.8	2.9
	30～39歳(N=191)	24.1	55.0	16.2	3.1	1.6
	40～49歳(N=224)	30.4	42.9	21.9	1.8	3.1
	50～59歳(N=196)	34.2	41.8	20.4	1.0	2.6
	60～64歳(N=120)	36.7	45.0	13.3	0.8	4.2
	65～69歳(N=128)	50.8	32.0	7.8	0.8	8.6
	70歳以上(N=289)	50.9	29.8	9.0	0.7	9.7
居住地	北(N=131)	29.8	46.6	19.1	0	4.6
	東(N=203)	38.9	40.9	14.3	1.5	4.4
	富士見台(N=315)	36.2	41.6	17.5	0.3	4.4
	中(N=137)	42.3	38.0	16.1	2.2	1.5
	西(N=164)	40.9	34.8	16.5	2.4	5.5
	谷保(N=172)	29.1	43.6	17.4	2.9	7.0
	泉(N=43)	34.9	34.9	18.6	2.3	9.3
	青柳(N=54)	38.9	35.2	16.7	5.6	3.7
	矢川・石田(N=22)	22.7	40.9	18.2	4.5	13.6

(2) 市の仕事・問題の認知手段[問30]

市で行っている仕事の内容や市が抱える問題を知る手段について伺ったところ<3つまで選択可>、「市報くにたち」が88.0%と最も多く、次いで「市議会だより」40.8%となっている。

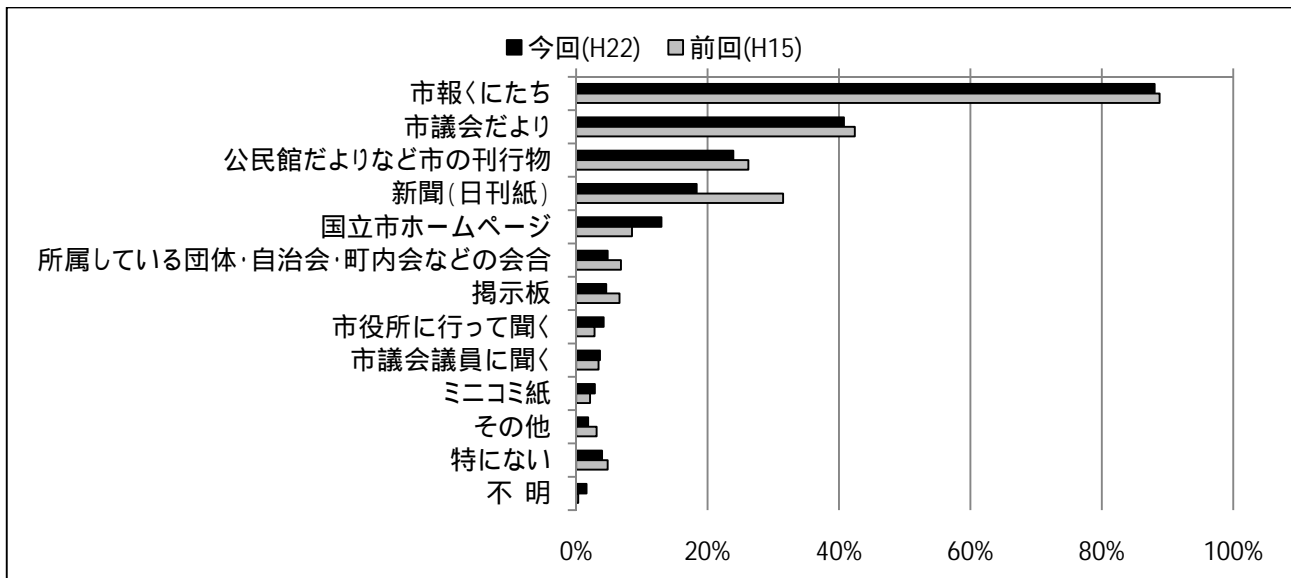
前調査と比較すると、「新聞(日刊紙)」が13.2%減少している。

性別では、女性が「市報くにたち」「市議会だより」「公民館だよりなど市の刊行物」で知る割合が高いが、男性は「新聞(日刊紙)」「国立市ホームページ」で知る割合が高い。

年齢別では、20代で「特にない」との回答が他の世代に比べて高く(全世代3.9%、20代14.4%)、「市報くにたち」「市議会だより」「公民館だよりなど市の刊行物」との回答が他の世代に比べて約20%ほど低い。

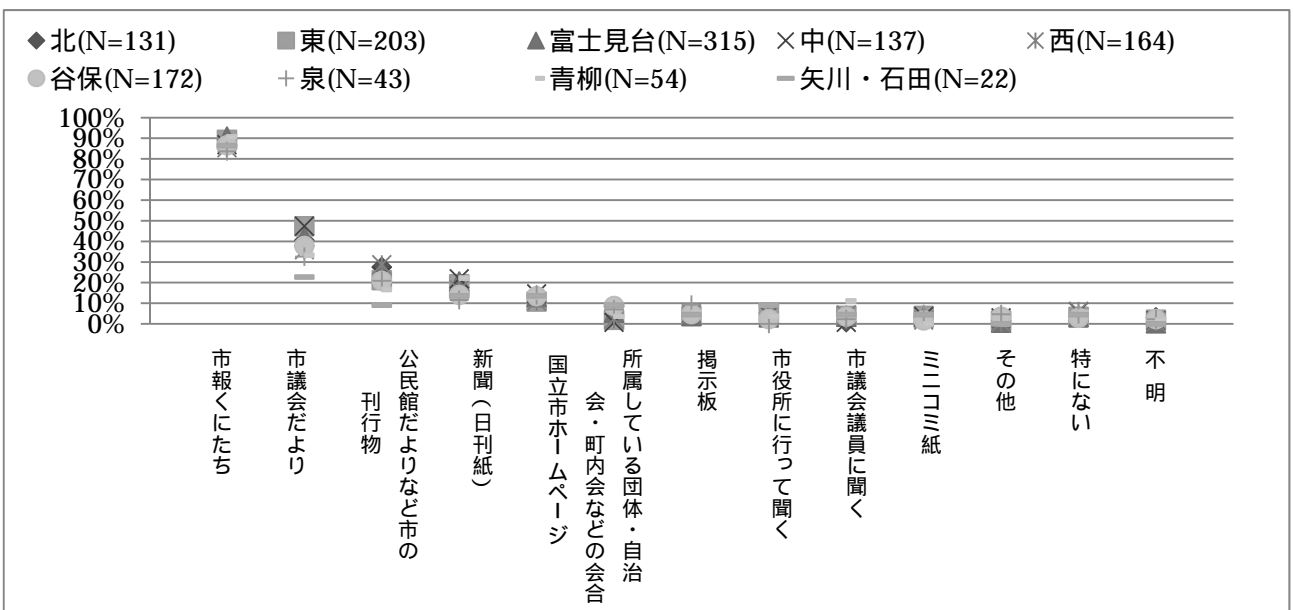
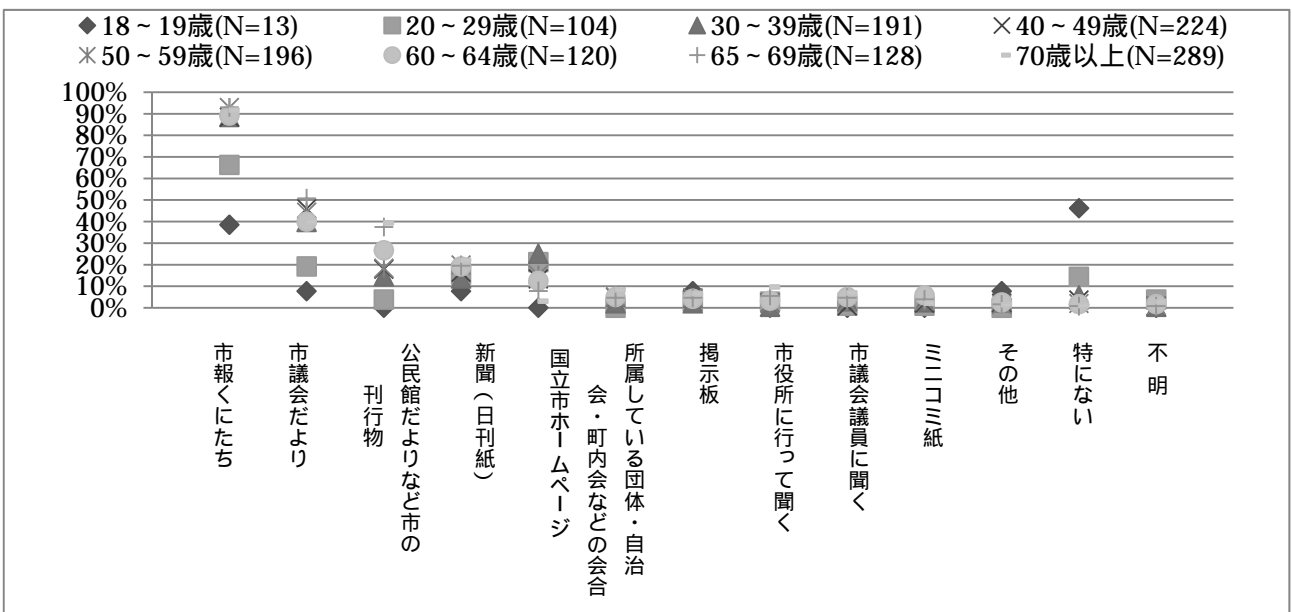
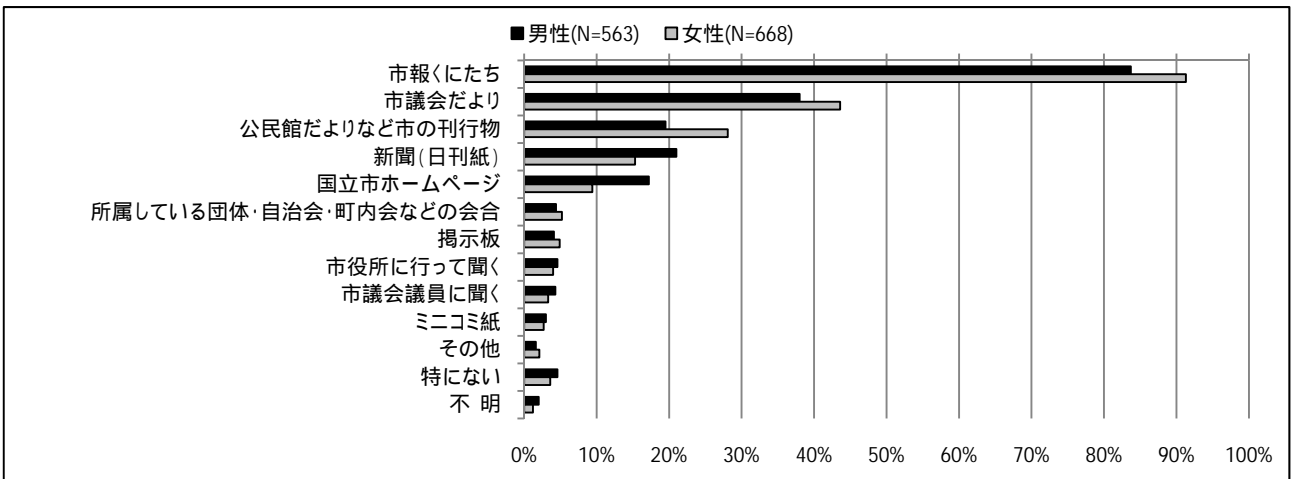
地域別では、特に大きな差異は見られない。

図 40 市の仕事・問題の認知手段(H22 N=1271, H15 N=707)



	市報くにたち	市議会だより	公民館だよりなど市の刊行物	新聞(日刊紙)	国立市ホームページ	所属している団体・自治会・町内会などの会合	掲示板	市役所に行って聞く	市議会議員に聞く	ミニコミ紙	その他	特にない	不明
今回(H22)	88.0%	40.8%	23.9%	18.3%	13.0%	4.8%	4.6%	4.2%	3.6%	2.8%	1.8%	3.9%	1.6%
前回(H15)	88.8%	42.4%	26.2%	31.5%	8.5%	6.8%	6.6%	2.8%	3.4%	2.1%	3.1%	4.8%	0.3%

【性別、年齢別、地域別】



< 値は% >		問 30 市で行っている仕事の内容や市が抱える問題の認知手段< 3つまで選択可 >												
		市報くにたち	市議会だより	物など市の刊行	公民館だより	新聞(日刊紙)	国立市ホームページ	会・団体の自治会・町内会など	所属している自治会	掲示板	市役所に行つて聞く	市議会議員に聞く	ミニコミ紙	その他
性別	男性(N=563)	83.7	38.0	19.5	21.0	17.2	4.4	4.1	4.6	4.3	3.0	1.6	4.6	2.0
	女性(N=668)	91.3	43.6	28.1	15.3	9.4	5.2	4.9	4.0	3.3	2.7	2.1	3.6	1.2
年齢	18～19歳(N=13)	38.5	7.7	0	7.7	0	0	7.7	0	0	0	7.7	46.2	0
	20～29歳(N=104)	66.3	19.2	3.8	15.4	21.2	0	2.9	2.9	1.0	1.0	0	14.4	3.8
	30～39歳(N=191)	88.5	39.8	14.7	13.6	25.1	2.1	2.1	0.5	3.1	2.6	2.6	5.8	0.5
	40～49歳(N=224)	88.4	46.0	17.9	16.5	13.4	4.9	4.5	2.2	0.9	2.2	2.2	3.6	0.9
	50～59歳(N=196)	92.9	44.4	18.4	19.9	15.3	5.1	4.6	2.0	2.6	3.1	1.5	2.0	1.0
	60～64歳(N=120)	89.2	40.0	26.7	19.2	12.5	5.0	4.2	3.3	5.0	5.8	2.5	1.7	1.7
	65～69歳(N=128)	93.0	50.8	37.5	19.5	7.8	4.7	4.7	5.5	4.7	3.9	1.6	0.8	0.8
70歳以上(N=289)	91.7	39.8	39.4	22.1	3.1	8.3	6.6	9.7	6.9	2.1	1.4	1.0	2.8	
居住地域	北(N=131)	89.3	40.5	27.5	17.6	13.7	8.4	3.8	5.3	0.8	3.1	1.5	3.1	3.1
	東(N=203)	89.2	47.3	21.2	19.2	10.8	2.0	3.9	5.4	3.9	3.9	1.5	3.4	2.0
	富士見台(N=315)	90.8	42.2	25.7	20.6	13.0	5.4	3.8	3.2	3.5	3.2	0.6	3.2	0.3
	中(N=137)	86.9	47.4	23.4	21.9	14.6	0.7	5.1	4.4	0.7	3.6	2.9	5.8	1.5
	西(N=164)	85.4	36.0	28.7	16.5	11.0	2.4	4.9	4.9	4.3	1.8	0.6	6.1	1.2
	谷保(N=172)	86.6	37.8	20.9	14.0	13.4	8.7	4.7	2.3	3.5	1.7	3.5	2.9	2.3
	泉(N=43)	83.7	32.6	20.9	11.6	14.0	7.0	9.3	0	2.3	4.7	4.7	4.7	2.3
	青柳(N=54)	90.7	33.3	16.7	22.2	13.0	3.7	5.6	3.7	11.1	0	0	5.6	1.9
矢川・石田(N=22)	86.4	22.7	9.1	13.6	13.6	9.1	4.5	9.1	4.5	4.5	0	4.5	0	

(3) 市への意見・要望・苦情の伝達方法[問31]

市への意見・要望・苦情の伝達方法について伺ったところ<3つまで選択可>、「市役所の担当課に行くか、電話をする」との回答が60.5%と最も高く、次いで「市役所の市民相談に行くか、電話をする」との回答が29.8%であった。

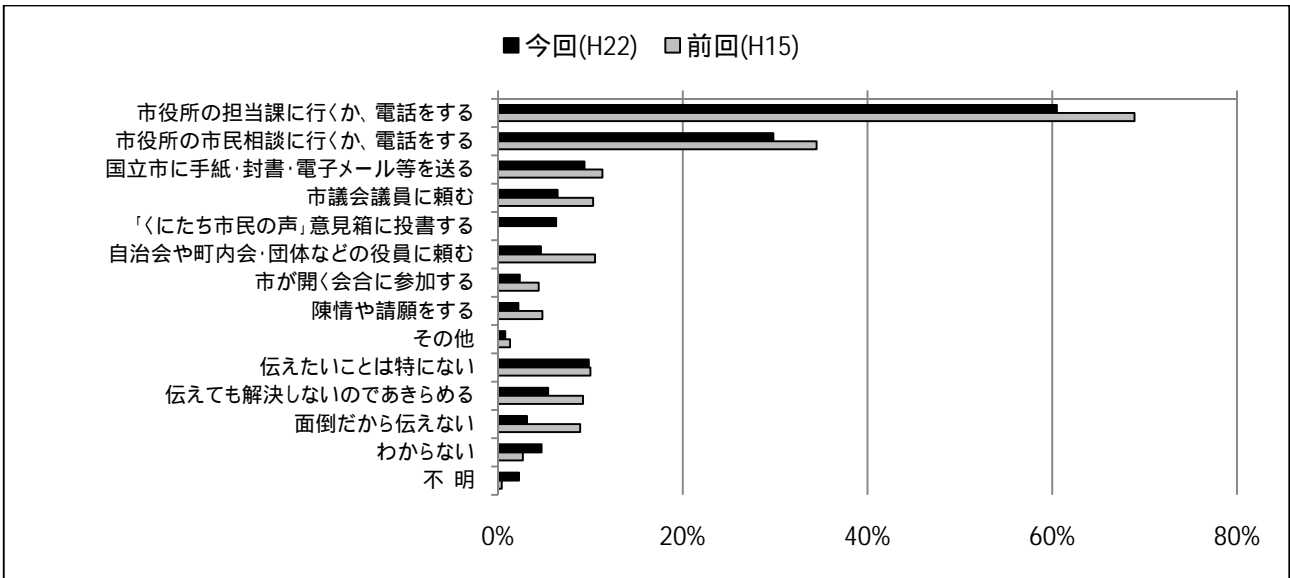
前調査と比較すると、「市役所の担当課に行くか、電話をする」との回答が8.4%減少しており、「自治会や町内会・団体などの役員に頼む」との回答も5.9%減少、「面倒だから伝えない」との回答も5.8%減少している。

性別では、特に大きな差異は見られない。

年齢別では、「市役所の担当課に行くか、電話をする」との回答が年齢が高くなるほど割合も高くなる傾向があり、特に60代後半(65~69歳)では81.3%と高い値を示している。

地域別では、特に大きな差異は見られない。

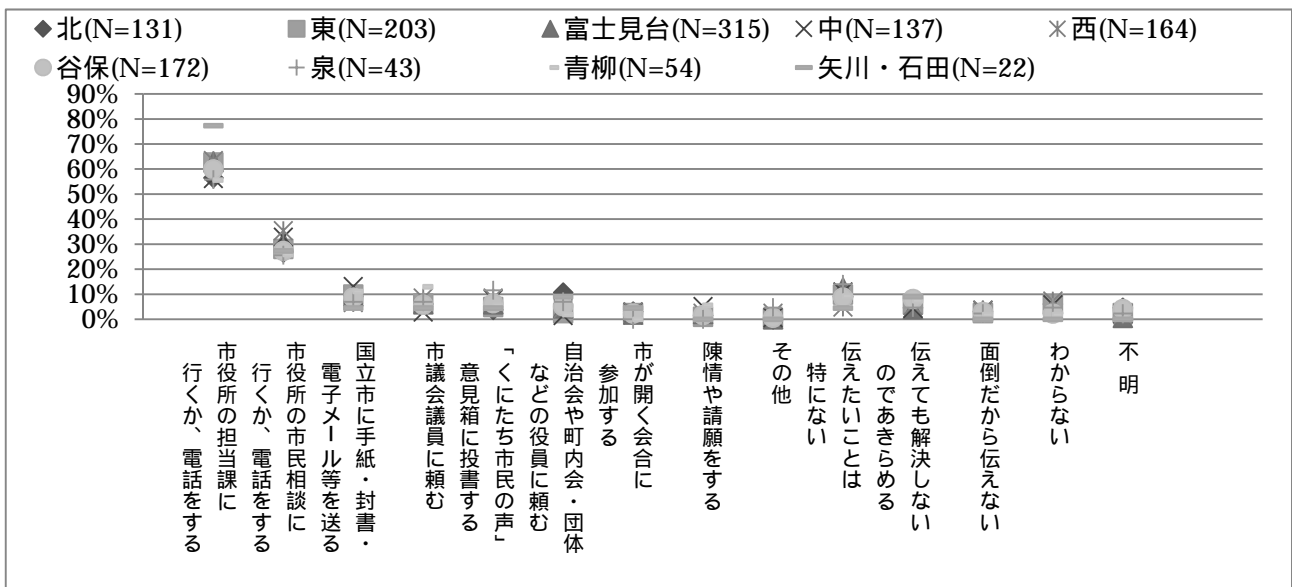
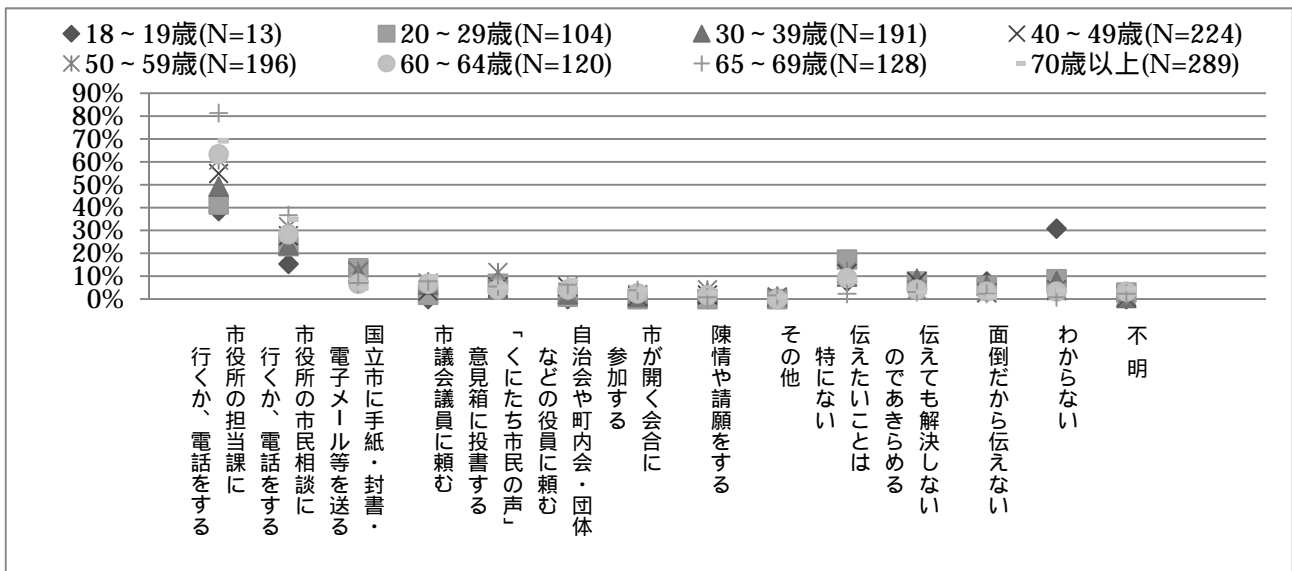
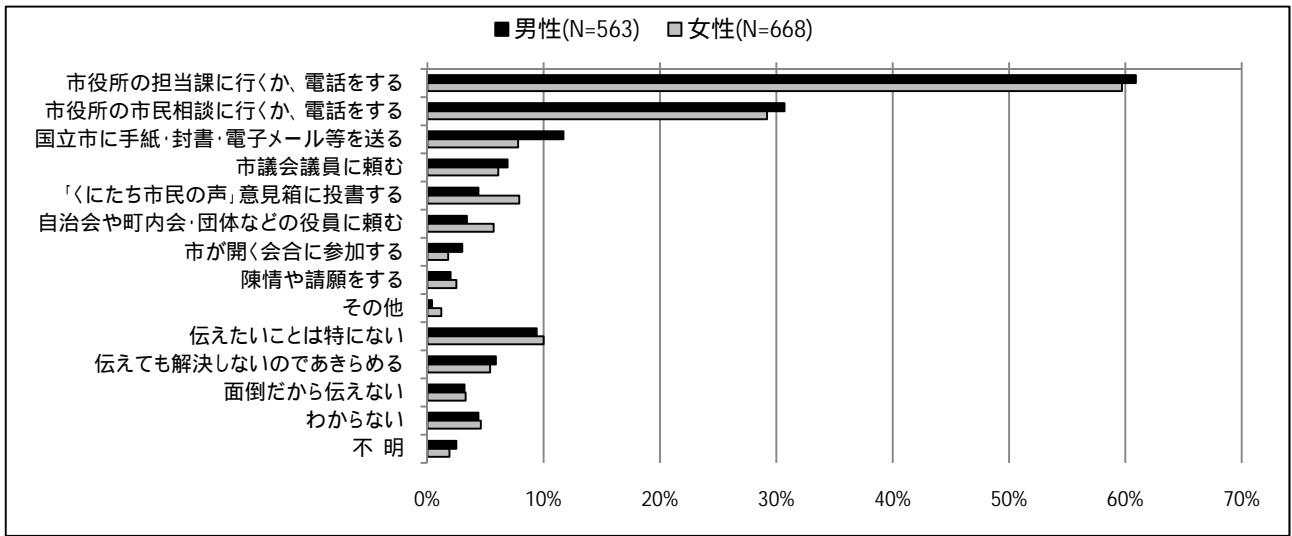
図 41 市への意見・要望・苦情の伝達方法(H22 N=1271, H15 N=707)



	市役所の担当課に行くか、電話をする	市役所の市民相談に行くか、電話をする	国立市に手紙・封書・電子メール等を送る	市議会議員に頼む	「くにたち市民の声」意見箱に投書する	自治会や町内会・団体などの役員に頼む	市が開く会合に参加する	陳情や請願をする	その他	伝えたいことは特にない	伝えても解決しないのであきらめる	面倒だから伝えない	わからない	不明
今回(H22)	60.5%	29.8%	9.4%	6.5%	6.3%	4.6%	2.4%	2.2%	0.8%	9.8%	5.4%	3.1%	4.7%	2.3%
前回(H15)	68.9%	34.5%	11.3%	10.3%		10.5%	4.4%	4.8%	1.3%	10.0%	9.2%	8.9%	2.7%	0.4%

「くにたち市民の声」意見箱に投書するの選択肢は今回からの選択肢

【性別、年齢別、地域別】



<値は%>		問3 1 意見や要望・苦情を市に伝える手段<3つまで選択可>													
		市役所の担当課に行くか、電話をする	市役所の市民相談に行くか、電話をする	国立市に手紙・封書・電子メール等を送る	市議会議員に頼む	「くにたち市民の声」意見箱に投書する	自治会や町内会・団体などの役員に頼む	市が開く会合に参加する	陳情や請願をする	その他	伝えたいことは特にない	伝えても解決しないのであきらめる	面倒だから伝えない	わからない	不明
性別	男性(N=563)	60.9	30.7	11.7	6.9	4.4	3.4	3.0	2.0	0.4	9.4	5.9	3.2	4.4	2.5
	女性(N=668)	59.7	29.2	7.8	6.1	7.9	5.7	1.8	2.5	1.2	10.0	5.4	3.3	4.6	1.9
年齢	18～19歳(N=13)	38.5	15.4	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	7.7	7.7	30.8	0.0
	20～29歳(N=104)	41.3	23.1	13.5	1.9	6.7	1.0	0.0	0.0	0.0	17.3	7.7	5.8	8.7	2.9
	30～39歳(N=191)	49.2	23.6	11.0	6.3	4.7	2.1	1.0	2.6	1.0	9.9	8.9	5.8	7.9	0.5
	40～49歳(N=224)	54.9	27.7	12.1	3.6	5.4	5.4	1.3	1.8	0.9	11.2	7.6	2.7	4.0	0.9
	50～59歳(N=196)	60.7	31.6	12.2	7.1	11.7	3.1	2.0	4.1	0.5	12.2	4.1	3.1	3.6	1.5
	60～64歳(N=120)	63.3	28.3	6.7	6.7	4.2	4.2	2.5	1.7	0.0	9.2	4.2	3.3	3.3	3.3
	65～69歳(N=128)	81.3	36.7	7.0	7.8	5.5	6.3	3.9	0.8	1.6	2.3	3.1	2.3	0.8	2.3
	70歳以上(N=289)	69.2	34.9	4.8	9.7	5.2	8.0	4.2	2.8	1.0	8.0	3.1	1.0	3.8	4.5
居住地域	北(N=131)	56.5	26.7	9.2	6.1	3.8	10.7	3.1	1.5	0.0	9.2	4.6	3.1	6.1	4.6
	東(N=203)	62.6	28.1	9.9	6.4	4.9	2.5	2.5	1.0	0.5	9.9	5.9	2.5	5.9	2.5
	富士見台(N=315)	62.9	30.8	9.2	6.0	6.0	4.4	1.9	2.2	0.0	12.7	4.1	3.5	3.5	0.6
	中(N=137)	56.2	32.8	13.1	2.9	8.0	1.5	2.9	5.1	0.7	10.9	4.4	3.6	5.8	2.2
	西(N=164)	63.4	35.4	6.7	8.5	8.5	4.3	3.0	2.4	2.4	4.9	5.5	3.7	7.3	1.8
	谷保(N=172)	59.9	27.3	8.7	5.8	6.4	5.2	2.3	1.7	0.6	8.7	8.1	2.9	2.3	4.1
	泉(N=43)	55.8	25.6	7.0	7.0	11.6	7.0	0.0	0.0	4.7	14.0	4.7	2.3	4.7	2.3
	青柳(N=54)	55.6	25.9	11.1	13.0	5.6	1.9	0.0	5.6	0.0	9.3	7.4	1.9	1.9	0.0
矢川・石田(N=22)	77.3	27.3	4.5	4.5	4.5	9.1	4.5	0.0	0.0	4.5	9.1	0.0	0.0	0.0	

(4) 市民参画を進めるために行うべき施策[問32]

市政への市民参画を進めるために行うべき施策について伺ったところ<3つまで選択可>、「市政についての情報を頻繁に提供する」との回答が47.0%と最も多く、次いで「公聴会、シンポジウムなど市民の意見を直接聞く機会を増やす」との回答が26.6%となった。

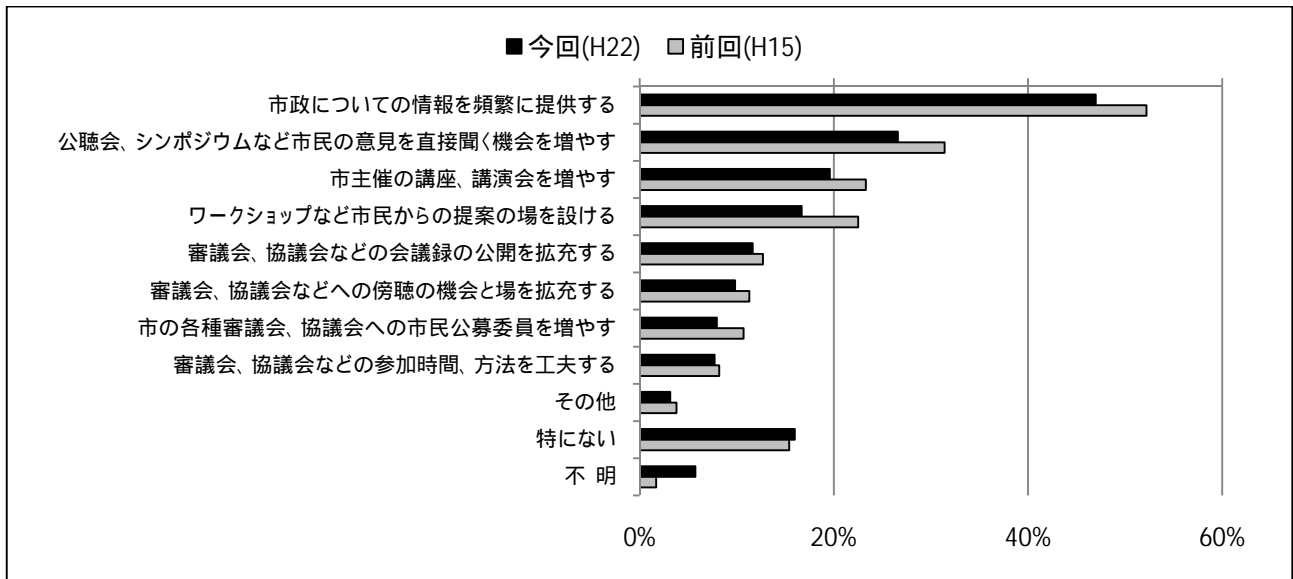
前調査と比較すると、「市政についての情報を頻繁に提供する」との回答が5.2%減少し、「ワークショップなど市民からの提案の場を設ける」との回答が5.8%減少した。

性別では、男性の方が「審議会、協議会などの会議録の公開を拡充する」と回答した割合が5.8%高い(男性14.9%、女性9.1%)

年齢別では、20代で「特になし」との回答が他の世代に比べて高く(全世代16.0%、20代23.1%)「市政についての情報を頻繁に提供する」「公聴会、シンポジウムなど市民の意見を直接聞く機会を増やす」「市主催の講座、講演会を増やす」との回答が低い。

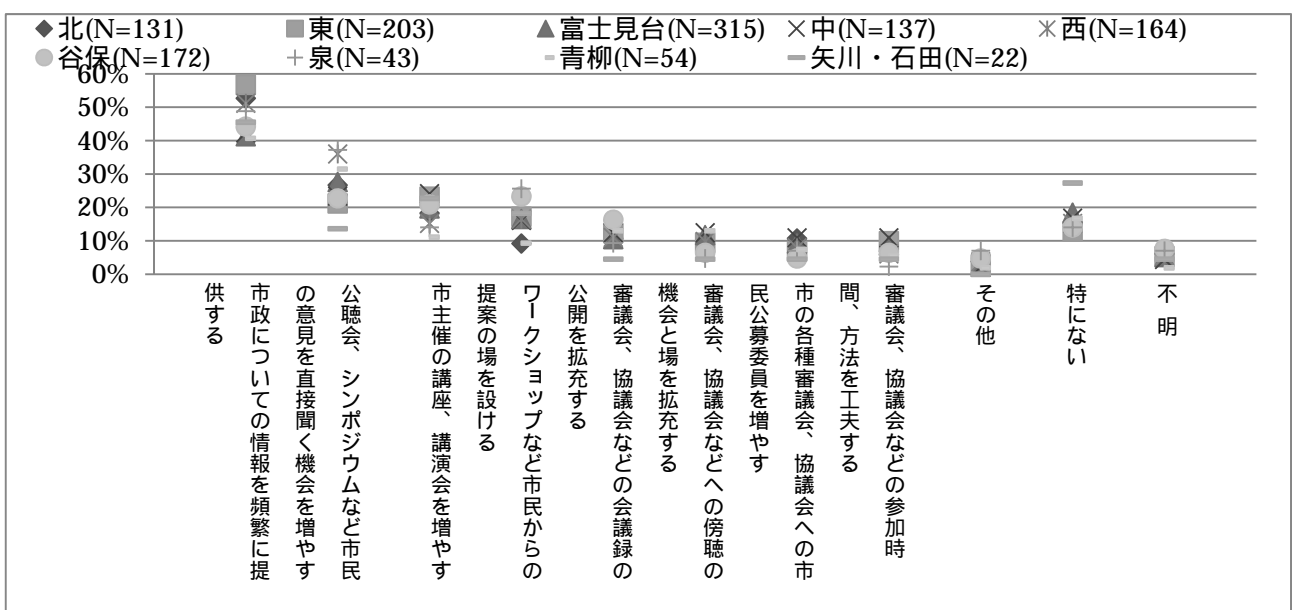
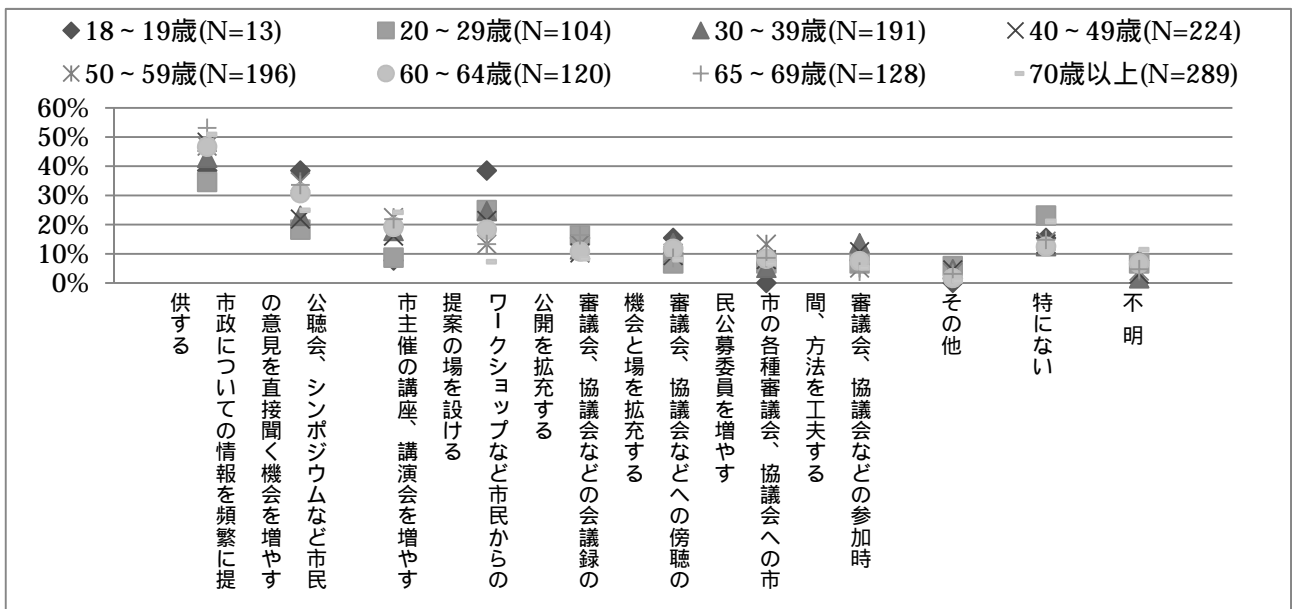
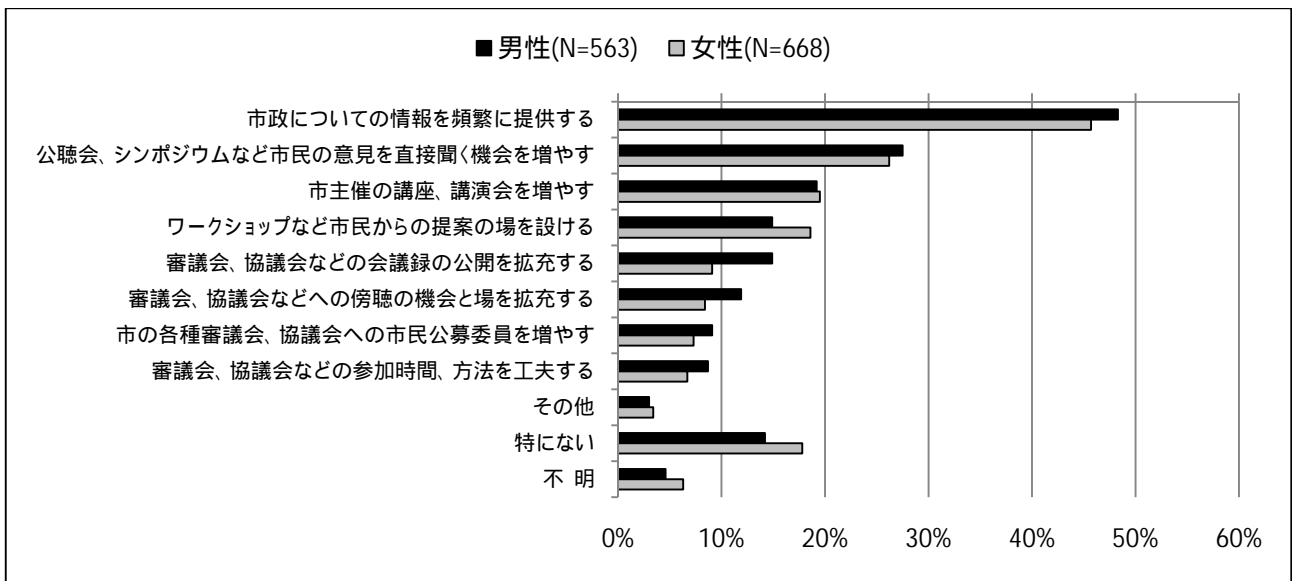
地域別では、東地域で「市政についての情報を頻繁に提供する」との回答の割合が高く(全地域47.0%、東56.7%)西及び泉地域で「公聴会、シンポジウムなど市民の意見を直接聞く機会を増やす」との回答の割合が高い(全地域26.6%、西36.0%、泉37.2%)

図 42 市民参画を進めるために行うべき施策(H22 N=1271, H15 N=707)



	市政についての情報を頻繁に提供する	公聴会、シンポジウムなど市民の意見を直接聞く機会を増やす	市主催の講座、講演会を増やす	ワークショップなど市民からの提案の場を設ける	審議会、協議会などの会議録の公開を拡充する	審議会、協議会などへの傍聴の機会と場を拡充する	市の各種審議会、協議会への市民公募委員を増やす	審議会、協議会などの参加時間、方法を工夫する	その他	特になし	不明
今回(H22)	47.0%	26.6%	19.6%	16.7%	11.6%	9.8%	7.9%	7.7%	3.1%	16.0%	5.7%
前回(H15)	52.2%	31.4%	23.3%	22.5%	12.7%	11.3%	10.7%	8.2%	3.8%	15.4%	1.7%

【性別、年齢別、地域別】



< 値は% >		問3 2 市民参画を進めるために市が行うべき施策< 3つまで選択可 >										
		供情市 す報政 るをにつ 頻つ 繁いて 提の	くのジ公 機意ウ聴 会見ム会 を増直な や接シ す聞市 す聞民 ボ	講市主 演催の講 会を増座 やす	る提なワ 案どのク の場市民 をかシ 設らヨ けのッ プ	公な審 開どの議 をの会、 拡充議協 す録議会 すの	す機な審 る会ど議 とへの会、 場を傍協 を拡聴議 充の会	増市会市 やす民公協 の各 募議会種 委員への を審議	す問な審 る、どの議 方法の会、 を工夫の参 加時	その他	特 に な い	不 明
性別	男性(N=563)	48.3	27.5	19.2	14.9	14.9	11.9	9.1	8.7	3.0	14.2	4.6
	女性(N=668)	45.7	26.2	19.5	18.6	9.1	8.4	7.3	6.7	3.4	17.8	6.3
年齢	18～19歳(N=13)	38.5	38.5	7.7	38.5	15.4	15.4	0.0	7.7	0.0	15.4	7.7
	20～29歳(N=104)	34.6	18.3	8.7	25.0	16.3	6.7	6.7	6.7	5.8	23.1	6.7
	30～39歳(N=191)	42.9	23.0	17.8	24.6	11.5	13.6	5.2	13.6	4.7	12.6	1.6
	40～49歳(N=224)	48.2	21.9	16.1	21.4	10.3	9.4	8.0	10.7	4.5	13.4	3.1
	50～59歳(N=196)	46.9	34.7	22.4	13.3	13.3	10.2	13.3	5.1	3.6	14.3	4.1
	60～64歳(N=120)	46.7	30.8	19.2	18.3	10.8	11.7	8.3	7.5	1.7	12.5	6.7
	65～69歳(N=128)	53.1	33.6	21.9	13.3	16.4	8.6	8.6	3.9	3.1	14.8	4.7
	70歳以上(N=289)	50.9	24.9	24.2	7.3	8.3	8.0	6.6	5.2	0.7	21.1	11.4
居住地域	北(N=131)	52.7	26.7	18.3	9.2	10.7	9.9	10.7	6.9	3.8	15.3	6.1
	東(N=203)	56.7	21.2	23.2	17.2	12.3	9.4	6.9	9.9	3.0	12.8	5.4
	富士見台(N=315)	41.3	27.6	19.7	16.5	10.5	11.7	9.2	8.6	2.2	18.4	5.1
	中(N=137)	42.3	23.4	24.1	16.1	12.4	12.4	10.9	10.9	2.2	16.8	4.4
	西(N=164)	51.2	36.0	15.2	16.5	11.0	9.8	7.9	6.1	3.7	15.2	5.5
	谷保(N=172)	44.2	22.7	20.9	23.3	16.3	6.4	4.7	6.4	4.7	14.0	7.6
	泉(N=43)	48.8	37.2	14.0	25.6	9.3	4.7	7.0	2.3	7.0	14.0	7.0
	青柳(N=54)	40.7	31.5	11.1	9.3	13.0	13.0	7.4	5.6	1.9	16.7	1.9
	矢川・石田(N=22)	45.5	13.6	22.7	18.2	4.5	4.5	4.5	4.5	0.0	27.3	4.5

11. 市政への要望[問33]

(1) これからの市政について特に力を入れてほしいところ

これからの市政について特に力を入れてほしいところを伺ったところ<5つまで選択可>、「高齢者福祉対策」が56.0%と最も高く、次いで「保健医療対策(健康診断、健診事業)」が28.1%、「自転車対策」が25.6%、「防犯対策」が24.9%となった。

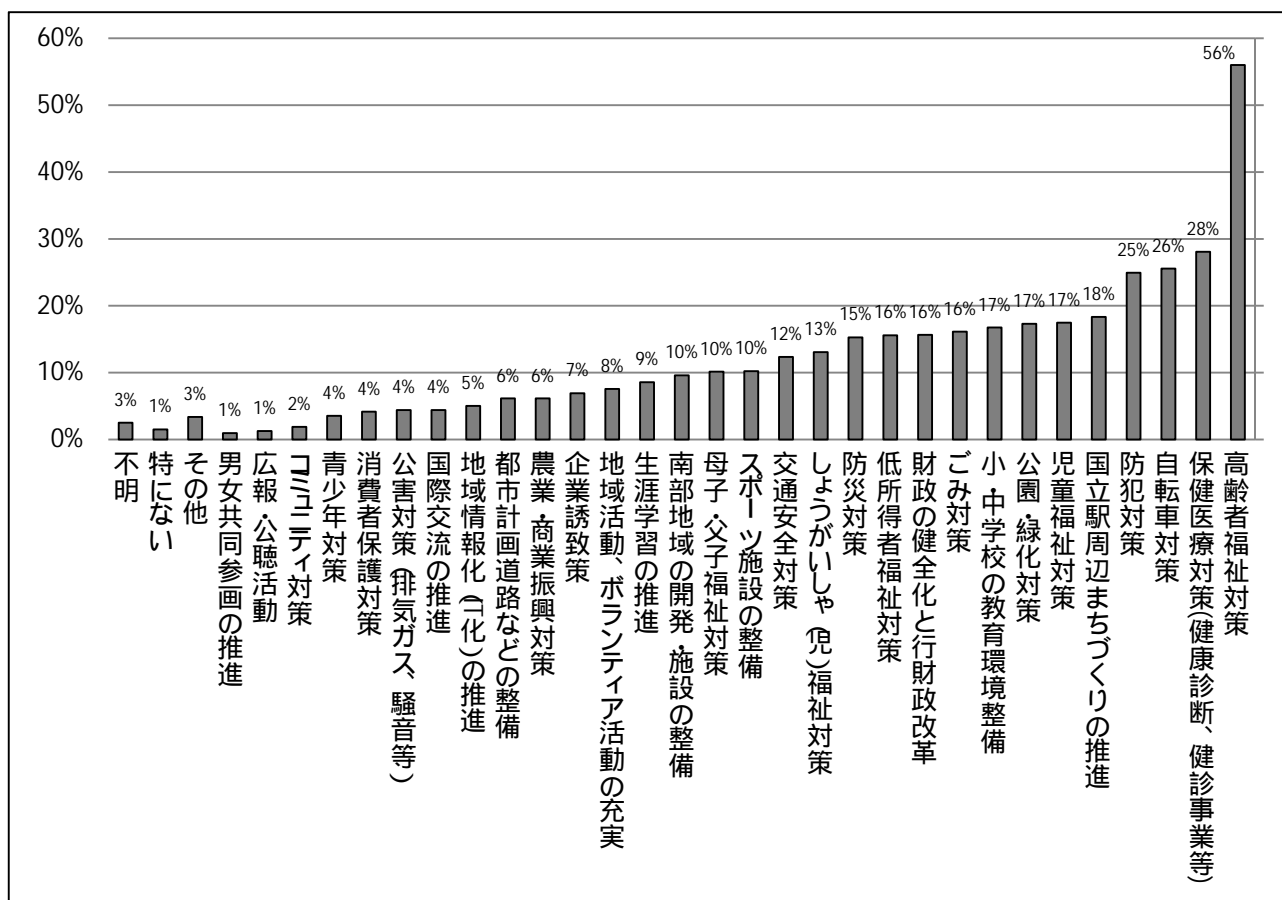
前調査と比較すると、多少追加・変更となっている選択肢があるため一概に言えないが、「保健医療対策(健康診断、健診事業)」の回答が6.9%増加し、一方で「防犯対策」の回答が12.9%減少、「公園・緑化対策」の回答が7.6%減少、「ごみ対策」の回答が5.7%減少、「公害対策」の回答が9.2%減少、「青少年対策」の回答が6.3%減少となった。

性別では、女性の方が「防犯対策」の回答が6.5%高く(男性21.3%、女性27.8%)、男性の方が「スポーツ施設の整備」の回答が5.7%高い(男性13.5%、女性7.8%)。

年齢別では、「高齢者福祉対策」「保健医療対策(健康診断、健診事業)」「財政の健全化と行財政改革」の回答が年齢が上がるほど比率が高まる傾向にある。また、20代では「母子・父子福祉対策」の回答が他の世代よりも高い(全世代10.1%、20代21.2%)。また、30代では「児童福祉対策」「小・中学校の教育環境整備」との回答が高い(前者 全世代17.5%、30代33.0%、後者 全世代16.8%、30代33.0%)。

地域別では、「高齢者福祉対策」(全地域56.0%)の回答が青柳で高く(66.7%)、中で低い(46.0%)。また、「保健医療対策(健康診断、健診事業)」(全地域28.1%)の回答では、泉が低い(14.0%)。また、「自転車対策」(全地域25.6%)の回答では、中が高い(40.1%)。また、「国立駅周辺まちづくりの推進」(全地域18.3%)の回答では、青柳が低い(1.9%)。また、「ごみ対策」(全地域16.1%)の回答では、青柳が低い(5.6%)。また、「南部地域の開発・施設の整備」(全地域9.6%)の回答では、谷保(28.5%)、泉(39.5%)、青柳(29.6%)、矢川・石田(22.7%)の地域が高く、「都市計画道路などの整備」(全地域6.1%)では泉(14.0%)、青柳(16.7%)の地域が高い。また、サンプル数が少ないため一概に言えないが、矢川・石田では「公園・緑化対策」(全地域17.3%)が36.4%、「低所得者福祉対策」(全地域15.6%)が27.3%、「母子・父子福祉対策」(全地域10.1%)が27.3%と高く、「財政の健全化と行財政改革」(全地域15.7%)が4.5%と低くなっている。

図 43 これからの市政で特に力を入れてほしいところ(H22 N=1271, H15 N=707)



	今回 (H22)	前回 (H15)
高齢者福祉対策	56.0%	51.9%
保健医療対策 (健康診断、健診事業など)	28.1%	21.2%
自転車対策	25.6%	30.4%
防犯対策	24.9%	37.8%
国立駅周辺まちづくりの推進	18.3%	-
児童福祉対策	17.5%	18.2%
公園・緑化対策	17.3%	24.9%
小・中学校の教育環境整備	16.8%	19.1%
ごみ対策	16.1%	21.8%
財政の健全化と行財政改革	15.7%	-
低所得者福祉対策	15.6%	13.9%
防災対策	15.3%	16.1%
しょうがいしゃ(児)福祉対策	13.1%	13.9%
交通安全対策	12.4%	14.3%
スポーツ施設の整備	10.2%	13.4%
母子・父子福祉対策	10.1%	6.8%

	今回 (H22)	前回 (H15)
南部地域の開発・施設の整備	9.6%	9.5%
生涯学習の推進	8.6%	-
地域活動、ボランティア活動の充実	7.6%	8.9%
企業誘致策	6.9%	-
農業・商業振興対策	6.1%	7.1%
都市計画道路などの整備	6.1%	7.6%
地域情報化(IT化)の推進	5.0%	6.4%
国際交流の推進	4.4%	6.4%
公害対策(排気ガス、騒音等)	4.4%	13.6%
消費者保護対策	4.2%	8.2%
青少年対策	3.5%	9.8%
コミュニティ対策	1.9%	4.4%
広報・公聴活動	1.3%	3.7%
男女共同参画の推進	0.9%	3.0%
その他	3.4%	6.2%
特にな	1.5%	1.6%
不明	2.5%	0.8%

【性別、年齢別、地域別】

<値は%>		問33 これからの市政について特に力を入れてほしいところ<5つまで選択可>																															
		高齢者福祉対策	診療事業など	保健医療対策	自転車対策	防犯対策	国立駅周辺まちづくりの推進	児童福祉対策	公園・緑化対策	育環境整備	小・中学校の教	ごみ対策	行財政改革	財政の健全化と	策	低所得者福祉対	防災対策	（児）福祉対策	交通安全対策	スポーツ施設の整備	母子・父子福祉対策												
性別	男性(N=563)	56.5	27.9	25.8	21.3	16.9	16.0	19.0	14.0	14.9	15.8	16.0	13.1	14.6	11.4	13.5	10.8	56.5	27.9	25.8	21.3	16.9	16.0	19.0	14.0	14.9	15.8	16.0	13.1	14.6	11.4	13.5	10.8
	女性(N=668)	55.1	28.6	25.4	27.8	19.9	19.5	16.2	19.8	17.1	16.0	15.1	16.9	11.2	13.2	7.8	9.6	55.1	28.6	25.4	27.8	19.9	19.5	16.2	19.8	17.1	16.0	15.1	16.9	11.2	13.2	7.8	9.6
年齢	18～19歳(N=13)	46.2	15.4	15.4	38.5	30.8	23.1	30.8	15.4	15.4	23.1	0.0	15.4	23.1	23.1	7.7	0.0	46.2	15.4	15.4	38.5	30.8	23.1	30.8	15.4	15.4	23.1	0.0	15.4	23.1	23.1	7.7	0.0
	20～29歳(N=104)	32.7	24.0	23.1	23.1	23.1	21.2	21.2	14.4	13.5	6.7	22.1	13.5	16.3	11.5	16.3	21.2	32.7	24.0	23.1	23.1	23.1	21.2	21.2	14.4	13.5	6.7	22.1	13.5	16.3	11.5	16.3	21.2
	30～39歳(N=191)	25.1	23.0	20.4	23.0	19.4	33.0	24.6	33.0	15.7	13.1	11.0	10.5	15.2	13.6	12.0	12.0	25.1	23.0	20.4	23.0	19.4	33.0	24.6	33.0	15.7	13.1	11.0	10.5	15.2	13.6	12.0	12.0
	40～49歳(N=224)	45.1	21.9	29.5	28.1	18.3	22.8	16.5	27.7	13.8	14.7	12.9	17.0	13.4	12.9	10.7	8.5	45.1	21.9	29.5	28.1	18.3	22.8	16.5	27.7	13.8	14.7	12.9	17.0	13.4	12.9	10.7	8.5
	50～59歳(N=196)	60.7	20.9	20.4	21.4	19.4	10.2	17.9	11.2	25.0	15.8	15.3	16.8	14.3	11.7	11.7	12.8	60.7	20.9	20.4	21.4	19.4	10.2	17.9	11.2	25.0	15.8	15.3	16.8	14.3	11.7	11.7	12.8
	60～64歳(N=120)	67.5	27.5	25.8	27.5	14.2	13.3	12.5	7.5	14.2	21.7	10.8	21.7	12.5	10.8	8.3	6.7	67.5	27.5	25.8	27.5	14.2	13.3	12.5	7.5	14.2	21.7	10.8	21.7	12.5	10.8	8.3	6.7
	65～69歳(N=128)	73.4	34.4	26.6	18.8	17.2	13.3	23.4	11.7	11.7	24.2	21.1	13.3	14.1	8.6	10.2	13.3	73.4	34.4	26.6	18.8	17.2	13.3	23.4	11.7	11.7	24.2	21.1	13.3	14.1	8.6	10.2	13.3
	70歳以上(N=289)	77.9	40.8	30.8	27.7	16.6	10.0	10.4	8.7	15.9	14.5	18.7	15.2	8.3	13.5	6.2	4.8	77.9	40.8	30.8	27.7	16.6	10.0	10.4	8.7	15.9	14.5	18.7	15.2	8.3	13.5	6.2	4.8
居住地域	北(N=131)	56.5	27.5	29.0	20.6	26.7	15.3	16.8	17.6	19.8	18.3	23.7	17.6	14.5	12.2	11.5	10.7	56.5	27.5	29.0	20.6	26.7	15.3	16.8	17.6	19.8	18.3	23.7	17.6	14.5	12.2	11.5	10.7
	東(N=203)	57.6	27.1	34.0	23.6	25.1	17.7	17.2	14.8	13.3	15.8	12.8	12.8	14.3	9.9	10.3	8.4	57.6	27.1	34.0	23.6	25.1	17.7	17.2	14.8	13.3	15.8	12.8	12.8	14.3	9.9	10.3	8.4
	富士見台(N=315)	61.9	33.7	21.0	23.2	14.9	20.6	15.6	16.2	16.8	16.5	19.7	13.7	11.4	11.4	8.9	10.8	61.9	33.7	21.0	23.2	14.9	20.6	15.6	16.2	16.8	16.5	19.7	13.7	11.4	11.4	8.9	10.8
	中(N=137)	46.0	29.2	40.1	32.1	24.8	14.6	20.4	20.4	16.1	12.4	9.5	26.3	16.8	15.3	8.8	7.3	46.0	29.2	40.1	32.1	24.8	14.6	20.4	20.4	16.1	12.4	9.5	26.3	16.8	15.3	8.8	7.3
	西(N=164)	53.7	28.7	25.6	32.3	22.0	18.3	16.5	15.2	18.3	18.3	12.2	17.7	12.8	13.4	10.4	7.3	53.7	28.7	25.6	32.3	22.0	18.3	16.5	15.2	18.3	18.3	12.2	17.7	12.8	13.4	10.4	7.3
	谷保(N=172)	48.3	20.9	16.3	25.6	9.3	16.3	20.3	20.3	17.4	14.5	11.0	9.9	11.0	12.8	15.7	12.8	48.3	20.9	16.3	25.6	9.3	16.3	20.3	20.3	17.4	14.5	11.0	9.9	11.0	12.8	15.7	12.8
	泉(N=43)	65.1	14.0	16.3	16.3	11.6	9.3	11.6	20.9	11.6	18.6	20.9	16.3	16.3	16.3	7.0	9.3	65.1	14.0	16.3	16.3	11.6	9.3	11.6	20.9	11.6	18.6	20.9	16.3	16.3	16.3	7.0	9.3
	青柳(N=54)	66.7	22.2	18.5	24.1	1.9	14.8	14.8	13.0	5.6	13.0	14.8	18.5	16.7	13.0	7.4	11.1	66.7	22.2	18.5	24.1	1.9	14.8	14.8	13.0	5.6	13.0	14.8	18.5	16.7	13.0	7.4	11.1
	矢川・石田(N=22)	40.9	31.8	4.5	9.1	13.6	22.7	36.4	9.1	9.1	4.5	27.3	0.0	0.0	9.1	9.1	27.3	40.9	31.8	4.5	9.1	13.6	22.7	36.4	9.1	9.1	4.5	27.3	0.0	0.0	9.1	9.1	27.3

<値は%>		問33 これからの市政について特に力を入れてほしいところ<5つまで選択可>																																	
		発・施設の整備	南部地域の開	生涯学習の推進	充実	地域活動、ボランティア活動の	企業誘致策	農業・商業振興	都市計画道路などの整備	（二）化）の推進	地域情報化（二）化）の推進	国際交流の推進	ガス、騒音等）	公害対策（排気	消費者保護対策	青少年対策	策	コミュニケーション対	広報・公聴活動	推進	男女共同参画の	その他	特にな	不明											
性別	男性(N=563)	10.5	8.0	8.2	7.6	6.4	7.1	7.6	5.3	4.4	5.7	3.4	1.6	1.6	0.7	3.4	1.1	2.0	10.5	8.0	8.2	7.6	6.4	7.1	7.6	5.3	4.4	5.7	3.4	1.6	1.6	0.7	3.4	1.1	2.0
	女性(N=668)	9.0	9.3	7.2	6.0	6.3	5.4	2.7	3.7	4.0	3.0	3.4	2.2	1.0	1.2	3.3	1.6	2.2	9.0	9.3	7.2	6.0	6.3	5.4	2.7	3.7	4.0	3.0	3.4	2.2	1.0	1.2	3.3	1.6	2.2
年齢	18～19歳(N=13)	15.4	0.0	7.7	0.0	0.0	15.4	7.7	15.4	0.0	0.0	7.7	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	15.4	0.0	7.7	0.0	0.0	15.4	7.7	15.4	0.0	0.0	7.7	7.7	0.0	7.7	0.0			
	20～29歳(N=104)	5.8	4.8	8.7	5.8	6.7	6.7	11.5	3.8	5.8	3.8	3.8	3.8	1.0	1.9	1.9	2.9	1.0	5.8	4.8	8.7	5.8	6.7	6.7	11.5	3.8	5.8	3.8	3.8	1.0	1.9	1.9	2.9	1.0	
	30～39歳(N=191)	12.6	4.7	3.1	9.4	4.7	9.4	5.2	9.9	2.6	2.1	3.1	2.6	1.0	0.0	5.8	0.5	1.6	12.6	4.7	3.1	9.4	4.7	9.4	5.2	9.9	2.6	2.1	3.1	2.6	1.0	0.0	5.8	0.5	1.6
	40～49歳(N=224)	9.8	6.3	6.7	7.6	4.9	6.7	7.1	3.6	5.8	2.7	1.8	0.9	0.4	0.0	5.8	2.2	0.4	9.8	6.3	6.7	7.6	4.9	6.7	7.1	3.6	5.8	2.7	1.8	0.9	0.4	0.0	5.8	2.2	0.4
	50～59歳(N=196)	13.3	9.2	12.2	9.2	10.7	7.1	6.1	4.1	2.6	3.1	7.7	2.0	1.5	1.5	3.1	1.0	0.5	13.3	9.2	12.2	9.2	10.7	7.1	6.1	4.1	2.6	3.1	7.7	2.0	1.5	1.5	3.1	1.0	0.5
	60～64歳(N=120)	10.0	11.7	10.8	8.3	8.3	2.5	3.3	3.3	5.8	5.0	1.7	0.8	3.3	0.8	0.8	0.0	6.7	10.0	11.7	10.8	8.3	8.3	2.5	3.3	3.3	5.8	5.0	1.7	0.8	3.3	0.8	0.8	0.0	6.7
	65～69歳(N=128)	11.7	12.5	7.0	3.9	6.3	7.0	3.1	3.1	2.3	3.9	2.3	1.6	2.3	3.1	3.1	0.8	0.8	11.7	12.5	7.0	3.9	6.3	7.0	3.1	3.1	2.3	3.9	2.3	1.6	2.3	3.1	3.1	0.8	0.8
	70歳以上(N=289)	5.2	10.7	6.6	4.8	4.2	3.5	1.4	2.4	5.9	7.3	3.1	1.7	0.7	0.3	2.1	2.1	5.9	5.2	10.7	6.6	4.8	4.2	3.5	1.4	2.4	5.9	7.3	3.1	1.7	0.7	0.3	2.1	2.1	5.9
居住地域	北(N=131)	0.8	11.5	6.1	3.8	6.1	7.6	6.9	2.3	4.6	5.3	3.8	0.8	1.5	0.8	0.8	3.1	0.8	11.5	6.1	3.8	6.1	7.6	6.9	2.3	4.6	5.3	3.8	0.8	1.5	0.8	0.8	3.1		
	東(N=203)	2.5	8.9	11.8	5.4	4.4	2.0	5.9	7.9	3.4	5.4	2.0	2.5	1.5	0.5	3.9	2.0	3.0	2.5	8.9	11.8	5.4	4.4	2.0	5.9	7.9	3.4	5.4	2.0	2.5	1.5	0.5	3.9	2.0	3.0
	富士見台(N=315)	6.0	10.5	6.0	7.3	6.3	3.2	4.4	2.5	5.4	5.1	3.8	2.5	1.0	0.6	3.5	2.2	1.9	6.0	10.5	6.0	7.3	6.3	3.2	4.4	2.5	5.4	5.1	3.8	2.5	1.0	0.6	3.5	2.2	1.9
	中(N=137)	1.5	7.3	5.1	4.4	6.6	5.8	3.6	5.8	2.9	2.9	4.4	2.2	0.7	2.9	5.8	1.5	1.5	1.5	7.3	5.1	4.4	6.6	5.8	3.6	5.8	2.9	2.9	4.4	2.2	0.7	2.9	5.8	1.5	1.5
	西(N=164)	2.4	6.1	7.9	7.3	4.9	7.3	4.3	4.9	7.3	1.8	5.5	3.0	0.6	1.8	3.0	1.2	1.8	2.4	6.1	7.9	7.3	4.9	7.3	4.3	4.9	7.3	1.8	5.5	3.0	0.6	1.8	3.0	1.2	1.8
	谷保(N=172)	28.5	8.1	8.1	10.5	10.5	8.1	4.1	4.7	4.1	5.2	1.7	0.6	2.9	0.6	2.3	0.0	3.5	28.5	8.1	8.1	10.5	10.5	8.1	4.1	4.7	4.1	5.2	1.7	0.6	2.9	0.6	2.3	0.0	3.5
	泉(N=43)	39.5	9.3	4.7	11.6	4.7	14.0	7.0	0.0	2.3	4.7	2.3	0.0	0.0	0.0	2.3	4.7	0.0	39.5	9.3	4.7	11.6	4.7	14.0	7.0	0.0	2.3	4.7	2.3	0.0	0.0	0.0	2.3	4.7	0.0
	青柳(N=54)	29.6	3.7	9.3	5.6	5.6	16.7	9.3	3.7	1.9	0.0	1.9	1.9	0.0	0.0	5.6	1.9	1.9	29.6	3.7	9.3	5.6	5.6	16.7	9.3	3.7	1.9	0.0	1.9	1.9	0.0	0.0	5.6	1.9	1.9
	矢川・石田(N=22)	22.7	0.0	9.1	9.1	4.5	9.1	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	4.5	22.7	0.0	9.1	9.1	4.5	9.1	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	4.5

(2) 国立らしさのイメージ[問34]

有効回収数1271件中729件の意見が寄せられ、主な意見としては「自然が多い」「緑豊か」「文教都市、文教地区」「学園都市」「落ち着いた街」「美しい街」「静かな街」「大学通り」「市民の意識が高い」「桜並木」等が挙げられる。

<主な意見>

- ・都会でありながら、高い建物にかこまれず、緑ゆたかな美しい街・学びの街・ぼっとする街・住みつけたい街・ほこりに思う街。e t c .
- ・1、大学通りの街路樹立派。2、小学生が可愛い。3、大学生、高校生がやがやと元気4、知的な印象の大人。5、美しい住宅と樹木。6、谷保天神の深い木陰。7、隣近所に干渉しない暮らし。8、高層ビルが大分増えました。これら渾然として国立です。
- ・すてきな町なみのイメージがあります。道路が広くて桜がきれいといった所です。少し「おたかい」と感じる人も多いです。
- ・意識の高い人々が住んでいる町。
- ・意識は高いと思うが閉鎖性も感じる
- ・学園都市、文教地区 緑もあり、高層の建物が少なく、見はらしが良い。
- ・教育の街、学園都市としてのイメージ。のびのびとした自然（矢川や城山）もいい教育の場だと思います。
- ・古いものも大事にしながら個性ある新しいものも受け入れていく街 大学通りの銀杏、さくら通りの桜と季節感のある街 アントルメ、ノイフランク...美味しいものもある街
- ・三角屋根に向かってのびる大学通りと、その両側に立つ桜並木。春夏秋冬いずれも趣きがあって、散歩していて気持ちがいい。また福祉もある程度充実していて、大学、高校などそろそろ文教区である点が好ましい。そのようなイメージをもつが、駅舎が現在のようになってしまうイメージが相像のものでしかなくなってしまったことが悲しい。
- ・地味で落ちついた暮らしやすい町。自由な分囲気と市民文化のある町。北部は伝統ある文教地区、南部は実り豊かな田園地帯

(3) 国立市政についての意見[問35]

有効回収数1271件中438件の意見が寄せられ、主に高齢者福祉対策に関する意見、自転車対策に関する意見、国立駅周辺整備に関する意見、南部地域の開発に関する意見、住基ネットに関する意見、財政の健全化に関する意見、議会活動に関する意見が寄せられた。

<主な意見>

- ・高齢者が増加しつつあると思いますので、高齢者対策（食事、医療）在宅での生活可能対策 一人暮らし対策
- ・自転車の問題 朝・夕の人が多い時間でも、自転車に乗った人達は、おりずに、隙間をみつけてはスピードを出している。（歩道）歩道・車道にとめてある自転車もじゃま。小さい子供や犬は自転車に、ぶつかりそうで、とても危ない
- ・大学通り自転車レーンの一方通行はよいと思いますが歩道の走行が禁止なのは大変不便です。大学通り沿いのお店や、お宅に行くのに、ルール通りにしたらとんでもなく遠回りになって、生活しづらくて困ります。それでいて、自転車レーンを逆走する人が今だに多数いるのにも困ります。
- ・国立駅周辺整備に関して 国立には大きな商業ビルは必要ないと思います。この地区の近くには立川や吉祥寺といった商業地区があるので同じようなビルを作っても競走にならないと思います。小さな店がある今の国立の町並を大切にしていた方が近隣から人が来るのではないかと考えています。ビルは大学通りの桜並木とも合わないと思います。
- ・駅を中心とした公共の施設の充実を实行してもらいたい。特に夜間、日曜日に皆が使える図書館や市の支部など他市区にない特徴のある街づくりを希む。店の看板の色を目立たないようなものにさせるなど、環境にみえる色や緑化、老人や障害者の住み易い地域を目指して欲しい
- ・同じ税金を払っているのですから、南側の地区の整備に、お金を先に使って下さい。大学通りと、青柳近くは全く、街灯にも差がありすぎます。
- ・南部地域の道路整備を早急に実施してほしい。（1）通学路等、道がせまく、暗いのであぶない。（2）近年、交通量が多く、ぬけ道になりつつある。（20号バイパスの影響大）
- ・住基ネットへ加入して欲しい。確定申告が不便故。（e-TAXが使えない。）
- ・住基ネットが使えるようにしてほしい。インターネットの利便性と、本当のリスクを知らないまま、ただ不安ということだけで離脱しているような気がします。ただの杞憂だと思います。インターネットのリスクくらいでさわぐのであれば、交通事故のリスクをもっとさわいで、車禁止等してもよいのではと思う。そのくらい住基ネット離脱はバカバカしい。
- ・国立市は、財政難だという現状は、理解できるが、何もかも「財政難だから…」という言葉ですまされてしまうのは、いかがなものだろうか。
- ・一般の人は市報から市政を見ることが多い。財政も人件費をしっかりとくほしてから他のものをへらしていくことに納得いかない。職員の態度も悪いことや人をへらして質を高めて欲しい。一つのことを聞くのに三ヶ所たらい廻しです。一般企業ではありえない。
- ・市長と議会の対立で無駄な労力が使われている。市議会は縮小または廃止が望ましい。市職員は市民から本当に市のことを考えてくれる人を採用してほしい。職員数は削減して合理化を進めてほしい。

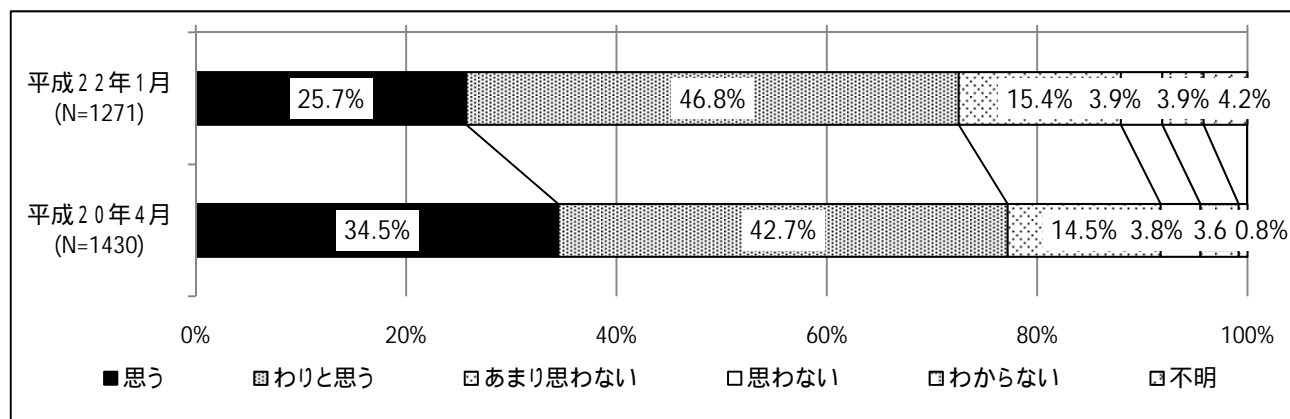
．第2回国立市市民意識調査結果

1．国立市全体や市民の皆様が住んでいる地域について

(1) 美しいまちなみの保全・形成

国立市全体が美しいまちなみを保全・形成していると思う市民の割合（思う、わりと思うの合計）は第1回（平成20年4月）は77.5%であったのに対し第2回（平成22年1月）は72.5%と、4.7%減少している。

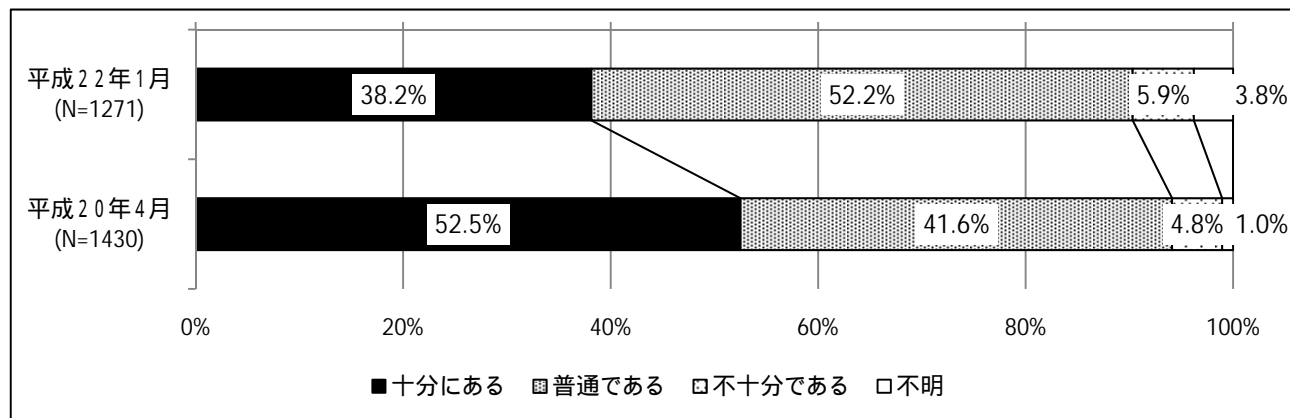
問1 あなたは、国立市全体が美しいまちなみを保全・形成していると思いますか？



(2) みどり

国立市はみどりが十分にあるまちだと思う市民の割合は、第1回（平成20年4月）は52.5%であったのに対し第2回（平成22年1月）は38.2%と、14.3%減少している。

問2 あなたは、国立市はみどりが十分にあるまちだと思いますか？



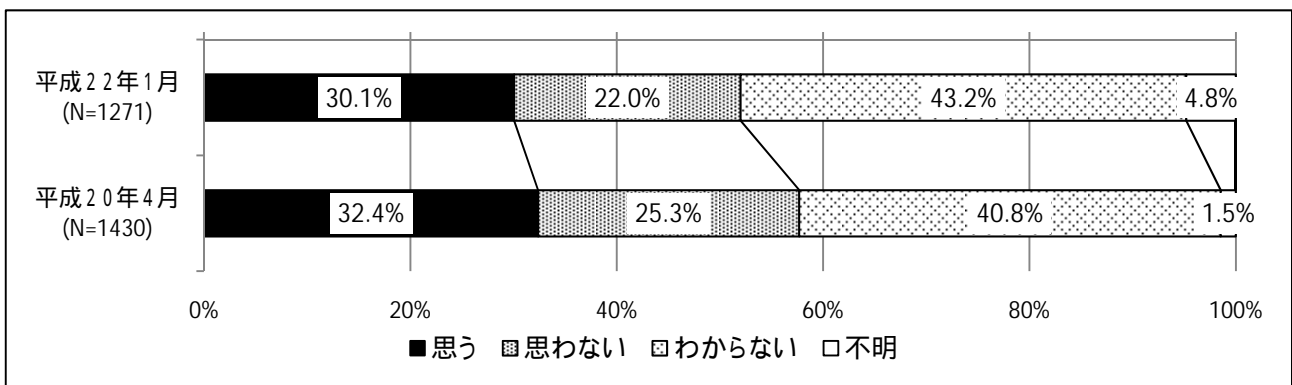
(3) 子育て

子育てのしやすい環境が整っていると思う市民の割合は、第1回(平成20年4月)は32.4%であったのに対し第2回(平成22年1月)は30.1%と、2.3%減少している。

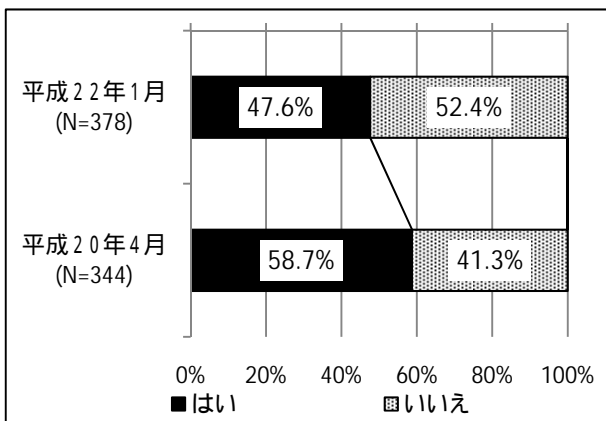
また、子供の成長に関して悩みや不安を抱えている保護者の割合は、第1回(平成20年4月)は58.7%であったのに対し第2回(平成22年1月)は47.6%と、11.1%減少している。

また、子供の成長に関して悩みや不安を抱えている保護者に対する相談相手としては、「家族」78.3%、「近隣の方」16.1%、「公の施設の相談員」8.3%となっており、「相談相手がいない」は11.1%となっている。

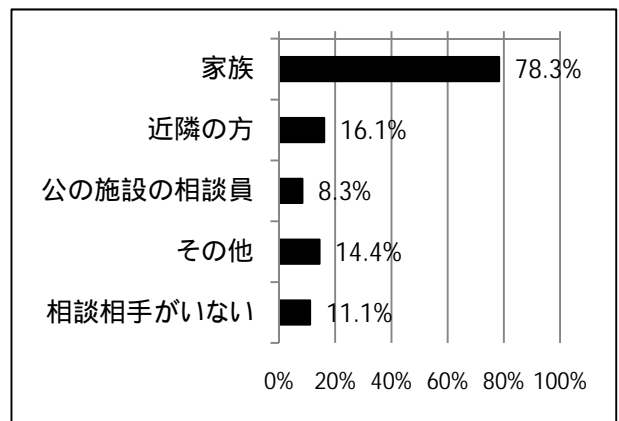
問3 あなたは、子育てのしやすい環境が整っていると思いますか？



問5 4 (保護者の方に伺います) あなたは、子供の成長に関して悩みや不安を抱えていますか？



前問で「はい」と答えた方に伺います。あなたは、身近に相談相手がいますか？



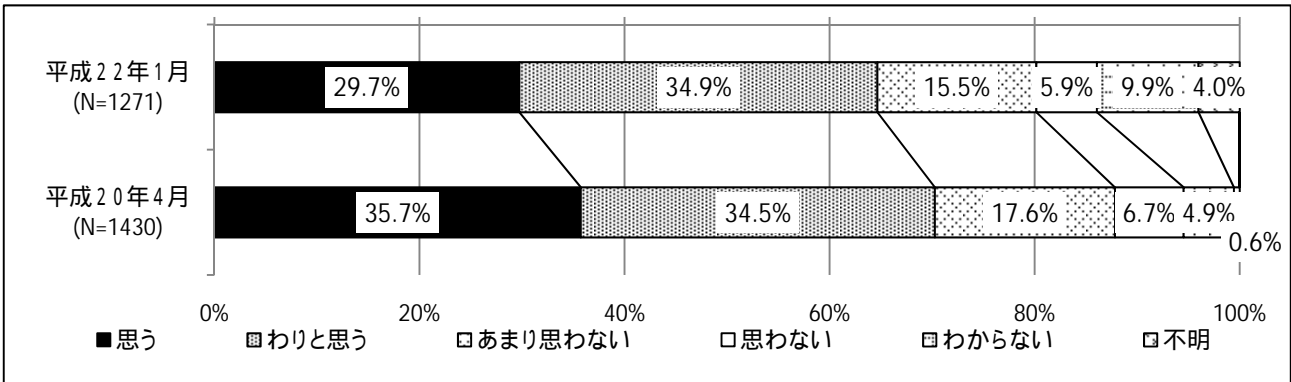
(4) 都市基盤整備

住んでいる地域で地域の特性に合った都市基盤が整備されていると思う市民の割合(思う、わりと思うの合計)は、第1回(平成20年4月)は70.3%であったのに対し第2回(平成22年1月)は64.7%と、5.6%減少している。

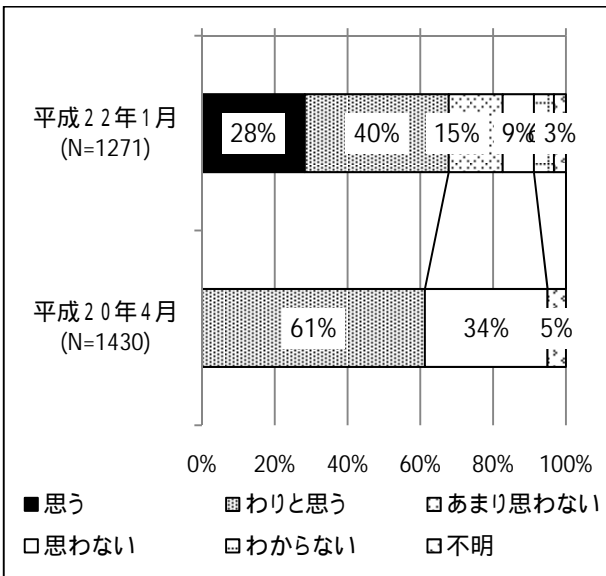
また、住んでいる地域が都市基盤が整備されて住みやすいと思う市民の割合(思う、わりと思うの合計)は、第1回(平成20年4月)は61.3%であったのに対し第2回(平成22年1月)は67.8%と、6.6%増加している。<但し、第1回と第2回では選択肢が多少異なる>

また、住みやすい環境だと思わない市民にとって不足している都市基盤は、「道路」51.4%(第1回47.9%)、「公園」34.9%(第1回40.0%)、「都市ガス」33.9%(第1回27.2%)となっている。

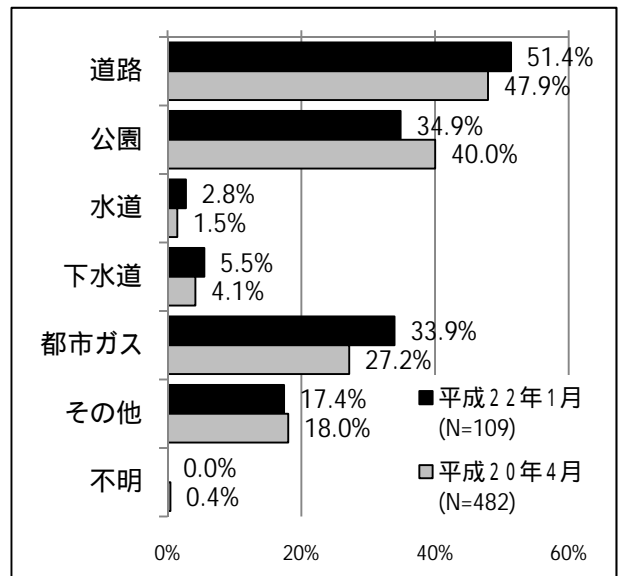
問4 あなたは、住んでいる地域で地域の特性に合った都市基盤(道路、公園、水道、下水道、都市ガスなど)が整備されていると思いますか?



問5 あなたは、あなたの住んでいる地域は都市基盤が整備されており、住みやすい環境だと思いますか?



問6 問5で「思わない」と答えた方に伺います。あなたの住んでいる地域で不足しているものは次のうちどれですか?(複数選択可)



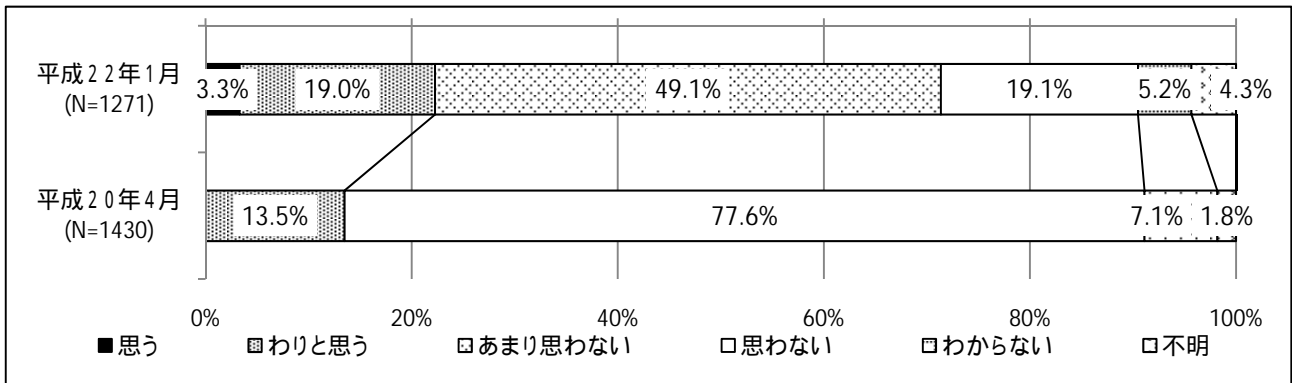
平成20年4月の調査における選択肢は「思う、思わない」のみ

(5) 安全・快適な道路通行

誰もが市内の道路を安全に快適に通行できると思う市民の割合（思う、わりと思うの合計）は、第1回（平成20年4月）は13.5%であったのに対し第2回（平成22年1月）は22.3%と、8.8%増加している。

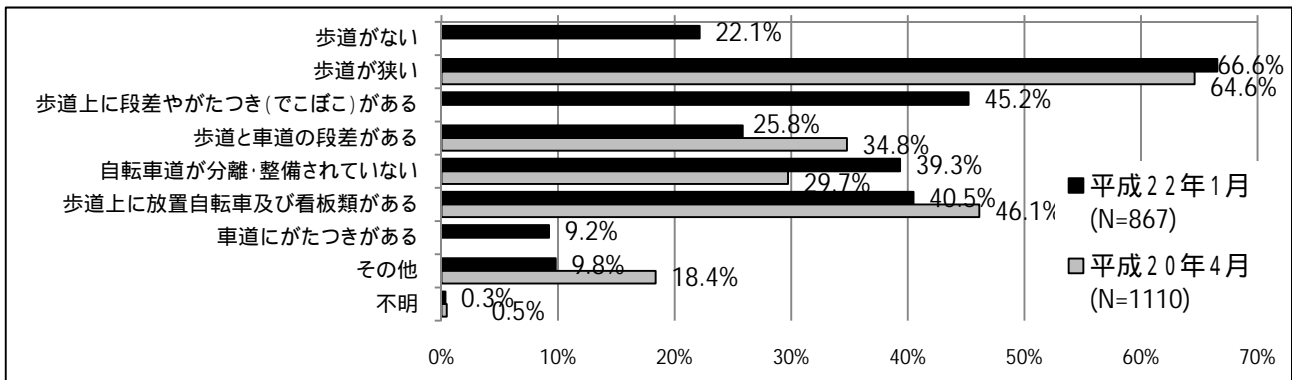
また、誰もが市内の道路を安全に快適に通行できないと思う市民が、その原因として考えている事項としては、「歩道が狭い」66.6%（第1回64.6%）、「歩道に段差やがたつき（でこぼこ）がある」45.2%、「歩道に放置自転車及び看板がある」40.5%（第1回39.3%）、「自転車道が分離・整備されていない」39.3%（第1回29.7%）が挙げられた。

問7 あなたは、誰もが（しょうがいしゃ、高齢者、幼児、児童などを含む）市内の道路を安全に快適な通行ができると思いますか？



平成20年4月の調査における選択肢は「思う、思わない、わからないのみ」

問8 問7で「あまり思わない」、「思わない」と答えた方に伺います。あなたはその原因がどこにあると思いますか？（複数選択可）



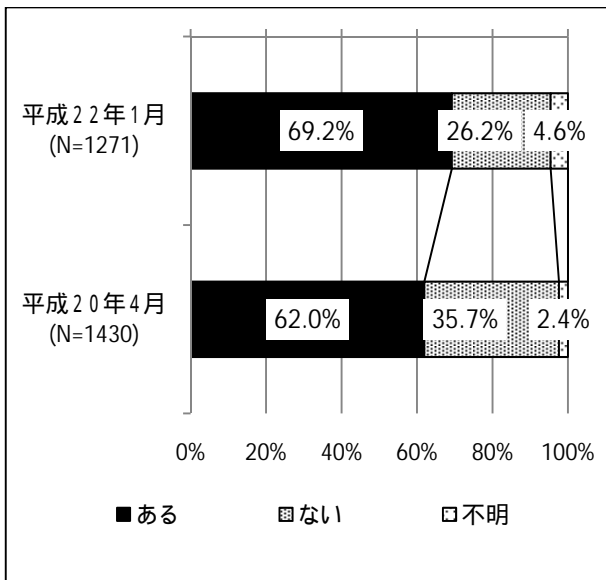
「歩道がない、歩道に段差やがたつき（でこぼこ）がある、車道にがたつきがある」の選択肢は本調査より新設

(6) 医療機関の有無

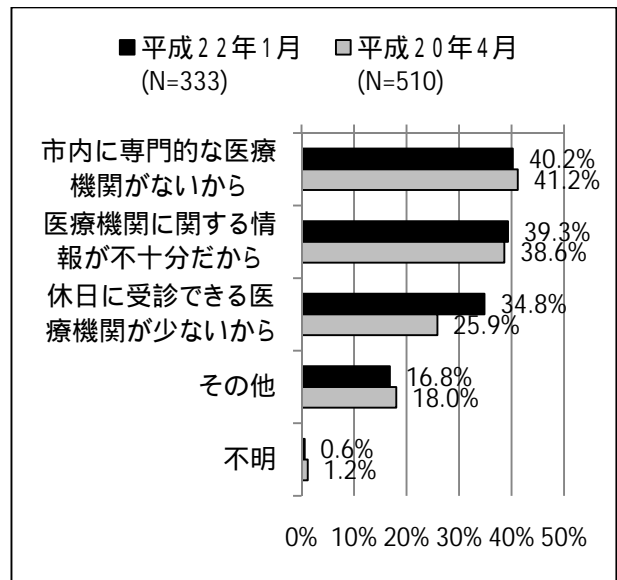
近くに安心してかかることが出来る医療機関がある市民の割合は、第1回(平成20年4月)は62.0%であったのに対し第2回(平成22年1月)は69.2%と、7.2%増加している。

また、近くに安心してかかることが出来る医療機関がない市民にとって、その理由としては「市内に専門的な医療機関が無いから」40.2%(第1回41.2%)、「医療機関に関する情報が不十分だから」39.3%(第1回38.6%)、「休日に受診できる医療機関が少ないから」34.8%(第1回25.9%)が挙げられた。

問9 あなたは、近くに安心してかかることができる医療機関がありますか？



問10 問9で「ない」と答えた方に伺います。その理由は何ですか？(複数選択可)



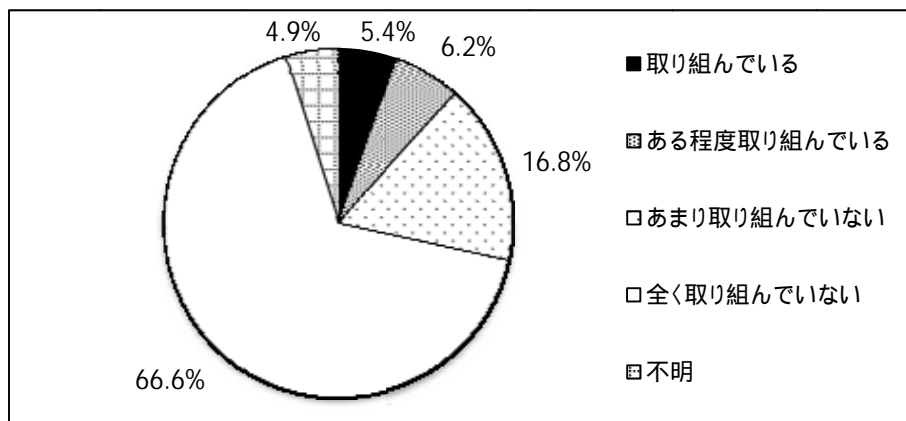
2. 日常生活における活動や意識について

(1) 福祉活動への取り組み

何らかの福祉活動に取り組んでいる市民の割合（取り組んでいる、ある程度取り組んでいるの合計）は、11.6%であり、全く取り組んでいない市民は66.6%である。

問11 あなたは、何らかの福祉活動に取り組んでいますか？

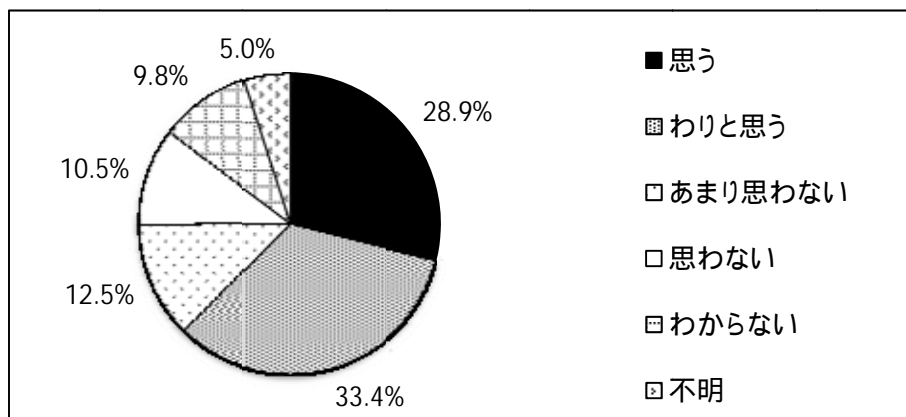
「福祉活動」とは、福祉ボランティア活動、福祉関連イベントへの実行委員会としての参加、日々の見守り・声かけ、介助など



(2) 自転車での移動の利便性

自転車での市内の移動が便利だと思う市民の割合（思う、わりと思うの合計）は、62.3%である。

問12 あなたは、自転車での市内の移動が便利だと思いますか？

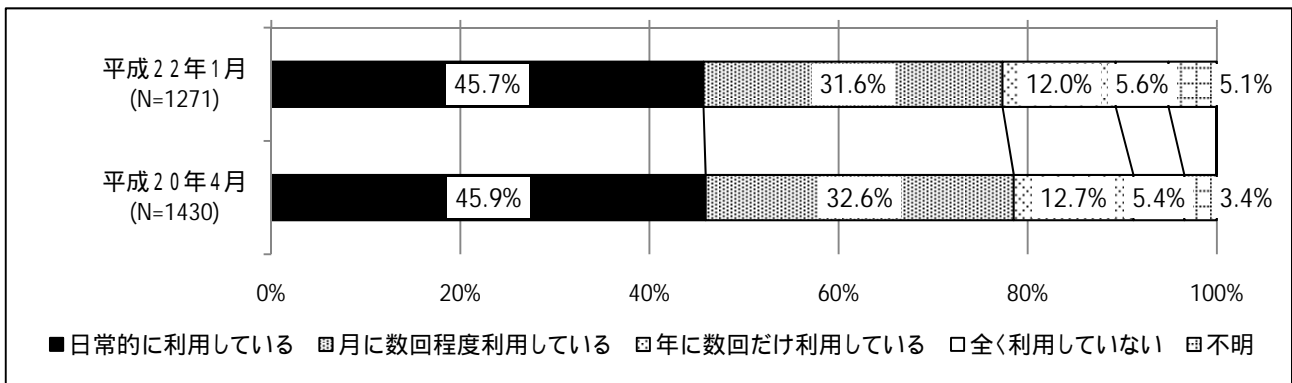


(3) 公共交通機関の利用

公共交通の利用頻度は、「日常的に利用している」45.7%（第1回45.9%）、「月に数回程度利用している」31.6%（第1回32.6%）、「年に数回だけ利用している」12.0%（第1回12.7%）、「全く利用していない」5.6%（第1回5.4%）となっている。

公共交通機関を利用している市民にとって、公共交通機関を使った通勤・通学・昼間の移動が便利だと思う割合は、第1回（平成20年4月）は61.9%【市内】・74.8%【市外】であったのに対し、第2回（平成22年1月）は66.4%【市内】・75.2%【市外】と、4.5%【市内】・0.4%【市外】増加している。

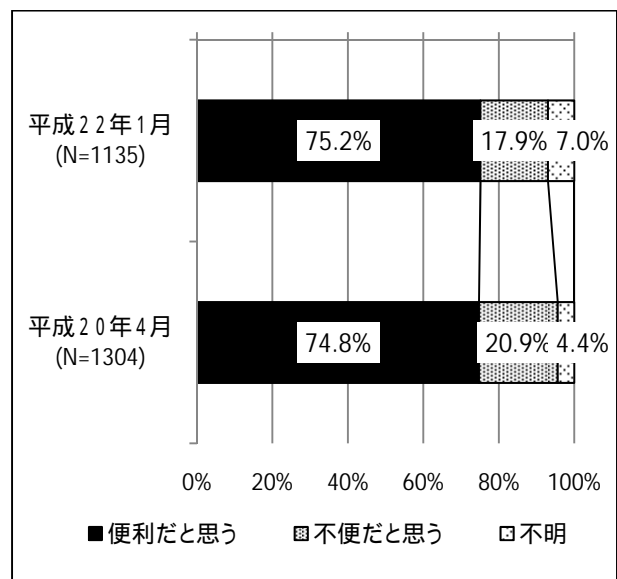
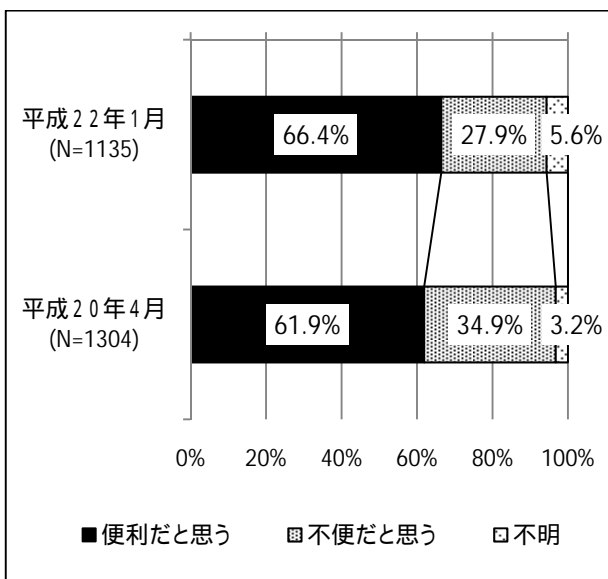
問13 あなたは、どの程度公共交通機関（バス、電車）を利用していますか？



問14 問13で「日常的に利用している、月に数回程度利用している、年に数回だけ利用している」と答えた方に伺います。あなたは、公共交通機関を使った通勤・通学・昼間の移動が便利だと思いますか？

【市内の移動に関して】

【市外への移動に関して】

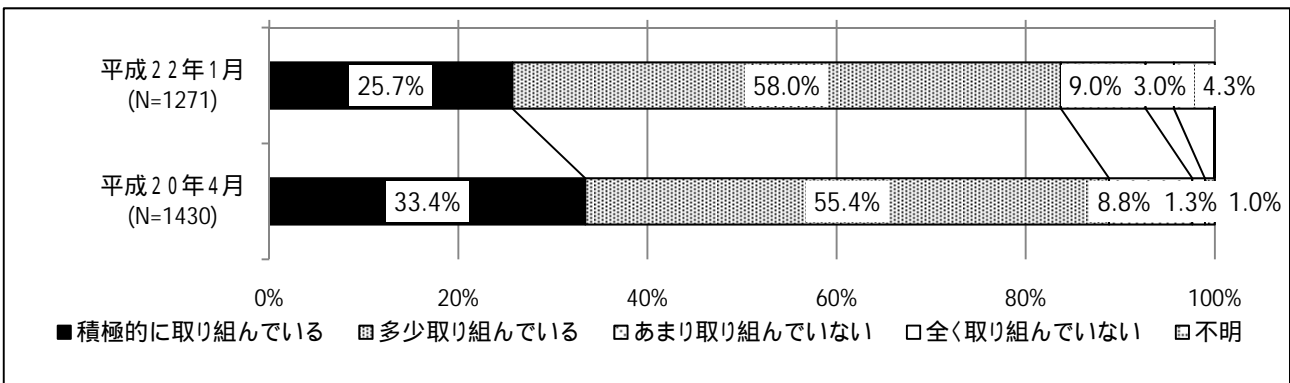


(4) 環境に配慮した取り組み

環境に配慮した取り組みを行っている市民の割合（積極的に取り組んでいる、多少取り組んでいるの合計）は、第1回（平成20年4月）は88.8%であったのに対し第2回（平成22年1月）は83.7%と、5.1%減少している。

問15 あなたは、環境に配慮した取り組みを行っていますか？

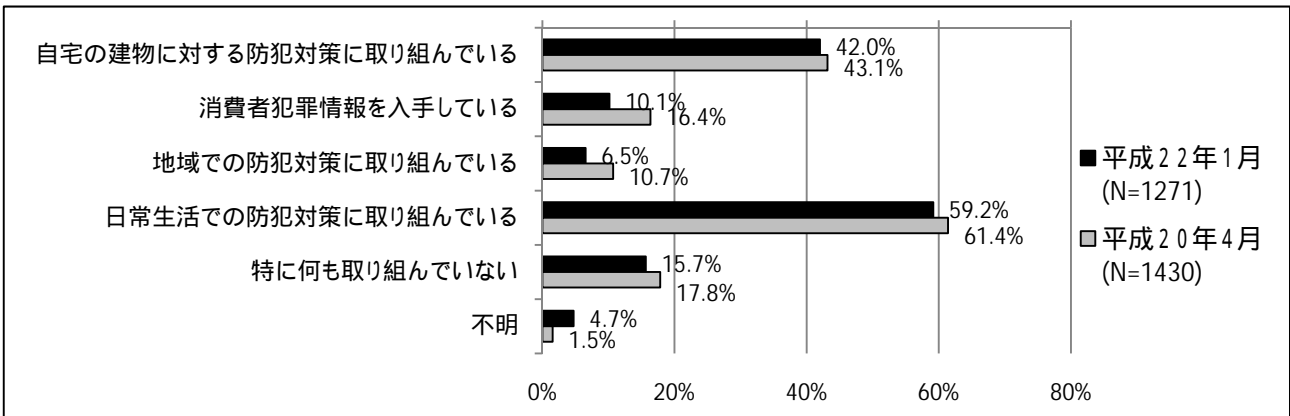
「環境に配慮した取組み」とは、ゴミの分別と抑制、光熱水量の節減、緑化の推進、自動車利用の抑制と低燃費車の購入などの取組みを指します。



(5) 防犯

何らかの防犯対策を行っている市民の割合は、「日常生活での防犯対策に取り組んでいる」59.2%（第1回61.4%）、「自宅の建物に対する防犯対策に取り組んでいる」42.0%（第1回43.1%）となっている。防犯対策を行っていない（「特に何も取り組んでいない」）市民の割合は、15.7%であり、第1回17.8%と比べて2.1%減少している。

問16 あなたやあなたの世帯では、以下に掲げるような何らかの防犯対策を行っていますか？（複数選択可）



1. 自宅の建物に対する防犯対策に取り組んでいる（センサー・明かりをつける、警備会社に委託する、二重鍵にする）
2. 消費者犯罪情報を入手している（キャッチセールス、振り込め詐欺、架空請求、解約に関するトラブルなど）
3. 地域での防犯対策に取り組んでいる（防犯パトロール、知らない人には声を掛ける、地域でのコミュニケーションを図る）
4. 日常生活での防犯対策に取り組んでいる（人通りの多い所や明るい所を歩く、自転車に鍵をかける、自転車のかごにネットをかける）
5. 特に何も取り組んでいない

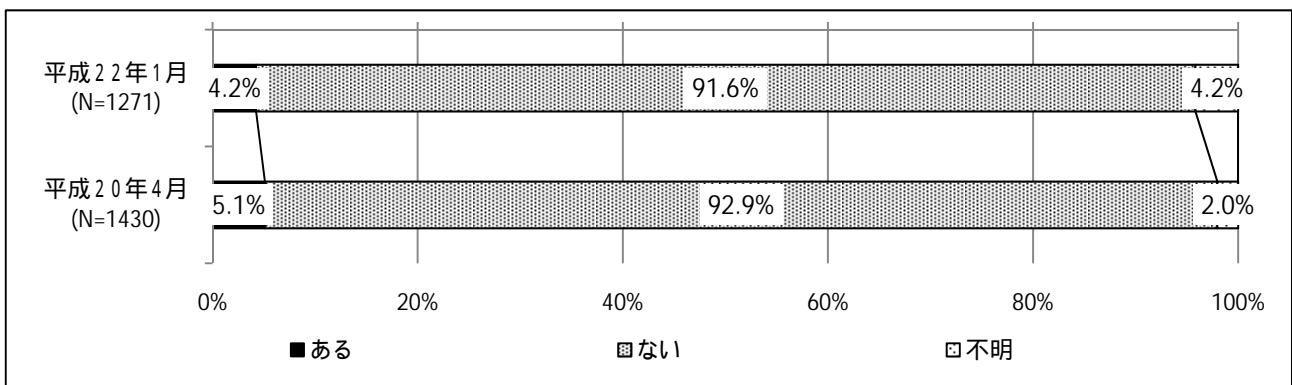
(6) 消費生活

過去1年間で消費生活に関する被害にあったことがある市民の割合は、第1回(平成20年4月)は5.1%であったのに対し第2回(平成22年1月)は4.2%と、0.9%減少している。

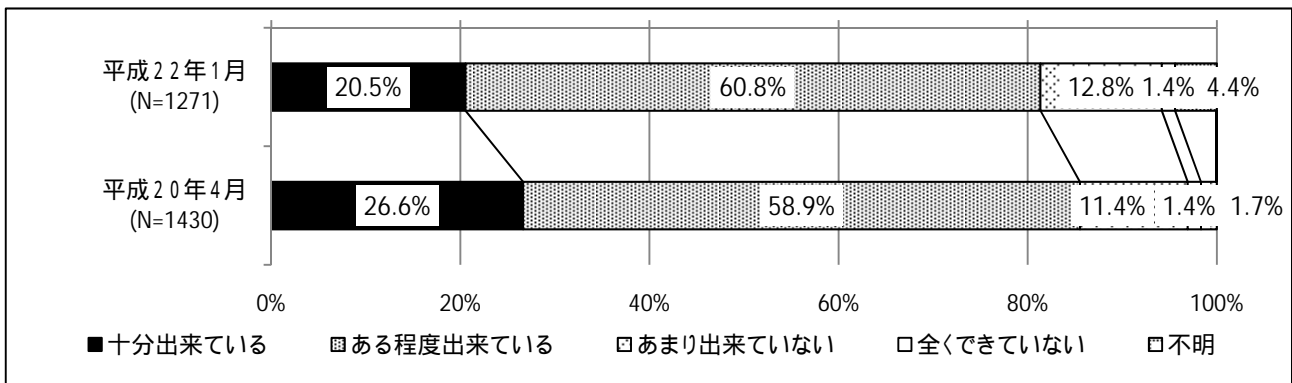
また、消費生活に関する情報を身近に聞く・触れることが出来ている市民の割合(十分出来ている、ある程度出来ているの合計)は、第1回(平成20年4月)は85.5%であったのに対し第2回(平成22年1月)は81.3%と、4.2%減少している。

問17 あなたは、過去1年間で消費生活に関する被害にあつたことがありますか？

「消費生活に関する被害」とはキャッチセールス、振り込め詐欺、解約に係るトラブル、架空請求などの被害を指します。



問18 あなたは、消費生活に関する情報をテレビ、新聞、広報誌等で身近に聞く・触れることが出来ていますか？



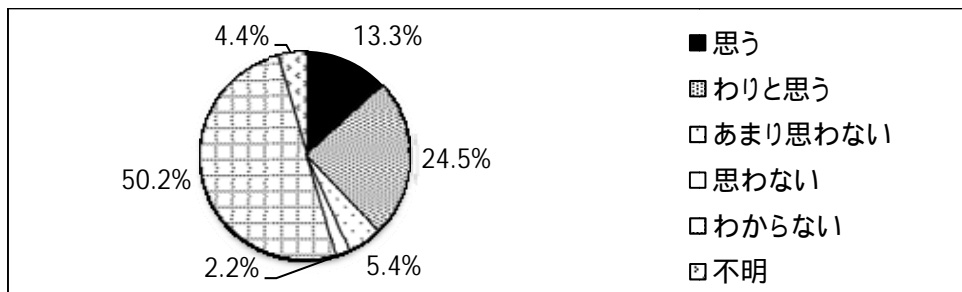
(7) 個人情報保護

国立市が個人情報の保護を的確に行っていると思う市民の割合(思う、わりと思うの合計)は、37.8%であり、国立市が個人情報の保護を的確に行っているかわからない市民の割合が50.2%となっている。

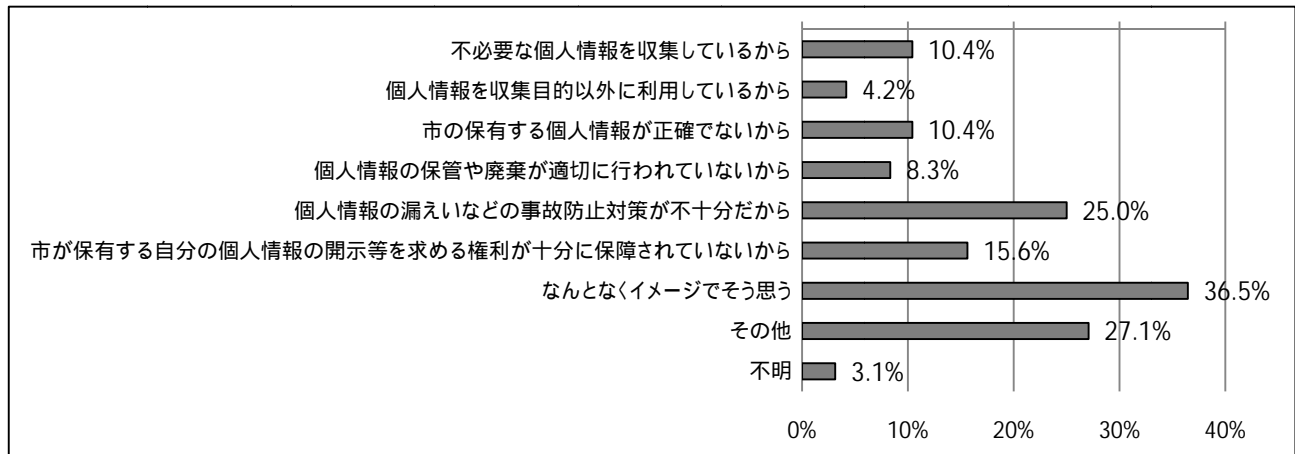
また、国立市が個人情報の保護と的確に行っていないと思う市民にとって、その理由としては「なんとなくイメージでそう思う」36.5%、「個人情報の漏えいなどの事故防止対策が不十分だから」25.0%が挙げられた。

また、民間事業者が個人情報の保護を的確に行っていると思う市民の割合(思う、わりと思うの合計)は、15.1%であり、民間事業者が個人情報の保護を的確に行っているかわからない市民の割合が33.9%となっている。

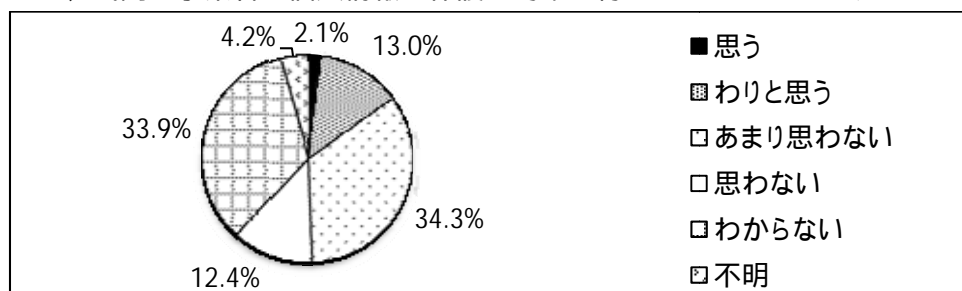
問19 あなたは、国立市が個人情報の保護を的確に行っていると思いますか？



問20 問19で「あまり思わない」、「思わない」と答えた方に伺います。その理由は次のうちどれですか？(複数選択可)



問21 あなたは、民間の事業者が個人情報の保護を的確に行っていると思いますか？



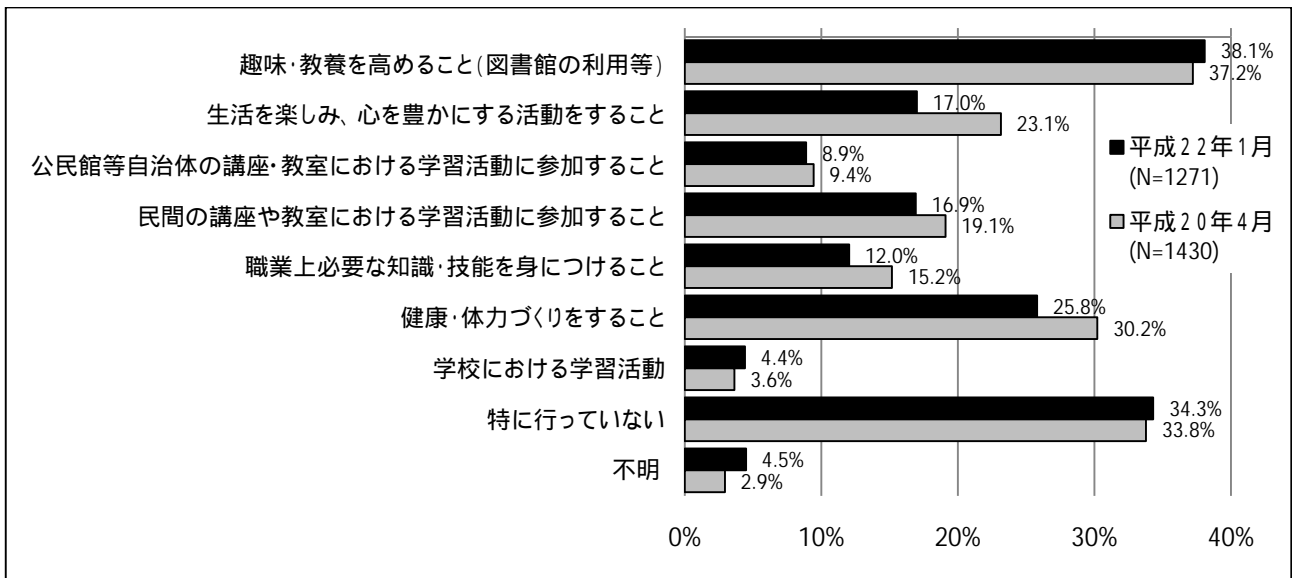
(8) 生涯学習活動

市民が過去1年間に行った生涯学習活動としては、「趣味・教養を高めること」38.1%（第1回37.2%）、「健康・体力づくりをすること」25.8%（第1回30.2%）が主に挙げられる。尚、生涯学習活動を特に行っていない市民の割合は、第1回（平成20年4月）は33.8%であったのに対し第2回（平成22年1月）は34.3%と、0.5%増加している。

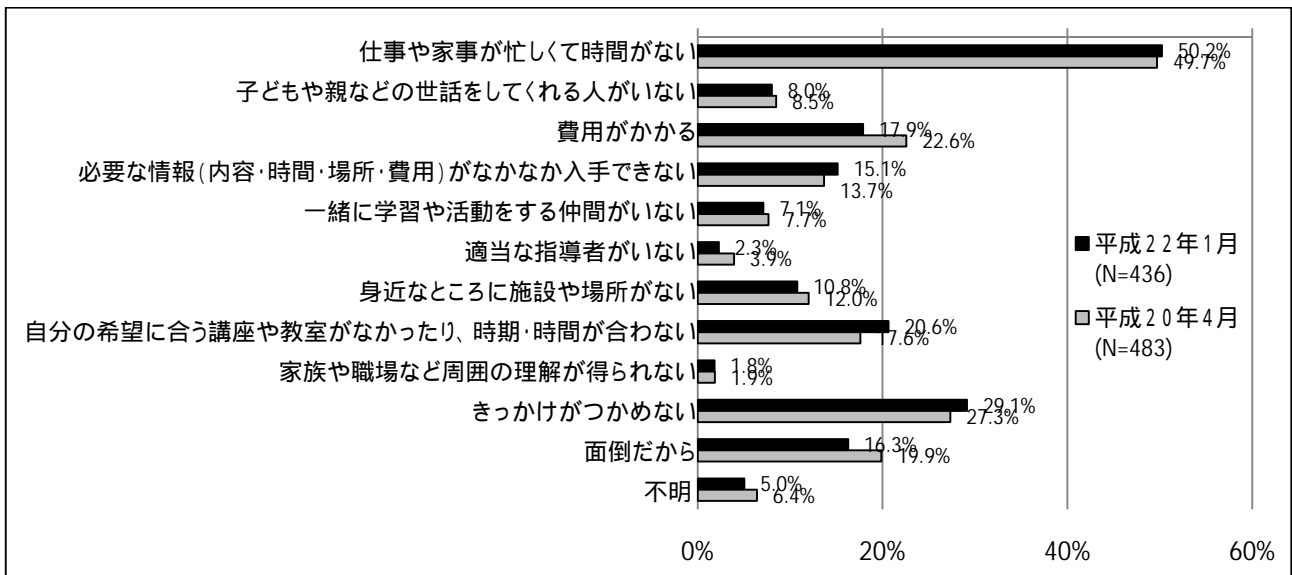
また、生涯学習活動を特に行っていない市民にとって、その理由としては「仕事や家事が忙しくて時間がない」50.7%（第1回49.7%）、「きっかけがつかめない」29.1%（第1回27.3%）が主に挙げられた。

また、生涯学習を行っている市民にとって、学習を通じて生きがいを得られた割合は、第1回（平成20年4月）は78.8%であったのに対し第2回（平成22年1月）は77.5%と、1.3%減少している。

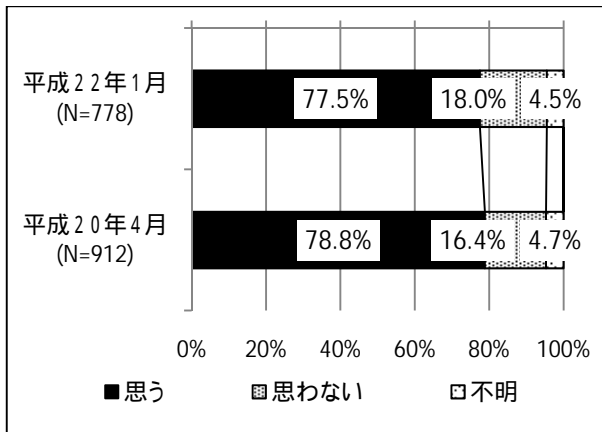
問22 あなたは、過去1年間に以下のような生涯学習活動をしたことがありますか？（複数選択可）



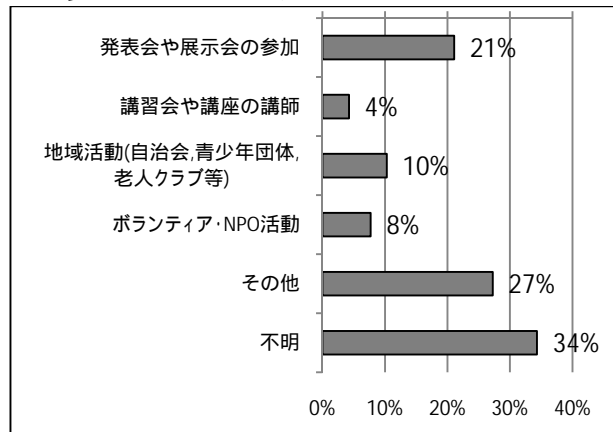
問23 問22で「特に行っていない」と答えた方に伺います。それはどうしてでしょうか。（複数選択可）



問24 問22で「1～7」を選択した方に伺います。学習を通じて生きがいを得られたと思いますか？



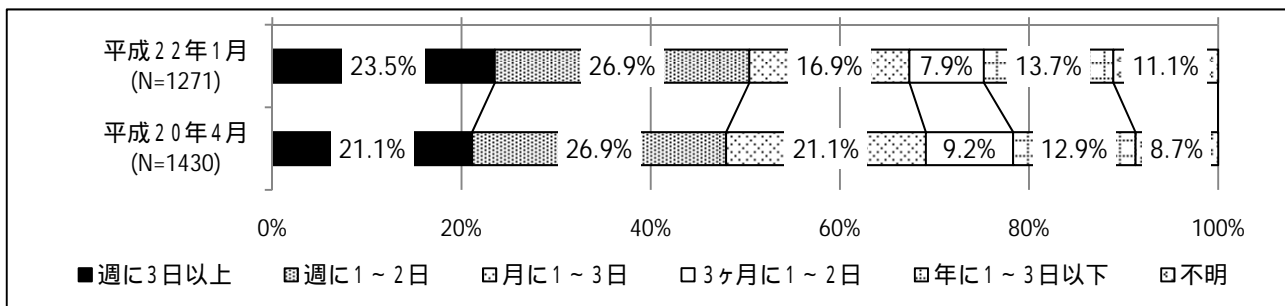
問25 問22で「1～7」を選択した方に伺います。学習で身につけた知識や技術を地域や社会にどのように生かしていますか？



(9) スポーツ・レクリエーション

日常スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合(週に3日以上、週に1～2日の合計)は、第1回(平成20年4月)は48.0%であったのに対し第2回(平成22年1月)は50.4%と、2.4%増加している。

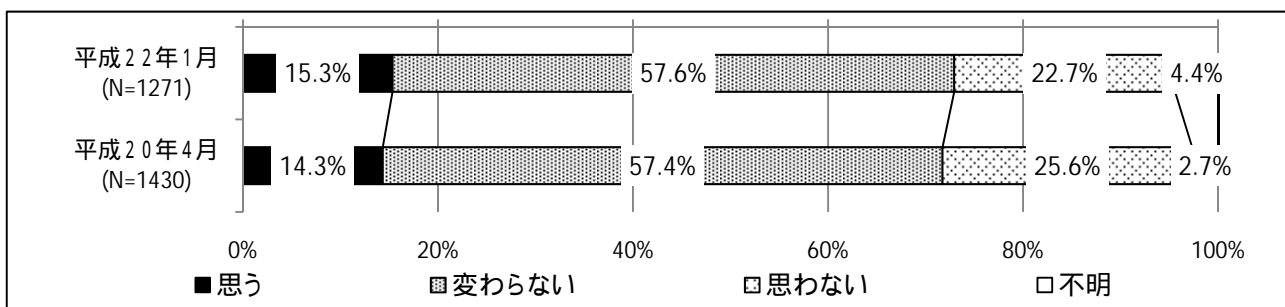
問26 あなたは、どの程度スポーツ・レクリエーション(ウォーキングなど軽い運動も含む)を行っていますか？



(10) 健康

1年前と比べて健康だと思う市民の割合は、第1回(平成20年4月)は14.3%であったのに対し第2回(平成22年1月)は15.3%と、1.0%増加している。

問27 あなたは、1年前と比べて健康だと思いますか？



(1 1) 文化・芸術活動

過去1年間に文化・芸術活動を鑑賞した市民の割合(相当ある、まあまああるの合計)は、第1回(平成20年4月)は50.6%であったのに対し第2回(平成22年1月)は50.4%と、0.2%減少している。

また、過去1年間に文化・芸術活動を鑑賞した市民(相当ある、まあまあある、あまりないと回答した市民)にとって、主に市外で鑑賞したという割合が83.6%(第1回83.2%)と、主に市内で鑑賞したという割合14.6%(第1回14.3%)を大きく上回っている。

また、過去1年間に文化・芸術活動は全く鑑賞していない市民にとって、関心がある(関心はある、まあまあ関心があるの合計)という割合は第1回(平成20年4月)は69.5%であったのに対し第2回(平成22年1月)は59.0%と、10.5%減少している。<但し、第1回と第2回では選択肢が多少異なる>

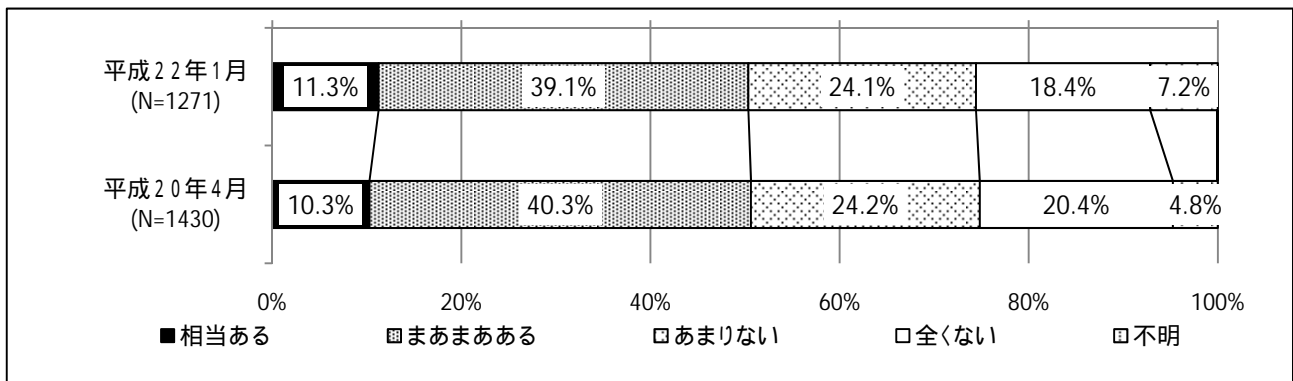
過去1年間に文化・芸術活動を行った市民の割合(相当ある、まあまああるの合計)は、第1回(平成20年4月)は25.3%であったのに対し第2回(平成22年1月)は21.8%と、3.5%減少している。

また、過去1年間に文化・芸術活動を行った市民にとって、主に市外で行ったという割合が60.3%(第1回58.0%)と、主に市内で行ったという割合38.6%(第1回39.0%)を上回っている。

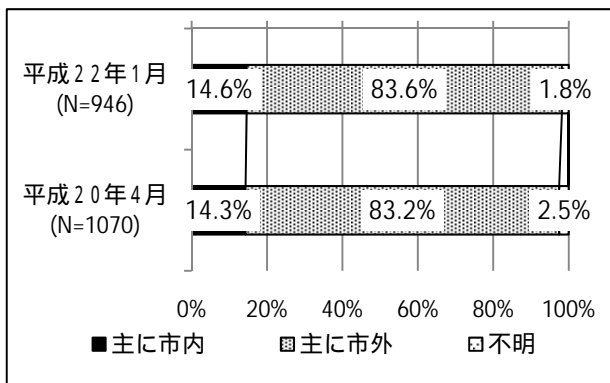
また、過去1年間に文化・芸術活動は行っていない市民にとって、関心があるという割合(関心はある、まあまあ関心があるの合計)は、第1回(平成20年4月)が45.4%であったのに対し第2回(平成22年1月)は62.9%と、17.5%増加している。<但し、第1回と第2回では選択肢が多少異なる>

問28 あなたは、文化・芸術活動を過去1年間にどの程度鑑賞しましたか？

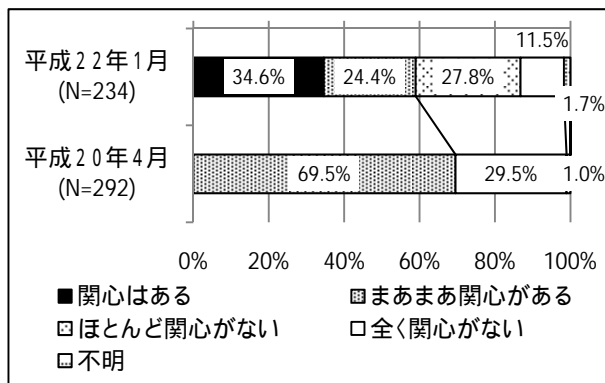
文化・芸術活動・・・音楽、演劇・演芸、舞踊、美術、文芸、生活文化(生け花、茶道、ファッション、人形、盆栽、園芸、囲碁、将棋など)、映画など



問29 問28で「1～3」と答えた方に伺います。主にどこで文化・芸術活動を鑑賞しましたか？

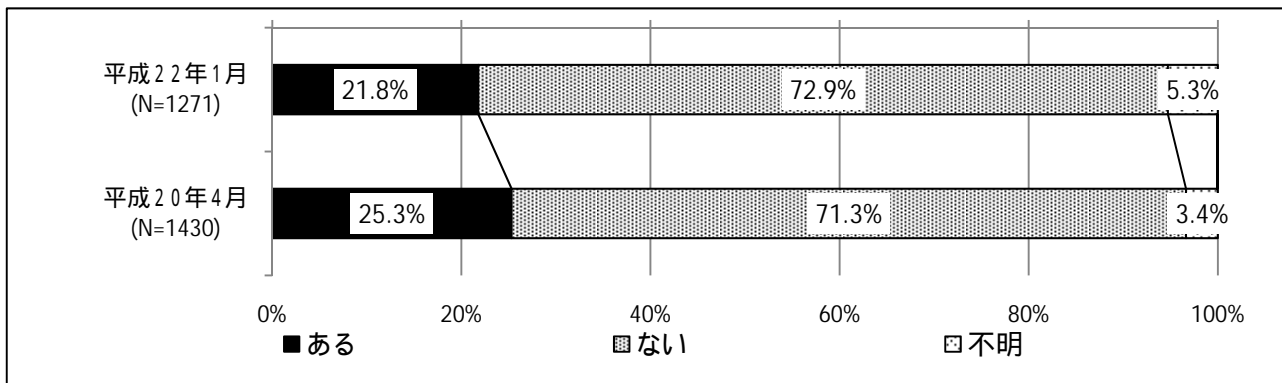


問30 問28で「4.全くない」と答えた方に伺います。関心はありますか？

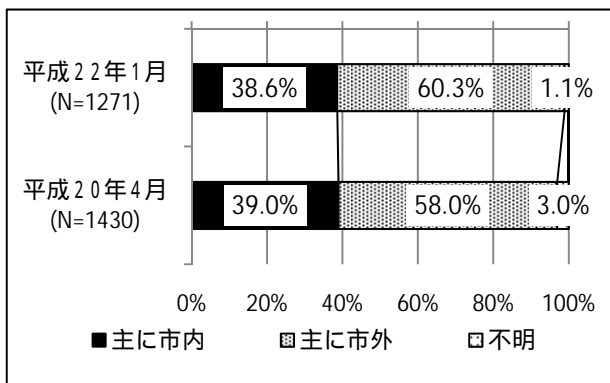


平成20年4月の調査では「関心はある、関心がない」の2択

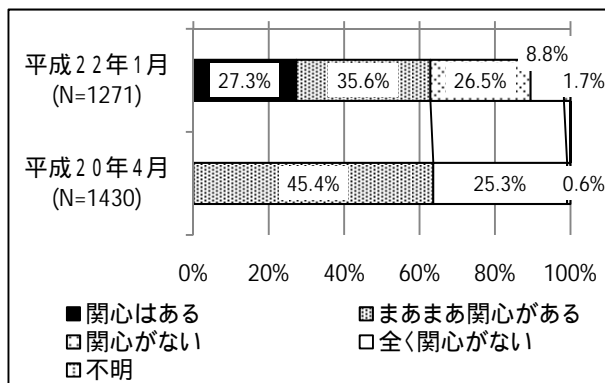
問31 あなたは、文化・芸術活動を過去1年間にご自分で行ったことがありますか？



問32 問31で「ある」と答えた方に伺います。主にどこで文化・芸術活動を行いましたか？



問33 問31で「ない」と答えた方に伺います。関心はありますか？



平成20年4月の調査では「関心はある、関心がない」の2択

(1 2) 歴史・文化遺産

過去1年間で市内の歴史・文化遺産を訪れたことがある市民の割合は、第1回(平成20年4月)が60.7%であったのに対し第2回(平成22年1月)は59.7%と、1.0%減少している。

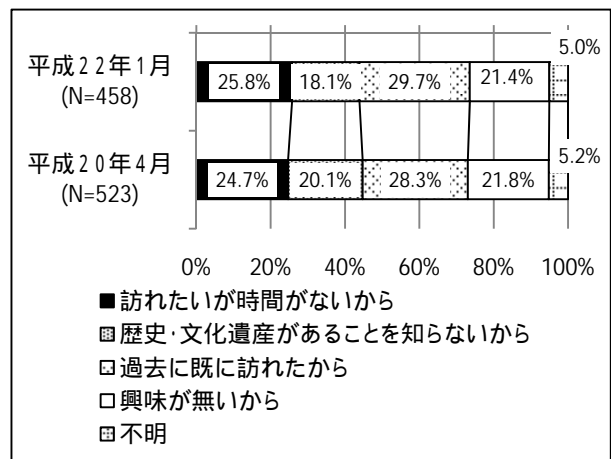
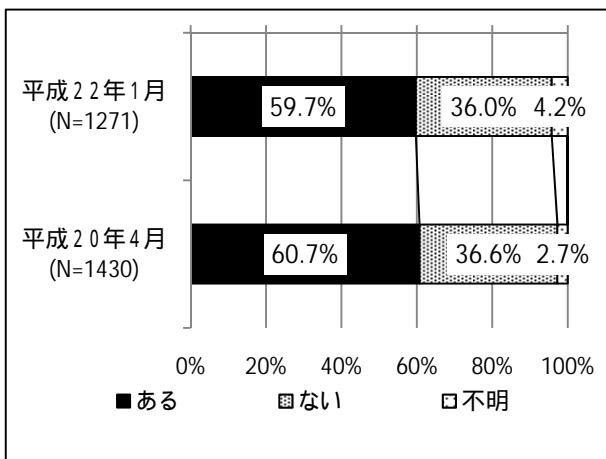
また、過去1年間で市内の歴史・文化遺産を訪れたことがない市民にとって、その理由としては「過去に既に訪れたから」29.7%(第1回28.3%)、「訪れたいが時間が無い」25.8%(第1回24.7%)、「歴史・文化遺産があることを知らないから」18.1%(第1回20.1%)が挙げられた。

また、市内の歴史・文化遺産が地域の資源として活用されていると思う市民の割合(思う、わりと思うの合計)は、第1回(平成20年4月)が30.1%であったのに対し第2回(平成22年1月)は32.1%と、2.0%増加している。

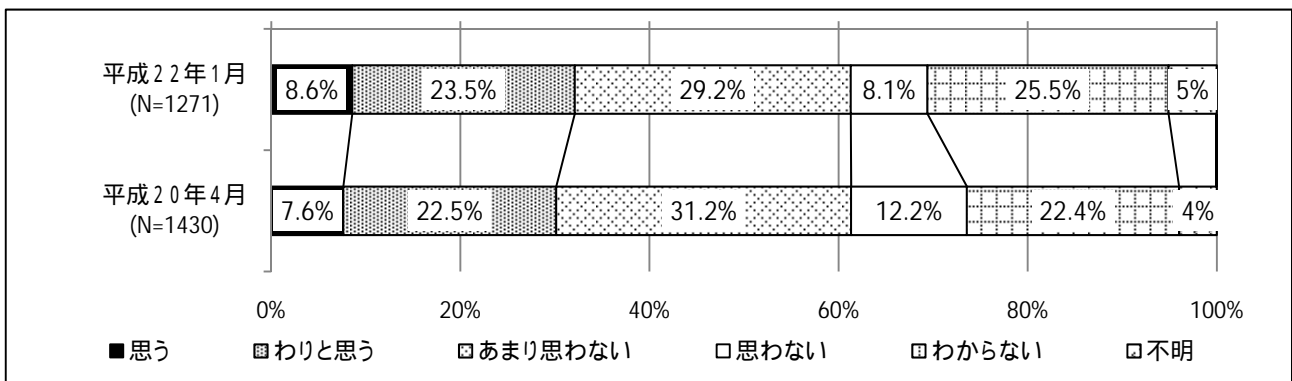
問34 あなたは、過去1年間で市内の歴史・文化遺産を訪れたことがありますか？

歴史・文化遺産・・・谷保天満宮、古民家、南養寺、四軒在家遺跡、滝乃川学園、下谷保一号墳、ママ下湧水など

問35 問34で「2.ない」と答えた方に伺います。それはなぜでしょうか？



問36 あなたは、市内の歴史・文化遺産が地域の資源として活用されていると思いますか？



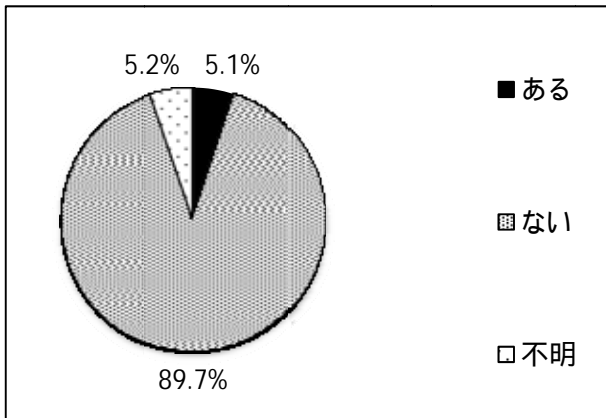
(1 3) 国際交流

過去1年間に行政や民間団体が行う国際交流活動・イベント等に参加したことがある市民の割合は5.1%であり、89.7%の市民が参加したことが無い。

また、参加したことがある市民にとって、その活動は「国・都道府県・市町村主催の国際交流活動・イベント」41.5%、「民間団体主催の国際交流活動イベント」38.5%が挙げられた。

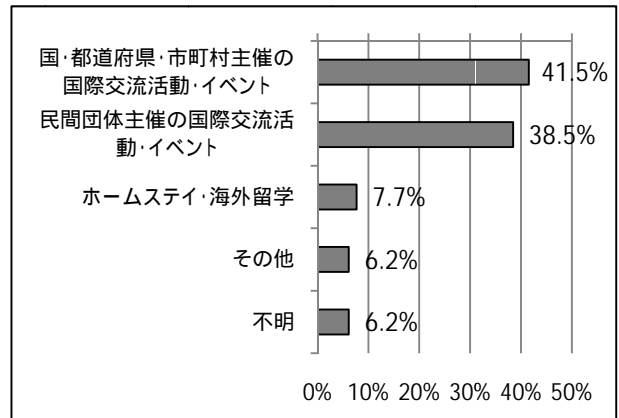
また、今後行政や民間活動が行う国際交流活動・イベント等に参加したいと思う市民の割合は、34.6%であり、58.9%の市民が参加したいと思わない。

問37 あなたは、過去1年間に行政や民間団体が行う国際交流活動・イベント等に参加したことがありますか？

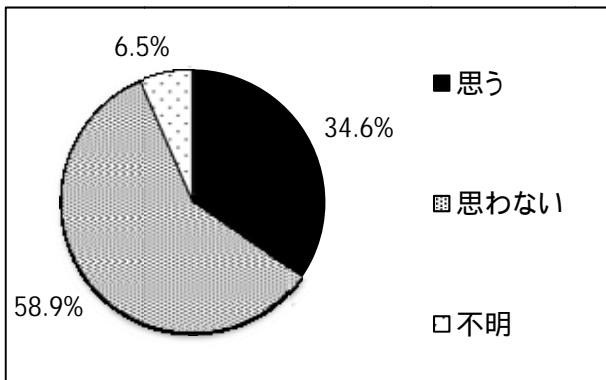


問38 問37で「ある」と答えた方に伺います。具体的にどのような活動でしょうか？

(複数選択可)



問39 あなたは、今後行政や民間団体が行う国際交流活動・イベント等に参加したいと思いますか？



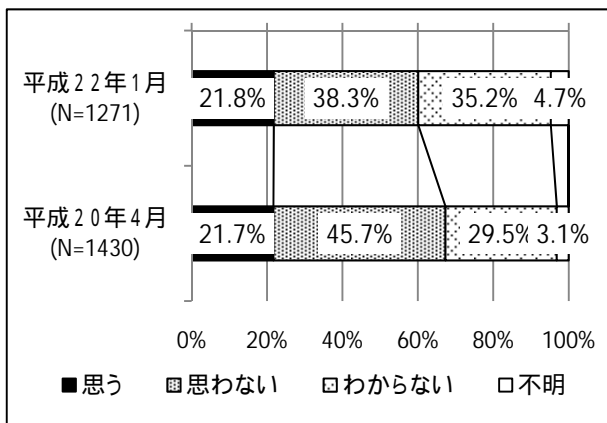
(14) 男女平等

男女の役割が平等になっていると思う市民の割合は、第1回(平成20年4月)が21.7%であったのに対し第2回(平成22年1月)は21.8%と、0.1%増加している。

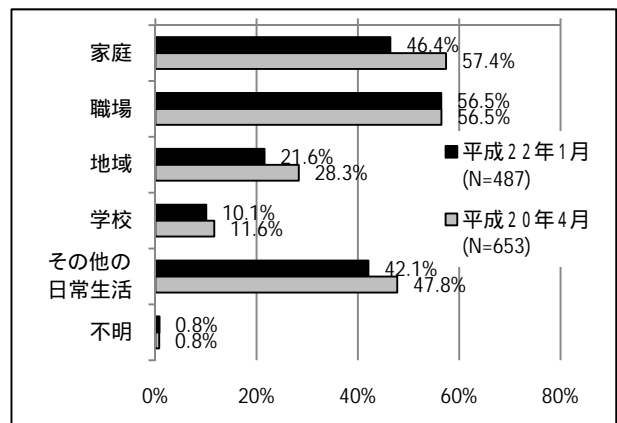
尚、平等になっていないと思う市民がどの場面でそう思ったかに関しては、「職場」56.5%(第1回56.5%)、「家庭」46.4%(第1回57.4%)、「その他の日常生活」42.1%(47.8%)が主に挙げられた。

また、様々な社会参画の機会において男女の比率が適切になっていると思う市民の割合は、第1回(平成20年4月)が30.1%であったのに対し第2回(平成22年1月)は29.8%と、0.3%減少している。

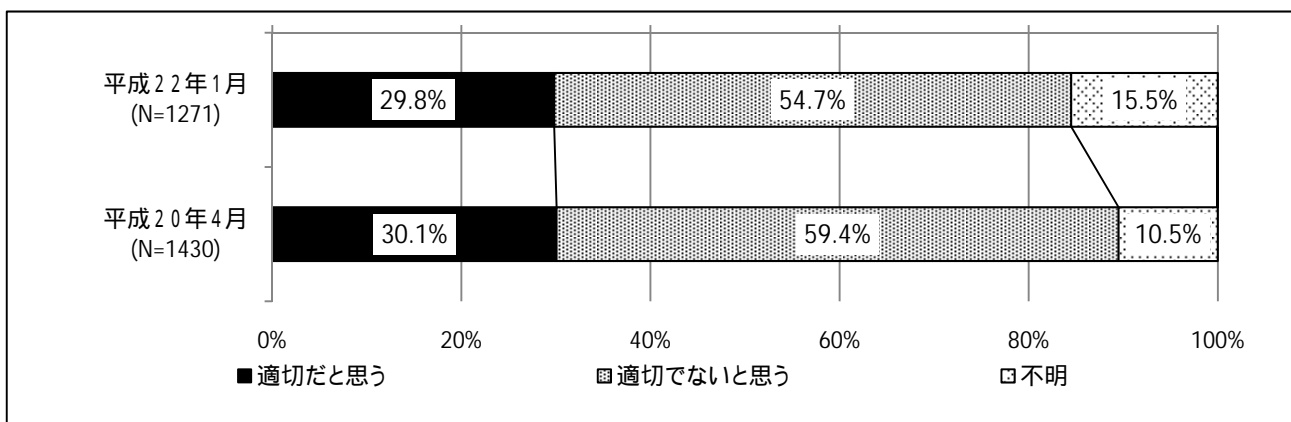
問40 あなたは、男女の役割が平等になっていると思いますか？



問41 問40で「思わない」と答えた方に伺います。それはどのような場面でそう思われますか？(複数選択可)



問42 あなたは、様々な社会参画の機会において男女の比率が適切になっていると思いますか？



(15) 平和と人権

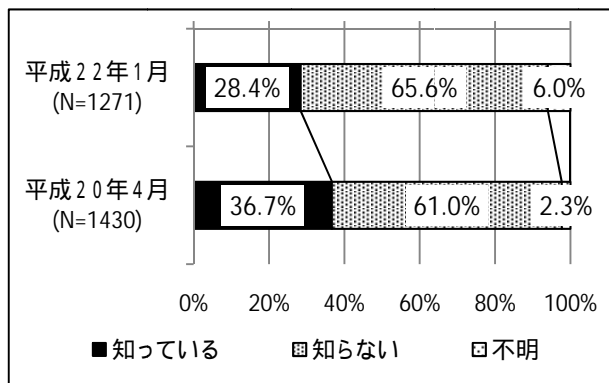
国立の平和都市宣言を知っている市民の割合は、第1回(平成20年4月)が36.7%であったのに対し第2回(平成22年1月)は28.4%と、8.3%減少している。

また、過去1年間で市や団体が実施している平和事業やイベントに参加したことがある市民の割合は、第1回(平成20年4月)が15.3%であったのに対し第2回(平成22年1月)は9.2%と、6.1%減少している。

また、自身とそのまわりで人権が尊重されていると思う市民の割合は、第1回(平成20年4月)が37.5%であったのに対し第2回(平成22年1月)は34.1%と、3.4%減少している。

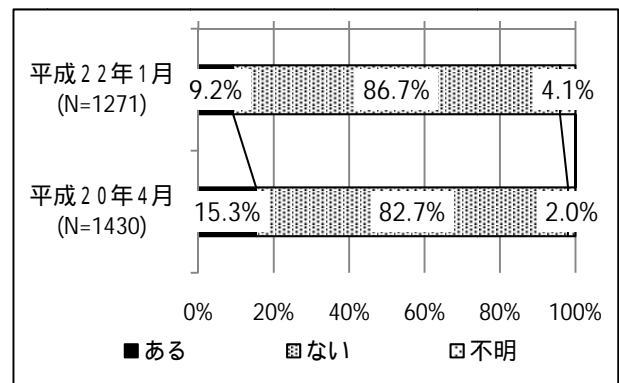
また、国立市が平和や人権を大切にしているまちだと思う市民の割合(思う、わりと思うの合計)は、43.0%であり、わからないとする市民は41.6%である。

問43 あなたは、国立の平和都市宣言を知っていますか？

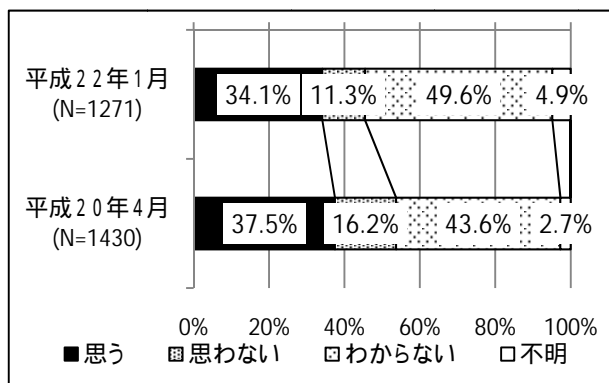


問44 あなたは、過去1年間で市や団体が実施している平和事業やイベントに参加したことがありますか？

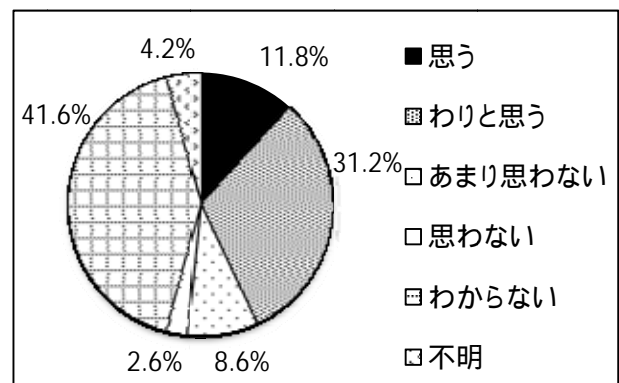
平和事業・・・講演、映画会、コンサート、写真展など



問45 あなたは、あなたとそのまわりで人権が尊重されていると思いますか？



問46 あなたは、国立市が平和や人権を大切にしているまちだと思いますか？



(16) コミュニティ

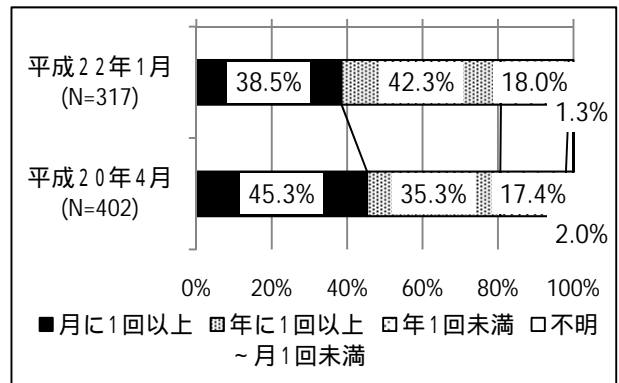
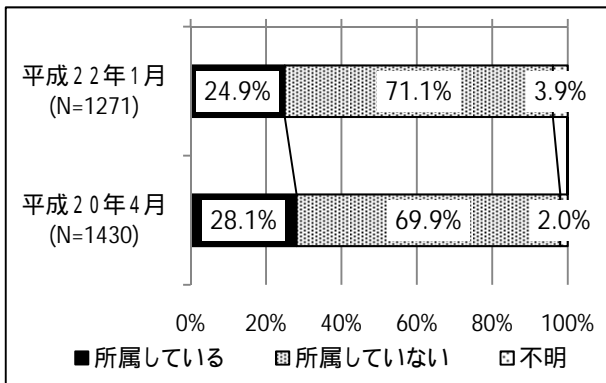
何らかのコミュニティに所属している市民の割合は、第1回(平成20年4月)が28.1%であったのに対し第2回(平成22年1月)は24.9%と、3.2%減少している。

尚、コミュニティに所属している市民の活動頻度については、「月に1回以上」38.5%(第1回45.3%)、「年に1回以上」42.3%(第1回35.3%)となっている。

問47 あなたは、何らかのコミュニティに所属していますか？

「コミュニティ」とは、自治会・町内会やNPO、ボランティア団体など目的をもって社会的責任を果たす開放的な集まりを指します。

問48 問47で「所属している」と答えた方に伺います。どの程度活動されていますか？

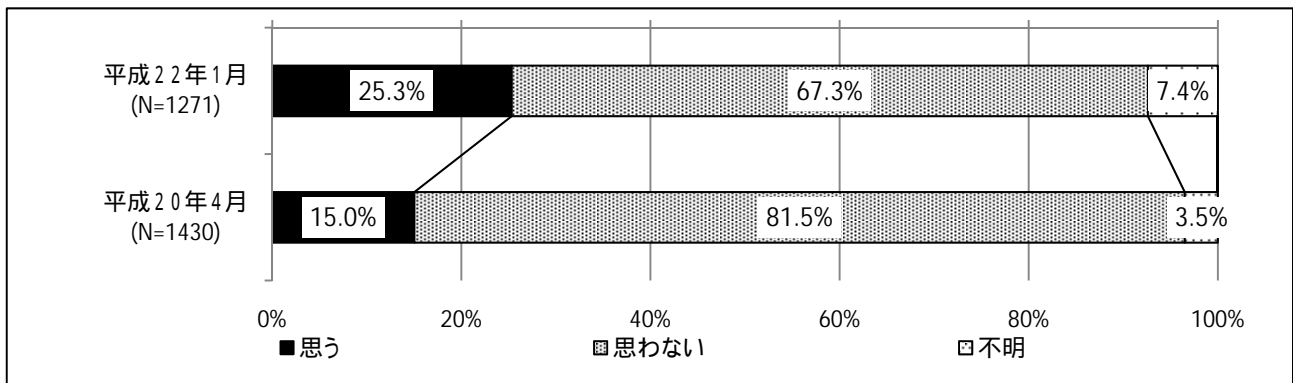


(17) 災害

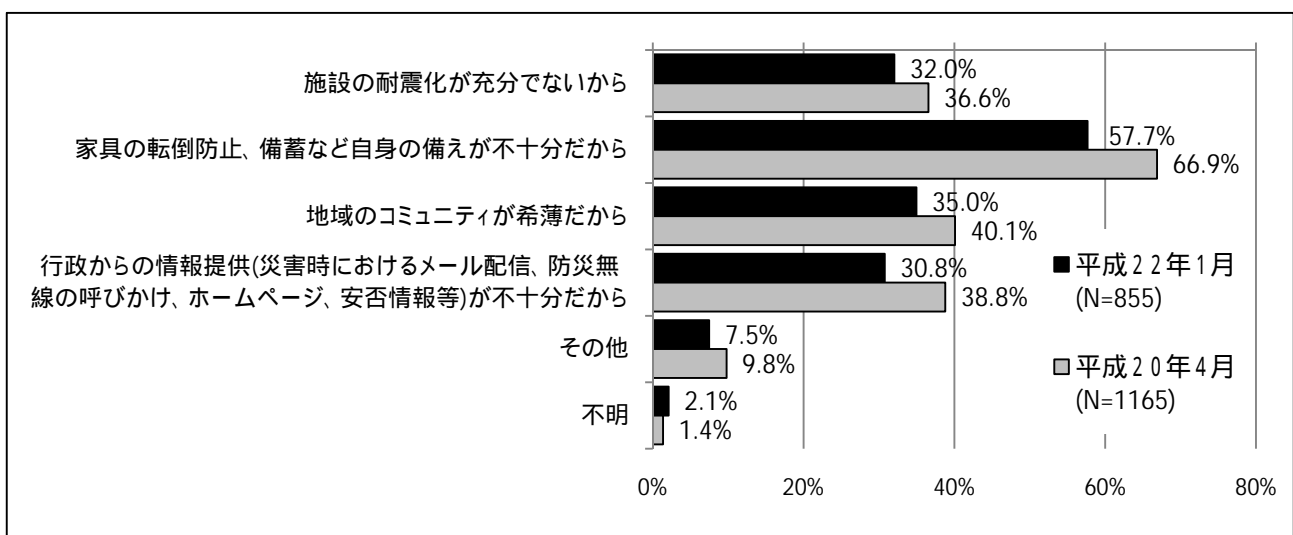
国立市内で地震や災害が起こったときに生命・財産が守られると思う市民の割合は、第1回(平成20年4月)が15.0%であったのに対し、第2回(平成22年1月)は25.3%と10.3%増加している。

尚、守られると思わない市民にとって、その理由としては「家具の転倒防止、備蓄など自身の備えが不十分だから」57.7%(第1回66.9%)、「地域のコミュニティが希薄だから」35.0%(第1回40.1%)、「施設の耐震化が十分でないから」(第1回36.6%)、「行政からの情報の提供が不十分だから」30.8%(第1回38.8%)が挙げられた。

問49 あなたは、国立市内で地震や災害が起こったときに生命・財産が守られると思いますか？



問50 問49で「思わない」と答えた方に伺います。それはなぜですか？(複数選択可)



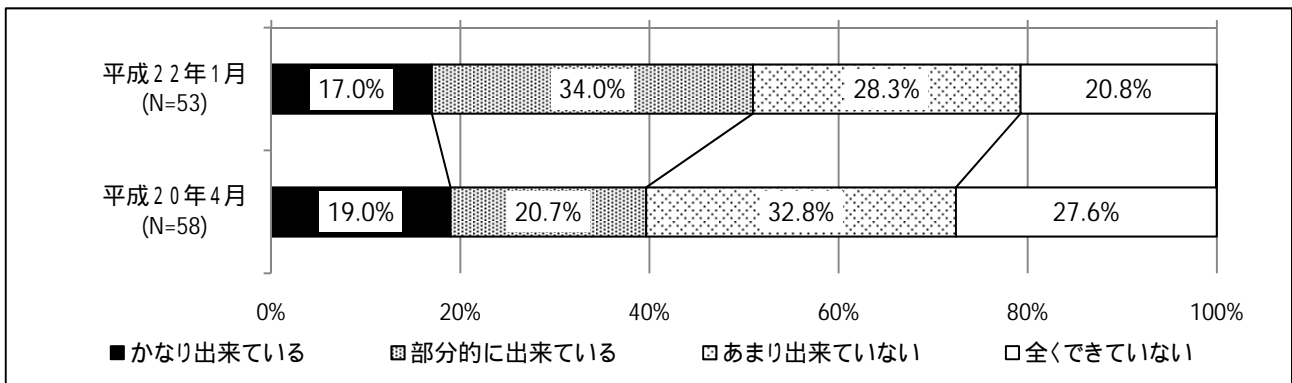
(18) しょうがいしゃ

社会参加したいときに自分なりの社会参加が来ているしょうがいしゃの割合(かなり来ている、部分的に来ているの合計)は、第1回(平成20年4月)が39.7%であったのに対し第2回(平成22年1月)は50.9%と、11.2%増加している。

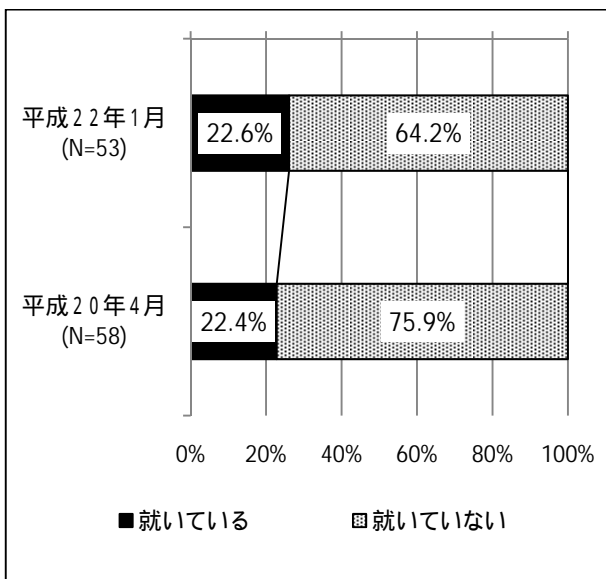
また、就労状況については、仕事に就いているしょうがいしゃの割合は第1回(平成20年4月)が22.4%であったのに対し第2回(平成22年1月)は22.6%と、0.2%増加している。

尚、仕事に就いていないしょうがいしゃの今後働きたいと思う人の割合は、第1回(平成20年4月)が24.1%であったのに対し第2回(平成22年1月)は24.5%と、0.4%増加している。

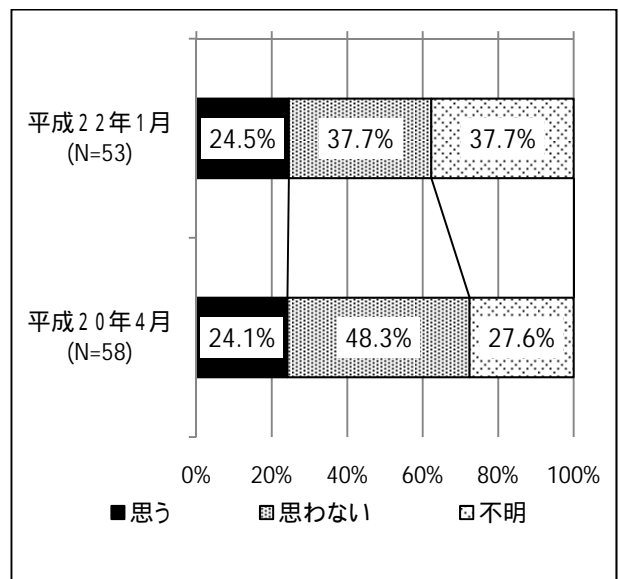
問51 障害者手帳をお持ちの方に伺います。あなたは、社会参加したいときに自分なりの社会参加が来ていますか？



あなたは、何かしら仕事に就いていますか？



前問で「2. 就いていない」と答えた方に伺います。あなたは、働きたいと思えますか？

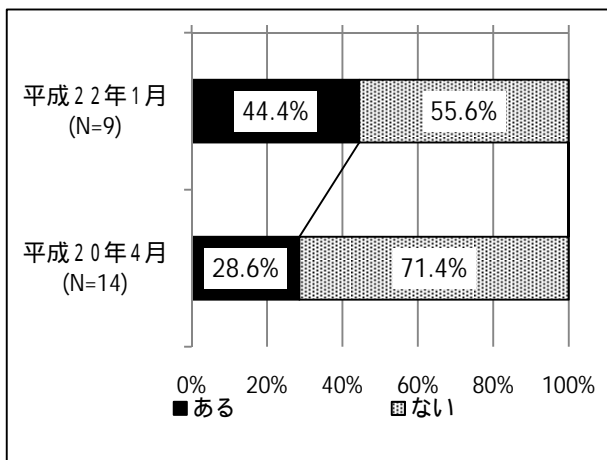


(19) 外国人

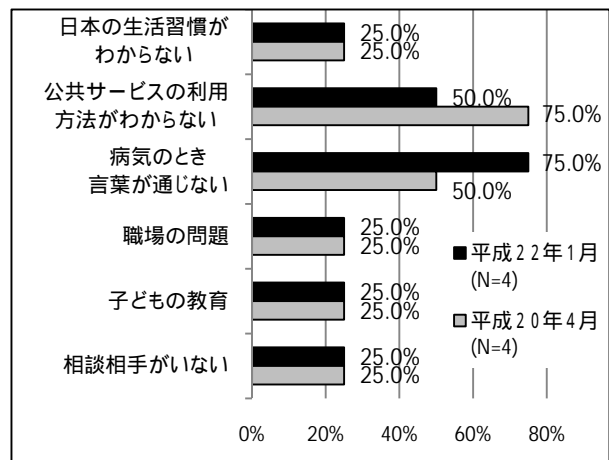
日常生活で何か困ることがある外国人の割合は、第1回(平成20年4月)が28.6%であったのに対し第2回(平成22年1月)は44.4%と、15.9%増加している。<但し、第1回・第2回共にサンプル数が少ない>

尚、日常生活で困ることがある外国人の具体的な内容については、「病気の時言葉が通じない」75.0%(第1回50.0%)、「公共サービスの利用方法がわからない」50.0%(第1回75.0%)が挙げられた。

問52 外国人の方に伺います。あなたは、日常生活で何か困ることはありますか？



前問で「1.ある」と答えた方に伺います。どのようなことでお困りでしょうか？(複数選択可)



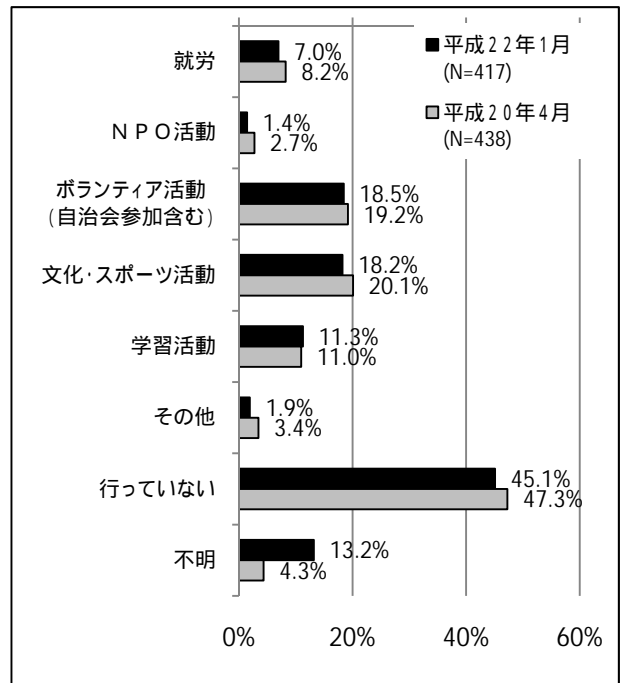
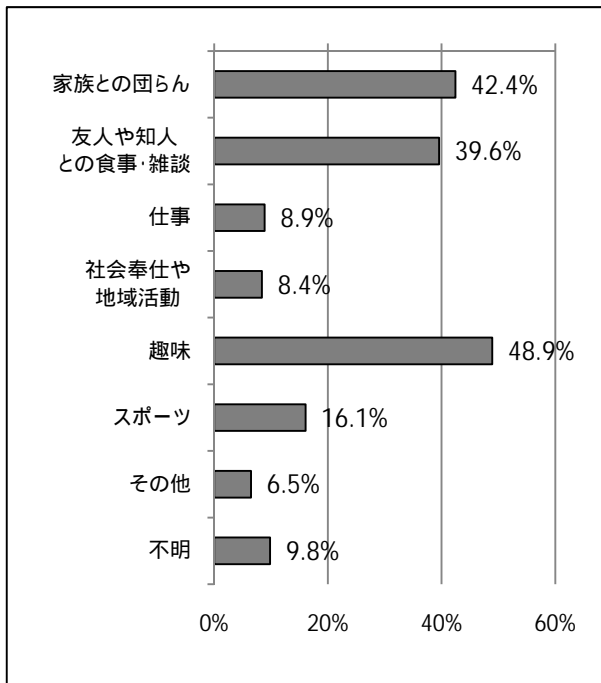
(2 0) 高齢者福祉

65歳以上の市民の生きがいとしては、「趣味」48.9%、「家族との団らん」42.4%、「友人や知人との食事・雑談」39.6%が主に挙げられた。

また、過去1年間に行った社会参加活動としては、「ボランティア活動」18.5%(第1回19.2%)、「文化・スポーツ活動」18.2%(第1回20.1%)、「学習活動」11.3%(第1回11.0%)が主に挙げられた。尚、過去1年間に社会参加活動を行っていない割合は、第1回(平成20年4月)が47.3%であったのに対し第2回(平成22年1月)は45.1%と、2.2%減少している。

問53 65歳以上の方に伺います。あなたは、どのようなことに生きがいを感じていますか？

また、あなたは、過去1年間に何らかの社会参加活動を行ったことがありますか？(複数選択可)



3. 市政について

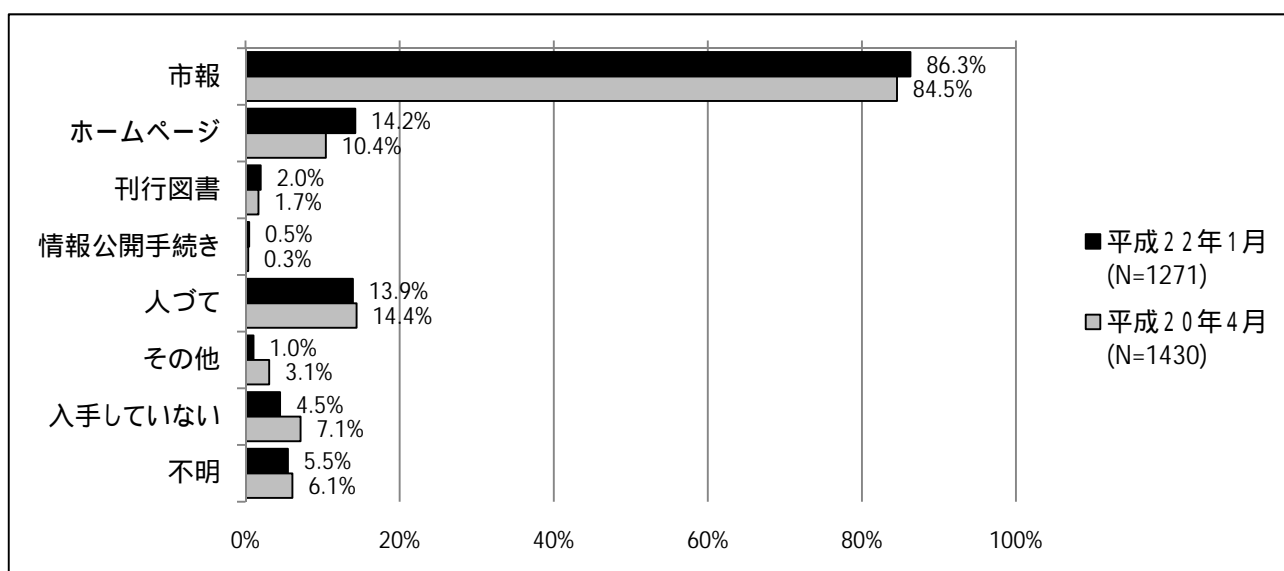
(1) 市政情報の入手

市民の市政情報の入手手段としては、「市報」86.3%（第1回84.5%）、「ホームページ」14.2%（第1回10.4%）、「人づて」14.4%（第1回13.9%）が主に挙げられた。

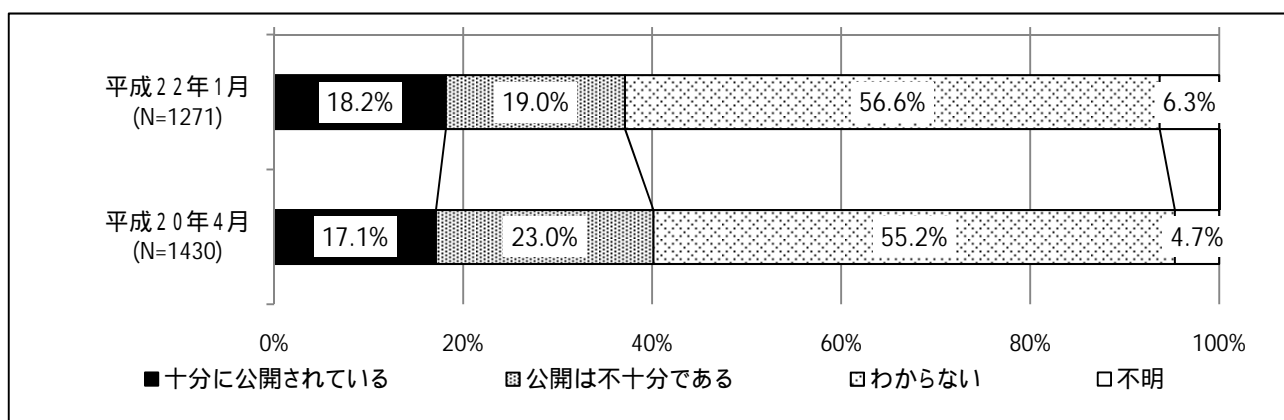
また、入手したい市政情報が十分に公開されていると思う市民の割合は、第1回（平成20年4月）が17.1%であったのに対し第2回（平成22年1月）は18.2%と、1.1%増加している。

問55 あなたは、何によって市政情報を得ていますか？（複数選択可）

「市政情報」とは、公文書（財政状況、予算・決算等）報告書、会議録、会議録音テープ、生活便利帳、イベント情報などを指します。



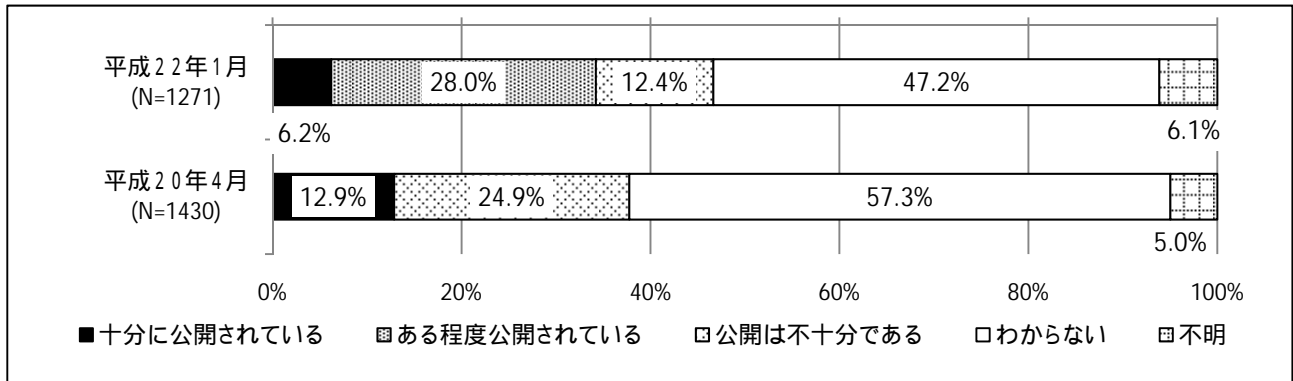
問56 あなたは、入手したい市政情報が十分に公開されていると思いますか？



(2) 議会情報の公開

議会に関する情報が十分に公開されていると思う市民の割合（十分に公開されている、ある程度公開されているの合計）は、34.2%となっている。前調査との比較では、選択肢が異なっているため一概に言えない。

問57 あなたは、議会に関する情報（会議日程、会議内容、会議結果）が十分に公開されていると思いますか？



平成20年4月の調査では「十分に公開されている、公開は不十分である、わからない」の3択

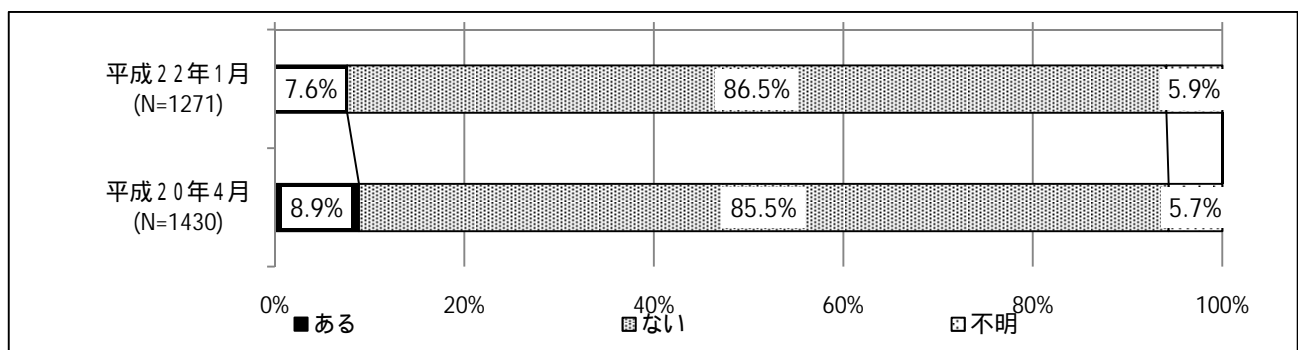
(3) 市民参画・協働

これまでに市の事業計画策定等に参画したことがある市民の割合は、第1回（平成20年4月）が8.9%であったのに対し第2回（平成22年1月）は7.6%と、1.3%減少している。

また、これまでに行政との協働事業に参加したことがある市民の割合は、第1回（平成20年4月）が16.2%であったのに対し第2回（平成22年1月）は14.3%と、1.9%減少している。尚、参加したことがある協働事業の分野は、「文化・芸術」27.5%（第1回28.4%）、「防災」20.9%（第1回17.2%）、「高齢者・介護生活支援」15.9%（第1回12.9%）が主に挙げられる。また、行政との協働事業に参加したことがない市民において、今後参加したいという市民の割合は、第1回（平成20年4月）が30.7%であったのに対し第2回（平成22年1月）は32.2%と、1.5%増加している。

問58 あなたは、これまでに市の事業計画策定等の過程に参画したことがありますか？

「市の事業計画策定などの過程に参画」とは、審議会、ワーキンググループ、パブリックコメント、意見を聞く会、説明会、懇談会、附属機関、わくわく塾などに参画したことを指します。



問59 あなたは、これまでに行政との協働事業に参加したことがありますか？

「協働」とは、NPO、市民、企業、行政等が暮らしやすいまちを共に目指して、相互の役割と責任のもと、お互いの特性をいかし、対等な立場で協力することです。

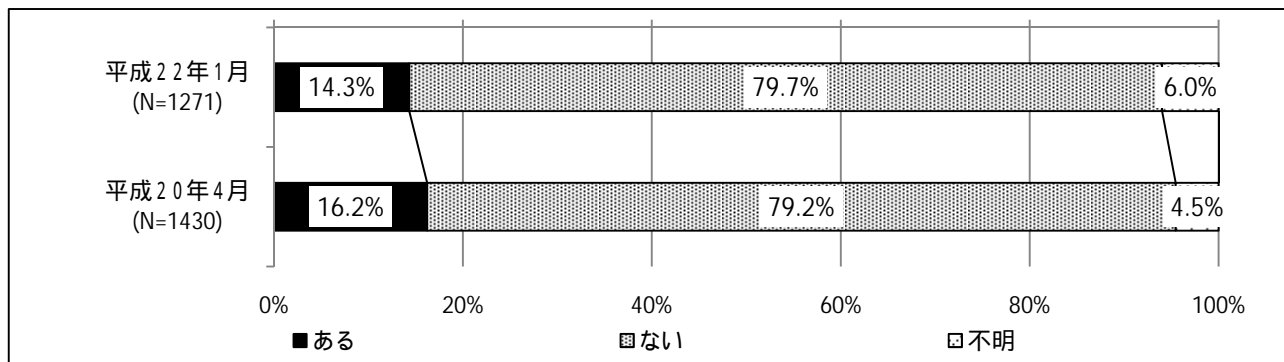
【例】 行政の計画立案に伴う懇談会やワークショップ、事業実施への参加

市民まつり、さくらフェスティバルなど市が後援しているイベントや環境フェスタなど市と共催しているイベントの実行委員会への参加

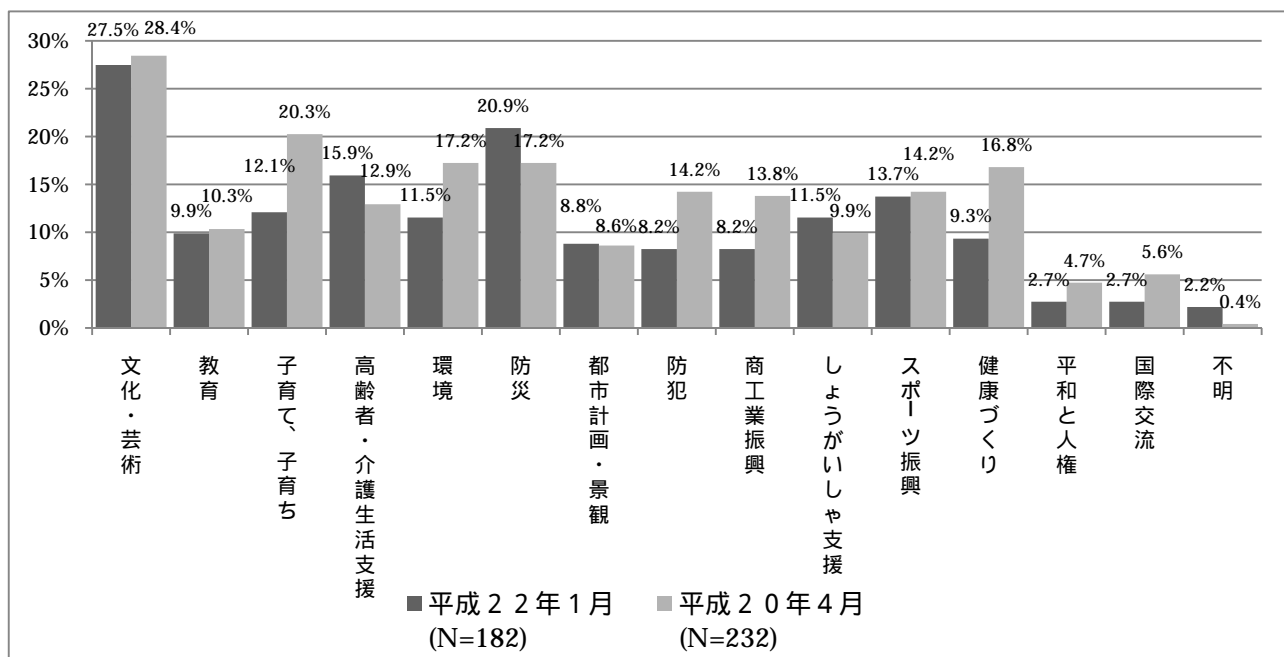
行政からの委託や助成等を受ける（NPO 等による）事業への参加

自治会やサークル、企業などにおいて行われる公共性の高い事業への参加

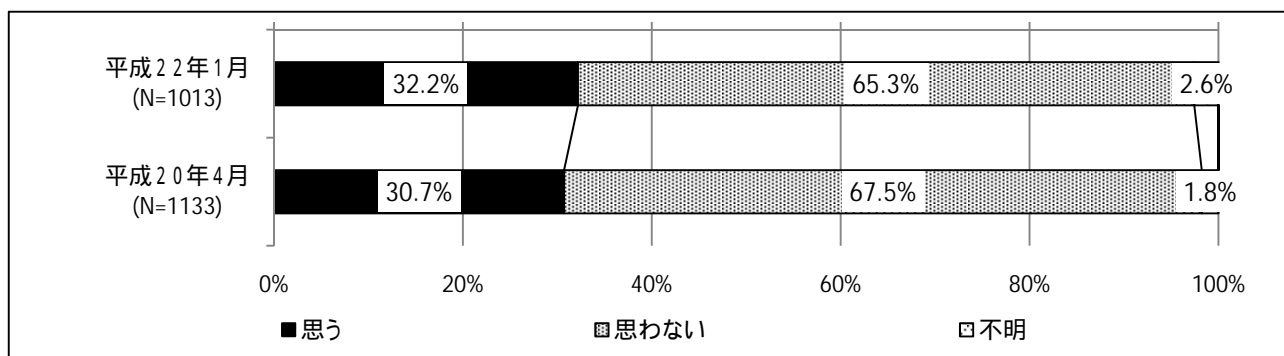
「NPO(非営利団体)」とは、営利を目的とせず社会貢献や慈善など公益的活動をする組織のことです。



問60 問59で「ある」と答えた方に伺います。あなたはどのような協働事業に参加しましたか？（複数選択可）



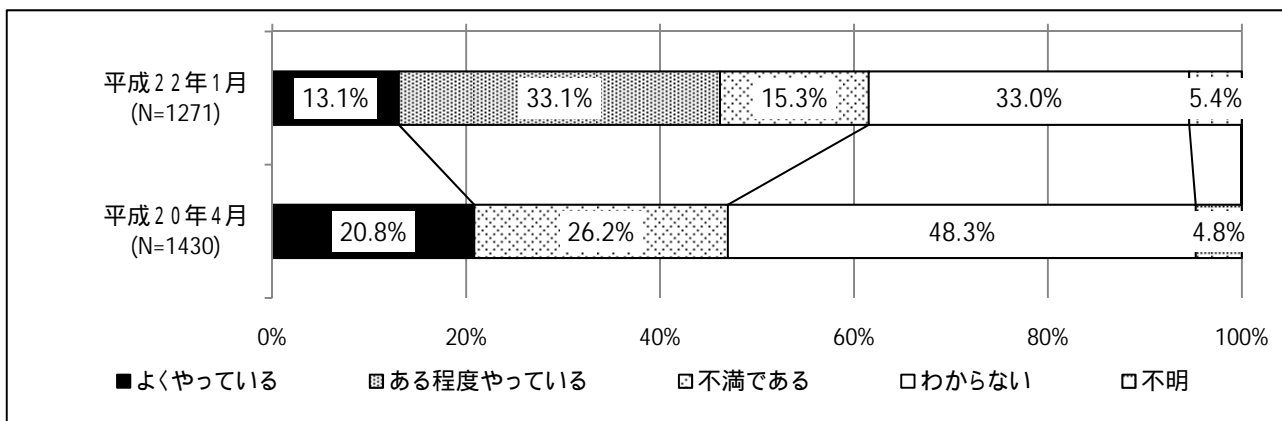
問61 問59で「ない」と答えた方に伺います。今後行政との協働事業に参加したいと思いますか？



(4) 市の組織運営や職員の仕事ぶり

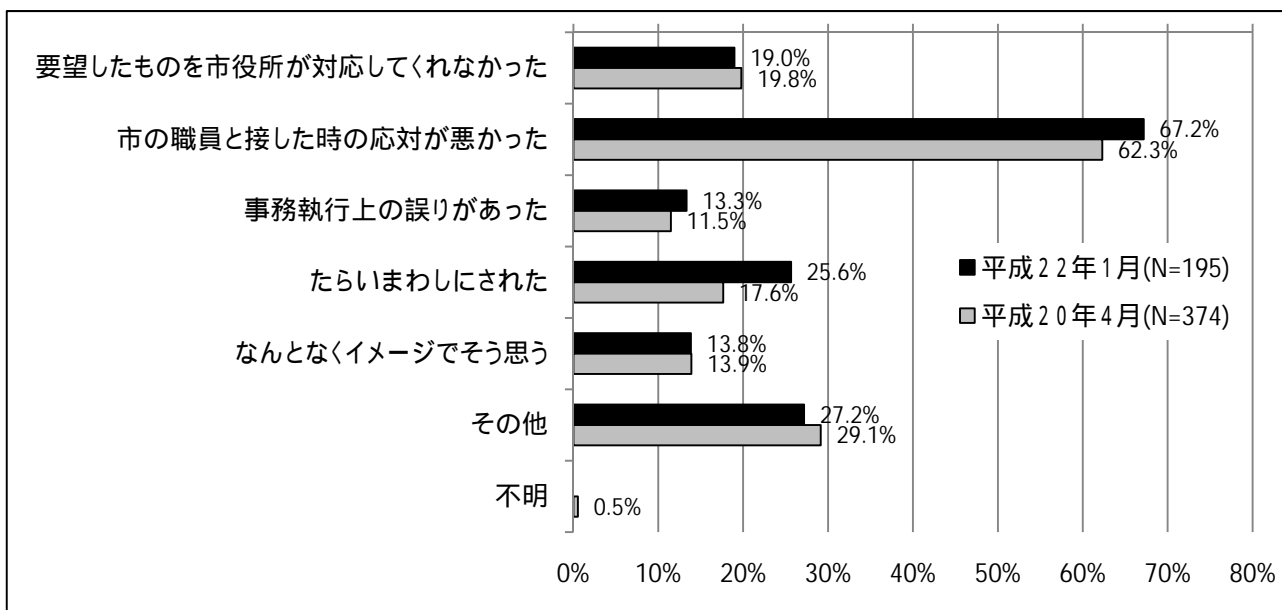
市の組織運営や職員の仕事ぶりに信頼感を持つ市民の割合（よくやっている、ある程度やっているの合計）は、46.2%である。尚、市の組織運営や職員の仕事ぶりが不満である市民において、その具体的内容としては、「市の職員と接した時の対応が悪かった」67.2%（第1回62.3%）、「たらいまわしにされた」25.6%（第1回17.6%）が主に挙げられた。

問62 あなたは、市の組織運営や職員の仕事ぶりをどう思いますか？



平成20年4月の第1回調査では「ある程度やっている」という選択肢は設けていない

問63 問62で「不満である」と答えた方に伺います。それはどんな点でそう感じますか？（複数選択可）



. 結果の詳細

1 . 調査票

第14回 国立市政世論調査 第2回 国立市市民意識調査

2つの調査へのご協力をお願い

市民の皆様には、日ごろから市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

このたび、国立市では「第14回国立市政世論調査」を実施することいたしました。この調査は5年ごとに、国立にお住まいの皆様が市政に対してどのようなご意見、ご要望をお持ちかを伺い、今後の基本計画策定及び国立市のまちづくりの参考とするために行うものです。

もう一つの「第2回国立市市民意識調査」は、市の基本計画で定められた施策(市・行政の各分野)について、行政評価()の手法により現在の達成度を把握し、今後の進め方を検討するため、毎年市民の皆様の意識や日ごろの行動などについてお聞かせいただくものです。

上記2つの調査への皆様のご回答が、国立市の今後の取り組みの重点を決めていく大切な資料となります。

ご多忙のところ誠に恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ぜひともご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、この調査は、市内にお住まいの18歳以上の方の中から3,000人を無作為に抽出させていただき、回答をお願いするものです。調査事項は上記のための統計処理以外に使用したり、個人情報として公表したりすることは、一切ありません。

調査結果につきましては、概要を市報や国立市ホームページ(<http://www.city.kunitachi.tokyo.jp/>)等でお知らせいたします。

()国立市では、「行政評価」の手法により、市の行政運営の改革・改善に取り組んでいます。

(参考)「国立市の行政評価取組み計画」の3つの目標

効果的・効率的な市政運営を実現すること 市民の皆様への説明責任を果たすこと 職員の意識と行動様式を変革すること

平成22年(2010年)1月

国立市

2ページからが、基本情報の調査です。5ページからが、第14回国立市政世論調査です。
17ページからが、第2回国立市市民意識調査です。

記入についてのお願い

- 1、調査は無記名です。
- 2、調査票には、あて名ご本人のお考えやご意見を回答してください。(ご本人が記入できない場合、家族の方などの代筆可)
- 3、回答にあたっては、問いの指示に従って調査票に直接ご記入ください。
- 4、回答は、平成22年(2010年)1月1日を基準としてご記入ください。
- 5、記入の終わった調査票は、同封の返信用封筒(切手不要です)に入れ、平成22年2月10日(水)までに郵便ポストへご投函ください。
- 6、この調査についてのお問い合わせは、下記をお願いいたします。

〒186-8501 国立市富士見台2-47-1 国立市企画部政策経営課政策経営係
電話(042)576-2111 内線227 FAX(042)576-0264
e-mail:sec_seisakukeiei@city.kunitachi.tokyo.jp

基本情報調査

F 1 . あなたの性別についておたずねします。(は1つだけ)

- | | |
|--------|--------|
| 1 . 男性 | 2 . 女性 |
|--------|--------|

F 2 . あなたの年齢についておたずねします。(は1つだけ)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 . 18 ~ 19 歳 | 5 . 50 ~ 59 歳 |
| 2 . 20 ~ 29 歳 | 6 . 60 ~ 64 歳 |
| 3 . 30 ~ 39 歳 | 7 . 65 ~ 69 歳 |
| 4 . 40 ~ 49 歳 | 8 . 70 歳以上 |

F 3 . あなたのご職業は何ですか。(は1つだけ)

- | | |
|---------------|------------|
| 1 . 自営業・家事手伝い | |
| 2 . 自由業 | 8 . 専業主婦 |
| 3 . 経営・管理職 | 9 . 学生 |
| 4 . 事務職 | 10 . 無職 |
| 5 . 専門・技術職 | 11 . その他 |
| 6 . 労務・サービス業 | (具体的に :) |
| 7 . パート・アルバイト | |

(F 3 で 1 ~ 7 とお答えの方に)

F 3 - 1 . 職場はどこでしょうか。(は1つだけ)

- | | |
|-------------|-------------------------|
| 1 . 自宅と同じ | 4 . 23区以外の東京都(国立市を除く) |
| 2 . 国立市内 | 5 . 神奈川県・埼玉県 |
| 3 . 東京都内23区 | 6 . その他(具体的に :) |

F 4 . 現在のお住まいは、次の中のどれにあたりますか。(は1つだけ)

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1 . 持ち家(一戸建て) | 5 . 社宅・寮・官舎 |
| 2 . 持ち家(分譲マンションなど) | 6 . 間借り・住み込み |
| 3 . 民間の賃貸住宅 | 7 . その他(具体的に :) |
| 4 . 公営・公団・公社賃貸住宅 | |

F 5 . あなたのご家族の構成はどうなっていますか。(は1つだけ)

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1 . 単身(一人暮らし) | 4 . 三世代世帯(親と子と孫) |
| 2 . 夫婦だけ | 5 . その他(具体的に :) |
| 3 . 二世代世帯(親と子) | |

F 6 .(家族形態) あなたご自身はどれにあたりますか。この中から選んでください。
(　は1つだけ)

・ 単 身	1 . 本人 1 8 ~ 3 9 歳
	2 . 本人 4 0 ~ 6 4 歳
	3 . 本人 6 5 歳以上
・ 夫婦だけ	4 . 本人 1 8 ~ 3 9 歳
	5 . 本人 4 0 ~ 6 4 歳
	6 . 本人 6 5 歳以上
・ 子供のいる人 (別居も含む)	7 . 一番上の子どもが小学校入学前
	8 . 一番上の子どもが小・中学生
	9 . 一番上の子どもが高校・大学
	10 . 本人が 6 4 歳以下で、一番上の子どもが学校卒業
	11 . 本人が 6 5 歳以上で、一番上の子どもが学校卒業

F 7 . あなたのお住まいの地域についておたずねします。(　は1つだけ)

1 . 北	6 . 谷保
2 . 東	7 . 泉
3 . 富士見台	8 . 青柳
4 . 中	9 . 矢川・石田
5 . 西	

F 8 . あなたは、国立市に何年ぐらい住んでいますか。(　は1つだけ)

1 . 1 年未満	4 . 1 0 年以上 ~ 2 0 年未満
2 . 1 年以上 ~ 5 年未満	5 . 2 0 年以上
3 . 5 年以上 ~ 1 0 年未満	6 . 生まれてからずっと

第14回
国立市政世論調査

問1 あなたはこれからも国立市に住み続けたいと思いますか。(は1つ)

- | | | |
|--------------|--------------|----------|
| 1. ずっと住み続けたい | 3. できれば移転したい | 5. わからない |
| 2. 当分住み続けたい | 4. 移転したい | |

問2 問1で「1. ずっと住み続けたい」「2. 当分住み続けたい」と答えた方に伺います。住み続けたい理由は何でしょうか。(は2つまで)

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. 自然環境に恵まれているから | 7. 通勤・通学・買物などに便利だから |
| 2. 持ち家だから | 8. 仕事や教育の場として適しているから |
| 3. 自分の生まれ育ったところだから | 9. まちなみ・景観が美しいから |
| 4. この土地に愛着があるから | 10. 交通の便が良いから |
| 5. 隣近所との人間関係が良いから | 11. その他() |
| 6. 知人や親戚がいるから | 12. 特にない |

問3 問1で「3. できれば移転したい」「4. 移転したい」と答えた方に伺います。移転したい理由は何でしょうか。(は2つまで)

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 自然環境が悪いから | 7. 通勤・通学・買物などに不便だから |
| 2. 持ち家でないから | 8. 仕事や教育の場として適していないから |
| 3. 自分の生まれ育ったところではないから | 9. まちの雰囲気が嫌いだから |
| 4. この土地に愛着がないから | 10. 交通の便が悪いから |
| 5. 隣近所との人間関係が良くないから | 11. その他() |
| 6. 知人や親戚がいないから | 12. 特にない |

問4 あなたは、国立市の魅力は何だと思えますか。(は3つまで)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 通勤・通学に便利 | 7. 魅力ある商店が多い |
| 2. 緑や公園が多い | 8. 一橋大学などがあり文教地区である |
| 3. 市民の意識が高い | 9. 南部地域に田園や自然が残っている |
| 4. 道路が整備されている | 10. 公共施設が整備されている |
| 5. 落ち着いた住宅地区である | 11. その他() |
| 6. 大学通りをはじめまちなみがきれい | 12. 特にない |

問5 あなたは、「私たちの地域」といったとき、どのくらいの範囲を思い浮かべますか。(は1つ)

- | | |
|-----------------|------------|
| 1. 1丁目、2丁目などの地域 | 6. 中学校の学区域 |
| 2. 東、中、西などの地域 | 7. 国立市の全域 |
| 3. 町内会、自治会地域 | 8. その他() |
| 4. 商店街を中心とした地域 | 9. 特にない |
| 5. 小学校の学区域 | |

問6 あなたは、日頃隣近所とどの程度のお付き合いをしていますか。(は1つ)

- | |
|------------------------------------|
| 1 . 訪問しあったり、留守の時頼み合うなど親しい付き合いをしている |
| 2 . 道で会えば立ち話をする程度の付き合いをしている |
| 3 . 会えばあいさつする程度の付き合いをしている |
| 4 . 顔を知らずほとんど(全く)付き合いはない |
| 5 . その他() |

問7 地域における人との付き合いや、地域との関わりについて次のような考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。

(ア) から (カ) までについてそれぞれ1つずつ をつけてください。

	そう 思う	そう 思う	どちら かとい えば	そう 思わ ない	わ か ら な い
(ア) 家庭生活に支障のない範囲でなら隣人の手助けは当然である	1	2	3	4	5
(イ) 火災や急病の時に、隣近所の協力をあてにできない	1	2	3	4	5
(ウ) 地域活動には、性別・年齢・職業の関係なく誰もが参加すべきである	1	2	3	4	5
(エ) 地域社会がよくならなければ、自分の生活も良くなる	1	2	3	4	5
(オ) 地域活動は、時間に余裕のある人や、やる気のある人に任せる方が良い	1	2	3	4	5
(カ) たとえ地域社会のためでも、自分の生活に制約をうけたくない	1	2	3	4	5

問8 あなたは現在、仕事や趣味などを通して得た知識や経験を、グループ活動や地域活動に生かすため、下欄の枠内のような活動に参加していますか。

(あてはまるもの全てに)

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1 . 文化・芸術・スポーツなどの活動 | 10 . 平和・人権・男女共同参画に関する取 |
| 2 . 講座・講演会・イベントなどの企画運営活動 | り組み |
| 3 . ごみ問題・リサイクルへの取り組み | 11 . 地域子ども・青少年の育成活動 |
| 4 . 地域の清掃などの奉仕活動 | 12 . 自治会・町内会などの地域活動 |
| 5 . 自然保護・緑化などの取り組み | 13 . 高齢者グループの活動 |
| 6 . 幼稚園・保育園などの諸行事への支援 | 14 . 福祉・健康に関する取り組み |
| 7 . 小・中学校の部活動や総合的な学習活動への支援 | 15 . まちづくりなど計画づくりに関する参加活動 |
| 8 . 文化財保護や保存活動 | 16 . 地域の防災・防犯活動 |
| 9 . 国際化・国際交流に関する取り組み | 17 . 消費者保護に関する取り組み |
| | 18 . その他() |
| | 19 . どれにも参加していない |

問9 問8で1～18と答えた方に伺います。現在参加されている活動について支援を必要としていますか。支援が必要な場合、どのような支援が必要ですか。（あてはまるもの全てに ）

- | | |
|----------------|----------|
| 1．支援は必要ない | 5．場所の提供 |
| 2．市内の人材情報 | 6．機材の貸出 |
| 3．市内活動場所情報 | 7．その他（ ） |
| 4．ホームページ活用方法情報 | |

問10 問8で「19．どれにも参加していない」と答えた方に伺います。あなたが活動に参加していないのは、どのような理由からですか。（は3つまで）

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1．参加する機会がなかった | 6．他人事には積極的に関わりたくない |
| 2．時間的な余裕がなかった | 7．精神的な負担がある |
| 3．一緒に参加する仲間がいなかった | 8．活動をリードする指導者がいなかった |
| 4．参加したい活動がなかった | 9．その他（ ） |
| 5．活動の詳しい内容がわからなかった | 10．特になし |

問11 あなたは今後、下欄の枠内のような活動に参加したいと思いますか。（あてはまるもの全てに ）

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1．文化・芸術・スポーツなどの活動 | 11．地域の子ども・青少年の育成活動 |
| 2．講座・講演会・イベントなどの企画運営活動 | 12．自治会・町内会などの地域活動 |
| 3．ごみ問題・リサイクルへの取り組み | 13．高齢者グループの活動 |
| 4．地域の清掃などの奉仕活動 | 14．福祉・健康に関する取り組み |
| 5．自然保護・緑化などの取り組み | 15．まちづくりなど計画づくりに関する参加活動 |
| 6．幼稚園・保育園などの諸行事への支援 | 16．地域の防災・防犯活動 |
| 7．小・中学校の部活動や総合的な学習活動への支援 | 17．消費者保護に関する取り組み |
| 8．文化財保護や保存活動 | 18．その他（ ） |
| 9．国際化・国際交流に関する取り組み | 19．どれにも参加したいとは思わない |
| 10．平和・人権・男女共同参画に関する取り組み | |

問12 多くの市民のみなさんに活動に参加していただくため、市はどのようなことを行うことが必要だと思いますか。（は2つまで）

- | |
|--------------------------------|
| 1．健康の維持・増進のための活動への支援 |
| 2．教養や趣味を深める文化活動への支援 |
| 3．ボランティア組織、NPO組織、地域活動団体への支援 |
| 4．ボランティア組織、NPO組織、地域活動団体との連携の推進 |
| 5．市民が利用しやすい公共施設の整備 |
| 6．その他（ ） |
| 7．特になし |

問13 あなたは子どもたちのために、市がどのような施策に取り組むべきとお考えですか。(は3つまで)

1. 子どもの個性を尊重する教育を充実する
2. 子どもを非行から守るため学校での指導を充実する
3. いじめをなくすため学校での指導を充実する
4. 子どもが悩みや不安を相談できる場所を充実する
5. 親が子育てについての悩みや不安を相談できる場所を充実する
6. 子ども会などのグループ活動の支援策を充実する
7. スポーツ活動への参加を奨励する
8. 安心して遊べる公園や広場を充実する
9. 生活の安全(交通事故、犯罪などから子どもを守る)のための施策を充実する
10. 市民が利用しやすい保育施設を充実する
11. しょうがいのある子どもが安心して学べるような学校の体制を整える
12. その他()
13. 特にない

問14 あなたは若者のために市がどのような施策に取り組むべきだとお考えですか。(は3つまで)

1. 若者の個性を尊重する教育を充実する
2. 若者が悩みや不安を相談できる場所を充実する
3. 若者の活動の場として、公共施設・公園・広場などの提供を充実する
4. 地域、NPO、グループ、スポーツなどの活動への参加を推進する
5. 地域企業のインターンシップ(企業活動体験制度)を充実する
6. 国際交流・国際協力などの活動への参加を推進する
7. 各種審議会、協議会などに市民公募委員の若者枠を定め、市政への参加機会を拡充する
8. 賃貸住宅、住宅建設など居住支援施策を充実する
9. 子育て支援策を整備、拡充する
10. 就業支援を充実する
11. その他()
12. 特にない

問15 高齢社会を迎え、高齢者が豊かな生活を送るためには、どのような施策が効果的と考えますか。(は2つまで)

1. 高齢者のための就業や企業の支援を行う
2. ボランティア活動関連の情報提供・技術習得・組織づくりなど、高齢者の社会的活動への支援を行う
3. 散歩や運動のできる場所や、余暇活動のための施設などの充実・整備を行う
4. 高齢者を対象としたクラブ活動支援や、趣味・教養講座などを実施する
5. バリアフリーのまちづくりを進める
6. 認知症高齢者対策、在宅福祉サービスなどを充実する
7. 特別養護老人ホーム、老人保健施設などを充実する
8. その他()
9. 特にない

問16 しょうがいしゃが安心していきいきと暮らせるためには、何が重要だと思いますか。(は3つまで)

1. 段差解消、点字ブロック設置、エレベーター・エスカレーターの設置などの推進
2. 日常生活で利用する小売店などに、自動ドア・しょうがいしゃ対応トイレなどの設置の推進
3. リフト付バス・タクシーなどの普及
4. 音声付信号機の普及
5. 自立生活のための相談・技術訓練の実施
6. 就業支援・相談の実施、雇用の場の確保
7. 盲導犬、聴導犬の普及やガイドヘルパーによる外出時の援助などの充実
8. しょうがいしゃが共同生活をする場の拡充
9. 周囲の人々や友達との交流の場づくり
10. 食事の配達や家事の支援など生活支援サービスの充実
11. インターネットなどの活用による生活情報の提供
12. その他()
13. 特にない

問17 あなたは、市に対し、健康と福祉に関する施策として、今後どのようなことに力を入れてほしいと思いますか。(は3つまで)

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1. 健康づくりについての相談・指導 | 7. 難病患者への援助 |
| 2. 食品の監視や安全指導 | 8. 医療情報の提供 |
| 3. 生活習慣病などの予防 | 9. 禁煙・分煙への対応 |
| 4. 伝染病や食中毒の予防 | 10. その他() |
| 5. 寝たきりや認知症の予防 | 11. 特にない |
| 6. しょうがいしゃ(児)への援助 | |

問18 国立にふさわしい商店街で、望ましいと思われるものはどれですか。
(は1つ)

1. 文教都市にふさわしい、文化的な雰囲気を持ち、人と人との関係を大切にする商店街にする
2. 時代の最先端をいく高層商業ビルや大規模ショッピングモールにしてい
3. その他()
4. 特にな

問19 地元・国立の農業について、あなたのご意見に最も近いものに、1つ をつけてください。

1. 都市の緑地保全や、農産物の地元供給の観点から、積極的に育成するのが望ましい
2. 都市では、農地は宅地や産業用地として転用、活用するのが望ましい
3. 農業・農地は市民との協働で維持・活用するのが望ましい
4. どちらともいえない(農家の判断である)
5. その他()
6. 特にな

問20 食の安全について、あなたのご意見に最も近いものに、1つ をつけてください。

1. 安全性に不安があるので、店頭の商品の産地、生産者、成分などの表示には細かく気をつかう
2. 気にはなるが、店頭での食品購入には、価格、その他の項目を優先しがちだ
3. 国や行政がチェックしてくれるはずなので、あまり気にしない
4. その他()
5. 気にしない

問21 安全農産物の価格について、あなたのご意見に最も近いものに、1つ をつけてください

1. 安全農産物といえども、価格は実勢平均価格以下にすべきである
2. 安全が保障されれば、ある程度の価格アップは我慢できる
3. その他()
4. 特にな

問2 2 潤いのあるまちなみを形成するためには、住宅地の緑化を推進することが大切です。あなたは、緑の保全について、日常生活の中で何かしていることはありますか。(あてはまるもの全てに)

- 1 . 生垣、庭、ベランダなどに植栽している
- 2 . 建物の屋上緑化や壁面緑化を行っている
- 3 . 樹木、樹林を維持保全している
- 4 . 新聞、雑誌、牛乳パックなどは、樹木の保存の観点から資源物回収として分別している
- 5 . トイレトペーパーなどは、再生紙が含まれているものを購入している
- 6 . ボランティアに参加して樹木の維持管理活動をしている
- 7 . その他()
- 8 . 特にない

問2 3 水は人を含めてすべての生物の生態系を支える貴重なものです。あなたは、水について、日常生活の中で何かしていることはありますか。(あてはまるもの全てに)

- 1 . 雨水の地下浸透ますを設置している
- 2 . 駐車場を浸透性の舗装にしている
- 3 . 植栽などの水撒きは、雨水を貯めて利用している
- 4 . 水道に節水コマをつけて節水している
- 5 . 浴槽の湯を洗濯やその他に再利用している
- 6 . その他()
- 7 . 特にない

問2 4 家庭から出るごみを減らし、循環型社会(ごみの発生・排出が抑制され、再使用、再生利用、適正処分される環境にやさしい社会)を形成するために、あなたはどのようなことに取り組んでいますか。(あてはまるもの全てに)

- 1 . ものを大切に長く使うようにしている
- 2 . 使い捨て商品は買わないようにしている
- 3 . できるだけ包装を断っている
- 4 . 食品、洗剤など詰め替え商品を利用している
- 5 . 生ごみは水分をよく切って出している
- 6 . レジ袋をもらわないよう、買い物袋を持参している
- 7 . コンポスト(生ごみ堆肥化容器)や生ごみ処理機を使っている
- 8 . 再生紙の商品(トイレトペーパーなど)を利用している
- 9 . エコマークなど環境に配慮した商品を利用している
- 10 . 分別の徹底をし、できる限り資源化をしている
- 11 . 食品のトレイ、ペットボトルなどは店に返却している
- 12 . ビールびんなどは酒販店へ戻すようにしている
- 13 . 資源回収に協力している
- 14 . 集団回収に参加している
- 15 . フリーマーケットなどを利用したり、提供したりしている
- 16 . その他()
- 17 . 特にない

問25 今後、循環型社会の形成のために、行政はどのようなことをすべきだと思いますか。(は3つまで)

1. ごみの分別などに対する指導を徹底する
2. 自治会などが行う集団回収の支援を拡大する
3. 清掃工場や埋立地見学や研修の機会を増やす
4. リサイクルにも環境への負荷(影響)があるなど、ごみ問題について学べる機会を増やす
5. 市報においてごみ(廃棄物など)に関する情報をより詳しく提供する
6. 事業者に対し、商品の包装を簡単にするなど、ごみの量を減らす販売方法などを指導する
7. 事業者に対し、商品の製造段階からごみ処理に対する配慮をするように指導する
8. 事業者に対し、生産者責任としてのごみの回収システムをつくるよう指導する
9. ごみの分別の種類をもっと細かくする
10. 生ごみや庭木の剪定枝などの資源化を進める
11. ごみの発生抑制のため、家庭ごみの有料化を進める
12. その他()
13. 特にない

問26 市では平成12年6月に平和都市宣言を行うとともに、平和の大切さを未来に伝えるためのさまざまな事業を行っています。これから市はどのような平和施策を進めるべきだと思いますか。(は3つまで)

1. 平和の大切さを伝えるためのイベントを開催する
2. 悲惨な戦争体験や被爆体験などを伝える記録を充実する
3. 平和や平和活動に関する国内外や市内の情報を提供する
4. 「平和都市宣言」を理解するシンボルマークをつくる
5. 市や市民の役割を明らかにした「国立市平和条例」をつくる
6. 市の姿勢を明らかにした「非核都市宣言」を行う
7. 市民が相互に理解を共有する「平和憲章」をつくる
8. 平和事業や活動を支援する「平和基金」をつくる
9. その他()
10. 特にない

問27 市では、男女の平等・自立と共同参画の社会の実現を目指した各種の事業を行っています。男女共同参画を推進するために、今後どのような施策を充実したらよいと思いますか。(は3つまで)

- | |
|--|
| 1. お互いの性を尊重しあうための意識の醸成・普及 |
| 2. ドメスティック・バイオレンス(DV)などあらゆる暴力の根絶にむけた取り組み |
| 3. 性の商品化、売買春、援助交際、薬物使用、エイズ感染などの性に関する意識の醸成 |
| 4. 家庭生活における男女平等の確立 |
| 5. 女性の就業機会の拡充・支援 |
| 6. 職場における男女平等の環境整備 |
| 7. 学校教育・社会教育における男女平等の推進 |
| 8. 地域活動への男女の共同参画の推進と条件整備 |
| 9. 審議会など、市政への女性の参画推進 |
| 10. 母性保護と母子保健事業の充実 |
| 11. 心とからだの健康保持・増進 |
| 12. 多様な保育・育児サービスの充実や家庭・地域における子育て支援事業の充実 |
| 13. 高齢社会に対応した介護・看護環境の整備充実 |
| 14. 母子家庭、しょうがいしゃと家族介護者への援助など女性の生活の安定と自立の推進 |
| 15. その他() |
| 16. 特にない |

問28 マスコミなどで、個人情報保護・人権について頻繁に報道されています。あなたご自身のプライバシーについて不安になったり、侵害されていると感じたことがありますか。(あてはまるもの全てに)

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------|
| 1. インターネットやホームページなどに記入した内容 | 9. 公共機関への届出や証明書の発行・閲覧の情報 |
| 2. 電話帳などへの氏名、電話番号、住所の登録 | 10. 公共機関での調査・相談業務内容 |
| 3. 盗聴器などの設置 | 11. 病院などでの診療・検査情報 |
| 4. ATMなどでの防犯カメラ・テープ管理 | 12. 郵便受けからの郵便物の抜き取り |
| 5. クイズ番組や通信販売、アンケートなどに応募後の書類の保管・処分方法 | 13. ごみとして出した個人情報 |
| 6. デパートなどの顧客名簿 | 14. 近隣や地域関係での個人情報 |
| 7. ICカードなどの情報 | 15. 勤務先や学校などでの個人情報 |
| 8. ダイレクトメールや迷惑メール | 16. その他() |
| | 17. 特にない |

問29 あなたは国立市政に関心がありますか。1つ をつけてください。

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 関心がある | 3. あまり関心がない |
| 2. 少し関心がある | 4. 全く関心がない |

問30 あなたは、市で行っている仕事の内容や市が抱える問題について、どのような方法でお知りになりますか。(は3つまで)

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 市報くにたち | 7. 市役所に行って聞く |
| 2. 市議会だより | 8. 市議会議員に聞く |
| 3. 国立市ホームページ | 9. 所属している団体・自治会・町内会などの会合 |
| 4. 公民館だよりなど市の刊行物 | 10. 新聞(日刊紙) |
| 5. 掲示板 | 11. その他() |
| 6. ミニコミ紙 | 12. 特にない |

問31 あなたの意見や要望・苦情などを市に伝えたい場合、あなたはどのようにしますか。(は3つまで)

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 市役所の担当課に行くか、電話をする | 7. 陳情や請願をする |
| 2. 市役所の市民相談に行くか、電話をする | 8. 「くにたち市民の声」意見箱に投書する |
| 3. 国立市に手紙・封書・電子メール等を送る | 9. その他() |
| 4. 市が開く会合に参加する | 10. 伝えても解決しないのであきらめる |
| 5. 市議会議員に頼む | 11. 面倒だから伝えない |
| 6. 自治会や町内会・団体などの役員に頼む | 12. 伝えたいことは特にない |
| | 13. わからない |

問32 市政への市民参画を進めるために、市はどのような施策を行うべきだと思いますか。(は3つまで)

- | |
|---------------------------------|
| 1. 市主催の講座、講演会を増やす |
| 2. 市政についての情報を頻繁に提供する |
| 3. 公聴会、シンポジウムなど市民の意見を直接聞く機会を増やす |
| 4. ワークショップなど市民からの提案の場を設ける |
| 5. 市の各種審議会、協議会への市民公募委員を増やす |
| 6. 審議会、協議会などの参加時間、方法を工夫する |
| 7. 審議会、協議会などへの傍聴の機会と場を拡充する |
| 8. 審議会、協議会などの会議録の公開を拡充する |
| 9. その他() |
| 10. 特にない |

問33 これからの市政について、特に力を入れてほしいところがありましたら、次の中から、5つまで をつけてください。

1.高齢者福祉対策	12.地域情報化(IT化)の推進	23.南部地域の開発・施設の整備
2.児童福祉対策		
3.しょうがいしゃ(児)福祉対策	13.地域活動、ボランティア活動の充実	24.交通安全対策
4.母子・父子福祉対策	14.ごみ対策	25.自転車対策
5.低所得者福祉対策	15.公害対策(排気ガス、騒音等)	26.都市計画道路などの整備
6.保健医療対策(健康診断、検診事業など)	16.公園・緑化対策	27.国立駅周辺まちづくりの推進
7.小・中学校の教育環境整備	17.消費者保護対策	28.防犯対策
8.青少年対策	18.農業・商業振興対策	29.防災対策
9.男女共同参画の推進	19.企業誘致策	30.財政の健全化と行財政改革
10.コミュニティ対策	20.広報・公聴活動	31.その他()
11.国際交流の推進	21.スポーツ施設の整備	32.特にない
	22.生涯学習の推進	

問34 「国立らしさ」と聞いて、どのようなイメージを思い浮かべますか。下記回答欄に自由にご記入ください。

問35 国立市政について何かご意見等ございましたら、下記回答欄に自由にご記入ください。

第 2 回
国立市市民意識調査

基本的にあてはまると思う選択肢1つに をお願いします。ただし、(複数選択可)と記載されている設問は、あてはまるもの全てに をお願いします。

まず、国立市全体やあなたが住む地域について伺います

問1 あなたは、国立市全体が美しいまちなみを保全・形成していると思いますか？

- | | | |
|----------|------------|----------|
| 1. 思う | 3. あまり思わない | 5. わからない |
| 2. わりと思う | 4. 思わない | |

問2 あなたは、国立市はみどりが十分にあるまちだと思いますか？

- | | | |
|----------|----------|-----------|
| 1. 十分にある | 2. 普通である | 3. 不十分である |
|----------|----------|-----------|

問3 あなたは、子育てのしやすい環境が整っていると思いますか？

- | | | |
|-------|---------|----------|
| 1. 思う | 2. 思わない | 3. わからない |
|-------|---------|----------|

問4 あなたは、住んでいる地域で地域の特性に合った都市基盤(道路、公園、水道、下水道、都市ガスなど)が整備されていると思いますか？

- | | | |
|----------|------------|----------|
| 1. 思う | 3. あまり思わない | 5. わからない |
| 2. わりと思う | 4. 思わない | |

問5 あなたは、あなたが住んでいる地域は都市基盤が整備されており、住みやすい環境だと思いますか？

- | | | |
|----------|------------|----------|
| 1. 思う | 3. あまり思わない | 5. わからない |
| 2. わりと思う | 4. 思わない | |

問6 問5で「4. 思わない」と答えた方に伺います。あなたの住んでいる地域で不足しているものは次のうちどれですか？(複数選択可)

- | | | |
|-------|--------|-----------|
| 1. 道路 | 3. 水道 | 5. 都市ガス |
| 2. 公園 | 4. 下水道 | 6. その他() |

問7 あなたは、誰もが(しょうがいしゃ、高齢者、幼児、児童などを含む)市内の道路を安全に快適な通行ができると思いますか？

- | | | |
|----------|------------|----------|
| 1. 思う | 3. あまり思わない | 5. わからない |
| 2. わりと思う | 4. 思わない | |

問8 問7で「3. あまり思わない」「4. 思わない」と答えた方に伺います。あなたはその原因はどこにあると思いますか？(複数選択可)

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1. 歩道がない | 6. 歩道上に放置自転車及び看板類がある |
| 2. 歩道が狭い | 7. 車道にがたつきがある |
| 3. 歩道上に段差やがたつき(でこぼこ)がある | |
| 4. 歩道と車道の段差がある | 8. その他() |
| 5. 自転車道が分離・整備されていない | |

問9 あなたは、近くに安心してかかることができる医療機関がありますか？

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

問10 問9で「2. ない」と答えた方に伺います。その理由は何ですか？
(複数選択可)

- | |
|-----------------------|
| 1. 市内に専門的な医療機関がないから |
| 2. 医療機関に関する情報が不十分だから |
| 3. 休日に受診できる医療機関が少ないから |
| 4. その他() |

あなたの日常生活における活動や意識について伺います

問11 あなたは、何らかの福祉活動に取り組んでいますか？

「福祉活動」とは、福祉ボランティア活動、福祉関連イベントへの実行委員会としての参加、日々の見守り・声かけ、介助など

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 取り組んでいる | 3. あまり取り組んでいない |
| 2. ある程度取り組んでいる | 4. 全く取り組んでいない |

問12 あなたは、自転車での市内の移動が便利だと思いますか？

- | | |
|------------|----------|
| 1. 思う | 4. 思わない |
| 2. わりと思う | 5. わからない |
| 3. あまり思わない | |

問13 あなたは、どの程度公共交通機関(バス、電車)を利用していますか？

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 日常的に利用している | 3. 年に数回だけ利用している |
| 2. 月に数回程度利用している | 4. 全く利用していない |

問14 問13で「1~3」に答えた方に伺います。あなたは、公共交通機関を使った通勤・通学・昼間の移動が便利だと思いますか？

【市内の移動に関して】

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 便利だと思う | 2. 不便だと思う |
|-----------|-----------|

【市外への移動に関して】

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 便利だと思う | 2. 不便だと思う |
|-----------|-----------|

問15 あなたは、環境に配慮した取り組みを行っていますか？

「環境に配慮した取り組み」とは、ゴミの分別と抑制、光熱水量の節減、緑化の推進、自動車利用の抑制と低燃費車の購入などの取り組みを指します。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 積極的に取り組んでいる | 3. あまり取り組んでいない |
| 2. 多少取り組んでいる | 4. 全く取り組んでいない |

問16 あなたやあなたの世帯では、以下に掲げるような何らかの防犯対策を行っていますか？（複数選択可）

- 1. 自宅の建物に対する防犯対策に取り組んでいる（センサー・明かりをつける、警備会社に委託する、二重鍵にする）
- 2. 消費者犯罪情報を入手している（キャッチセールス、振り込め詐欺、架空請求、解約に関するトラブルなど）
- 3. 地域での防犯対策に取り組んでいる（防犯パトロール、知らない人には声を掛ける、地域でのコミュニケーションを図る）
- 4. 日常生活での防犯対策に取り組んでいる（人通りの多い所や明るい所を歩く、自転車に鍵をかける、自転車のかごにネットをかける）
- 5. 特に何も取り組んでいない

問17 あなたは、過去1年間で消費生活に関する被害にあったことがありますか？
「消費生活に関する被害」とはキャッチセールス、振り込め詐欺、解約に係るトラブル、架空請求などの被害を指します。

- 1. ある
- 2. ない

問18 あなたは、消費生活に関する情報をテレビ、新聞、広報誌等で身近に聞く・触れることが出来ていますか？

- 1. 十分出来ている
- 2. ある程度出来ている
- 3. あまり出来ていない
- 4. 全くできていない

問19 あなたは、国立市が個人情報の保護を的確に行っていると思いますか？

- 1. 思う
- 2. わりと思う
- 3. あまり思わない
- 4. 思わない
- 5. わからない

問20 問19で「3.あまり思わない」、「4.思わない」と答えた方に伺います。その理由は次のうちどれですか？（複数選択可）

- 1. 不必要な個人情報を収集しているから
- 2. 個人情報を収集目的以外に利用しているから
- 3. 市の保有する個人情報が正確でないから
- 4. 個人情報の保管や廃棄が適切に行われていないから
- 5. 個人情報の漏えいなどの事故防止対策が不十分だから
- 6. 市の保有する自分の個人情報について開示、訂正、削除などを求める権利が十分に保障されていないから
- 7. なんとなくイメージでそう思う
- 8. その他（ ）

問21 あなたは、民間の事業者が個人情報の保護を的確に行っていると思いますか？

- | | | |
|----------|------------|----------|
| 1. 思う | 3. あまり思わない | 5. わからない |
| 2. わりと思う | 4. 思わない | |

問22 あなたは、過去1年間に以下のような生涯学習活動をしたことがありますか？（複数選択可）

- | |
|---|
| 1. 趣味・教養を高めること（図書館の利用等） |
| 2. 生活を楽しみ、心を豊かにする活動をする |
| 3. 公民館など自治体の講座や教室における学習活動に参加すること |
| 4. カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室における学習活動に参加すること |
| 5. 職業上必要な知識・技能を身につけること |
| 6. 健康・体力づくりをする |
| 7. 学校における学習活動 |
| 8. 特に行っていない |

問23 問22で「8. 特に行っていない」と答えた方に伺います。それはどうしてでしょうか。（複数選択可）

- | |
|---|
| 1. 仕事や家事が忙しくて時間がない |
| 2. 子どもや親などの世話をしてくれる人がいない |
| 3. 費用がかかる |
| 4. 必要な情報（内容・時間・場所・費用）がなかなか入手できない |
| 5. 一緒に学習や活動をする仲間がいない |
| 6. 適当な指導者がいない |
| 7. 身近なところに施設や場所がない |
| 8. 自分の希望に合う講座や教室などがなかったり、講座や教室などが行われる時期・時間が合わない |
| 9. 家族や職場など周囲の理解が得られない |
| 10. きっかけがつかめない |
| 11. 面倒だから |

問24 問22で「1～7」を選択した方に伺います。学習を通じて生きがいを得られたと思いますか？

- | | |
|-------|---------|
| 1. 思う | 2. 思わない |
|-------|---------|

問25 問22で「1～7」を選択した方に伺います。学習で身につけた知識や技術を地域や社会にどのように生かしていますか？

- | | |
|----------------------------|------------------|
| 1. 発表会や展示会の参加 | 4. ボランティア・NPO 活動 |
| 2. 講習会や講座の講師 | 5. その他() |
| 3. 地域の活動(自治会や青少年団体、老人クラブ等) | |

問26 あなたは、どの程度スポーツ・レクリエーション(ウォーキングなど軽い運動も含む)を行っていますか？

- | | | |
|-----------|-------------|-------------|
| 1. 週に3日以上 | 3. 月に1～3日 | 5. 年に1～3日以下 |
| 2. 週に1～2日 | 4. 3ヶ月に1～2日 | |

問27 あなたは、1年前と比べて健康だと思いますか？

- | | | |
|-------|----------|---------|
| 1. 思う | 2. 変わらない | 3. 思わない |
|-------|----------|---------|

問28 あなたは、文化・芸術活動を過去1年間にどの程度鑑賞しましたか？

文化・芸術活動・・・音楽、演劇・演芸、舞踊、美術、文芸、生活文化(生け花、茶道、ファッション、人形、盆栽、園芸、囲碁、将棋など)、映画など

- | | | | |
|---------|-----------|----------|---------|
| 1. 相当ある | 2. まあまあある | 3. あまりない | 4. 全くない |
|---------|-----------|----------|---------|

問29 問28で「1～3」と答えた方に伺います。主にどこで文化・芸術活動を鑑賞しましたか？

- | | |
|---------|---------|
| 1. 主に市内 | 2. 主に市外 |
|---------|---------|

問30 問28で「4. 全くない」と答えた方に伺います。関心はありますか？

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 関心はある | 3. ほとんど関心がない |
| 2. まあまあ関心がある | 4. 全く関心がない |

問39 あなたは、今後行政や民間団体が行う国際交流活動・イベント等に参加したいと思いますか？

1. 思う	2. 思わない
-------	---------

問40 あなたは、男女の役割が平等になっていると思いますか？

1. 思う	2. 思わない	3. わからない
-------	---------	----------

問41 問40で「2. 思わない」と答えた方に伺います。それはどのような場面でそう思われますか？（複数選択可）

1. 家庭	3. 地域	5. その他日常生活
2. 職場	4. 学校	

問42 あなたは、様々な社会参画の機会において男女の比率が適切になっていると思いますか？

1. 適切だと思う	2. 適切でないと思う
-----------	-------------

問43 あなたは、国立の平和都市宣言（下記参考）を知っていますか？

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

国立市平和都市宣言

世界では、いまだに戦争が絶えず、核兵器使用の脅威はいぜんとして消えていません。

私たちは、世界で最初の核被爆国の市民として、世界の平和の実現のために努力していく責任があります。

この世に、「正しい戦争」などというものはありません。

地球上に、もうこれ以上の血を流してはなりません。

私たちは、あらためてこれまでの戦争と暴力のなかにたおれた多くのひとびとの悲しみと苦しみを思い、自由で平和な世界の実現のために力をつくします。

新しい千年紀にあたり、私たち国立市民は、平和への強い意思を世界中のひとたちに高らかに宣言します。

2000年6月21日

国立市

問44 あなたは、過去1年間で市や団体が実施している平和事業やイベントに参加したことがありますか？

平和事業・・・講演、映画会、コンサート、写真展など

1. ある	2. ない
-------	-------

問45 あなたは、あなたとそのまわりで人権が尊重されていると思いますか？

1. 思う	2. 思わない	3. わからない
-------	---------	----------

問46 あなたは、国立市が平和や人権を大切にしているまちだと思いますか？

- | | | |
|----------|------------|----------|
| 1. 思う | 3. あまり思わない | 5. わからない |
| 2. わりと思う | 4. 思わない | |

問47 あなたは、何らかのコミュニティに所属していますか？

「コミュニティ」とは、自治会・町内会やNPO、ボランティア団体など目的をもって社会的責任を果たす開放的な集まりを指します。

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 所属している | 2. 所属していない |
|-----------|------------|

問48 問47で「1. 所属している」と答えた方に伺います。どの程度活動されていますか？

- | | | |
|----------|----------------|----------|
| 1. 月1回以上 | 2. 年1回以上～月1回未満 | 3. 年1回未満 |
|----------|----------------|----------|

問49 あなたは、国立市内で地震や災害が起こったときに生命・財産が守られると思いますか？

- | | |
|-------|---------|
| 1. 思う | 2. 思わない |
|-------|---------|

問50 問49で「2. 思わない」と答えた方に伺います。それはなぜですか？（複数選択可）

- | |
|--|
| 1. 施設の耐震化が充分でないから |
| 2. 家具の転倒防止、備蓄など自身の備えが不十分だから |
| 3. 地域のコミュニティが希薄だから |
| 4. 行政からの情報の提供（災害時におけるメール配信、防災無線の呼びかけ、ホームページ、安否情報など）が不十分だから |
| 5. その他（ ） |

**問51は障害者手帳をお持ちの方、
問52は外国人の方に伺います。
該当しない方は、問53にお進み下さい。**

問51 障害者手帳をお持ちの方に伺います。

あなたは、社会参加したいときに自分なりの社会参加ができていますか？

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. かなり出来ている | 3. あまり出来ていない |
| 2. 部分的に出来ている | 4. 全く出来ていない |

あなたは、何かしら仕事に就いていますか？

1. 就いている

2. 就いていない

前問で「2. 就いていない」と答えた方に伺います。あなたは、働きたいと思いますか？

1. 思う

2. 思わない

問5 2 外国人の方に伺います。

あなたは、日常生活で何か困ることはありますか？

1. ある

2. ない

前問で「1. ある」と答えた方に伺います。どのようなことでお困りでしょうか？（複数選択可）

1. 日本の生活習慣がわからない
2. 公共サービスの利用方法がわからない
3. 病気のと看言葉が通じない
4. 職場の問題
5. 子どもの教育
6. 相談相手がいない
7. その他（ ）

問5 3は65歳以上の方、
問5 4は保護者の方に伺います。
該当しない方は、問5 5にお進み下さい。

問5 3 65歳以上の方に伺います。

あなたは、どのようなことに生きがいを感じていますか？

1. 家族との団らん

5. 趣味

2. 友人や知人との食事・雑談

6. スポーツ

3. 仕事

7. その他（ ）

4. 社会奉仕や地域活動

また、あなたは、過去1年間に何らかの社会参加活動を行ったことがありますか？（複数選択可）

1. 就労

5. 学習活動

2. NPO活動

6. その他（ ）

3. ボランティア活動（自治会参加含む）

4. 文化・スポーツ活動

7. 行っていない

問5 4 保護者の方に伺います。

あなたは、子どもの成長に関して悩みや不安を抱えていますか？

1 . はい	2 . いいえ
--------	---------

↓
前問で「1 . はい」と答えた方に伺います。あなたは、身近に相談相手がい
ますか？

1 . 家族	4 . その他 ()
2 . 近隣の方	5 . 相談相手がない
3 . 公の施設の相談員	

市政について伺います

問5 5 あなたは、何によって市政情報を得ていますか？（複数選択可）

「市政情報」とは、公文書（財政状況、予算・決算等）、報告書、会議録、会議録音テープ、生活便利帳、イベント情報などを指します。

1 . 市報	5 . 人づて
2 . ホームページ	6 . その他 ()
3 . 刊行図書	7 . 入手していない
4 . 情報公開手続き	

問5 6 あなたは、入手したい市政情報が十分に公開されていると思いますか？

1 . 十分に公開されている	2 . 公開は不十分である	3 . わからない
----------------	---------------	-----------

問5 7 あなたは、議会に関する情報（会議日程、会議内容、会議結果）が十分に公開されていると思いますか？

1 . 十分に公開されている	3 . 公開は不十分である
2 . ある程度公開されている	4 . わからない

問5 8 あなたは、これまでに市の事業計画策定等の過程に参画したことがありますか？

「市の事業計画策定などの過程に参画」とは、審議会、ワーキンググループ、パブリックコメント、意見を聞く会、説明会、懇談会、附属機関、わくわく塾などに参画したことを指します。

1 . ある	2 . ない
--------	--------

2 . 集計データ (単純集計結果)